

- 素(そ→しほ・阪谷) → 朗廬(ろうろ・阪谷さかたに、儒者/詩文) 5 2 4 6
 曾(そ・河本) → 公唯(きみただ・河本かわもと、商家/国学) U 1 6 0 2
 榛(そ・上甲) → 振洋(しんよう・上甲じょうこう、藩儒/教育) Q 2 2 0 1
- 2534 **素阿**(そあ;号、素眼そがん/そげん;法諱、別号;眼阿/眼)?-? 1380存 南北期1352-81頃;南都の時衆、のち京の時宗四条金蓮寺寿福庵住僧:四条派の祖浄阿門/連歌師・救済門/周阿と同門、能書家:尊円流を修得;素眼流の開祖、1367(貞治6)「新札往来」著、「朗詠詩歌」著、菟玖波集24句入;[橘のほひになりぬ梅の雨](菟玖波集;二十発句/素阿法師名)勅撰集新千載の歌人素阿弥と同一?→ 栄室(えいむろ、素阿弥、歌人) 1 3 4 6
- 2501 **祖阿**(そあ、義教幕府同朋衆)?-? 1457存 連歌奉行、1401渡明使節、1429「妙法百韻」入
 素阿(そあ:法名) → 時常(ときつね・東、平、歌人) J 3 1 3 7
 曾阿(そあ) → 曾阿弥(そあみ、時宗僧/連歌) 2 5 0 0
- 2500 **曾阿弥**(そあみ;法諱、曾阿/曾阿弥陀仏、河津種家男)?-? 鎌倉中期京四条時宗道場金蓮寺の僧、無生法師と親交、祐清の子孫、連歌:菟玖波集;1句(1982)入(重頼「犬子集」入2641)、[無生のものゝ老のひかめや](菟玖波;雑体1982、曾阿弥が夕暮に無生法師を訪問、前句:無生法師;あらぬかとよくよく見れば曾阿弥陀仏)、(前句:阿弥陀仏が来たかと思った/付句:無性で理性のない老いの見誤りだよ)
 素阿弥(そあみ) → 栄室(えいむろ、素阿弥、僧/歌人) 1 3 4 6
- 2536 **素庵**(そあん角倉すみくら・本姓;吉田、名;玄之はるゆき、了以の長男)1571-163262 母;角倉栄可女、京嵯峨の商家、学問;叔父吉田宗恂・侶庵門/儒;1588藤原惺窩門、1598朝鮮より渡来の儒者姜沆を自邸に招き交流、1604林羅山を師惺窩に紹介、慶長1596-1615年間に本阿弥光悦の協力で[嵯峨本]を出版、能書家、父了以の業を継嗣;安南との朱印船貿易・舟運土木事業に尽力;豪商として活躍、1615近江坂田郡の代官/淀川過書船支配・木曾川採運使を歴任、1621癩を病み籠居、「期遠・百家集」「武家系図」「藤原系図」著、1599「文章達徳録綱領」編、[素庵(;号)の字/通称/別号]字;子元、通称;与一、別号;蘇庵/剃髮号;貞順
- 2537 **素庵**(そあん・伊藤いとう) ? - ? 儒者、1698義端「搏桑名賢文集」入
- F2581 **疎安**(そあん・久須美/久須見くすみ)1636-1728長寿93 京岡崎の茶人;千宗旦・藤村庸軒門、庸軒の女婿、石川自安・京極高広と京都岡崎の三老と称さる、1697「茶話指月集」(庸軒よりの聞書)編、[疎安(;号)の通称/別号]通称;小兵衛/小右衛門、別号;洗竹庵/鶴巢/河東散人
- F2582 **素庵**(そあん、桂井かつらい、名;良山、光直男)1652-170655 土佐高知の酒商根来屋の生、書道・儒学;黒岩慈庵門、1672郷土;桂井素庵と号す、秦泉寺村東谷に移住、家僕を殺害し高岡郡宇佐村に謫居/1691赦免;秦泉寺村に帰住、「桂井素庵日記」「題中山田氏家乗首」「野宮再興記」著、[素庵(;号)の名/通称/別号]名;建/伯/光実、通称;新助/又三郎、別号;居易斎/良山/東溪/東谷/耕庵、屋号;根来屋
- 素庵(そあん・柳川) → 調興(しげおき・柳川、外交/歌) Q 2 1 7 0
 素庵(そあん・浅井) → 政右(まさすけ・浅井、藩士/歌人) C 4 0 8 8
 素庵(そあん・沢井) → 鶴汀(かくてい・沢井さわい、儒/詩人) K 1 5 2 5
 素庵(そあん・狩野) → 宗朴(初代そうぼく・狩野かのう、茶人/鑑定) K 2 5 8 7
 素安(そあん:法名) → 常和(つねかず・東とう/平、武将/歌人) B 2 9 8 6
 蘇庵(そあん・小野) → 務(つとむ・小野、豪農/藩政改革/歌人) 2 9 9 8
- 2538 **素意**(そい、俗名;藤原ふじわら重経、藤原懐尹男or藤原重尹男)?-1094 母;大中臣輔親女or源致書女、藤原懐尹の養子か?、廷臣;従五上・紀伊守、妻:祐子ゆりし内親王家紀伊[袋草紙]、仁筭の父、袋草紙;楠葉の御牧(河内交野の御用牧場)の前を騎馬で通る逸話入、1064紀伊粉河寺で出家;号;紀伊入道、1071多武峰入山/頭密;経暹上人門、1083和泉に移る、

和泉に寂静寺創建、橘為仲・良暹と親交、歌人；1049「裸子はい内親王歌合」参加、
1071-82頃「多武峯往生院千世君ちよきみ歌合」の判者/1091「従二位親子草子合」参加、
勅撰8首；後拾遺(7首60/259/305/402/940/998/1036)/千載(358)、

[梅が枝を折ればつづれる衣手に思ひもかけぬ移り香ぞする]

(後拾遺；春60/つづれる衣手は継ぎ合わせた粗末な僧衣の袖/素意法師名)

2539 祖意(そい；法諱・法師) ? - ? 鎌倉期歌僧；光明寺の示性門、主典、
東国に下向の経験、新後撰1613、

[此のたびは帰りこむともいそがれず因幡の山のまつ人もなし]、

(新後撰；[異本歌]1613、あづまへくだる時に詠)

素位(そい・長沢) → 東海(とうかい・長沢ながさわ、儒者) B 3 1 8 7

曾衣(そい；法名) → 雅量(まさかず・飛鳥井/藤原、蹴鞠/歌) B 4 0 7 3

祖一(そいち；法諱) → 峰翁(ほうおう；道号・祖一、臨濟僧) 3 9 2 2

素一(そいち・若林) → 正旭(まさあきら・若林わかばやし、商家/歌人) T 4 0 7 8

L2536 祖因(そいん；法諱・道号；了翁、俗名；北川重之) 1626-8055 近江犬上郡横関村出身；1650出家、
近江永源寺入；永源寺17世如雪文巖門；嗣法、1665(寛永)永源寺座元、
京太秦の法雲院(烏丸資慶創建/一絲文守開山/如雪住寺)4世住寺、詩人、
1665烏丸資慶に永源寺の立印と共に随行し高野山参詣(資慶[三行記]入；詩31・歌1首)、
[九折つづらり盤回して路みち嶮危 目眩めくるめき足渋りて歩行あゆみ遅し、
巍然として動かず碧山の面 千載人をして大師を仰が教しむ](三行記；高野山不動坂)

D2514 素隠(そいん；法諱) ? - ? 江前期京の真宗僧；西六条の常楽寺住僧、
俳人；1676西鶴「古今俳諧師手鑑」入、

[芋酒や月には乱るゝ心あり](手鑑/芋酒；芋焼酎、

謡曲「三井寺」；かほどの聖人なりしだに月には乱るる心あり)

F2583 素因(そいん・茨木いばらき、名；重光) 1721-8666 伊勢津藩士；1743家督嗣；騎士隊となる、
1761騎士隊長に昇進/1783隠退、俳人；入門者多数、1784「暦の裏」、千鳥貝」著、
[素因(；号)の字/通称/別号]字；子以、通称；彦右衛門、別号；長松下/柳陰/富禄庵/耳社翁

F2584 素因(そいん・竹内たけうち、別号；寄生林) ?-? 江後期天保1830-44頃江戸の俳人、
「やとり木」編、「寄生帖」編

素隠(そいん；号) → 慈宣(じせん；法諱・説心；道号、臨濟僧) U 2 1 2 0

蘇隠(そいん・江幡) → 梧楼(ごろう・那珂なか/江幡、藩士/儒者) G 1 9 5 6

祚胤(そいん・井上/小林) → 蒲溪(ほけい・小林/源/井上、医者) E 3 9 1 1

蘇因高(そいんこう；隋名) → 妹子(いもこ・小野、遣隋使) D 1 1 1 5

L2519 総(そう・ふさ？・有賀あが) ? - ? 江前期有賀家の娘、有賀玄祐女か？、
1682河瀬菅雄[麓の塵]4首入、

[さらぬだに花はかぎりの有るものを心もさそへはるのやま風](麓の塵；春96)

F2585 脩(そう・吉邨よしむら) ? - ? 江中期越中富山の儒者、1775(安永4)「釈奠図解」著

2535 曾雨(そう) ? - ? 摂津灘大石の俳人；1782(天明2)初懐紙に入集、
1782蕪村「花鳥篇」入、

[舟出して入り日の前の桜かな](花鳥篇；39/朝出港し夕方帰港)

琮(そう・児玉) → 南柯(なんか・児玉こだま、儒者) I 3 2 5 6

走(そう・辻/土生) → 横塘(おうとう・春田/角野/海老名、儒者) C 1 4 1 5

宗(そう・岡久) → 桂堂(けいどう・岡久おひさ、儒者/教育者) G 1 8 4 6

倉(そう・井上/米良) → 東嶠(とうきょう・米良めら/米、藩士/漢学) C 3 1 8 1

蒼(そう；一字名) → 公条(きんえだ・三条西/西三条、古典/歌学/連歌) 1 6 5 6

荘(そう・塩/内野) → 元華(げんか・内野うちの、儒者/農政) I 1 8 0 3

荘(そう・森田) → 素堂(そどう・森田もりた、医者/詩文) K 2 5 2 1

爽(そう・後藤/上田) → 古梅堂(こばいどう・上田/後藤、医者/詩) N 1 9 4 0

爽(そう・星野) → 文良(ぶんりょう・星野ほしの、藩抱絵師) G 3 8 7 5

爽(そう・江間・西村/長島) → 寿阿弥(じゅあみ・長島、長唄/浄瑠璃作者) G 2 1 6 5

桑(そう・中村) → 三蕉(さんしょう・中村、儒/藩儒/詩文) M 2 0 3 9

- 操(そう・渡辺) → 蒙庵(もうあん・渡辺わたなべ、藩医/漢学) 4 4 4 0
 操(そう・富樫) → 広蔭(ひろかげ・富樫/井手、商家/国学) 3 7 1 4
 操(そう・高橋) → 梅岳(ばいがく・海野うんの、高橋/絵師) 3 6 8 6
 操(そう・奥山) → 鳳鳴(ほうめい・奥山おくやま、儒者) C 3 9 5 6
 操(そう・谷) → 三山(さんざん・谷たに、儒者) F 2 0 8 5
 操(そう・菊地) → 誠之(もとゆき・菊地さくち、国学者) J 4 4 8 6
 操(そう・齋藤) → 操(みさお・齋藤さいとう、神職/国学者) J 4 1 1 6
 操(そう・玉松) → 操(みさお・玉松たままつ/山本、僧/国学/政治) J 4 1 7 2
 総(そう・井狩) → 雪溪(せつげい・井狩いかり、儒者) E 2 4 1 7
 聡(そう・横井) → 玄同(げんどう・横井よこい、医者) L 1 8 8 9
 叟(そう・芳村) → 玄恂(げんじゅん・芳村よしむら、医者) J 1 8 7 6
 叟(そう・嵯峨) → 実愛(みねなる・嵯峨/藤原/正親町三条、大納言/記録) L 2 0 1 7
 叢(そう・内山) → 眞龍(まこと・内山うちやま、国学者) 4 0 3 0
 蔵(そう・森もり) → 雄風(おかせ・清原きよはら、医/歌人) 1 4 3 2
 増(そう・まさる・古賀) → 茶溪(さけい・古賀こが、幕府儒官) G 2 0 1 4
- 2540 相阿(そうあ;法諱、法師) ? - ? 1425存 南北期時宗僧;京四条道場金蓮寺僧/能書;執筆、連歌;救済門・1356-70紫野千句参加;71句入;第九百韻発句詠、1360良基邸何船連歌参加、1415伏見邸「臨時勝負連歌何路百韻」点者、菟玖波6句入、
 [松風の音を岩屋の秋にして](菟玖波;309/前句;露にそぬらすこけの衣手)、
 (付句;409海部あまづ宗信;月の遅きや深山なるらむ)
- L2534 僧阿(そうあ;法諱、) ? - ? 南北期;時宗僧/歌人、
 1387(至徳4)浄阿5代興業奉納[隠岐高田明神百首和歌] 2首出詠、
 [昨日まで見ざりし花の咲きそめて明日は色香のなほやまさらむ](高田明神歌;15)
- 2541 相阿(そうあ、止住;法諱) ? - ? 室町期の時宗僧;1427京四条道場金蓮寺僧、
 連歌・梵灯庵門、1468心敬「ひとり言」入
- F2587 宗阿(そうあ;号・慶義けいぎ;法諱、文英;字、俗姓;宮沢) 1771-1848 78 陸前名取郡岩沼の真言僧、
 出家後各地で修行/仙台大聖寺住/塩竈法蓮寺に移住;灌頂壇を建設;後進に大戒を授、
 仙台竜宝寺に移住;陸前真言宗の中心的寺院にする、密宗の大宗師と称される、
 晩年;密乗寺を開山、詩文・歌を嗜む、亀田鵬斎・大田錦城・頼山陽と交流、
 1819「洗眸百絶」26「松菴集」32「華園集」41「蘭若巷詩契」42「華園拾遺」、「唱和集」著、
 1846「華園拾遺後編上」著、「華園遺稿」
- 相阿(そうあ;号) → 相阿彌(そうあみ、絵師/諸芸) 2 5 0 2
 宋阿(宗阿そうあ) → 巴人(はじん、夜半亭、俳人) 3 6 1 8
 宗阿(そうあ;号) → 信好(のぶよし・柏原、博物学/鳥類) D 3 5 9 9
 宗阿(そうあ;法名) → 養正(よしまさ・小泉こいざみ/源、幕臣/茶) H 4 7 0 2
 像阿(そうあ;号) → 尊皓(そんこう・19代遊行上人/時宗僧) F 2 5 3 5
 宗愛(そうあい・高橋) → 宗愛(むねなる・高橋/紀、廷臣/記録) C 4 2 0 6
 草鞋翁(そうあいおう) → 五一(ごいち・達摩屋初世・岩本、書肆) E 1 9 8 2
 草鞋大王(そうあいだいおう/わらしのおおきみ) → 鳩谷(きゅうこく・萩野/孔平くびら、藩士/儒) I 1 6 7 4
- 2542 相阿弥(そうあみ) ? - 1344 時宗僧・当麻聖
- 2502 相阿彌(そうあみ;号/真相;法諱、藝阿弥男) ?-1525 能阿弥の孫、室町期絵師;阿弥派の完成者、
 父祖以来の足利將軍家の同朋衆、三阿弥の1、1485將軍義政の東山山荘に出仕;唐物奉行、
 書画鑑定・座敷飾りの選定に当る、香道・立花・作庭・茶の湯に精通、連歌/詩歌を嗜む、
 「盆山作法」「座敷飭記」「飾並名物記」「飾附伝書」「東山殿立花之式」著、「国阿上人絵伝」編、
 1511「君台観左右帳記」1523「御飾記」「殿中御座敷荘之次第」「東山殿御飾書」、「飾附伝書」著
 「東山殿立花之式」「室町柳宮御画目録」著、1525「扶茶具図説記」著/「相阿彌口伝」伝、
 [相阿弥の別号] 相阿/鑑岳/松雪斎
- 2543 増阿弥(そうあみ、名;久次ひさつぐ) ?- ? 南北室町期田楽新座の名役者、同座の喜阿弥の後継者、
 勧進田楽を復興、猿楽の世阿弥[1363?-1443]と競い世阿芸論に影響(芸風は猿楽談義入)、
 永和1375-79頃將軍義満の同朋衆、能書家;1427金春大夫宛「知章ともあきら」筆/作者か?、

能面師；「増」と呼ばれる女面の創作者/喜多古能「仮面譜」では六作の一人としている

- 2544 **宗安**(そうあん・明珍みょうちん) 1408-1478 甲冑師
- F2588 **宗安**(そうあん;号・多気たけ)?-? 戦国期伊勢の連歌師;宗祇門、宗長・宗碩と交流、1519(永正16)上京;飛鳥井雅俊邸え歌会張行、1526宗長らと「何路百韻」、活動;二根集入、「宗安独吟何船百韻」著
- F2589 **宗案**(宗安そうあん・松浦まつら)?-? 戦国期;伊予宇和郡宮ノ下の武家、代々大森城主土居家家臣、諸国歴遊、土居家に従い各地転戦、40歳頃隠退し農業を営む、勸農家、「清良記」著者に擬せらる、1564「親民鑑月集」(清良記入;土居清良の間に答える)、1564「耕作問答」「土地辨談」著、
[宗案(宗安;号)の名/通称]名;貞宗/貞家、通称;伝次
- F2590 **宗安**(そうあん;号・橋本はしも)?-? 1600存 京下京の連歌師;北野天満宮松梅院の禅雅と交流、1584北野裏白連歌に参加、1594紹巴と「何木百韻」
- 2545 **宗安**(そうあん・沙弥) ?-? 安土桃山期歌謡「宗安小歌集」編;221首(うち2首重複)
[我が心我に従ふものならば かほど苦しき恋は無用と意見せうずものを](宗安小歌集)
作者に諸説あり、「宗安小歌集」の成立時期も異なる
松江宗安(1586-1666 堺の銭屋、茶人)[志田説]
渡辺宗安(堺の茶人)[浅野説]
宗安(茶人:「鹿苑日録」1594・8・10条/「言経卿記」1599・8・10条)[吾郷・荒木説]
- F2591 **宗庵**(そうあん・桑原くわばら、如伯)?-? 江前期肥後の蘭医、1714「療療ろりょう外科簡要集」著(;4巻/裏に阿蘭陀流)
- 2546 **宗安**(そうあん・山科やましな、名;元富、広安男) 1702-4847 京の医者;父門/父は皇室の侍医、1717法橋/18父の跡を継嗣;春宮(桜町天皇)の侍医/1727法眼/35春宮即位により法印、詩・書・画・琴・碁を嗜む;特に墨竹に長じ平安四竹の1、宮崎筠圃と交流、「方論治験」「幼科秘伝口訣」著、
[宗安(;通称)の幼名/字/号]幼名;源三、字;子潤/潤甫、号;李蹊/仙寿院、諡号;忠憲先生
- F2593 **宗庵**(そうあん・桑原) ?-? 江中期肥前の蘭医、1770「阿蘭陀薬名考」著、肥後の桑原宗庵とは別人か?
- 2547 **宗庵**(そうあん・津村つむら/円つむら、名;正恭まさたか/教定) 1736-1806 71歳 江戸四谷伝馬町の商人;兄早世で家督嗣、秋田藩主佐竹家御用達、学問;荒木痴堂・成島錦江門/歌;冷泉為村門、1788秋田滞在/90帰家、1702剃髪;家督を養子茂春に譲渡、大坂・京・伊勢に遊ぶ、村瀬栲亭・上田秋成・石川雅望・大田南畝・吉田桃樹と交流、「片玉集」編、「阿古屋之松」著、1790「雪の古道」/94「思出草」/95随筆「譚海」/1800「遊西漫偈」、「羸鬻余聞いごうよん」著、「さかさいに遊ぶ」「犬追物記并図」「花見の日記」「根岸百首」「霜濃朽葉」著、1763磯野政武催「遊角筈つのはずの別荘記」入(片玉集所収)、98石野広通「霞関集」入、
[思ほえず端居はしほの袖のしめるまで月に更けぬる夜の涼しさ](霞関;夏345/正恭名)、
[めもあやにうつる紅葉の唐錦谷水かけて庭にせかばや]
(遊角筈;冒頭歌/地名茗荷谷の折句[めうかたに])、
[宗庵(;号)の字/通称/別号]字;黙之、通称;小三郎/三郎兵衛、
別号;藍川/嘯咏館/兌得郎/如意堂/翔岨堂/聴雨亭
- 2548 **草庵**(そうあん・千代丘) ?-? 江後期江戸の洒落本作者、1800頃「讚極史さんごくし」著(序;霍辺庵のあるじさほ丸[狂歌師筏竿丸;松坂治郎吉]、
跋;泉楼主人一丸[白銀台一丸;洒落本作者内新好])
- F2594 **棗庵**(そうあん・長沢ながさわ、保教男) 1807-7270 越後中蒲原郡荻川村荻島の医者;松田本庵門、江戸で儒学;松崎慊堂こうどう門、兄保全を継嗣し里正/医療に携わる、私財を投じ救荒、維新の際公費を援助し新発田半を支援、丹羽思亭と親交、「医談」「棗菴詩文集」著、
[棗庵(;号)の名/字/通称/別号]名;保敬、字;勝甫、通称;予内、別号;局躋楼きよくせきろう
- 2549 **草庵**(そうあん・池田いけだ、名;緝、池田孫左衛門3男) 1813-7866 但馬養父郡宿南村濃家/幼時両親没、但馬満福寺に入り修行/1829僧籍を離れ京の相馬九方の塾に入門;朱子学を修学、春日潜庵・山田方谷に交流;陽明学修学;中正の学説、1843帰郷;青谿書院を開塾;子弟教育、豊岡藩の招聘;藩主京極高厚を教導/藩校で教授、養老院を創設;風俗矯正を図る;

但馬聖人と称さる、「草庵詩集」「草庵文集」「草庵日録」「草庵読文」「鳴鶴相和集」「読易録」、
「尚書山窓功」「書經贅説」「古本大学略解」「中庸略解」「時務六策」「肄業いざよう余稿」外著多数、
[草庵(；号)の幼名/字/通称]幼名；歌蔵、字；子敬、通称；禎蔵

- 宗安(そうあん・中原) → 宗安(むねやす・中原なかはら、廷臣/歌人) C 4 2 6 4
宗安(そうあん・多々良) → 一童(いちりゅう・多々良、軍記作者) C 1 1 6 3
宗安(そうあん・千) → 宗守(初世そうしゅ・千せん、武者小路流茶人) B 2 5 7 7
宗庵(いじょう・四熊) → 直方(なおかた・四熊しぐま、医者/藩侍医) N 3 2 2 7
宗菴(そうあん・西) → 道智(どうち；名・西にし、医者/古典研究) G 3 1 3 7
巢庵(そうあん；号) → 春浦(しゅんぽ；道号・宗熙；法諱、臨濟僧) L 2 1 8 6
桑庵(そうあん・金井) → 烏洲(うしゅう・金井かない、儒者/絵師) B 1 2 7 5
叢庵(そうあん・桑原) → 如則(じよそく・桑原くわばら、藩医/文学) M 2 2 6 7
叢庵(そうあん・朝野) → 北水(ほくすい・朝野あさの、幕臣/天文家) D 3 9 4 8
草庵(そうあん・大島) → 常久(つねひさ・大島、槍術家) D 2 9 3 8
草庵(そうあん・望月) → 震(しん・望月もちづき、藩医/和学/歌) V 2 2 3 4
草庵(そうあん；号) → 恵中(えちゅう；法諱、曹洞僧/仮名草子) 1 3 7 5
巢庵(そうあん・都賀つが) → 庭鐘(ていしょう・都賀、医者/唐話/読本) B 3 0 2 0
螻庵(そうあん) → 昌察(昌札しょうさつ・西山、連歌/狂歌) S 2 2 4 3
草庵乞士(そうあんこっし) → 恵中(えちゅう・草庵、禅僧/仮名草子) 1 3 7 5
草庵ノ一瓢子(たんそいあんのいっぴょうし) → 惟中(いちゅう・岡西/松永、歌・俳人) 1 1 1 9

- F2595 **宗意**(そうい；法諱、春宮権大夫源みなもと季宗男)1074-114875 源基平の孫、真言僧；巖覚門、
1104勸修寺勝福院で巖覚より伝法灌頂を受/1120安祥寺座主職；相伝の聖教を附属される、
安祥寺流を開く；開祖、1141権律師、「伝法灌頂初夜作法」「伝法灌頂三卷式」著、
「伝法灌頂三昧耶作法」「秘口」「灌頂」著、
[宗意(；法諱)の通称]大夫律師/開祖律師/安祥寺律師
- 2552 **宗渭**(そうい；法諱・太清たいせい/-しん；道号、初号絶清、小串範秀男)1321-9171 鎌倉の臨濟僧；
雪村友梅門、乾峯士曇・無隠元晦・東陵永瑛いよに参禅、1376鎌倉浄智寺住持、
1382南禅寺43世/天竜寺18世、相国寺4世；寺中に雲頂院開；隠居、
将軍義満に招聘；金剛経を講義/夢窓国師33回忌の導師、
「太清和尚語録」「太清録」「金蘭簿」著
- 2553 **宗頤**(そうい；法諱・養叟ようそう；道号、俗姓；藤原)1376-145883 京の臨濟僧；
1383(8歳)東福寺九峰韶奏門、建仁寺天潤庵の蔵主を務む/土佐吸江庵・播磨書写山に修学、
のち建仁寺に帰る、近江禅興庵の華叟宗曇門；嗣法、1445大徳寺26世、
晩年；和泉堺に陽春庵を開創；隠棲、1457禅師号を受く、
「養叟和尚語録」「養叟和尚法語」「大照和尚語録」著、
[養叟宗頤の号]宗恵大照禅師
- 2554 **宗怡**(そうい；号) ? - ? 1470存 室町期連歌師；1464?熊野千句/70北畠家連歌合参加、
1464能阿光敏「何水百韻」65心敬実仲「何人百韻」66心敬宗祇「何人百韻」に参加、
[弱りつつ来こぬ夜よ積れる物思ひ](1466何人百韻；二表7/恋のため弱る女の心、
夢さえ見てくだされば私の気持はわかるはず、
前句；心敬；忘るるかたやゆめは見ざらん/私のことを忘れて夢を見ないのだろうか)
- 2550 **宗胃**(そうい；法諱・清庵せいあん；道号)1484-156279 戦国期摂津の臨濟僧；小溪紹怱じょうふ門；法嗣、
1537(天文6)大徳寺93世住寺/正受院住、伊勢正法寺3世、「清庵宗胃和尚語録」著、
[清庵宗胃の号] 啞羊子/一畝子いっぼし、諡号；広徳正宗禅師
- F2596 **宗渭**(そうい；法諱・清巖せいがん；道号、俗姓佐々木)1588-166174 近江臨濟僧；玉甫・賢谷宗良門、
1625大徳寺170世/49品川東海寺住持、「大徳寺清巖和尚法語」
[清巖宗渭の号] 孤陋ころう/自笑、清浄本然禅師
- 2551 **宗意**(そうい・幸島ゆきしま、寺島は誤)?-? 1702「倭板書籍考」(市郎兵衛刊)
- F2597 **宗以**(そうい・星野ほしの、名；定安さだやす、八代星野宗以定郷男)1797-183943 代々宇治御物茶師、
歌；香川景樹門、熊谷直好と親交、「星野宗以書状」著、
[宗以(；通称)の号/法号]号；道斎、法号；覺了院

F2598 **宗意**(そくい・蜂屋はちや/菅原、名;貞晴)1803-8179 京の香道家、父と尾張那古野村住/茶道を教授、香道志野流15世(蜂谷家12代)、禁門変で家屋を失い名古屋に移住、「香道十五箇条内辨秘註」「略式並行道数箇条覚書」著、
[宗意(;通称)の別通称/号]別通称;秀三郎/多仲、号;信好斎/閑斎(;斎号)、法号;文心院
☆歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入の閑斎と同一?

[手もすまにいとむしづがさ夜きぬた秋のさむさを打ちそへてけり]
(大江戸倭歌;秋935/擣衣、手もすまに;手もやすまずの意)

宗怡(そくい・清水) → 道閑(初世どうかん・清水、茶人) C 3 1 3 5
宗怡(そくい・吉田) → 宗怡(むねひさ・吉田よしだ、幕府医官) C 4 2 3 0
宗意(そくい、本願寺派僧) → 宗意(しゅうい・徳応:字、鷺森別院輪番) W 2 1 5 8
宗意(そくい・羽間) → 重義(しげよし・羽間はざま、質商/歌人) T 2 1 1 1
宗伊(そくい) → 賢盛(かたもり・杉原、幕臣、連歌) 1 5 2 1
増地(そくい→ますのぶ) → 城山(じょうざん・奥村おくむら、暦算家) N 2 1 1 0

2555 **宗郁**(そいく;通称・藤野ふじの、宗郁居士/号;松陰亭)?-? 江後期京の茶人/書家、
1805「墨蹟祖師伝」編(;墨跡が茶掛けに使用された中国・日本の禅僧の略伝集)

宗一(そいち・志村) → 三休(さんきゅう・無事庵、幕臣/茶人) L 2 0 9 9
宗一(そいち・柳下亭) → 嵐翠(らんすい・柳下亭りゅうかてい、茶人/翻訳) C 4 8 7 7
宗一(そいち・重野) → 樸軒(れきけん・重野しげの、漢学者) 5 1 7 4
宗一(そいち・後藤) → 雪堤(せつてい・長谷川/後藤、絵師) E 2 4 6 1
曾一(そいち・野々村) → 良澄(よしずみ・野々村のむら、藩士/儒者) O 4 7 4 5
聡一(そいち・黒瀬) → 淳(じゅん・黒瀬くろせ、国学者) O 2 1 3 5
壮一郎(そいちろう・井内) → 南涯(なんがい・井内いうち、藩士) I 3 2 7 0
宗一郎(そいちろう・陶/赤木) → 忠春(ただはる・赤木/陶すえ、神道家) Q 2 6 5 3
宗一郎(そいちろう・山下) → 玄和(はるかぜ・山下やました、医者) G 3 6 1 1
宗一郎(そいちろう・伊舟木) → 致美(むねよし・伊舟木いぼりき、藩士/国学) D 4 2 6 4
崇一郎(そいちろう・東、崇一) → 沢瀉(たくしゃ・東ひがし、藩士/儒/尊王) E 2 6 2 2
総一郎(そいちろう・今井/大国) → 隆正(たかまさ・大国/山本/野之口/今井、国学/歌) 2 6 1 7

F2599 **棕逸**(そいつ・渋谷しぶや、名;光/貞光)?-1848 肥後の医者;医者川越衡山の養子、
京六角塚町西で開業、詩歌;中島棕隠門、1824詩文「棕隠軒集」編、
[棕逸(;通称)の字/別通称/号]字;子輝、別通称;棕吉/一郎、号;蟬廬たんろ/葵婁しんせい園

G2500 **宗一**(そいつ;名・瀬井せい、号;旭松斎)?-? 1849存 華道家:遠州流の東都家元の一人、
「遠州流插花初伝秘書」「遠州流插花中免許秘書」「遠州流插花皆伝秘書」著

宗逸(そいつ・中村) → 政憲(まさのり・中村なかむら、酒造業/歌人) M 4 0 0 2

G2501 **宗因**(そいん;通称・蜂屋はちや、号;一任斎)?-1607 香道家/志野流5世(蜂谷家二代)、
1595「六十一種名香秘銘」編/1600「雪月花香之式」著

2503 **宗因**(そいん・西山にしやま、名;豊一とよかず、次郎左衛門[加藤清正の家臣]男)1605-8278 肥後熊本の生、
1619(15歳)頃八代城主加藤正方(風庵)に出仕;連歌城主風庵門、/上京時に里村昌琢門、
1632熊本藩主忠広改易により浪人、33再上京;連歌師として独立、
1648?里村家の推挙で撰津南中島天満宮の連歌所宗匠に就任;大阪で月次連歌を再興、
自由斬新/談林俳諧の祖、内藤義泰・小笠原忠真・榊原忠次ら諸大名と交流、
貞門俳人重頼とも親交、西鶴・惟中らの師、1631「両吟千句」49「宗因連歌千句」、
1653「津山紀行」71「神出山庄記」74「宗因五百韻」75「大坂独吟集」76「宗因五百句」、
1677「宗因五百句」81「誹諧哥仙」、「宗因文集」「宗因千句(西翁十百韻)」「宗因高野詣」、
「宗因俳諧発句集」「東の紀行」「西山宗因釈教俳諧」「梅翁小倉千句」「向栄文集」、
「西山宗因陸奥行脚ノ記」「十花千句」「北野千句」「伏見千句」「万句発句帳」「連歌本式目」著、
外著多数/百韻興行多数、追善;1周忌「精進膾」(西鶴編)、
[さればここに談林の木あり梅の花](談林十百韻とつびやくいん)、
[そもそも生きとし生けるもの 心なくんばあるべからず 蚤の青雲天上にのぼり
蚊の細声は貴人の頭上とうじょうにとどまる](蚊柱百句)、
[宗因(;号)の通称/別号] 通称;次郎作/二郎作/二郎、 修姓;西、

別号;豊一ほいち/一幽・西翁・西山翁・梅翁・梅花・梅幽・野梅・野梅子・長松齋・長松軒・忘吾齋、忘吾子・忘筌、[庵号];向荣庵・有芳庵、法号;実省院

- G2502 **宗因**(そういん・白井しらい、寿庵男)?-? 江前期寛文延宝1661-81頃大坂の医者/和学者、医:父寿庵門(祖父宗怡は曲直瀬まなせ一溪門)、和学(国学)修学;神道・古典・旧記の研究、神儒一致論を主唱;道教・仏教を非難、1664「神社便覧」67「神社啓蒙」68「佐陀大社記」、1672「職原抄句解」73「中臣祓白雲鈔」、「新選姓氏録訓点」「相生の言葉」外著多数、[宗因(;)通称)の号]白雲散人/自省/自省軒
- G2503 **宗印**(そういん・伊藤いとう、初名号;鶴田幻庵)?-1723 肥後鶴田家の生/1690初世伊藤宗看そうかんの養子、将棋伊藤家2代目/1713将棋五世名人位、印達・印寿(3世宗看)・宗寿(8世大橋宗桂)を育成、1700「象戯図式」、「将棋精妙」著
- 2504 **棕隠**(そういん・中島なかじま、九華男)1779-1855 77 京の漢学者/歌;伴蒿蹊(資芳けいし)門、儒詩;村瀬栲亭門/狂詩作者、汚名を着せられ十余年間各地流寓/後帰京、好事儒者を自認、仕官を拒絶、1814「鴨東四時雑詞」18「明賢詠落花詩」編、19狂詩「太平新曲」20「太平二曲」、1821「太平三曲」、24詩文;「棕隠軒集」(門弟渋谷悵逸の編)/37「都繁昌記」38「金帯集」、1852「詠雪百首」「鴨川朗詠集」、「水流雲在楼集」「東游集」「中島棕隠百首」外著多数、蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[さやかなる月の光にみがかれて玉とも見ゆる草むらの露]、
(大江戸倭歌;秋852/叢間月/景寛名)、
[棕隠(;)号)の名/字/通称/別号]名;規まどか・徳規よしのり/やつり、字;景寛/士成、通称;文吉、別号;雲亭/棕軒/櫻隠/棕隠軒/画餅居士/水流雲在主人/因果居士/安穴道人/道華庵、銅駝余霞楼(;)座敷号)/錦莊翁/無諍/般庵/三昧庵、諡号;文憲先生
- L2512 **宗隠**(そういん・待田まちだ、旧姓;阿部)1808-76 69 阿波徳島藩士;小笠原流礼法師範、嘉永(1848-54)頃に武蔵熊谷住/茶道・礼法・歌・画業に通ず、熊谷に小笠原流を伝導、内田了仙に茶道の奥義を伝授;同家の茶室数寄屋を設計、栄町の寺小屋鶴鳴堂を継承;門下生多数/1873小学校創設のため閉塾/熊谷寺門前で代書業、
[宗隠(;)通称)の名/号]名;阿部敏武、号;瓢僊
- | | | | |
|------------------|---|-------------------------|-----------|
| 宗允(そういん・和田) | → | 静観齋(せいかんか・和田、儒者) | 2 4 9 2 |
| 宗員(そういん・久田) | → | 宗左(3世そうさ・千せん、久田、茶人) | H 2 5 3 5 |
| 宗員(そういん・千) | → | 宗左(5世そうさ・千せん、茶人) | K 2 5 7 1 |
| 宗員(そういん・甲良) | → | 宗員(むねかず・甲良こうら/藤原、幕臣/工匠) | B 4 2 1 6 |
| 宗隠(そういん・沢口) | → | 一之(いっし・かずゆき・沢口さわぐち、和算家) | B 1 1 4 4 |
| 宗因(そういん・児玉) | → | 金鱗(きんりん・児玉こたま、藩士/儒者/詩) | J 1 6 0 9 |
| 宗因(そういん・青江) | → | 政高(まさたか・青江あおえ/児島屋、歌人) | M 4 0 9 9 |
| 宗寅(そういん;法名) | → | 盛郷(もりさと・波々伯部ほおかべ、武将/連歌) | F 4 4 4 3 |
| 宗寅(そういん・加藤) | → | 行虎(みちたけ・加藤/柴田、医者/歌人) | B 4 1 7 4 |
| 宗愔(そういん・吉田) | → | 宗愔(むねなか・吉田よしだ、幕府医官) | B 4 2 9 7 |
| 宗韻(そういん・三井) | → | 高匡(たかまさ・三井、商家/国学者/歌) | N 2 6 1 9 |
| 宗胤(そういん/むねたね・相馬) | → | 義堯(よししたか・佐竹さたけ/相馬、藩主) | E 4 7 1 2 |
| 草茵(そういん・中村) | → | 雪樹(ゆきき・中村なかむら、藩士/国学) | H 4 6 0 5 |
| 桑蔭(そういん・板垣) | → | 政純(まさずみ・板垣いたがき/佐々木、国学) | N 4 0 6 8 |
| 棕隠軒(そういんけん) | → | 棕隠(そういん・中島なかじま、漢学/詩人) | 2 5 0 4 |
| 巢飲叟(そういんそう・鶴鼠) | → | 成方(しげかた・野田、地誌/俳人) | C 2 1 0 5 |
| 草蔭屋(そういんのや) | → | 静野(清野しずの・荒井、国学者/教育) | U 2 1 0 5 |
- C2594 **宗玕**(そうじ;法諱、or宗玕そうかん)?-? 大和南都の僧、俳人、1676西鶴「古今俳諧師手鑑」入、
[爛鍋かんなべのつるにもなるや葡萄ぶどう酒](手鑑/爛鍋;茶碗のように提手ある酒爛の鍋、提手を蔓つると言う)
- 2557 **桑雨**(そうう;号) ? - ? 江中期享保1716-36頃尾張の武士/美濃派俳人、露川[1661-1743]・三逕(木見もくじ1689-1763)と交流、1730「不断柳」編
- G2504 **宗雨**(そうう・菊池きくち、名;晴隆/宗立)1717-75 59 代々伊勢津の医者の家/若年に出家;2日で還俗、

俳人：美濃の廬元坊門/俳画、1744「文塚」著、伊勢山田の巴凌と東国を行脚；
1763「みち奥日記」(巴陵と共編)、65「花の春」66「伊勢さくら」68「柿の蒂」著、
1769「はいかい何鏡」編、70「後文塚」著/72「茄子の蒂」編、「古鑄百印」著、坐秋の師、
[宗雨(；号)の通称/別号]通称；吉右衛門/楊立/養寿、

別号；二日坊/帰旧坊/帰旧法子/睡嶺/里同、

- 2558 **双鳥**(そうう・戸谷、名；光寿、戸谷半兵衛修徳男) 1774-1849 76 武蔵本庄の呉服商、
俳人；蘭更と親交、1793京東山芭蕉堂境内に[芭蕉堂記の碑]建設、
1794(寛政6)「此まかと」/97「くろねぎ」編、
[双鳥の幼名/通称/別号]幼名；半次郎、 通称；半兵衛/中屋三右衛門、
別号；古杉坡/紅蓼庵こうりょうあん

- G2505 **草宇**(そうう) ? - ? 江後期江戸の俳人：蘭山門、
1849「伊豆土産」著、1852-60「赤木振」編、「年籠句合」編
[草宇(；号)の別号] 可尊/尊宇/宝雪庵ほうせつあん3世or6世、
可尊と同一？ → 可尊(かそん・宝雪斎、俳人、1799-1886) M 1 5 8 3
宗于(そう・源) → 宗于(致行むねゆき・源、廷臣/歌人) 4 2 1 0
宗宇(そう・小川) → 破笠(はりゆ・小川おがわ、蒔絵象眼/俳人) F 3 6 8 4
宗宇(そう・村井) → 求林(きゅうりん・村井、商家/和算家) M 1 6 9 9
蒼雨(そう・丸岡) → 荻爾(かじ・丸岡まるおか/吉村、藩士/国学) V 1 5 8 0
棕雨書屋(そううしよおく) → 正精(まさきよ・阿部あべ、藩主/書画/歌) L 4 0 5 9

- G2506 **早雲**(そううん・北条ほうじょう/旧姓；伊勢) 1432-1519 88 戦国武将/後北条氏の祖、初め今川氏の家臣；
駿河住、堀越公方足利政知を討ち伊豆相模を奪う/1495韮山小田原城主、氏綱の父、
「早雲寺殿廿一箇条」著、
[上たるをば敬ひ下たるをば憐み 有るをば有るとし無きをば無きとし
ありのままなる心持 仏意冥慮にかなふと見えたり](早雲寺殿廿一箇条)、
[早雲(；号)の名/通称/別号]名；長氏・氏茂、通称；新九郎、剃髮号；宗瑞/早雲庵

- G2507 **搜雲**(そううん；号・大森おおもり、名；守一) ?-? 江中期享保宝暦1716-64頃の絵師；鶴沢探山門、
法眼、1734「絵本福寿海」52「倭漢節用無雙囊真艸二行」画、

- G2508 **宗運**(そううん・山崎やまざき、宗円男/本姓；源) 1761-1835 75 母；山崎次茂女、江戸神田明神下住、
幕臣；1783家督/医者；88桂川国瑞と幕府医学館で物品陳列会開催、1789幕府奥医、
1792医学館教授、1788「挨穴集説」著(多紀元簡もとやす編)、「涉園漫録」「鍼灸類纂」著、
[宗運(；通称)の名/字/別通称/号]名；次善、字；子政、別通称；造酒之進みきのしん/宗徳/安良、
号；鳳来/涉園
養嗣子 → 宗徳(そうとく・山崎元方、奥医/鍼学) I 2 5 5 9

- G2509 **巢雲**(そううん・浅見あさみ、名；正敏、正辰男) 1785-1858 74 周防徳山藩士/書家；武元登々庵門、
長崎遊学；経学・武術・茶儀・音律など多方面を修学、帰藩し学館読師・侍講・目付を歴任、
「徳山系譜」「書法纂論」著、「巢雲遺稿」、
[巢雲(；号)の字/通称]字；子慎、通称；又兵衛

- 2559 **草雲**(そううん・田崎たさき、恒蔵の長男) 1815-98 84 下野足利藩士；江戸神田小川町の生、
絵師；金井烏洲・加藤梅翁・春木南溟門、1834家督を弟に譲渡；諸国遊歴/梁川星巖と交流、
1861帰郷；藩主に藩校設立を進言；62練武館を興す、戊辰戦の時農兵を組織；誠心隊創設、
官軍に協力/息子格太郎は彰義隊に参加し敗戦後自刃、維新後；足利で画業に専念、
谷文晁・渡辺崋山を慕い花鳥画家、小室翠雲の師、家集「白石山房遺草」、
1848「下野国志」54「三都一朝」61「東蝦夷夜話」、「生写四十八鷹」「富岳六景」外面多数、
[草雲(；字/号)の名/通称/別号]名；芸うん/明義あきよし、通称；賚助/頼助/恒太郎、
別号；梅溪/白石山房/硯田農夫/七里香草堂/蓮岱山房/後樂堂/三白翁/知不知齋、
顧自棄齋/半甘生/烟波釣徒/鉄面生/木石居/案山子郎、法号；幽玄院

巢雲(そううん・三田村) → 蘭谷(らんこく・三田村、儒者/詩文) C 4 8 0 9

巢雲(そううん・堀) → 勝名(かつな・堀ほり、家老；藩政改革/歌) N 1 5 6 1

巢雲(そううん；号) → 元良(げんりょう；法諱・最岳さいがく；道号、臨濟僧/詩文) E 1 8 6 2

巢雲(そううん・三田村) → 蘭谷(らんこく・三田村みたむら/藤原、儒/詩人) C 4 8 0 9

- 宗雲(そううん) → 芝柏(之白はく・根来ねごろ、俳人) F 2 1 4 5
 宗雲(そううん・妻木) → 陸叟(りくそう・妻木/石川、藩医/本草) 4 9 7 8
 宗雲(そううん・三井) → 牧山(ぼくざん・三井みつい高就、詩人) G 3 9 4 0
 宗運(そううん・吉田) → 宗恬(むねやす・吉田よしだ、幕府医官) C 4 2 7 0
 宗愠(そううん;法諱) → 洪川(こうせん;道号・宗愠;法諱、臨濟僧) K 1 9 2 1
 草雲(そううん・草野) → 潛溪(せんけい・草野/佐藤、藩儒/書/詩) M 2 4 1 3
- 2560 増運(そううん;法諱) ? - ? 南北期天台僧?/法印、歌人;新後拾遺1271、
 [いかにせん我がたつ杣のすぎの門過ぎこし老のしるしなき身を](新後拾;雑1271)
- G2510 増吽(そううん;法諱・虚空蔵院、俗名;安芸竜徳、安芸盛嗣男) 1366-1452 87 讃岐大内郡西村真言僧、
 与田寺の増慧門;出家薙髮/三密を受、後小松・称光天皇の信任厚い;1412(応永19)権僧正;
 虚空蔵院の勅号を賜る、1415与田寺を鎮護国家の勅願寺とす、廢寺の復興/堂塔の建立など、
 仏教興隆に尽力、仏画・彫刻にも長ず、与田寺に没、1410「大水主大明神和讃」著、
 [増吽(;法諱)の号]虚空蔵院こくそういん/竜得坊
- G2511 増運(そううん;法諱、左大臣近衛房嗣男) 1434-93 60 天台宗実相院門跡/園城寺長吏、
 准三宮/大僧正、近衛政家・聖護院門跡道興の弟、1451伝法灌頂職位を受、
 1457義運より実相院院主を譲与、後花園天皇出家の戒師を勤める、
 歌人;1451百番歌合/82將軍家歌合など公武の歌会参加、
 「廿八品歌」著、連歌会にも参加、新菟玖波集6句入
- G2512 蔵雲(そううん;道号・慧密/慧蜜えみつ;法諱) ?-1733 曹洞僧;梅峰竺信門;法嗣/大坂臨南寺住、
 1721(享保6)宇治興聖寺13世住持/27退隱、「梅峰禅師遺録」「梅峰禅師塔銘年譜」編
- 蔵雲(そううん;法諱) → 謙巖(けんがん;道号・蔵雲、曹洞僧) I 1 8 3 0
 早雲庵(そううんあん) → 早雲(そううん・北条ほうじょう、戦国武将) G 2 5 0 6
 巢雲居(そううんきよ) → 梅老(ばいらう・中根なかね、俳人) C 3 6 3 8
 巢雲窟(そううんくつ) → 呂笏(ろか、地誌/俳人) 5 2 5 2
- G2513 掃雲軒(そううんけん・安藤あんど、名;玄浄) 1616-? 1689存 讃岐の兵法家:1630(15歳)江戸に出る、
 一時磐城白河藩主本多忠義に出仕/江戸に戻る/のち越前福井藩主松平光通に出仕、
 のち致仕後伊勢・讃岐を経て京住、孔孟の学・仏教思想を基底とする兵法説を主唱、
 1681「南木武経」編、「南木軍鑑」著、
 [掃雲軒(;号)の通称]洛陽東山逸民
- 巢雲斎(そううんさい) → 宗理(5世そうり・俵屋/菱川、絵師) B 2 5 2 5
 巢雲子(そううんし) → 一峰(いっぽう;道号・通玄、臨濟僧) H 1 1 8 3
 掃雲堂(そううんどう) → 随景(ゆきかげ・小林こばやし、儒者/暦占) E 4 6 3 8
- 2561 宗恵(そうえ;法諱、俗姓;藤井) ?- ? 1377存 鎌倉南北期武士;丹後or丹波守;出家/法師、
 歌人;1364頃成立「一万首作者」入集、1377奉納「熱田本日本書紀紙背和歌」入、
 新拾遺集1075、
 [逢ふことにかへもこそすれ惜しからぬ我が命とは人にかたらじ](新拾;恋1075)、
 [宗恵(;法諱)の通称]藤井丹後入道
- G2514 宗恵(そうえ;号) ? - ? 戦国期天文1532-55頃連歌師、公家の指導をす、
 1548頃山科言継らの連歌会に参加、1552「伊勢物語抄」著
- G2515 宗慧(そうえ/しゅうえ;法諱) ? - ? 江中期越中の真宗大谷派僧、1747「悲歎謬解鈔」著
- 宗恵(そうえ・小野) → 久重(ひさしげ・小野おの、俳人) I 3 7 2 1
 宗恵(そうえ・内海) → 宗恵(そうけい・内海うつみ、商家/俳・歌人) B 2 5 1 8
- L2540 増恵(そうえ;法諱、) ? - ? 平安鎌倉期;南都の僧;法師、
 歌人;1237刊檜葉集入、
 [弟子なりける童のことかたにかよふよし人の申しければ春のころつかはしける、
 しらざりきわがことのはにおく露のなはにうつろふこころありとは](檜葉;雑686)
- 2562 宗叡(そうえい/しゅうえい、御入唐僧正) 809-884 76 叡山天台僧;天台;義真門/法相;義演門、
 密教;円珍門、真言;東寺実慧門、862真如親王と入唐/865帰国、
 874東大寺別当に就任/879東寺五長者/真言僧正、
 865「新書写請来法門等目錄」、「後入唐伝」「真言疑目」「悉曇林記」884「悉曇私記」外著多数

- G2516 聡栄(そうえい) ? - ? 室町期天台宗僧:比叡山無動寺住?、
1404(応永11)「天台相伝秘訣鈔」著
- G2517 宗齋(そうえい・しゅうえい) ? - ? 室町期能登の曹洞僧:
能登総持寺9世実峰良秀[1405(応永12)没]の侍者、「実峰禅師語録」編(没後1675刊)
- G2518 宗栄(そうえい・島田しまだ、通称;左京入道)?-? 戦国期永禄1558-70頃の鷹匠、
島田兵介に放鷹術を伝える、1559「島田左京入道宗栄鷹書」伝
- 2563 宗栄(宗英そうえい・しゅうえい;法諱・号;妙喜院)?-? 奈良の法相僧;興福寺別会五師/権大僧都、
1580-2「多聞院日記」(天正8-10の記録)、1602-5「宗英日記」著
- B2566 宗栄(そうえい・久田ひさだ、生々斎、通称:新八/名;房政)1559-1624⁶⁶ 茶人;千利休の甥、
茶道久田家の初世
- 2564 宗英(そうえい;号) ? - ? 俳人、1665似船「蘆花集」・1677「かくれみの」入
- K2591 宗栄(そうえい・金井かない、宗禎そうてい[与伯/1613-1705]男)?-1718 相模藤沢宿の旧家、宗齋の曾孫、
歌人;冷泉為綱門、
[宗栄(;名)]通称;与通ともみち
- G2519 宗栄(そうえい・蜂屋はちや、宗清男)?-1728 香道家;志野流8世(蜂屋家五代)、
井川玄春門/のち米河玄察門;香道伝授を受、「書院飭聞書」編、
[宗栄(;通称)の名/号]名;常里、号;陽山軒
- G2520 僧叡(そうえい、俗姓;河野、円諦男)1762-1826⁶⁵ 安藝山県郡戸河内の真宗本願寺派真教寺の生、
大瀛だいえい(1759-1804)の従弟、1773(12歳)慧雲門(大瀛と一緒に)、本山学林で修学、
1781安藝高田郡船木の専教寺住職;賀茂郡川尻の光明寺転住、1825司教、真教寺住職、
1805「助正釈問」16「小児往生問答」19「往生要集聴記」、「柴門玄話」「安樂集義疏」著、
「教行信証述聞」「正信偈要訣」「和語イロハ分類」「三一問答記」「十八願卒応」外著多数、
没後;1911勸学・勝解院の院号を追贈、浄眼・僧鎧・慧海・円識・南洞らの師、
[僧叡(;法諱)の幼名/号/諡号]幼名;左京、号;鷹城ようじょう/石泉、諡号;勝解院
- G2521 宗英(そうえい;号・大橋おおはし、名;七之助)?-1809 大橋分家6代目、将棋中興の祖、1773家督嗣、
1799九世将棋所名人、近代定跡を初めて統一、「将棋秘伝書」「御城将棋」「将某相懸集」、
「将某定跡集」「将某奇戦」「将某粋金」「将某歩式」「象戯口伝」著、「将某早指南」編
- G2522 宗盈(そうえい・人見ひとみ) ? - ? 江後期文化1804-18頃俳人:其梅門、
1805刊「誹諧傘の下」編、[宗盈(;号)の別号]伴松庵(師其梅の号を襲名)
宗永(そうえい・むねなが・田村)→ 建顕(たけあき・田村/坂上、藩主/歌) E 2 6 3 3
宗永(崇永そうえい・並河)→ 誠所(せいしょ・並河なみかわ/なびかわ、儒者) I 2 4 7 4
宗栄(そうえい;法名) → 基規(もとりの・持明院/藤原、廷臣/放鷹) D 4 4 7 9
宗栄(そうえい・玉井) → 貞衛(さだもり・玉井たまのい、藩家老/日記) J 2 0 9 8
宗栄(そうえい・内海/広瀬)→ 宗栄(むねよし・広瀬/内海、藩士/心学) C 4 2 8 9
宗英(そうえい・武藤) → 豊洲(ほうしゅう・武藤むとう、医者) B 3 9 5 0
宗英(そうえい・飯室) → 昌包(まさかね・飯室いむろ/源、幕臣/歌) T 4 0 9 7
宗英(そうえい・那須) → 宗英(むねひで・那須なす、国学者・歌人) E 4 2 0 6
宗英(そうえい・松田) → 宗英(むねひで・松田まつだ、歌人) E 4 2 2 7
宗瑛(そうえい;法諱) → 蘭溪(らんけい;道号・宗瑛、臨濟僧) B 4 8 7 9
宗穎(そうえい;法諱) → 考叔(こうしゅく;道号・宗穎、臨濟僧) J 1 9 5 6
宗栄(そうえい・黒沢) → 深谷(しんこく・黒沢くろさわ、藩医/詩人) O 2 2 3 6
相永(そうえい・松尾) → 相永(すけなが・松尾まつお、廷臣/尊攘) J 2 3 2 6
増栄(そうえい;法諱) → 理観(りかん;法諱、真言僧) 4 9 4 7
増栄(そうえい・志田垣) → 与助(与祐よすけ・志田垣じだぎ、絵師) I 4 7 0 9
- G2523 宗益(そうえき・赤沢あかさわ、名;朝経、経隆男)1451-1507自害⁵⁷ 戦国武将;細川政元に出仕、
易占に長ず;五山の僧と交流、1507政元の若狭遠征に従軍;政元の弑逆を聞き自害、
「寛政重修諸家譜」「宗益相伝書」著、
[宗益(;号)の幼名/別号]幼名;愛王丸、別号(出家号);沢蔵軒宗益
- G2525 宗益(そうえき・今井いまい、信之、華溪/芝蘭齋)?-? 江戸下谷の蘭学者、庄内藩医官、
1824「折肱余筆」、1836「折肱余筆全書」著

- 宗益(そうえき、1493清水本式連歌百韻入)→ 宗哲(そうてつ、連歌) C 2 5 6 3
 宗益(そうえき・立入) → 宗益(むねます・立入たり、廷臣/系譜) C 4 2 5 0
 宗易(そうえき・千) → 利休(りきゅう・千せん宗易/田中、茶人) 4 9 2 3
 曾益(そうえき) → 益(えき・曾、琉球詩人) 1 3 3 8
 宗益(そうえき;法諱) → 損翁(そんのう;道号・宗益、曹洞僧) F 2 5 7 1
- 2565 宗悦(そうえつ・猪苗代いなわしろ、名;長悦、別号;半醒齋、長珊男)?-? 連歌作者、古今伝授、
 1487「葉守千句」入、1509伊勢下向、兼如(けんによ(是齋)の父
 猪苗代家系譜 → 兼載(けんさい・猪苗代、連歌師) 1 8 1 3
- G2526 宗悦(そうえつ) ? - ? 室町期越中の連歌師、新菟玖波集に読人不知衆として入、
 1472以前に心敬・宗祇等「何木百韻」参加の宗悦と同一?(国繁(くにしばと同一?)、
 1487宗祇邸の「葉守千句」第四百韻発句作者、
 その外次のような連歌の宗悦あり:関係不詳
 ①1509(永正6)伊勢下向の宗悦(実隆公記)・②1530(享禄3)「何人百韻」参加の宗悦・
 ③奈良連歌師宗悦(明翰抄)・④1590(天正18)「何路百韻」の宗悦
 参照 → 国繁(くにしば・横瀬よせ/由良、武将/連歌/?-1488?) C 1 7 7 6
- G2527 宗悦(そうえつ;法諱・怡溪いけい;道号、法忍大定禅師) 1644-1714? 武蔵の臨濟僧;愚溪宗智門;嗣法、
 1693京大徳寺253世/江戸祥雲寺の景雲院・同所天桂寺住/1702品川東海寺の輪番職、
 東海寺内に高源院を開山、茶道;片桐石州門/石州流怡溪派茶道の祖、
 没後1723中御門天皇より禅師号、
 「喫茶要法三百則」「石流茶事三百ヶ条」「茶道三百箇条注解」「怡溪和尚三百箇条」著
- 2556 宗悦(そうえつ・久田ひさだ、涼滴齋、不及齋宗也2男) 1715-68? 茶人;茶道久田家5世/半床庵を継嗣、
 表千家流、茶の古書を筆写
- G2528 宗悦(そうえつ・松村まつむら) 1791-1855? 越後柏崎の茶人;京の千宗室門、茶道奥義を究む、
 大坂に移住;佐渡之貢税を掌る/故郷の息子2人の早世を聞き致仕、
 京の御室良助大僧正の許で剃髪;紫野に隠棲/歌;千種有功門、風流三昧の生活、
 「玉川遺稿」「玉川遺韻」著、
 [宗悦(;号)の字/通称/別号]字;君錦、通称;喜右衛門/規右衛門、
 別号;積翠庵/翠所/春塘、法号;栖霞院
- 宗悦(そうえつ・法名) → 国繁(くにしば・横瀬/由良、武将/連歌) C 1 7 7 6
 宗悦(そうえつ・塙) → 直利(なおとし・塙はなわ/原田、幕府医者) O 3 2 3 9
 宗悦(そうえつ・児玉/坂上/中江/中尾) → 好春(こうしゅん・児玉、俳人) B 1 9 3 3
 宗謁(そうえつ・太素;道号) → 太素(たいそ・宗謁、臨濟僧) K 2 6 5 1
- F2518 惣右衛門(そうえもん・本城ほんじょう)?-? 戦国期;明智光秀に仕える武士、
 1582本能寺の変に明智軍の[のゝろざい太郎坊]の配下の武士として参加、
 晩年江戸前期に親族に宛て記録を残す;「本城惣右衛門覚書」(明智軍当事者唯一の史料)
- G2529 宗右衛門(そうえもん;通称・前波まなみ)?-? 江後期;1804-13加賀小松城番富田外記貞行の家臣、
 「小松在番中御用留帳」著
- G2530 宗右衛門(そうえもん・長谷川はせがわ/松崎まつざき、松崎祐民男) 1803-70? 母;近藤家、代々讃岐高松藩士、
 藩主松平頼恕に近侍、儒;林元碩・堤閑林門、勤王派;藤田東湖・梁川星巖・頼三樹三郎と交流、
 1855海防論を著し三条実万・徳川斉昭・松平慶水に献上、1857藩の嫌疑を受け入獄;改姓、
 数度の出入獄後1862赦免、1864禁門変・68高松藩朝敵事件で変名で京で活躍、「海防危言」著、
 [宗右衛門(;通称)の名/字/別通称/号/変名]名;秀芳/秀驥、字;邦傑、
 別通称;安次郎、号;峻阜、変名;丸岡淪
- 惣右衛門(そうえもん・原) → 元辰(もととき・原はら、赤穂義士) L 4 4 0 7
 惣右衛門(そうえもん・河内屋/小倉) → 正信(まさのぶ・小倉おぐら、商家/国学/神道) F 4 0 6 5
 惣右衛門(そうえもん・鈴木) → 遂良(すいりょう・鈴木、藩士/兵学者) F 2 3 1 6
 惣右衛門(そうえもん・堀) → 宅政(いえまさ・堀ほり、藩士/武術家) K 1 1 6 4
 惣右衛門(そうえもん・山口) → 豊風(とよかぜ・山口、歌人) R 3 1 1 0
 惣右衛門(そうえもん・内田) → 庸(もちう・内田うちだ、商家/歌人) B 4 4 3 0
 惣右衛門(そうえもん・野口) → 保敏(やすすけ・野口のぐち、和算家) B 4 5 7 3

惣右衛門(そうえもん・高森)→ 観好(かんこう・高森たかもり、蘭学者) Q 1 5 4 3
 惣右衛門(そうえもん・荻生)→ 金谷(きんこく・荻生おぎゅう/物、儒者) D 1 6 9 9
 惣右衛門(そうえもん・木原/平賀)→ 中南(ちゅうなん・平賀/木原/土生、儒者) G 2 8 7 8
 惣右衛門(そうえもん・荻生)→ 鳳鳴(ほうめい・荻生/物部/物、藩儒) C 3 9 5 4
 惣右衛門(そうえもん・佐藤)→ 牧山(ぼくざん・佐藤さとう、漢学者/教育) D 3 9 3 0
 惣右衛門(宗右衛門そうえもん・斎藤)→ 秋圃(しゅうぼ・周圃しゅうほ・斎藤/葵/池上、絵師) I 2 1 2 7
 惣右衛門(そうえもん・渡辺)→ 久成(ひさなり・渡辺わたなべ/源、歌人) L 3 7 6 7
 惣右衛門(そうえもん・安部井)→ 磐根(いわね・安部井あべい/源、藩士) J 1 1 7 5
 惣右衛門(そうえもん・大神)→ 信敏(のぶとし・大神おのが、神職/歌人) H 3 5 6 3
 惣右衛門(そうえもん・葛西)→ 一徳(かずのり・葛西かさい、陪臣/国学) U 1 5 1 5
 惣右衛門(そうえもん・田中)→ 因大(よりひろ・田中たなか/藤原、藩士/歌) N 4 7 6 5
 惣右衛門(そうえもん・武田)→ 信興(のぶおき・武田ただたけ/源、商家/国学) J 3 5 0 5
 惣右衛門(そうえもん・中堀)→ 直秋(なおあき・中堀なかぼり、藩士/歌人) O 3 2 0 9
 壯右衛門(そうえもん・野村)→ 文紹(ぶんしょう・野村のむら、幕臣/絵師) F 3 8 7 7
 荘右衛門(そうえもん・大塚)→ 桐華(とうか・大塚、儒者/暦算/詩) B 3 1 6 6
 荘右衛門(そうえもん・山口)→ 安固(やすかた・山口やまぐち、藩士/儒者/用人) G 4 5 9 5
 荘右衛門(そうえもん・佐藤)→ 眠郎(みんろう・佐藤さとう、俳人) G 4 1 9 6
 荘右衛門(宗右衛門そうえもん・加藤)→ 円斎(えんさい・加藤/賀嶋、儒者:経学) E 1 3 7 2
 荘右衛門(そうえもん・橋本)→ 竹下(ちくか・橋本/川口、儒者/詩人) C 2 8 7 4
 荘右衛門(そうえもん・荻野)→ 斂己斎(へいきさい・荻野おぎの、藩士/儒者) 2 7 1 7
 荘右衛門(そうえもん・児玉)→ 益道(ますみち・児玉こだま、藩士/国学) P 4 0 6 8
 荘右衛門(そうえもん・北風)→ 貞忠(さだただ・北風きたかぜ/長谷川、商家/勤王) O 2 0 3 9
 宗右衛門(そうえもん・宇夫方)→ 広隆(ひろたか・宇夫方うぶかた、藩士/伝記) G 3 7 1 8
 宗右衛門(そうえもん・国枝)→ 直旨(なおむね・国枝くにえだ、武士/歌人) P 3 2 7 0
 宗右衛門(そうえもん・雛屋/野々口)→ 立圃(りゅうぼ・野々口、細工師/俳人) 4 9 1 3
 宗右衛門(そうえもん・河村)→ 内郷(うちさと・河村かわむら、郷士/国学) D 1 2 0 7
 宗右衛門(そうえもん・殿村)→ 整方(まさかた・殿村とのむら/山上、商家/国学) R 4 0 0 8
 宗右衛門(そうえもん・日尾)→ 荊山(けいざん・日尾ひお、儒者/詩人) 1 8 0 5
 宗右衛門(そうえもん・多々羅)→ 西臯(さいこう・多々羅たたら、町人/詩人) G 2 0 6 7
 宗右衛門(そうえもん・長沼)→ 安定(やすさだ・長沼ながぬま、和算家) B 4 5 5 0
 宗右衛門(そうえもん・樽井)→ 守城(もりき・樽井たるい、兵法家/歌人) F 4 4 3 4
 総右衛門(そうえもん・高橋)→ 杏村(きょうそん・高橋たかはし、絵師/詩) O 1 6 2 7
 惣右衛門(そうえもん・加藤)→ 年充(としみつ・加藤かとう/藤原、国学者) U 3 1 6 6
 惣右衛門(そうえもん・中村)→ 実敬(さねたか・中村なかむら、陪臣/歌人) O 2 0 9 6

- H1962 **相円**(こうえん、相円そうえん法師)?-? 平安後期;僧、歌;1122(保安3)無動寺歌合参加、
 1165清輔「続詞花集」聯歌947(相円名)、
 [代々よふともたれか知るべきわたつみのそののみくづの思ふ心を](無動寺歌合;右勝)、
 [前中宮の越後(篤子の女房)阿弥陀講行いけるに僧どものみたる所に雪降り入るを見て、
 極楽にゆきかかるともみゆるかな、
 (相円法師)空より花のふる心地して](続詞花集;物名947)
- 2567 **宋延**(宗延そうえん;法諱・慈光房、俗姓;藤原、紀伊入道素意男)?-? 平安鎌倉期法相僧;法師、
 興福寺住僧;1136(保延2)興福寺講師;辞任、歌人:1124(天治元)頃「奈良花林院歌合」参加、
 私撰集「山階(山科)集」撰者(散佚)、1165清輔「続詞花集」入/檜葉集10首・万代集入集、
 新勅撰集1047/金葉解41、
 [植ゑおきて昔語りになりにつける人さへ惜しき花の色かな](新勅撰;雑1047)、
 (浄名院の主が没してのち花を見て詠む)
 [花林院の権僧正(永縁)凡僧に侍りける時海上月といえへる題を人々によませ合せける、
 秋の月あかしのうらのなびきもにすむわれからのかずもかくれず](檜葉;秋235)
- 2566 **宗円**(そうえん;法諱、俗姓;大江、法眼弁宗男)1160-? 1210存 平安末鎌倉期;1185熊野別当法眼/法橋、
 歌人:「明月集」撰(散佚)、歌合主催、

1178「或所廿一番歌合」/91「若宮社歌合」/1200「石清水若宮社歌合」09「長尾社歌合」参加、一切経和歌懐紙・月詣集・玄玉・万代・続門葉・新三井集など入集、勅撰7首；千載(343)新古(1280)新勅(614/615/616/1195)続拾遺(513)、[夕霧や秋のあはれをこめつらむ分け入る袖に露のおきそふ](千載；秋343/霧の歌)

- 2568 **宗宴**(そうえん) ? - ? 鎌倉期；1209「押小路殿安鎮日記」著
- 2569 **宗円**(そうえん；法諱、俗姓；高階たかしな、時宗男or泰重男)?-? 鎌倉後期の僧；法印、歌人；為世勸進春日三十首入集、1300兄高階宗成撰「遺塵和歌集」17首入、続現葉集入集、勅撰3首；続千載(1296・1718)続後拾遺(645)、[さのみやはわが偽になしはてんつらくはまたぬ心ともがな]、(続千；恋1296/為世の春日社世首歌に)
- 2570 **宋縁**(そうえん；法諱) ? - ? 1375存 真言僧；権大僧都/法印/僧正；新熊野別当、1374(応安7)南都の訴訟により配流/翌1375赦免、歌人；飛鳥井雅縁を推挙、1375「幕府和歌会始」に参加、松田貞秀・元可法師と交流、勅撰6首；新千載(1974)新後拾遺(937)新続古(771/835/1581/1635)、[年経ぬる松は知るらん昔より吹きつたへたる和歌の浦風](新千；雑1974)、[宋縁(；法諱)の通称] 覚王院僧正
- G2531 **宗園**(そうえん；法諱・春屋しゅんおく；道号、俗姓；園部) 1530-1612(or1611) 83 京の臨濟僧；笑嶺宗訴門、笑嶺の法嗣、1569大徳寺111世/71再住、筑前崇福寺77世、堺薬泉寺・近江佐和山瑞嶽寺を開、1586(天正14)禅師号/1600(慶長5)国師号を受、「円鑑国師一黙稿」著、[春屋宗園の号]一黙子/朗源天真禅師、大宝円鑑国師
- 2571 **宗円**(そうえん・木原きはら、別号；青松軒/喜遐)?-? 江前期大阪の俳人；西山宗因門、1680(延宝8)「阿蘭陀丸おらんだまる二番船」編、1681賀子「山海集」82春林「難波色紙」入、[今の俳風 老師の頓作名句のながれ 天下にみちてさかん也 されば其風に帆をあげ 阿蘭陀丸二番船と名付侍りけり](阿蘭陀丸二番船；序) [古風当風中昔 上手は上手下手は下手 いづれを是と弁ず すいた事してあそぶにはしかじ 夢幻の戯言也](宗因のことば；阿蘭陀丸二番船) [いかに桜枝なき花と生うるべし](山海集；右14/枝あればこそ人に手折られる)
- G2532 **宗円**(そうえん・山田やまだ、名；正方/正芳) 1661-1741 81 医者；貞享684-88頃江戸に出る、1709幕府医官、1712法眼/15寄合、1737致仕、菅原麟嶼りんしよの父、「幼科全書」著、「麟嶼遺艸」編、[宗円(；通称)の号/法名]号；李蔭、法名；自休
- 2572 **藻塩**(そうえん) ? - ? 江中期俳人、1761「正風五尺菖蒲しょうふうごしゃくのあやめ」編(芭蕉[時鳥鳴くや五尺の菖蒲草]の発句/四季歌仙)
- G2532 **宗円**(そうえん・山崎まさき/本姓；源、名；次美つよし/次良、湯川春房男) 1733?-1800 68? 母；木下道円女、奥医山崎次茂の女婿；1742家督；幕府鍼医/寄合、「針灸金鏡録」、[宗円(；通称)の字/別通称/号]字；有尚、別通称；鍊二郎/春円/寿円、号；蓉峰/髯翁
- 2573 **宗円**(そうえん・森川もりかほ/本姓；島本、名；士義ただよし) 1771-1812 42 江中期下総古河藩医/致仕、江戸で和方医者として一家を成す、国学；平田篤胤門、1783(天明3)「和薬伝秘書」、「医言霊」著(1822刊)、[宗円(；通称)の字/号]字；環、号；賤窟、脇田信親[1786-1851]の師
- G2534 **草偃**(そうえん・佐久間さくま、名；顛)?-1814 京堺町四条北の絵師；月溪門、山水画を修学/法橋、1799(寛政11)「都林泉名勝図会」画、[草偃(；号)の字/別号]字；叔徳、別号；富春館
- G2535 **宗猿**(そうえん・片桐かたざり/本姓；源、名；信方のぶかた、信任男) 1775-1864 90歳 江戸牛込の茶人；石州流、下条(片桐)信隆を祖とする石州流を祖父信馮より伝授；家元7代目、茶・華・盆石に精通、のち別派として茶道宗猿流を創始、井伊直弼の茶の師、猿の画を描く、「百会之記」著、歌；1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、[猿沢の池の柳も春くれば水のみどりの色になりぬる](大江戸倭歌；春152)、[夢覚めて聞けば時雨の降る夜半に声もさびしく山猿の鳴く](同；雑1796)、[宗猿(；号)の名/通称/別号]名；信方のぶかた、通称；鞆負ゆげい、別号；玉竜/四国菴

L2515 **宗圓**(そうえん・三瀬みせ、有儀ありよし[1762-1811]男)?-1849 伊予大洲の商家(塩問屋;麓屋)、歌人;常盤井守貫門(父と同門)/近田八束やつか門、「千草和歌」「とりあつめくさ」著、1831紀行「長崎旅日記」/36「旅日記」/38「かへりさき」著、
[露けしな後のかたみとみどり子の手折り残せし白菊の花](娘の没後)、
[宗圓(;名)の通称/号]通称;半兵衛(代々の称)、号;不半、屋号;麓屋

G2536 **棕園**(そうえん・浅田あさだ、名;惟敷いこう)?-? 幕末期江戸高砂町の医者、「雲棗寄踪」著、
[棕園(;号)の字/通称]字;子誠、通称;宗叔

桑園(そうえん・深堀)	→	仲慮(ちゅうりよ・深堀、歌人)	G 2 8 9 6
桑園(そうえん・久米)	→	幹文(もとぶみ・久米/石河、藩士/国学)	E 4 4 2 3
桑園(そうえん・渋谷)	→	三貫(さんかん・渋谷しぶや、絵師)	L 2 0 9 4
桑園(そうえん・小野)	→	済(せい・小野おの、国学・歌人/陶芸)	O 2 4 0 2
桑園(そうえん・児玉)	→	氏光(うじみつ・児玉こだま、名主/国学)	E 1 2 6 8
棗園(そうえん・菊地)	→	良仙(りょうせん・菊地さくち、医者)	I 4 9 5 6
宗衍(そうえん・松平)	→	宗衍(むねのぶ・松平、藩主/浄瑠璃)	C 4 2 1 2
宗淵(そうえん・真阿)	→	宗淵(しゅうえん・真阿、北野天満社家)	G 2 1 8 6
宗園(そうえん・南瓜)	→	南瓜宗園(なんはそうえん、元成2世、狂歌)	I 3 2 5 8
宗円(そうえん;法諱)	→	通海(つうかい;法諱、真言僧)	2 9 2 1
宗円(そうえん;法名)	→	為孝(ためたか・冷泉、歌人/連歌)	G 2 6 9 4
宗円(そうえん・山田)	→	宗徧(そうへん・山田やまだ、茶人)	C 2 5 9 0
宗円(そうえん・内堀)	→	幸政(ゆきまさ・内堀うちぼり、藩士/歌人)	G 4 6 6 5
宗遠(そうえん・宮崎)	→	宗遠(むねとお・宮崎みやざき、歌人)	E 4 2 3 5
棕園(そうえん・河波)	→	有道(ありみち・河波かわなみ、儒者/教育)	F 1 0 8 3
棕園(そうえん・前島)	→	庸政(つねまさ・前島まえじま、医者/詩人)	D 2 9 7 3
叢園(そうえん)	→	秋叢園(しゅうそうえん、本草家;朝顔研究)	X 2 1 9 4
総円(そうえん;字)	→	志玉(しぎよ・総円、華嚴入明僧)	Q 2 1 3 1
霜園(そうえん・中島)	→	栄武(よしたけ・中島なかじま、大庄屋/歌人)	O 4 7 1 8
藻塩(そうえん・湯浅)	→	経邦(つねくに・湯浅ゆあさ、国学者)	C 2 9 0 4
棗園打丸(そうえんうちまる)	→	竜江(たつえ・赤沢あかざわ、神職/歌)	V 2 6 1 7
桑園主人(そうえんしゅじん)	→	万(よろづ・生田いくた、国学者/救民活動)	4 7 4 2
相円房(そうえんぼう;号)	→	良尊(りょうそん;法諱・相円房、真言僧)	L 4 9 5 0
相園坊(そうえんぼう)	→	兼載(けんさい・猪苗代、連歌師)	1 8 1 3
相円法師(そうえんぼうし、続詞花集歌人)	→	弘円(こうえん、法師、菟玖波集入)	H 1 9 6 2

2578 **相応**(そうおう;法諱、俗姓;櫛井)831-91888歳 近江浅井郡の天台僧:845比叡山の鎮操門、847出家剃髪、円仁門;得度受戒、天皇など貴頭に加持祈禱し験、安曇川上流葛川で修行、吉野金峯山に修行/865(貞観7)無動寺の開祖;882同寺を天台別院とす/883常行堂修復、常行堂を不断念仏道場とす、889内供奉、911以後公私の要請を断ち籠居、「檢封記」「資財勘定記」/915「要見聞」著、没後「相応和尚伝」あり(923頃)

G2537 **増応**(そうおう;法諱、通称;大阿)?-? 江後期天保万延1830-61頃真言僧:1859金剛峯寺檢校、1860焼失の青巖寺(金剛峯寺)の復興に私財千両を寄贈、1837「中院流院家相承伝授聞書」、1857「中院流伝授聞書」、「中院流院家相承聞書」「南都伝目録」「慈雲伝目録」外著多数

宗翁(そうおう・和田)	→	以悦(いえつ・和田わだ、儒者/歌人)	1 1 4 1
桑翁(そうおう・土生)	→	玄碩(げんせき・土生はぶ、眼科医)	K 1 8 5 1
蒼翁(そうおう・倉田)	→	澄雄(すみお・倉田くらた、神職/医)	I 2 3 4 5
霜翁(そうおう・千種庵)	→	霜解(しもとけ・初世千種庵ちぐさあん、書師/狂歌)	F 2 1 9 5
聡翁(そうおう・栄名井)	→	広聡(ひろとし・栄名井さかない/上野/真壁、神職/和漢学)	G 3 7 5 1
相応院大僧都(そうおういんだいそうず)	→	禅覚(ぜんかく;法諱、真言御室僧)	L 2 4 9 8
相応軒(そうおうけん)	→	梅室(ばいしつ・桜井、俳人)	3 6 0 4
相応軒(そうおうけん)	→	淡筋(たんせつ・内海/桜井、梅室門俳人)	I 2 6 4 6
巢鶯舎(そうおうしゃ)	→	希杖(きじょう・湯本、俳人)	B 1 6 2 6

2579 **相応内所**(そうおうのないしょ、初世代大文字屋村田市兵衛妻)?-1819 初世加保茶元成養母、狂歌吉原連、

1785後万載集2首入;[みどりなる松を子の日にひく琴は千代万代も天下太平]

- 2580 **宋屋**(宗屋そうおく・望月もちづき) 1688-1766 79 京の俳人;原松門のち上洛した巴人[宋阿]門、1734立机;点者/37巴人の江戸帰郷後は京俳壇の中心;42師没後は一門をまとめ尽力、1745諸国行脚、1732巴人「卯花千句」参加・序、39「梅鏡」「小春笠」編、54「明の蓮」、1755「杖の土」57「机すみ」58「戴恩謝」編/59「古い木の芽」、「瓢箪ひやたん集」、追善集;「香世界」(武然編)、
[雷木らみの減りつつも亦春近し](瓢箪集/前書;老懐/老いてなお春を待つ悦び)、
[宋屋(;号)の別号]百葉泉/富鈴/富鈴房/机墨庵、法号;机墨庵春翁宋屋
宗屋そうおく(古田) → 重然しげなり(古田織部、武将/茶人) 2 1 1 1
宗屋そうおく(千) → 宗守そうしゅ(初世そうしゅ・千せん、武者小路流茶人) B 2 5 7 7
巢屋逸史そうおくいし → 尚筋ひさひろ(柳やなぎ・梅谷/山本、神職/国学) M 3 7 1 4
- G2538 **宗乙**(そうおつ:号・島崎/島崎しまざき) ?-? 江前期茶人;杉本普斎に教授す、
「島崎宗乙伝茶書」著/「茶事聞書」伝
宗乙そうおつ(法諱) → 虎哉こさい(道号・宗乙:法諱、臨濟僧) M 1 9 4 6
- G2539 **宗温**(そうおん・志野しの、名;祐憲、宗信[1445-1523]男) ?-1562 (80余歳) 香道志野流2世、1501父邸の名香合に参加、松栄尼の兄弟、「香道至要集」「志野家六十一種香名」著、「志野参雨斎香之記」「名香之目録」「名所木所之次第」「香炉之条々」「百二十種名香秘銘」著、門弟;武野紹鷗・曲直瀬まなせ道三・細川幽斎・蒲生氏郷・里村紹巴・前田玄以ほか、末子の省巴(不寒斎)が3世継嗣、
[宗温(;号)の通称/別号]通称;又次郎、別号;参雨斎
- G2540 **僧音**(そうおん:法諱、覚音男) 1759-1842 84 越後中頸城郡姫川原の真宗本願寺派正念寺の生、1773上京して得度/帰郷し経史修学;高田藩儒村松蘆溪門、正念寺住職;父を継嗣、1777再上京;北天門/宗乗・余乗を修学、1828司教/30異母弟僧朗と共に本山勸学職、崑崙社三葉勸学の1、没後;等心院を追贈、1815「一念多念証文録」17「口伝鈔録」26「親鸞聖人御消息集録」31「文類聚鈔辛卯聴記」著、「大経文天録」「大経玄談記」「中有弁」「勸章一帖目善録」「栖心斎随筆」外著多数、
[僧音(;法諱)の別法諱/字/号]初法諱;恵音、字;響流/興隆、号;棲心/栖心斎、諡号;等心院
- G2541 **僧温**(そうおん:法諱) 1788 - 1869 82 越後中頸城郡柿村専念寺の生/真宗本願寺派僧、宗学;同郡正念寺の僧朗(僧音の異母兄)門/本山学林で修学/1823正念寺住職/38司教、1841本山勸学職/崑崙社三葉勸学の1、本山の安居/諸方の別院で仏典祖誥を講ず;152回、1841「成唯識論聴記」48「七十五法名目戊辰記」50「安楽集筆記」55「唱導轍」、外著多数、
[僧温(;法諱)の字/号]字;慧麟えりん、号;舟阜老人、諡号;等寿院
宗音そうおん(荒井) → 一掌いっしょう(荒井あらい、茶人) H 1 1 3 4
宗恩そうおん(法諱) → 澤彦たくげん(道号・宗恩、臨濟僧) N 2 6 9 4
宗家そうか(藤原) → 宗家むねいえ(藤原/中御門、廷臣/歌人) B 4 2 0 4
宗加そうか(志水) → 清久きよひさ(志水しみず、藩士/歌人) U 1 6 4 5
宗嘉そうか(城島) → 宗嘉むねよし(城島きじま/吉島、茶・歌人) D 4 2 7 4
相嘉そうか(藤井/伊藤) → 相嘉すけよし(茜部あかねべ/藤原/伊藤/藤井、藩士/国学) D 2 3 7 5
- G2542 **宗我**(そうが・西光院) ? - ? 室町期の僧;権少僧都、歌人;1443(嘉吉3)一条兼良邸「前撰政家歌合」参加、
[山姫の袖のかすみの八重がさね桜たちそへ二月の空](前撰政家歌合;中春十九番右)
- G2543 **宗瓦**(そうが・武野たけの/本姓;武田、名;信材、紹鷗男) 1550-1614 65 和泉堺茶人;1555(6歳)父と死別、義兄今井宗久による後見、茶の湯;父門の津田宗及・千利休門、参禅;大林宗套・春屋宗園門、石山本願寺と関わり織田信長・豊臣秀吉に追われる、1590徳川家康を頼り堺に戻る、既に父祖の遺産はすべてを失う;1612家康の命で豊臣秀頼に出仕;大坂冬の陣前に没、「宗瓦文」著、
[宗瓦(;法諱)の字/通称/号/別法諱]字;為久、通称;新五郎、号;水宿庵/方寸斎、別法諱;宗貞、道号;玉筠ぎよくいん、法号;方寸斎光徹宗瓦居士
- G2544 **双峨**(そうが;号) ? - ? 江中期大阪の俳人;雑俳、

1744(延享元)刊「奉納岸和田蛸地蔵尊前句一万句集」評

宋雅(そうが;法名)	→ 雅縁(まさより・飛鳥井/藤原、歌学/蹴鞠)	4 0 2 5
宗雅(そうが;法名)	→ 親雅(ちかまさ・中山/堀河/藤原、廷臣/歌)	B 2 8 8 0
宗雅(そうが・源)	→ 宗雅(むねまさ・源、廷臣/源頭兼の父)	C 4 2 4 6
宗雅(そうが・中御門)	→ 宗雅(むねまさ・中御門/藤原、廷臣/記録)	C 4 2 4 7
宗雅(そうが)	→ 忠以(たださね・酒井、藩主/歌/俳)	F 2 6 0 8
宗雅(そうが・半田)	→ 常牧(じょうぼく・つねまき・半田、俳人)	B 2 2 6 2
宗我(そうが・布川)	→ 栢舟(はくしゅう・布川、俳人)	D 3 6 2 5
宗賀(そうが・甲良)	→ 宗賀(むねよし・甲良こうら/藤原、幕臣/工匠)	C 4 2 8 4
宗賀(そうが)	→ 五絃(ごげん、俳人)	M 1 9 3 7
窓臥(そうが;号)	→ 円達(えんたつ;法諱、三輪、真宗僧/歌人)	U 1 3 0 2
雜華(ぞうか)	→ 雜華(ぞうけ;道号・蔵海;法諱、曹洞僧)	G 2 5 8 6

- 2582 **増賀**(僧賀そうが;法諱、橘たちばな恒平男or藤原伊衡男)917-1003⁸⁷ 京天台僧:926比叡山の良源門、得度/顕密二教を修学、世俗の名利を厭い朝廷の招請に狂人装い拒否;963大和多武峰隠棲、毎年四季に法華三昧を修す/常に天台三大部を講じ学徒を教導、多くの奇行奇瑞説話;不動供を修し不動形を現ず/法華経を讀誦し観音・文殊を感得など、「玄義抄」「無言念仏觀次第」/981「瑜伽師地論記」著、歌;新古今1706、[いかにせん身を浮舟の荷を重みつひの泊りやいづこなるらん](新古;雑1706)、辞世の歌;

[瑞齒みづはさすやそぢあまりの老のなみくらげのほねにあひにけるかな]、

(本朝法華験記下・続本朝往生伝・今昔12入/滅多にないこと→極楽往生出来ること)、

[増賀(;法諱)の通称]多武峯先徳/増賀聖、多武峰上人

造化庵(ぞうかあん)	→ 徳雨(とくう・梅田、医者/俳人)	K 3 1 4 6
造化庵(ぞうかあん)	→ 金石(きんせき・荻原おざわら/直江、俳人)	R 1 6 2 9
造化庵(ぞうかあん)	→ 木天(ぼくてん/もくてん・造化庵、俳人)	D 3 9 7 7

- G2545 **聰海**(そうかい) ? - ? 南北期社僧、京の新熊野神社別当;法印権大僧都、1357尊氏百箇日七僧会/58尊氏追善七僧会参加(;愚管記入)、連歌作者;菟玖波集1句入、[心の月よしづかにて澄め](菟玖波;釈教648/前句;はやき瀬の浪こそ岸に濁りけれ)

- G2546 **曹海**(そうかい;法諱・華嚴;道号、俗姓松尾)1685-1761⁷⁷ 豊後曹洞僧(11歳出家):悦秀/慧照門、1725敦賀永建寺22世/山城神応寺住持/近江長福寺開、「曹海和尚語録」「曹海和尚開堂語録」

- G2547 **宗海**(そうかい;法諱・泉蔵坊;号)?-? 江中期享保1716-36頃筑前英彦山の修験僧、「彦山峯中記」「峯中手日記」「駟入ヨリ日帳」著、1719「花供峯中日記」「彦山大峯葛城峯戸帳御供覚」著

- G2548 **滄海**(そうかい;道号・宜運ぎょうん;法諱、俗姓;和田)1722-94⁷³ 日向の臨濟僧;1733報恩寺石点穿門、出家/大道文可・萊岳・白隠慧鶴に参禅/石点の法嗣、報恩寺住持、諸所で講説演法、播磨竜谷寺に退隱、1794「爛枯柴」著

- 2583 **藻海**(そうかい・三野み、名;無逸、喜昌男)1760-95³⁶ 讃岐榎井村の儒者;斎静齋門、高松藩士、詩文、「詩経解」「周易解」「書経解」、「藻海文集」象麓編、[藻海(;号)の字/通称]字;仲寿、通称;貞之進、象麓しょうろくの弟/謙谷けんこくの叔父

- G2549 **蒼海**(そうかい・青木あおき、名;善民)1767-1825⁵⁹ 陸前仙台北支藩岩出山藩の儒臣/儒;新井滄洲門、主君の命で諸方歴遊、江戸では細井平洲・亀田鵬斎・柴野栗山・葛西因是と交流、京では中井竹山・頼春水と交流、仙台藩の招聘を病と称し固辞、「滄海詩文集」「滄海文集初編」「戊寅集」著、[蒼海(;号)の通称/別号]通称;弟三郎、別号;花源樵夫

- 2584 **蒼海**(そうかい・副島そえじま、名;種臣たねおみ、枝吉南濠なんごう男)1828-1905⁷⁸ 佐賀藩士、明治;内務大臣、「蒼海全集」著、枝吉神陽しんようの弟

宗价(そうかい;法諱)	→ 大圭(大奎だいき;道号・宗价;法諱、臨濟僧)	J 2 6 7 6
宗快(そうかい)	→ 宗快(しゅうかい;法諱、天台僧/声明)	W 2 1 7 6
宗海(そうかい)	→ 宗海(しゅうかい;法諱、真言僧)	W 2 1 7 7

- 宗海(そうかい、実生庵) → 実生庵宗海(みしようあんそうかい、華道) 4 1 8 6
 宗海(そうかい、皆川) → 梅翁(ばいおう・皆川みながわ、藩士/儒者) 3 6 7 0
 滄海(そうかい) → 御調(みつぎ・松岡/佐野、神職/国学) D 4 1 2 7
 滄海(そうかい・村田) → 橋彦(橋比古はしひこ・村田、国学者) E 3 6 3 7
 滄海(そうかい・岡田) → 昌春(まさはる・岡田おかだ、本草学者) G 4 0 4 7
 蒼海(そうかい・藤) → 広則(ひろのり・藤とう/藤原、暦算家) G 3 7 8 8
 藻海(そうかい・河田) → 迪斎(てきさい・河田/川田、儒者/幕臣) B 3 0 9 3
 藻海(そうかい・平尾) → 意美(のりよし・平尾ひらお、藩士/和学) J 3 5 8 4
- G2550 宗愷(そうがい・平田ひらた、名;新助) 1757-1829⁷³ 上州伊勢崎除村の儒者;須藤湘山門、江戸に出る/医;吉田盛方門/儒学;山本北山門/江戸に宝善堂を開塾;子弟教育、1793「勸孝歌」/1805(文化2)「贖喜篇よきへん」/25「玉船集」著、「大久保村西向天満宮旧碑」著、[宗愷(;号)の字/別号]字;新民、別号;春里/宝善堂
- 2585 蒼崖(そうがい・阿野あの/初姓;松野、名;信) 1769-1822⁵⁴ 下野宇都宮の生/幼時肥前島原住、儒者;島原藩儒岩瀬華沼門/師の推挙で島原藩に出仕/1796福江藩儒/藩校育英館の学頭、「寸陰夜話」「詩文雑考」「文藪」「文例類函」「六経異同考」著、[蒼崖(;号)の字/通称/法号]字;子行、通称;茂平、法号;清林院
- G2551 僧鑑(そうがい;法諱・凌水りょうすい;号) 1769-1840⁷² 安藝広島島の真宗本願寺派僧;僧叡門、広島島の善福寺14世、司教/1838勧学職/39本山学林の年預、1829「二河白道己丑記」著、「読助正釈」「大谷聖人本伝枢要」「第十八願就正記宿善論」「本願成就文蜂房記」著、諡号;泥華院
- 霜外(そうがい・松平) → 乘輿(のりおき・松平まつだいら、幕臣/和学) K 3 5 0 4
 蒼厓(そうがい・陸原) → 之淳(ゆきあつ・陸原くがはら、藩儒/詩人) E 4 6 2 4
 桑崖(そうがい・堀内) → 匡平(まさひら・堀内、庄屋/国学/勤王) G 4 0 8 5
 宗外(そうがい・大玄院寂然) → 親昌(ちかまさ・堀ほり、藩主/歌人) B 2 8 8 2
 宗顛(そうがい) → 皓月尼(こうげつに;法諱、真言尼僧) I 1 9 4 9
 聡厓(そうがい・山本) → 葎園(みえん・山本やまと、儒者/書画) 4 1 5 2
- G2552 蔵海(そうかい;法諱) 1253 - ? 1290^存 三論学の学匠・京の金剛院住僧?、東山撰嶺院で師の十二門論疏の講義を受、1287「大乘玄聞思記」30「十二門論疏聞思記」著
- G2553 象海(そうかい;道号・慧湛えたん;法諱、米谷基稔5男) 1682-1733⁵² 父は細川家の家臣、讃岐豊田郡の生、臨濟僧;備中宝福寺の立巖慧久門;出家、1709(28歳)鉄堂慧石を継嗣;備中宝福寺住持、東福寺・南禅寺等で講述、没後1743禅師号を勅諡、「無言集」「臨濟録備考」著、[象海慧湛の諡号] 仏眼大観禅師ぶつげんたいかんぜんじ
- G2554 蔵海(そうかい;法諱・毒華どくか/どくけ;道号)?-1764 甲斐の曹洞僧・天巖祖暁門/法嗣、駿河秀道院・甲斐興因寺・相模最乗寺など住持/丹波永沢寺10世/加賀金沢天徳院9世、天徳院に没、「勘破紀談」編
- B2555 蔵界(そうかい;法諱) ? - ? 三河の真宗大谷派願正寺僧、「阿弥陀経講義」「維摩経講義」著
- 蔵海(そうかい;法諱・雑華) → 雑華(そうけ;道号・蔵海、曹洞僧) G 2 5 8 6
 騷界子(そうかいし・安連あれ) → 安連騷界子(あれそうかいし、洒落本) C 1 0 3 4
 蔵外史大夫(そうがいしだいふ) → 善行(よしゆき・大蔵おおくら、漢学者/詩) H 4 7 8 7
 倉階亭(そうかいてい) → 古山(こざん・森川、俳人) C 1 9 6 7
 艸化園(そうかえん・堀) → 直格(なおただ・堀、藩主/文芸) B 3 2 5 7
 造化園(そうかえん) → 馬丈(ばじょう・瓢舟舎、俳人) E 3 6 6 2
- K2577 草角(そうかく) ? - ? 江前期俳人:1692不角「千代見草」入
 [千木ちぎいらず抜け荷を買ふは目分料](千代見草/千木は大きな竿計り)
 (抜荷買いは御法度/急いで取引しなければならない)
- G2555 総覚(そうかく;法諱) 860 - 930⁷¹ 平安前中期僧;律師/筑後高良山の10世座主、惣持院を創建、「高良山隆慶上人伝」著
- G2556 相覚(そうかく;法諱) 1352 - 1392⁴¹ 京の真言僧:醍醐寺座主覚雄門、宝蓮院法印、

関東に没、1399(応安6)「五壇法日記」、「四度行軌」著

- 2589 **宗覚**(窓覚(そうかく;法諱) ? - ? 南北朝?の僧;法師、歌人;新後拾遺1198・1402、
[白菊のうつろひはつる契りゆゑぬれてほす間もなき袂かな](新後拾;恋1198)
- 2590 **宗覚**(そうかく) ? - ? 戦国期連歌作者、
1537. 5. 22今城能親張行「伊予千句」連衆:周桂・宗牧らと
- G2557 **宗恪**(そうかく・吉田よしだ、宗達男) 1613-8472 母;芝山監物女、幕府医官;1622家督嗣、
1633奥医/京より江戸の移住、1644法印/47寄合医/60奥医に復す、徳川秀忠/家光に出仕、
1661常陸水戸藩主徳川頼房の治療のため水戸に赴く/83致仕、「診脉撮要」「明医聚方」著、
宗恬(むねやす)の父、
[宗恪(;)名)の幼名/通称/号]幼名;岩麻呂、通称;意安、号;、法号;真源院
- G2558 **宗覚**(そうかく;法諱・正直;字、俗姓;永田) 1639-172082 京の真言僧:初め梵典を聴聞し仏門に志す、
1662(24歳)京の法全寺で出家/1677仁和寺眞乗院孝源門;両部灌頂を受、
1679(延宝7)乗春の要請で河内久修園院を再興/中興開山、1678「仏制比丘六物図纂註」著、
1684「大乘円戒顕正論」85「久修園集」86「弾劾補助儀」1703「楽道纂解」04「久修園続集」著
- G2559 **崇廓**(そうかく;法諱、諡号;窮達院) 1729-8658 豊前宇佐郡森山の真宗本願寺派教覚寺住職、
豊前学派の祖、初め豊後浄応寺の海印門/海印の勧めで僧樸門、
1771頃本山学林の法難のあと動揺激しかった大衆を抑誓と協力し鎮撫、円殊・大律の師、
「安楽集覆述」「傍観正偽編」「往生要集唯称記」「玄義分録」「大経独留記」外著多数、
- G2560 **双鶴**(そうかく;号、双鶴房) ? - ? 江後期天保1830-44頃大阪の俳人;雑俳/笠付、
1843(天保14)刊「浜の月」編
- G2561 **荘嶽**(そうかく・乾いぬい、名;祐直) ?-1771(70余歳) 加賀金沢藩士、儒;伊藤由言・土橋辰真門/詩人、
1766「荘嶽楚語」、「荘岳集」著、
[荘嶽(;)号)の字/通称/別号]字;子健、通称;新四郎、別号;山水堂
- G2562 **荘嶽**(そうかく・梶かじ、名;忠) ? - ? 文政1818-30頃江戸の儒者、「古文助字便覧」著、
[荘嶽(;)号)の字/通称]字;子訓、通称;権三郎(ごんざぶろう)
- G2563 **双嶽**(そうかく・新妻にいづま、名;胤剛/字;金夫、新妻文沖の養嗣) ?-1864 江後期日向延岡の医者、
1821上京/医;小石元瑞門/漢詩文;頼山陽門、1831帰郷/38延岡藩医、
1857早川図書と医学所明道館を創設、「双嶽詩集」著
- そう嶽(そうかく・岩井田) → 昨非(さくひ・岩井田いわた、藩士/儒者) H 2 0 2 8
宋岳(そうかく) → 紫石(しせき・宋そう、楠木、絵師) E 2 1 3 1
双岳(そうかく・東方) → 芝山(しざん・東方ひがしかた、藩士/儒者) D 2 1 8 0
崇岳(そうかく・松平) → 信明(のぶあきら・松平、藩主/国学) 3 5 8 7
- 2586 **増覚**(ぞうかく;法名、藤原経季or有信男) 1059-112163 平安後期天台僧;静覚法印門、園城寺派、
法勝寺・尊勝寺の上座/1110権律師、有信男ならば興福寺律師、歌;金葉I83II86、
[来る人もなき我が宿の藤の花誰を待つとて咲きかゝるらん](金葉;春83/藤の盛りに)
- G2564 **蔵岳**(ぞうかく・大久保おおくぼ、名;義丈) 1755-182672 三河田原生;1765失明/詩文;霊願寺為拙禅師門、
歌・俳諧も嗜む、「蔵岳詩草」著、
[蔵岳(;)号)の通称/別号]通称;探二、別号;無一
- 双鶴庵(そうかくあん) → 花足(かさく・岩下、弓術/俳人) M 1 5 8 2
双鶴房(そうかくぼう) → 双鶴(そうかく;号、俳人;雑俳) G 2 5 6 0
- 2591 **造化軒**(ぞうかけん) ? - ? 浄瑠璃作者:加賀掾門、
1678「竹子集」跋、1704「南大門秋彼岸」著
- 藪家散人(そうかささんじん) → 兎城(とじょう・篠崎しのぎ、俳人) O 3 1 1 6
- 2592 **鎗華子**(そうかし、本名不祥) ?- ? 洒落本、1757?「陽台三略」著
- 甌瓦子(そうがし;号) → 道契(どうかい;法諱・天霊;字、真言僧) D 3 1 2 3
桑下叟(そうかそう) → 兼純(けんじゆん・猪苗代、連歌師/歌人) D 1 8 8 9
宗葛(そうかつ・衣笠) → 一閑(いっかん・衣笠きぬがさ、地誌家) G 1 1 7 6
草花堂(そうかどう) → 為敏(ためとし・川添かわぞえ、国学/歌) W 2 6 6 2
藻雅堂(そうがどう) → 嘉助(かすけ・須原屋/舟木、書肆/詩) F 1 5 9 1
増賀聖(ぞうがひじり) → 増賀(ぞうが;法諱、天台僧) 2 5 8 2

- 宗賀房(そうがぼう) → 都雀(とじゃく・高城たかしろ、俳人) N 3 1 9 8
 造化坊(そうかぼう) → 長隠(ちやういん・山田、俳人) H 2 8 2 5
- 2505 宗鑑(そうかん・山崎やまさき、俗名:支那弥三郎範重/範永?) 1464?-1553? 90以前77-86歳? 近江の生、
 足利家家臣/出家し山崎に閑居/連歌師/俳人、1488能勢頼則催の千句参加、
 1521-32頃「犬筑波集」撰、「疑源抄」?、「宗鑑老の春」「竹馬狂吟集」著、
 晩年に讃岐観音寺興昌寺に一夜庵を結ぶ、俳諧の鼻祖として伝説化、
 [にがにがしいつまであらしふきのたう](真蹟/犬筑波集は無記名)
- G2565 宗観(そうかん) ? - ? 室期連歌;1518宗長「東山千句」参加
 G2566 宗看(初世そうかん・伊藤いとう) 1618-9477 出雲の将棋士;1635二世名人大橋宗古の女を娶る、
 伊藤家を興す、1654三世将棋名人位を襲位、宗看の名は関白近衛信尋より受、
 のち江戸に移住;幕府将棋所に就く、1649「象戯図式」「象戯作物」/63「中象戯図式」、
 1694「将某駒競」、「象戯教頭書」「中将棋作物」著、
 大橋宗桂(大橋家5代)の父、宗印の養父
- G2567 宗閑(そうかん・杉岡すぎおか、名;万吉、宗六男) 1645-173288 播磨加古郡荒井村の素封家叶屋の生、
 歌人/浄土宗に帰依、菩提寺の利生寺観音堂を建立、1689(元禄2)「牡丹譜」「牡丹道知辺」著、
 [宗閑(;隠居後の号)の通称/別号]通称;惣大夫、別号;梅陰軒、屋号;叶屋、法号;貞松院
- G2568 宗看(3世そうかん・伊藤いとう、初名;印寿、宗印2男) 1706-6156 1723父病没で家督継嗣/24宗看と改名、
 伊藤家三代/1728七世将棋名人、33年間将棋界に君臨、1734「象戯図式」著、
 [宗看(;名)の幼名/法号]幼名;政長、法号;玉将院
- G2569 宗閑(そうかん・鈴木すずき) ? - ? 江中期茶人:表千家覚々斎6世宗左門、
 覚々斎四天王の1、「茶道露選集」著
- G2570 藪貫(そうかん) ? - ? 大阪雑俳人;1757律中「耳勝手」入
- G2571 宗鑑(宗監そうかん;名・土屋つちや、通称;利八郎) 1741-180363 飛騨高山の地役人、
 能筆書家;土屋流、郷土に材を取り手本を作成/児童用の筆を製作、「飛多往来」著、
 寛政1789-1801頃「高山産物誌」著
- G2572 宗観(そうかん・鈴木すずき、名;寛、道淳男) 1759-182466 代々武州入間郡麴谷の眼科医;祖父竜碩門、
 幼少時に父没、開業;仁術を施す、家業を息子猷に託し江戸麴町住;文士と交流/晩年帰郷、
 「眼科三世方」「上世医家四器備考」、1821「上世方証鑑」著、
 [宗観(;通称)の字/号]字;長制、号;一貫
- G2573 宋閑(そうかん・滝原たきはら、名;豊常/宋閑) 1773-184573 京聖護院村の医者/霊鑑寺宮に出仕、
 茶道:石州流/歌人:小沢蘆庵・小川布淑門、頼山陽・梅颯ばいと交流、
 1829「仮字古鑑」、「滝原宗閑翁家集」「ささ葉集」著、豊勝(婦人科医者/竹葉舎)の父、
 [宋閑(;名)の通称/号]通称;将監/監物、号;小竹葉舎/仁住亭、法号;竜光院
- 宗歓(そうかん) → 宗長(そうちやう、連歌師) 2 5 1 6
 宗観(そうかん) → 宗長(そうちやう、連歌師) 2 5 1 6
 宗観(そうかん;法名) → 秀長(ひでなが・東坊城ひがしぼうじやう、歌人) D 3 7 4 2
 宗観(そうかん) → 直弼(なおすけ・井伊、藩主/大老/国学) B 3 2 3 9
 宗閑(そうかん) → 永閑(えいかん、連歌) 1 3 1 9
 宗閑(そうかん・茂木) → 治具(はるとも・茂木もてぎ、藩士/検地) F 3 6 3 2
 宗閑(そうかん・堀内) → 宗心(そうしん・堀内ほりのうち;2代目/三好/本橋、茶人) I 2 5 0 7
 宗閑(そうかん) → 永閑(えいかん・能登、連歌師) 1 3 1 9
 宗閑(そうかん・山田) → 嘉猷(えみち・山田、国学/歌人) E 1 3 2 7
 宗閑(そうかん・長谷川) → 邦淑(くによし・長谷川はせがわ、商家/国学) E 1 7 4 2
 宗閑(そうかん・岡田) → 政経(まさつね・岡田おかだ、藩士/茶/辞書) E 4 0 1 2
 宗閑(そうかん・鉤) → 景村(かげむら・鉤いかり/河野、町年寄) T 1 5 5 9
 宗閑(そうかん・片桐) → 貞昌(さだまさ・片桐かたぎり、藩主/茶人) J 2 0 6 6
 宗閑(そうかん・細) → 義知(よしとも・細ほそ/糸田川、武術家) F 4 7 0 4
 宗韓(そうかん;法諱) → 泰秀(たいしゅう;道号・宗韓、臨濟僧) K 2 6 1 6
 宗寛(そうかん;法諱) → 堯州(ぎやうしゅう;道号・宗寛、臨濟僧) N 1 6 9 4

宗寛(そうかん)	→	秀賢(ひでかた・寺西、家老)	C 3 7 9 4
宗恒(そうかん・村士)	→	淡斎(たんさい・村士すぐり、儒者/茶人)	I 2 6 1 2
宗函(そうかん・有馬)	→	元函(玄函げんかん・有馬、医者)	I 1 8 3 2
宗翰(そうかん・伊達)	→	宗翰(むねもと・伊達だて、藩主/歌)	D 4 2 5 2
宗簡(そうかん・江村)	→	毅庵(きあん・江村えむら、藩士/儒者)	I 1 6 4 2
相観(そうかん・金本)	→	摩斎(まさい・金本かなもと、儒者/詩)	B 4 0 2 4
霜幹(そうかん・若松)	→	常齡(つねとし・若松/下代、藩士/農政家)	C 2 9 6 8
宗玩(そうかん;法諱)	→	江月(こうげつ;道号・宗玩;法諱、臨濟僧/連歌)	I 1 9 4 8
総丸(そうかん・伊藤う)	→	総丸(ふさまる・伊藤いとう、歌人)	H 3 8 8 9
草丸(そうかん→くさまる・竹下)	→	草丸(くさまる・竹下、俳人)	C 1 7 4 0
蒼菅舎(そうかんしゃ/あおすがのや)	→	鍋盛(かぜい・下郷しもさと、商家/俳人)	M 1 5 6 2
草官散人(そうかんさんじん)	→	菅翁(かんおう、読本作者)	G 1 5 1 2

- 2593 **宗己**(そうき;法諱・復庵ふくあん;道号、俗姓;宮家/源)1283-135876 南北期;初め密教僧;
陸奥円福寺の空岩慧門、のち臨濟僧に転ず、1310入元;天目山中峰明本門/師没後に嗣法、
1326帰国、常陸小田城の東に楊阜庵を結庵;多くの僧を指導、
常陸小田城主小田治久の猶子、諸方の檀那に招請;関東陸奥諸寺開山;3百余寺、
没後;1360禅師号を受、「大光禅師語録」著、
[復庵宗己の諡号] 大光禅師
- 2594 **宗規**(そうき;法諱・月堂げつどう;道号、俗姓;惟宗これむね)1285-136177 筑前大宰府の天台・のち臨濟僧、
1299(15歳)太宰府観世音寺戒壇で出家受戒;戒律・天台を修学、1304臨濟;崇福寺南浦紹明門、
1316筑前石城庵主/27西京の竜翔寺住持/36筑前崇福寺住持/46妙楽寺(旧石城庵)開山、
1353聖福寺住持/61妙楽寺に隠退、「月堂和尚語録」著、
[月堂宗規の号] 号;水月/知足
- | | | | |
|---------------------|---|---------------------------|-----------|
| 宗喜(そうき・杉木) | → | 普斎(ふさい・杉木すぎき/荒木田、茶人) | B 3 8 9 9 |
| 宗季(そうき・清原) | → | 宗季(むねえ・清原きよはら、廷臣/漢学者) | 4 2 8 5 |
| 宗紀(そうき・伊達) | → | 宗紀(むねただ・伊達だて、藩主/築庭/歌) | D 4 2 5 4 |
| 宗基(そうき・高橋/紀) | → | 宗基(むねもと・高橋/紀、廷臣/歌/連歌) | C 4 2 5 9 |
| 宗基(そうき・斎藤/藤原) | → | 宗基(むねもと・斎藤さいとう/藤原、幕臣/歌) | C 4 2 6 1 |
| 宗基(そうき・二条) | → | 宗基(むねもと・二条にじょう、廷臣/書家) | C 4 2 6 2 |
| 宗基(そうき・斎藤) | → | 玄勝(げんしょう;法諱、廷臣/歌僧) | C 1 8 1 3 |
| 宗基(むねもと・中御門) | → | 宗雅(むねまさ・中御門なかつかみかど、廷臣/記録) | C 4 2 4 7 |
| 宗毅(そうき・田辺) | → | 玄齡(げんれい・田辺たなべ、医者/詩歌) | N 1 8 1 4 |
| 宗熙(そうき;法諱) | → | 春浦(しゅんぽ;道号・宗熙;法諱、臨濟僧) | L 2 1 8 6 |
| 相規(そうき・源) | → | 相規(すけのり・源みなもと、廷臣/漢学/詩) | C 2 3 7 6 |
| 相起(そうき/すけおき?・清原/舟橋) | → | 弘賢(ひろかた・舟橋ふなはし、廷臣) | I 3 7 0 6 |
- 2506 **宗祇**(そうぎ・飯尾いのお?)1421-150282 近江江東地方or紀伊の生/近江守護代伊庭家の出、
母;室町幕府奉行人飯尾家の出?、京の相国寺で修業/歌;雅親・東とう常縁つねより門、
30歳過ぎて連歌;宗砌・専順・心敬門、古典注釈、応仁文明1467-87頃関東・越後・周防行脚、
1471東常縁より古今伝授を受/諸国有力武士と交流/1473頃帰京/知恩寺辺に種玉庵を営、
連歌・古典研究;1474最初の連歌集「萱草むすれぐさ」著/1478-79越後上杉家に/80周防大内家に、
九州博多行脚;「筑紫道記」著、1488北野連歌会所奉行;宗匠、1495「新撰菟玖波集」撰進、
戦乱避け諸国を旅/1500越後下向;1502越後より帰京途次箱根湯本に病没、連歌の大成者、
論書・撰集/百韻多数、1443-68「熊野千句」70「川越千句」72「美濃千句」76「表佐千句」、
1487「葉守千句」88「水無瀬三吟」91「湯山三吟」92「何船百韻」99「何水百韻」など一座、
論書;1467「吾妻問答」著/「老のすさみ」「長六文」「淀の渡」「宗祇初心抄」「連秘抄」など、
撰集「竹林抄」撰、句集;「老葉」「下草」「老葉」「宇良葉」「宗祇百句付」「宗祇法師集」など、
古典注釈;「古今集両度聞書」「十口抄」「伊勢物語肖聞抄」「山口抄」「弄花抄」「万葉抄」など、
[初心の時はいよき連歌をせんとすること 第一の不觉にて候](宗祇初心抄)
[雪ながら山もとかすむ夕かな](水無瀬三吟の発句)
[宗祇(;号)の別号] 種玉庵、自然斎、見外斎

- G2574 **宗誼**(そうぎ・三浦みづら、名; 誼作) ?-? 江後期播州赤穂郡櫛田村の歌人、
1856「文城存稿」著
宗義(そうぎ/むねよし・山下) → 利章(としあき・山下/ました、藩士/系譜) L 3 1 9 6
宗義(そうぎ・丹羽) → 宗義(むねよし・丹羽)にわ、藩士/儒/歌) D 4 2 6 0
操義(そうぎ・杉本) → 剛斎(こうさい・杉本/杉、藩士/医/教育) I 1 9 8 5
- 2595 **増喜**(増基ぞうき; 法諱) ? - ? 平安前期天台叡山僧、宇多院の殿上僧、
志賀寺でとし子に歌の贈答: 大和物語入、庵主(いおぬし)の増基とは別人(袋草紙入)、
後撰集453、
[神無月時雨しぐれ許ばかりを身にそへて知らぬ山地やまぢに入るぞかなしき](後撰: 冬453)
- 2596 **増基**(ぞうき; 法諱・通称; 庵主[廬主]いおぬし) ?-? 平安前中期の僧/歌人、仁和寺観音院の聖源の父、
956(天暦10)熊野参詣/遠江下向の紀行を家集に残す; 956「熊野遠州紀行」著、
994?家集「いおぬし」(増基法師集)、藤原朝忠・源雅信と交流、中古36歌仙の1、
玄々集2首入/続詞花集2首入、
勅撰28首; 後拾遺(12首186/392/464/508/512以下) 詞花(51/353/365) 新古(1517/1983)、
玉(6首1211/1930/2508以下) 続後拾(1239) 風(787) 新千(1833) 以下、金葉(Ⅲ288/433)、
[このごろは寝でのみぞ待つほとゝぎすしばし都の物語りせよ](後拾; 夏186/家集入)
- 2597 **蔵器**(ぞうき・有吉ありよし、名; 以頭) 1733-9967 備前和気郡働村の大庄屋の3男、1758京に遊学、
帰京後; 備前閑谷学校の講官/1792督学; 学制を改革/奉行、朱子学を奉ず、「蔵器遺稿」、
[蔵器(;号)の字/通称]字; 叔孝、通称; 瀬介/和介
宗祇庵(そうぎあん) → 香風(こうふう、俳人/連歌) L 1 9 0 5
宗祇庵(3世そうぎあん) → 清臣(きよおみ・前野まゑの/香嵐、国学/歌) V 1 6 2 0
瘦菊(そうきく・与住) → 順庵(じゅんあん・与住/よすみ、医者) 2 1 9 9
左右宜斎(そうぎさい) → 通博(みちひろ・那珂なか、儒/藩校助教) C 4 1 3 9
- G2575 **惣吉**(そうきち・竹田たけだ) ? - ? 江中期大阪の浄瑠璃の家の生/歌舞伎作者、
1758(宝暦8)大坂嵐吉三郎座の創作に参加; 「四天王力くらべ」著
- G2576 **惣吉**(そうきち・本屋ほんや/本姓; 太田) 1753-1844長寿92歳 江戸日本橋の貸本業/のち道具商、
茶道具鑑定、松平治郷(不味)から文和・瑞鳳庵の号を受く/古筆了伴から了我の号を受く、
「麟鳳龜竜」著(見聞した茶人の名品に関する内容を息子藤吉と共に編)、
[本屋惣吉(;通称)の別通称/号]別通称; 本惣、号; 了我/文和/瑞鳳庵
- 2598 **宗吉**(曹吉そうきち・橋本はしもと、伊平男) 1763-183674 阿波の雨傘製造業/父に随い大坂北堀江移住、
画技に秀で傘の紋描き職人、蘭医小石元俊・天文曆算家間はさま重富に才能を認められる:
両人の援助で1789江戸の大槻玄沢門; 芝蘭堂に修学、帰阪後元俊・重富のため蘭書翻訳、
医院兼蘭学塾の糸漢堂を開設; 門弟多数、1827門生のキリタン事件に連座; 安藝竹原に隠棲、
1829帰阪、1811「阿蘭陀始制エレキテル究理原」著、「糸漢堂漫筆」「糸漢堂製煉秘訣」著、
「函会華蛮通志」「泰西本草」「地球図説」「西洋産育手術全書」著、外訳書・著書多数、
[宗吉(;通称)の名/字/号]名; 直政/鄭、字; 伯敏/伯幹、号; 曇斎/糸漢堂、法号; 舜誉院
惣吉(総吉そうきち・千村) → 鶯湖(がこ・千村ちむら、藩士/儒者) C 1 5 0 1
惣吉(そうきち・三木) → 左三(さぞう・三木みき/河野、医者/歌/尊攘) P 2 0 4 8
壮吉(そうきち・若山) → 勿堂(ぶつどう・若山わかやま、儒者/易学) D 3 8 4 0
宗吉(そうきち・小栗) → 常山(じょうざん・小栗おぐり/平、儒者) J 2 2 3 5
悰吉(そうきち・渋谷) → 悰逸(そういつ・渋谷しぶや、医者/詩文) F 2 5 9 9
倉吉(そうきち・半井) → 悟庵(ごあん・半井なからい/平野、医/歌学) 1 9 0 0
総吉郎(そうきちろう・壇) → 東郊(とうこう・壇だん、儒者/教育者) D 3 1 9 3
相宜亭(そうぎてい) → 松男(まつお・村上むらかみ/源、国学/歌) T 4 0 1 0
- 2599 **雙救**(双救そうきゅう; 法諱・通称; 嵯峨上人) ?-? 鎌倉期の僧/歌人、嵯峨竹林寺長老、
前関白左大臣九条道教と交流; 道教没に哀傷歌を詠、勅撰2首; 新千載2253/新拾遺1494
[しるべせば同じ道にも友なはで憂き世に残る我ぞかなしき]、
(新千載; 哀傷2253/三縁院入道前関白左大臣九条道教の没に詠む)
- B2500 **宗久**(そうきゅう; 法諱・瞬庵; 号、俗名; 大友頼資) ?-? 1380存 豊後大友氏の一族?、武家; 兵部少輔、
出家; 法師、今川了俊と親交; 1371九州へ下向; 以後も了俊の指示で九州で政治活動参画、

歌人;1366「年中行事歌合」/80「良基邸歌会」参加、紀行「都のつと」著、

勅撰4首;新拾遺(1690)新後拾遺(921)新続古今(615/1164)、

[今朝見れば竹のかけひを行く水のみあまるしづくぞかつ氷りぬる](新拾;雑1690)、
源頼資と同一? → 頼資(よりすけ・源、新後拾歌人) I 4 7 7 8

B2501 **宗久**(そうきゅう・今井いまい、名;久秀/兼員かねかず、宗慶3男)1520-9374 先祖は近江高島郡今井城出身、
戦国期大和今井町の生/青年期に本願寺門徒として堺の納屋宗次宅に寄寓;商法を修学、
茶;武野紹鷗門/紹鷗の女婿、納屋衆(倉庫・金融業)とし独立、
大徳寺の大林宗套に参禅/薙髮;寿林宗久・昨夢斎の号を受、
1555師紹鷗没後;紹鷗の息宗瓦の後見人をして私財を管理、茶会を度々主催、
1568信長上洛後金銭をめぐり対立する堺の納屋衆を津田宗及と共に説得;信長の茶頭、
1569撰津国大官職/70但馬銀山の支配権獲得/鉄砲の大量生産/戦国武将に武器弾薬販売、
納屋衆最高の財力を誇る、1582信長没後;秀吉の御伽衆となる(;但し秀吉は千利休重用)、
千利休・津田宗及と共に茶の湯三大宗匠、宗薫(1552-1627)の父、
[宗久(;剃髮号)の通称/別号]通称;彦八郎/彦右衛門、別号;寿林宗久/昨夢斎/昨夢斎寿林
屋号;天王寺屋

B2502 **宗及**(そうきゅう/そうぎゅう・津田つた、宗達男)?-1591 堺の納屋衆/豪商、茶人;父門、
1568信長上洛に際し今井宗久に与し信長の茶頭/政商として活躍/のち秀吉臣;茶頭、
九州遠征に随従/九州が天王寺屋の商圈のため博多の神屋宗湛・島井宗室と親交、
参禅;大林宗套門;道号を受/本願寺門徒;法眼位を受、「津田宗及日記」、歌/連歌;紹鷗門、
1573大覚寺千句参加、73-4「信長茶会記」、紹巴と「宗養追善百韻」催、宗凡・江月宗玩の父、
[宗及(;法諱)の幼名/通称/号/道号/法号]幼名;隼人、通称;助五郎、号;更幽斎/受世、
道号;天信、法号;法眼受世宗及居士

G2577 **宗久**(そうきゅう・末吉すえよし/八木やぎ、増重男)1612-9483 撰津平野郷七苗家の末吉船の豪家の生、
坂上広野鷹の末裔、大坂平野/天満住の俳人/連歌作者;昌程・宗因と同座、学書の書写多数、
1673「天王寺清水寺万句」主催、1688「独吟千句」著、1673西鶴?「哥仙大坂俳諧師」入、
義兄(実の甥)道節どうせつも俳人、
[見比べよ富士は磯崎の松の雪](哥仙;12左/磯崎;駿河庵原郡岫崎の一名磯崎、
諺;富士は磯/富士も物の数ではない)

[宗久(;号)の幼名/名/別号]幼名;嘉平治、名;治兵衛、別号;寸計

B2503 **爽鳩**(そうきゅう・鷹見たかみ、高見たかみ、修姓;鷹、石川[児島]正親2男)1690-173546 三河田原藩士の家、
同藩士鷹見定重の養嗣子、田原藩士;1710江戸で儒学;荻生徂徠門、1724家老に就任、
藩財政再建・条例制定に尽力、経済・刑法・政書・詩に通ず、1710「秉燭或問珍」、「学説」著、
「三余吟稿」「掌中詩礎」「爽鳩詩稿」「翠竹園漫録卷一」著、「掌中詩語大成」/1732「詩筌」編、
「爽鳩遺稿」あり、定興の養父/星臯の祖父、
[爽鳩(;号)の名/字/通称/別号]幼名;才三郎、名;正長、字;子方、通称;三郎兵衛、
別号;爽鳩子/不求斎、

2507 **蒼虬**(そうきゅう・成田なりた、名;利定、勘左衛門男)1761-184282 加賀金沢藩士、父は4百石取の藩士、
1794父が事件に連座し獄死;致仕し武士を捨て出奔、上京、俳人;關更門、
師没後;東山芭蕉堂を継承、1830頃が絶頂期で豪華な生活、1834守村抱儀の招聘で江戸へ、
鳳朗・梅室と天保期三大家と称される、1835芭蕉堂を千崖に譲渡、京八坂に対塔庵を結庵、
1796-1842芭蕉追善「花供養」催;編(15回)/1797「白峯の春」1812「よさのふゆ」、
1833「たねふくろ」、「萩すすき」「蒼虬発句集」「対塔庵たいとうあん蒼虬句集」「俳諧天保詞林」、
「宝登々木数」外著多数、「訂正蒼虬翁句集」「蒼虬翁発句集」がある、平俗名句風、
のちに正岡子規に月並調と排撃される、

[いつ暮れて水田の上の春の月](訂正蒼虬翁句集)、

[菜の花にくるりくるりと入る日哉](訂正蒼虬翁句集)、

[蒼虬(;号)の通称/別号]通称;久左衛門/道彦/時二/庄助/彦助/主計、

別号;李牧/塊庵2世・芭蕉堂2世・南無庵2世(南無庵継承をめぐり關更妻得終と不和)
・対塔庵(対塔庵)、法号;祥彰院

G2578 **宗汲**(そうきゅう・速水はやみ、名;修敬、別号;貯雲斎)1840-192485 京北野住の茶人/茶道速水流4世;

3世宗篁(そうげん)をの跡継嗣、茶人/造園家、備後尾道で速水流を指導；
大徳寺茶僧円山要宗(伝衣)も尾道での門人、1855「月次稽古茶事録」著、
「茶之湯扣録」「茶博士速水宗達稿本並速水家雜纂」著、「人名抜十九人之記」編

宗休(そうきゅう;法諱・大休)→ 大休(だいきゅう;道号・宗休、臨濟僧) J 2 6 6 2

宗休(そうきゅう・水野) → 勝成(かつなり・水野みずの、藩主/殖産) N 1 5 6 6

宗休(そうきゅう・鈴木) → 政通(まさみち・鈴木すげき、茶人) H 4 0 4 8

宗球(そうきゅう;法諱) → 天琢(てんたく;道号・宗球、臨濟僧) E 3 0 0 3

宗久(そうきゅう・高木) → 岸芷(がんし・高木たかぎ/細木、俳人) G 1 5 3 6

宗久(そうきゅう・安部) → 宗久(むねひさ・安部あべ、神職/記録) C 4 2 3 1

宗玖(そうきゅう・狩野) → 宗朴(3代そうぼく・狩野かのう、茶人/歌/俳) K 2 5 8 9

爽鳩(3代そうきゅう・鷹見)→ 星卓(星岡せいこう・鷹見、藩士/儒/詩) B 2 4 4 5

巢鳩(そうきゅう・三谷) → 坦齋(坦齋たんさい・三谷/前田、刀匠/俳) T 2 6 5 2

双鳩子(そうきゅう・斎藤/双鳩子)→ 秋圃(穉圃/周圃しゅうほ・斎藤/葵/池上、絵師) I 2 1 2 7

G2579 僧牛(そうぎゅう;法諱) ? - ? 寛政1789-1801頃の修験僧;園城寺敬長門、
本山派聖護院流修験僧;京の積善院に住、1799「修験学則」、「修験行者易筮該用」著

瘦牛(そうぎゅう) → 杜口(とこう・神沢かざね、幕臣/俳人) 3 1 4 2

巢丘山人(そうきゅうさんじん)→ 正賢(まさかた・増山ましま、藩主/書画) B 4 0 9 0

爽鳩子(そうきゅうし) → 爽鳩(そうきゅう・鷹見/鷹、家老/儒者) B 2 5 0 3

B2504 糟丘亭(そうきゅうてい) ? - ? 詩文狂歌作者;大田南畝門、

1806南畝「ひともと草」に詩文狂文2編入、江戸蔵前札差伊勢屋長兵衛の筆名か?

B2505 宗居(そうきよ;号、通称;橋多宮)?-? 明和1764-72頃伊勢山田八日市場の僧/俳人;樗良門、
1764刊「重陽」編、66樗良「我庵」序、1771師樗良と旅行脚

B2506 巢居(そうきよ、俗姓;田村or島田、俗名;亢亮)?-1813 陸前の僧;宮城郡原町観音堂別当清光院10世、
権大僧都/法印、俳人:白居易門、1793「ひふみの巻」94「竹のやとり」編、
1798「増註桃青翁句彙」注撰(于当増註/青雲居騏道序)、99「桃青翁句彙後編」注を刊、
1807「奥の海集」09「春草曲」「和哥菜」著、没後;3回忌追善集「みかさねの滝」、
[巢居(;号)の別号]蘭庭/桃地、夢々庵泰道の兄、子息も俳人;百非ひやくひ・心阿しんあ

巢居(そうきよ・武内) → 栖鶴(せいかく・武内たけうち、俳人) 2 4 8 9

巢居(そうきよ・都賀つが) → 庭鐘(ていしょう・都賀、医者/唐話/読本) B 3 0 2 0

巢居(そうきよ・北尾) → 墨香(ぼくこう・北尾きたお、書肆/書家) E 3 9 6 6

B2507 桑魚(そうぎよ・万笈斎まんきゅうさい、通称;桑名屋甚兵衛)?-? 大坂の書肆/狂歌師、
1729「狂歌華紅葉」編

G2580 双魚(そうぎよ) ? - ? 大阪の俳人;1776几董「続明烏」1句入、
[花過ぎて若葉に安き軒端哉](続明烏:甲221/軒端の桜は開花時には気にかかるが・・・)、
(洒堂「花散りて竹見る軒の安き哉」[続猿蓑]と同想)

藻魚庵(そうぎよあん) → 大蟲(だいちゅう・池永、俳人) B 2 6 8 6

B2508 宗鏡(そうきょう;禅師号/碧潭へきたん;道号・周皎しゅうこう;法諱、俗姓;北条)1291-1374⁸⁴ 臨濟僧、
初め山城仁和寺の禅助門;密教を修学、元弘の乱を逃れ夢窓疎石門/;嗣法、
後醍醐天皇に禅法を説く/1342夢窓の命で西芳寺住/嵯峨地蔵院住寺2世;夢窓を初世とす、
諡号;宗鏡禅師、「碧潭閻校」著、歌;新後拾遺1354、
[思ひ出づる心に浮ぶいにしへを遠きものぞと隔てこしかな](新後拾;雑1354)

B2509 宗恭(そうきょう・井上いのうえ)? - ? 大阪の俳人;宗因門、1676「天満千句」入、
1678西鶴「物種集」81賀子「山海集」入、

[枝の鞆や紅葉の馴れし鹿の皮](山海集;左27/蹴鞆の鞆は鹿皮製、

鞆ががり;西南隅に楓の枝に鞆のとまるさま/因みに西北隅に松・東北隅に桜・

東南隅に柳を植える)

G2581 宗郷(そうきょう・千せん、姓;岡田おかだ、名;英安)1727-94⁶⁸ 千家華道14世、歌人、
1788京から越後湯沢を経て羽後秋田城下へ;3年間華道指導;藩士白土宗真に名跡譲渡、
帰京し没、「生花三部秘抄」「二夜問答」著、
[千宗郷(;号)の別号] 松亭

- 宗喬(そうきょう・太田) → 宗喬(むねたか・太田おた、神職/国学) D 4 2 6 9
 宗興(そうきょう) → 宗興(しゅうこう・閑雲、真宗僧) X 2 1 2 2
 宗鏡(そうきょう;字) → 日意(にちい;法諱・宗鏡;字、日蓮僧) 3 3 3 9
 宗恭(そうきょう;法諱) → 敬峯(けいほう;道号・宗恭、臨濟僧) N 1 8 1 8
 宗恭(そうきょう・前田) → 宗恭(むねやす・前田まだ、国学/歌人) E 4 2 2 4
 宗恭(そうきょう・伊達/桑折) → 宗臣(むねしげ・桑折こおり、藩家老/歌/俳人) B 4 2 4 2
 宗恭(そうきょう・宮下) → 宗恭(むねたか・宮下みやした、医者/歌) B 4 2 5 0
 宗恭(そうきょう・伊達) → 宗恭(むねやす・伊達だて、和算家) C 4 2 7 1
 宗教(そうきょう・難波) → 宗教(むねのり・難波/藤原、廷臣/蹴鞠) C 4 2 1 6
 宗教(そうきょう・高橋) → 宗教(むねのり・高橋/紀、廷臣) C 4 2 1 8
 宗堯(そうぎょう・松平/徳川) → 宗堯(むねたか・徳川/松平、藩主/文筆) B 4 2 4 7
 宗業(そうぎょう・藤原) → 宗業(むねなり・藤原、廷臣/詩人) C 4 2 0 3
- L2529 増慶(そうきょう;法諱) ? - ? 鎌倉期;南都の法師;興福寺別院の菩提院住、
 歌人;1237[檜葉集]入、
 [ひとねのこの山なるいさやがはあふせもし口でそではぬれつつ](檜葉;恋375)、
 三蔵院範玄の造花を持ちさってさしおき、
 [きみがためいろふかかりし桜花さもあらぬ人はいかがみるべき]
 (檜葉;雑680/角院中納言の歌の詞書入)
- 増業(そうぎょう・大関) → 増業(ますなり・大関/加藤、藩主/国学) J 4 0 1 1
 宗鏡禪師(そうきょうぜんじ) → 宗鏡(そうきょう・周皎・碧潭;道号、臨濟僧) B 2 5 0 8
- B2510 舩喬先生(そうきょうせんせい、本名不祥)?-? 漢文、1755乾篤軒「笑話出思録」評
 宗鏡嬾納(そうきょうらんろう;号) → 信仲(しんちゅう;道号・明篤;法諱、臨濟僧) 2 2 6 1
 宗頊(そうぎょく;法諱) → 瑞巖(ずいがん;道号・宗頊、臨濟僧) E 2 3 3 0
 双玉(そうぎょく・深見) → 頤斎(いさい・深見ふかみ/高、書家) E 1 1 2 4
 双玉(そうぎょく・岡) → 蔵治(くらじ・岡おか、藩士/詩人) D 1 7 5 0
 蒼玉院(そうぎょくいん;号) → 日応(にちおう;法諱、日蓮僧/連歌) 3 3 8 1
 相玉長伝(そうぎょくちやうでん) → 相玉(しやうぎょく;道号・長伝;法諱、歌人) G 2 2 1 2
- G2582 宗金(そうきん・大橋おおはし、11代宗桂男)?-1910(明治43) 江戸の将棋士/将棋大橋家12代、五段、
 1857「将某段式人名録」著、宗金の死により大橋本家は断絶、法号;真如院
 宗金(そうきん・大橋) → 宗桂(そけい・初代そうけい・大橋おおはし、将棋士) G 2 5 9 1
 宗金(そうきん・大橋) → 宗桂(11代そうけい・大橋おおはし、将棋士) G 2 5 9 9
 宗今(そうきん・池嶋) → 成之(せい・池嶋、俳人/宗匠) B 2 4 8 2
 宗訢(そうきん;法諱) → 笑嶺(しょうらい;道号・宗訢;法諱、臨濟僧) M 2 2 0 0
 宗欣(そうきん・大梁) → 大梁(たいりょう;法諱、禅僧/詩人) C 2 6 3 3
 相近(そうきん・二川) → 相近(すけちか・二川、歌人・書家) C 2 3 4 1
- B2513 宗吟(そうぎん・松井) ? - ? 和泉堺の住人、松井友閑の一族か?、
 狂歌;1666行風「古今夷曲集」1首入、
 [山芋やまのいもうなぎに化けする証拠もて鯉をたぬきになす扁もあり](夷曲集;九640、
 鯉をえさせける人の書札に扁を誤りて矛扁に書きこしける返事に/
 山芋が鰻になるという俗説を踏まえる/扁に変を掛る)
- B2511 宗吟(そうぎん、上野) ? - ? 江中期京茶道宗匠;宗左門、1774「香道袖の橘」「香道宿の梅」
 宗吟(そうぎん・池嶋) → 成之(せい・池嶋、俳人/宗匠) B 2 4 8 2
 宗銀(そうぎん・伊藤) → 宗桂(5代そうけい・大橋おおはし、将棋士) G 2 5 9 4
 宗銀(そうぎん・大橋) → 宗桂(10代そうけい・大橋おおはし、将棋士) G 2 5 9 8
 宗閻(そうぎん) → 氏真(うじまね・今川、武将/歌/連歌) 1 2 3 1
 宗閻(そうぎん→しゅうぎん;法諱) → 笑岩(しょうがん;道号・宗閻、曹洞僧) H 2 2 8 3
 滄琴舎(そうきんしゃ) → 文質(ぶんしつ・滄琴舎、俳人) F 3 8 6 6
 双吟堂(そうぎんどう) → 春色(しゅんしよく、僧/俳人) J 2 1 9 8
- B2512 承均(そうきん・宗均/ぞうく/しょうきん;法諱)?-? 平安期僧(法師);元慶877-85頃の人か?、
 雲林院歌壇参集の歌人、父については大和掾某・大和守紀行広・和泉大掾某などの説、

古今集3首(75/77/924)、袋草紙に[桜散る]の歌に関する問答あり、
[桜散る花の所は春ながら雪ぞ降りつゝ消えがてにする](古今;二春75/雲林院にて)

- 宗句(そうく・前田) → 玄以(げい・前田また、武将/歌/連歌) F 1 8 1 6
宗矩(そうく・柳生) → 宗矩(むねり・柳生やぎゅう、藩主/兵法家) C 4 2 1 9
宗矩(そうく・松平) → 宗矩(むねり・松平またいら、藩主/学問) C 4 2 2 2
宗矩(そうく・むねり・村井) → 求林(きゅうりん・村井、商家/和算家) M 1 6 9 9
宗矩(そうく・むねり・富田) → 無三(むさん・富田とみた、農家/代官/俳) 4 2 5 6
宗矩(そうく・高木) → 宗矩(むねり・高木たかぎ、藩士/国学/歌) D 4 2 9 6
宗矩(そうく・山崎) → 宗矩(むねり・山崎やまざき、国学者/歌) E 4 2 3 1
宗具(そうぐ→むねとも・江村) → 専斎(せんさい・江村、医者/連歌) 2 4 3 0
僧具(そうぐ;字) → 大巖(だいがん;法諱、真宗僧) J 2 6 9 9
- G2583 聡空(そうくう;法諱) ? - ? 江前期天台僧、
1670(寛文10)焼失した寺院回祿行用の広福神法を急遽記述;「広福神私記」著
宗空(そうくう) → 尚顕(ひさあき・勸修寺かじゅうじ、廷臣/日記) 3 7 7 9
宗空(そうくう;法名) → 季経(すえつね・四辻/藤原、大納言/歌) B 2 3 2 4
- G2584 増空(そうくう;法諱、号;純慶坊) 1413 -? 1469存 美作倭文庄の天台宗慈音寺住僧、
1469(応仁3)門弟の需めに応じ悉曇の手毛引書を記述;1469「悉曇字記口決」著
- G2585 惣九郎(そうくろう・木村きむら) ? - ? 江後期寛政1789-1801頃越後宝地村の里正、
和漢学に通ず/役人を諫め窮民に私財を頒ち救済、「地獄征伐」「塵の浮世」著、
「遠慮口説」「社社口説」「年寄口説」「役人口説」「粒々辛苦」著
蔵九郎(そうくろう・梁田) → 葦洲(いしゅう・梁田やなだ、藩士/儒者) E 1 1 2 7
- B2514 宗薫(そうくん・今井いまい、名;兼久、宗久男) 1552-1627 堺の商人;豪商、茶人;父門/利休門、
秀吉の茶頭/御伽衆、1614大坂冬の陣に堺の防衛を図るが豊臣軍により息宗呑と捕縛、
釈放;のち家康・秀忠・家光三代に出仕;茶頭、旗本今井家を成立させる、
茶道具[宗薫肩衝]など名品所持、俳人;1661成安「埋草」入、
[宗薫(;号)の通称/別号]通称;帯刀左衛門、別号;単丁斎
- B2515 宗勲(宗君そうくん・大森おもり) 1568-1625 戦国江戸前期音曲家;織田信長の家臣、
信長没後隠退、一節切の奏法を大成/普及に尽力、1608「宗八流尺八手数並唱歌之目録」著、
1687「紙鳶いかのぼり」は門弟著、
[宗勲(;名)の号] 岫庵(しゅうあん)/策翁
- G2586 雑華(ぞうけ;道号・蔵海ぞうかい;法諱、号;安心院/鬼怒子) 1730-88 豊前宇佐郡安心院村の生、
安心院村の曹洞宗永照寺4世大洪瑞仙門;出家、1741頃江戸駒込吉祥寺梅檀林に修業、
指月慧印・瞎道本光に随侍、1767常陸土浦東光寺/76下総結城郡興正寺住;没、
1787「碧巖録私記」、「正法眼蔵私記」「正法眼蔵傍註」「興正蔵海和尚法語」著
- G2587 宗慶(そうけい;法諱・法師) ? - ? 鎌倉期の僧/歌;1300高階宗成?「遺塵和歌集」入
- G2588 宗慶(そうけい;法諱・雲叔うんしゅく;道号、諡号;仏心広通禪師) 1495-1566 京の臨濟僧;
大徳寺の天啓宗歎門;法嗣、1551大徳寺101世/60再任、78禅師号勅賜、
「竜峯尊宿夜話下」著
- G2589 宗桂(そうけい・吉田よしだ、宗忠2男) 1512-72 父は足利義植の侍医、1532家督継嗣;將軍義晴の侍医、
1539策彦周良に従い入明、医薬の修業;1541帰国/47策彦と再入明;明の皇帝の病氣治癒、
意安の書額を贈与される;以後代々意安を称す、宮内卿/法印、
「開宝本草」著、有和壽筠(臨濟僧)の兄/角倉了以の父
[宗桂(;名)の別名/通称/号]別名;与次、通称;意安/意庵、号;日華子/称意館、法名;日華、
- B2516 宗圭(そうけい) ? - ? 連歌;1571「大原野千句」連衆:幽斎らと
- G2591 宗桂(初代そうけい・大橋おほし、宗世男) 1555-1634 京の将棋大橋家初代/大橋家;佐々木義秀の裔、
織田信長・豊臣秀吉・徳川家康・秀忠に出仕、桂馬用法の巧みさで信長より[宗桂]号を受、
家康には1612将棋所を賜る;初代名人、後水尾天皇より法印に叙せられる、
1616「象戯馬法」「将棋作物」「象戯力草宗桂指南抄」、「象戯図式」「将棋秘伝抄」「宗桂作物」、
「宗桂作物詰書」「宗桂作物詰物」著、
[宗桂(;号)の名/別号]名;宗正/宗慶、初号;宗金、法号;玉浄院

- B2517 **宗啓**(宗慶そうけい;法諱・南坊なんぼう;号)?-? 和泉堺の富商淡路屋の出身(宗以[宗意]男?)、臨濟僧;京大徳寺真珠庵で修行/堺禅通寺入/茶道;宗達・利休門/利休に近侍、利休より台子の法など秘伝を伝授される、晩年堺南宗寺集雲庵(南坊・南ノ坊)住、茶道南坊[南方]流の祖、1593「南方録なんぼうろく」編、[火ヲヲコシ 湯ヲワカシ 茶ヲ喫スルマデノコト也 他事アルベカラズ]、(利休の教え;侘茶の真髓;南方録)、[宗啓(;法諱)の号] 南坊なんぼう/南ノ坊/集雲庵/慶蔵主/隣首座
- G2590 **宗慶**(そうけい・板坂いたさか、備後入道男)?-? 室町後期近江坂本の医者、初め武田家に出仕、のち徳川家康に出仕;息子宗商・孫のト斎[如春]も共に出仕、「家珍方」著、佐々木道誉の裔
- B2518 **宗恵**(そうけい・内海うちみ、名;久重)?-?寛文1661-73頃没 京の商人/歌・俳人;貞徳門、梅盛と親交、1660「松葉まつば集」、74家集「続松葉集」編、「宗恵和歌詠草」「六字堂宗恵集抄」著、1667「増補松葉名所和歌集」編刊、連歌;宗碩風、没後1722松堅[倭譚五十人一首]入、[竹そよぐ音だにたえて木にもあらず草とも見えずうづむ白雪]、(倭譚五十人一首;8竹雪)、[宗恵(;号)の通称/別号]通称;長右衛門、別号;六字堂・随有軒?
- G2592 **宗圭**(そうけい;法諱・雪庵せつあん;道号)1597-1675 79 京の臨濟僧;大徳寺藍溪宗瑛門/法嗣、1648(承保5)大徳寺182世/碧玉庵住、大徳寺以春庵/近江竜水庵を開創、「雪庵録」「碧叢爛柴篇」著、1675(延宝3)靈元天皇より禅師号、[雪庵宗圭の号] 西翁ゆうおう/華翁/大珠法光禅師
- G2593 **宗桂**(3代そうけい・大橋おおし、2世名人大橋宗吉男)1613-1660 48 京の将棋士;大橋家3代;父の将棋所継嗣、江戸に移住/棋力7段、宗伝(4代目)の父、「将棋曲尺」「象戯秘曲集」「将碁衆妙」著、法号;宗桂日将
- G2594 **宗桂**(5代そうけい・大橋おおし、初代伊藤宗看男)1636-1713 78 将棋大橋家5代;4代宗伝を継嗣、4世名人、大橋分家・伊藤家と共に将棋家元として鼎立、1691将棋所名人、1669「象戯手鑑」「将碁図式」/86「将碁指南抄」、「象戯百箇条之伝」「将碁鏡作り物」著、[宗桂(;号)の別号]初号;宗銀、法号;善行院桂日金
- G2595 **宗桂**(8代そうけい・大橋おおし、2代伊藤宗印3男)1714-1774 61 将棋大橋家の養子、1724大橋家8代継嗣、1764将棋8段・当時の棋界第一人者;名人位には不就、「将碁図式」著、[宗桂(;号)の幼名/別号]幼名;政摺、初号;宗寿、法号;角静院
- B2519 **双桂**(そうけい・原はら、名;瑜、光茂男)1718-67 50 母;原芸庵女、京の医者/儒;伊藤東涯門/古学修学、医;山脇玄心門、外祖父芸庵を頼り江戸へ;1745肥前唐津藩の侍医;藩校盈科堂で教授、詩文に長ず、1762藩主土井利里移封に伴い下総古河に移住;盈科堂学監/1767出府後;没、日本最初の温泉医学の研究、黄檗僧大潮門;中国音で詩を吟ず、「桂館漫筆」「桂館野乗」、「雙桂集」「過庭紀談」「過庭紀談拾遺」「温泉考」「雙桂集」「転音析義」「洙泗微響」外著多数、[双桂(;号)の字/通称]字;公瑤、通称;三右衛門/尚庵、敬仲の父/念斎の祖父/河口信任の師
- G2596 **宗敬**(そうけい・本庄ほんじょう/本姓;藤原、名;正路)1729-1805 77 代々大坂城鉄砲組与力、茶人;河野宗鷗門/石州流修得、有職故実;元木弘道門/礼法;小笠原流修得、「礼法茶道大系譜」著、[宗敬(;号)の通称/別号]通称;信右衛門、別号;馬翁/松濤庵
- G2597 **宗桂**(9代そうけい・大橋おおし、8代宗桂男)1744-99 56 将棋大橋家9代/将棋8世名人、九段、1789将棋所名人、「将棋図式詰書」著/「象戯集」編、1765・86「象戯図式」著、[宗桂(;号)の幼名/別号]幼名;政秀、初号;印寿、法号;玉應院
- G2598 **宗桂**(10代そうけい・大橋おおし、9代宗桂の養子)1775-1818 44 将棋大橋家10代継嗣、将棋7段、1814「将碁明玉」編/13「将碁妙手」著、[宗桂(;号)の別号]初号;宗銀、法号;金翅院
- G2599 **宗桂**(11代そうけい・大橋おおし、10代宗桂男)1803-74 72 将棋大橋家11代;1822家督継嗣、将棋8段、1849「将碁極妙」校訂/1851「将碁定跡集」著、[宗桂(;号)の別号]初号;宗金、法号;大竜院
- H2500 **宗珪**(宗圭そうけい・石坂いさか)?-? 江戸幕府の医官、1830清の「人參攷」校刻、1840石坂宗哲「内景備覧」序文執筆、1818「長沙方原」、「鍼灸書」「針治提要十二条」著、

「陽州園雜纂」著、「読史余論」補、

[宗珪(；通称)の字/別通称/号]字；宗圭、別通称；圭/公琦、号；櫟園

- 宗惠(そうけい・小野) → 久重(ひさしげ・小野おの、俳人) I 3 7 2 1
宗経(そうけい・藤原) → 宗経(むねつね・藤原/中御門、廷臣/歌人) B 4 2 6 6
宗経(そうけい・平) → 宗経(むねつね・平たいら、廷臣/歌人) B 4 2 6 7
宗経(そうけい・南条) → 宗経(むねつね・南条なんじょう、藩士/学頭) B 4 2 7 0
宗景(そうけい・田中) → 宗景(むねかげ・田中/源、神職/記録) B 4 2 1 5
宗敬(そうけい・津田/長沼) → 宗敬(むねよし・長沼/津田、兵学者) C 4 2 8 5
宗敬(そうけい・広辻) → 光春(みつはる・広辻ひろつじ/橋/小林、歌/茶人) K 4 1 2 8
宗慶(そうけい；俳号) → 長十郎(ちやうじゅうろう・初世沢村、歌舞伎役者) I 2 8 7 6
宗卿(そうけい・松井) → 晟時(あきとき・松井まつい、藩士/剣術) D 1 0 6 1
宗啓(宗慶そうけい；法諱) → 南坊(なんぼう；号、宗啓、臨濟僧/茶道) J 3 2 4 4
宗継(そうけい・松木) → 宗継(むねつぐ・松木まつきの、中御門/藤原、廷臣/歌人) B 4 2 6 2
宗継(そうけい・立入) → 宗継(むねつぐ・立入たてり、廷臣/和議奔走) B 4 2 6 3
宗継(そうけい・榎並) → 貞因(ていゐん・榎並/永田/鯛屋、俳人/狂歌) 3 0 0 1
宗桂(そうけい；法号) → 為純(ためずみ・冷泉、歌人) 2 6 6 2
宗瓊(そうけい・利光) → 仙庵(せんあん・利光としみつ、藩医者) L 2 4 5 7
双溪(そうけい・阪部) → 好礼(よしのり・阪部さかべ、書家/絵師) G 4 7 0 0
双溪(そうけい・堤) → 盛夏(もりなつ・堤つみ、盛受男/神職) K 4 4 6 4
相繫(そうけい・逸見) → 石籠子(いし-せきりゅうし・逸見、相法家) K 2 4 5 3
奏溪(そうけい・土生はぶ) → 小竜(しょうりゅう・河田/土生、絵師) B 2 2 9 6
僧谿(そうけい；字) → 文雄(もんゆう；法諱、浄土僧/語学者) I 4 4 3 6
桑溪(そうけい・藤森) → 桂谷(けいこく・藤森ふじもり、絵師/教育) F 1 8 6 0
爽卿(そうけい・猿山) → 竜池(りゅうち・猿山さやま、書家) F 4 9 1 8
曹溪(そうけい；号) → 愚極(ぐきょく；道号・礼才；法諱、臨濟僧) C 1 7 3 3
霜桂(そうけい・葦名) → 盛信(もりのぶ・葦名あしな、邑主/歌人) G 4 4 1 8
漱瓊(そうけい・長尾) → 景範(かげのり・長尾ながお、軍学/詩文) L 1 5 1 7

B2520 宗藝(そうげい；法諱、通称；学賢房)？-？ 戦国期文明1469-87頃大和奈良興福寺の法相僧；
興福寺別会方五師、1478(文明10)・83-85(文明15-17)「日記」；長実房英俊[多聞院日記]入
1518(永正15)「戒壇院縁起」、「前後対」著

- 宗芸(そうげい) → 正頼(政頼まさより・瓦林・河原林/平、武将/連歌) I 4 0 8 0
総藝(そうげい；法諱) → 才翁(さいおう；道号・総藝、曹洞僧) G 2 0 5 5
増慶(ぞうけい；法諱) → 増慶(ぞうきやう；法諱、南都の僧/歌人) L 2 5 2 9
蔵卿(ぞうけい・仙石) → 政固(まさかた・仙石せんごく/土岐、藩知事/歌) C 4 0 0 1
叢桂園(そうけいえん) → 蕉雪(しょうせつ・村井むらい、藩医/絵師) K 2 2 3 4
叢桂亭(そうけいてい・原) → 南陽(なんよう・原はら、医者) 3 2 4 5
宗惠大照禅師(そうけいだいしょうぜんし) → 宗願(そうい；法諱・養叟；道号、臨濟僧) 2 5 5 3
霜溪道人(そうけいどうじん) → 希逸(きいつ・川口かわぐち、臨濟僧/詩人) E 1 6 9 4
草軽楼(そうけいろう) → 魚立(ぎょりゅう・勝部、俳人) H 1 6 6 0
宗傑(そうけつ；法名/内裏九十番歌合入) → 俊長(としなが・紀き、神職/歌人) N 3 1 1 5

H2502 宗月(そうげつ・加藤かとう/依田/松平、蘆田[依田]信蕃2男) 1574-1653⁸⁰ 武将；信濃春日城に生、
兄康国没後；1590(天正18)上州藤岡藩主；3万石、1594従五下/右衛門大夫、
1600碁の上で将軍家隊士を斬り高野山に隠れる、のち福井藩主結城秀康に招聘；
加藤四郎兵衛康寛と称し越前大野郡木本に住、1643「蘆田記」著、
[宗月(；法名)の幼名/名/通称/法号]幼名；福千代丸、名；康真/康寛/康勝、
通称；新六郎/四郎兵衛、法号；総光寺孤岸良月居士

- 宗月(そうげつ・堀田) → 一継(かずつぐ・堀田/本田、武将/旗本) V 1 5 6 4
宗月(そうげつ・齋藤) → 三友(みつとも・齋藤さいとう、幕臣/国学) J 4 1 1 7
窓月(そうげつ) → 壽々成(すずなり・愛敬亭、茶番) D 2 3 8 0
窓月(そうげつ・内田) → 長麿(ながまる・内田うちだ、国学/歌人) L 3 2 3 1

- 送月庵(そうげつあん) → 風話(ふうわ・森川もりかわ、俳人) B 3 8 5
掃月閑人(そうげつさんじん) → 弄花(ろうか、俳人) 5 2 2 1
窓月齋(そうげつさい) → 一由(いちゆう・小高/鷹、華道家) G 1 1 5 1
霜傑亭(そうげつてい) → 直澄(なおずみ・越智/河野、儒者/叢書) B 3 2 4 2
送月堂(そうげつどう) → 文樵(ぶんしょう・石原いしはら、俳人) F 3 8 7 5
雜華堂(そうげつどう) → 道費(どうひ;法諱・無隠;道号、曹洞僧) H 3 1 0 0
- H2503 **宗顛**(そうけん;法諱・通称;中納言得業、定顛法印男)1243-? 華嚴僧;1260東大寺の定顛得業門、華嚴宗学:宗性門、1277興福寺維摩会の講師/のち宗性の著述活動を援助、法印/権大僧都、1266「華嚴經探玄記肝要抄外聞集」著、「古論草」「探玄記十二卷抄」「法華大円抄」著、「法華第四・六卷抄」「法華肝要抄私勘文」著、1280「華嚴宗法花釈」外著多数
- L2527 **宗賢**(そうけん;法諱) ? - ? 南北期;僧/権律師、歌人;1345刊[藤葉集]入、[いつか我人のためにはつらかりしむくいによらぬ身の契かな](藤葉;恋455)
- H2504 **宗硯**(そうけん;号) ? - ? 天文1532-55頃連歌師;宗祇門、1537(天文6)7月20日房慈らと「何木百韻」一座
- B2521 **宗賢**(そうけん・岡田おかだ) ? - ? 古典学者、1563前頃「聞源抄」著?(弁疑書目録説)
- B2522 **宗乾**(そうけん・如庵じょうあん) ? - ? 医者、1604秦宗巴(寿命院立安)「徒然草寿命抄」刊(徒然草最初の注釈書)
- H2505 **宗謙**(そうけん・尾形おがた、宗柏男)1621-8767 異母兄宗甫の跡継嗣;京の呉服商雁金屋主人、江戸の大奥・東福門院の御用達、書;父門・児島宗貞門:光悦流書家、狩野派の画を嗜む、1646「尾形宗謙呉服詠物帳」46-51「尾形宗謙歌書并詩歌写」78「雁金屋御用呉服書上帳」著、[宗謙(;名)の別名/号]別名;主馬、号;浩斎、屋号;雁金屋、法号;良温院光琳・乾山の父
- B2523 **操軒**(そうけん・米川よねかわ、名;一貞、浄光3男)1627-7852 京の儒者:三宅寄斎/のち山崎闇斎門、長沢潜軒・谷一斎・藤井懶斎・貝原益軒らと交流、仕官せず子弟教育、「敬斎箴学規諺解」著、[操軒(;号)の幼名/字/通称]幼名;重、字;幹叔、通称;儀兵衛
- B2524 **宗賢**(そうけん・小島こじま) ? - ? 江前期京の俳人;令徳門、1660(万治3)「源氏鬢鏡」信房と編、1674「源氏道芝」/1713「源氏絵宝枕」編 [宗賢(;号)の通称] 総兵衛/新四郎
- B2526 **宗堅**(そうけん;号・嘯夕軒しゅうせきけん)?-? 江中期京の茶人/料理家、1730「我かしこの記」著、1730「料理綱目調味抄」著
- H2506 **宗賢**(そうけん・服部はつとり、名;時寿、時勝の長男)1752-182069 大和高市郡越村の医者;父門、1766(15歳)上京/内科;畑柳安門/外科;檜林由仙門/物産・本草学;小野蘭山門、帰郷し父と共に診察、1792高取藩主植村家長の侍医/のち参政;禄百石、私財で高取川に石橋架橋、1768「挿瓶花養」編、「竜髯随筆」「草聚方」著、[宗賢(;通称)の字/号]字;子篤、号;葛城翁/葛城山人/桂香堂/竜髯館りゅうぜんかん、養純の兄
- H2507 **宗謙**(そうけん・石井いひ、石井佐治良左衛門尉信綱男)1796-186166 江後期美作真嶋郡旦土村医者、医学;長崎でシーボルト鳴滝塾門、1832美作勝山藩医;致仕し備前岡山で開業、1845シーボルトの娘楠本稲子(日本最初の女医)を預かり産科医学を教授;1852稲子との間に女子誕生;同僚から非難される、1853勝山藩侍医として江戸出府;芝愛宕下に開業、西洋人と親交のかどで投獄;赦免、米艦来航後は藩の外科医に登用、更に箱館奉行堀利忠の御用を務む/蕃所調所に出仕、1857江戸神田の種痘所解説に参画、1860「灸法略説」訳、信義・たか子(稲子の子)の父
- H2508 **蒼軒**(そうけん・小泉こいずみ、名;氏計ゆきかず、其明の長男)1797-187377 越後新潟の測量家/地理;父門、佐渡に往来し父其明の[佐渡全図]を補正、「越後地名考」「越後七不思議」「越後里程誌」、1859「農家必備」63「越乃長路」、「治水策」「麓の遅理比遅」「北越月令」「老のくり言」外著多、[蒼軒(;号)の字/通称/別号]字;晨卿、通称;善之助、別号;雲棲/海巨/橋東/花狂園/八百会舎/翠松軒
- B2527 **宗建**(そうけん・檜林ならばやし、名;高房/潜、3世栄哲男)1802-5251 佐賀藩蘭医:シーボルト門、藩主の命で1849牛痘痲入手/三男建三郎に蘭医モーニケが摂取:種痘普及、「牛痘小考」、「牛痘瑣言」「牛痘指揮」「外科瑣言」「傷医方函」「傷医方書」「本草薬名解」、栄建の弟、

[宗建(；通称)の字/号]字；孔昭、号；至心院/潜建/和山

H2509 **棗軒**(そうけん・本間ほんま、名；資章/救、医者本間玄有男)1804-7269 本間道偉の養子/常陸小川医者、水戸の原南陽門/西洋医学；江戸の杉田立卿門/漢学；大田錦城門/京の高階経宣門、外科・麻酔術；1827紀州の華岡青洲門、江戸日本橋に開業/種痘；長崎のシボルト門、帰郷し小川で開業/水戸藩主徳川斉昭の侍医/1843医学館教授/50牛痘種痘実施、1857御側医師；藩内に種痘普及尽力、「種痘医譚」「日新医談」「牛痘之辨」「医方纂要」、「自準亭雑識」「療治知要」「蠡測編」、1837「瘍科秘録」64「内科秘録」59「続瘍科秘録」外著多、[棗軒(；号)の字/通称]字；和卿、通称；玄調

H2510 **宗寛**(そうけん・速水はやみ、名；弘道、別号；守三軒、宗暉そうよう男)1813-7664 京の茶道速水流3世の茶人、京守護職松平容保の藩屋敷新築のため京下立売旧宅を追われる、備前岡山藩茶道役を継嗣；流派の普及を促す、「茶法見聞集」「鬼道名水記」「蒙点脱草録」著「和歌草稿録」「姓名録」1844「東本願寺御門跡於枳殻御殿御茶之湯」著

H2511 **壮軒**(そうけん・林はやし、名；健、櫻字でいう男)1829-53早世25歳 儒者；佐藤一斎・安積良斎門、幕府儒官；1846家督嗣、大学頭、1849「海防之義ニ付申上候書付」著、[壮軒(；号)の幼名/字/通称/別号]幼名；象彦、字；寧卿、通称；健三郎/又三郎、別号；憫斎かんさい、諡号；昭肅

宗建(そうけん・難波)	→	宗建(むねたけ・難波/飛鳥井/藤原、国学/蹴鞠)	B 4 2 5 4
宗顕(そうけん・法諱)	→	江隠(こういん；道号・宗顕、臨濟僧)	H 1 9 3 5
宗顕(そうけん・初号)	→	宗静(そうじょう・土橋、商家/連歌・俳人)	C 2 5 0 9
宗顕(そうけん・分部/三雲)	→	還善(かんぜん・三雲みくも/施薬院、医者)	R 1 5 2 1
宗顕(そうけん・高階)	→	宗顕(むねあき・高階たかしな、廷臣/歌人)	4 2 9 7
宗顕(そうけん・葉室)	→	宗顕(むねあき・葉室、廷臣/記録)	4 2 9 8
宗顕(そうけん・松木)	→	宗顕(むねあき・松木、廷臣/記録)	4 2 9 9
宗顕(そうけん・田村)	→	宗顕(むねあき・田村たむら/中村、藩主/歌)	D 4 2 5 7
宗兼(そうけん・紀)	→	宗兼(むねかぬ・紀/藤原、廷臣/歌人)	B 4 2 2 4
宗兼(そうけん・藤原)	→	宗兼(むねかぬ・藤原ふじわら、廷臣/歌人)	B 4 2 2 5
宗謙(そうけん・法諱)	→	直翁(ちよくおう；道号、臨濟僧)	K 2 8 2 5
宗謙(そうけん/しゅうけん；法諱)	→	益翁(やくおう/えきおう；道号・宗謙；法諱、曹洞僧)	4 5 4 6
宗謙(そうけん・白井)	→	何用(かげい・立林たてばやし、絵師)	F 1 5 7 7
宗謙(そうけん・山本)	→	退庵(たいあん・山本やまもと、茶人/香道)	J 2 6 0 2
宗謙(そうけん・松室)	→	其鶴(きかく・松室まつむろ/小倉、国学)	V 1 6 2 7
宗堅(そうけん・沢田)	→	訥斎(とっさい・沢田さわだ、儒者)	O 3 1 5 0
宗堅(そうけん・沢田)	→	菖庵(しょうあん・沢田さわだ、訥斎男/藩儒)	G 2 2 5 6
宗堅(そうけん・藪内)	→	竹陰(ちくいん・藪内やぶのうち、茶人)	C 2 8 5 0
宗乾(そうけん・寺西)	→	秀澄(ひでずみ・寺西てらにし、藩士/書翰)	D 3 7 1 0
宗見(そうけん・山田)	→	麟嶼(りんしょ・山田/菅原/菅、幕臣/儒)	K 4 9 4 3
宗見(そうけん)	→	信輝(のぶてる・松平、藩主/兵学/歌)	C 3 5 2 2
宗軒(そうけん・稲葉)	→	蚕水(さんすい・稲葉/成田、医者)	E 2 0 4 3
宗賢(そうけん・清原)	→	宗賢(むねかた・清原さよはら、廷臣/漢学)	B 4 2 2 0
宗賢(そうけん；法諱)	→	宗賢(しゅうけん；法諱、真宗本願寺派僧)	X 2 1 1 0
宗賢(そうけん・小島)	→	宗賢(むねかた・小島こじま、俳人)	B 4 2 2 1
宗賢(そうけん・高田)	→	宗賢(むねかた・高田たかた、国学者/俳人)	B 4 2 2 2
宗賢(そうけん・神谷)	→	松見(しょうけん・神谷かみや、茶人/儒者)	I 2 2 4 7
宗賢(そうけん)	→	敬順(けいじゅん；法諱、真宗僧/茶/紀行)	D 1 8 4 9
宗賢(そうけん・森本)	→	百丸(ひやくまる・森本、俳人)	3 7 1 2
宗賢(そうけん/むねかた・岩谷)	→	文淵(ぶんえん・岩谷いわや、医者/詩文)	E 3 8 8 4
棕軒(そうけん)	→	棕隠(そういん・中島なかじま、漢学/詩人)	2 5 0 4
棕軒(そうけん・阿部)	→	正精(まさきよ・阿部あべ、藩主/書画/歌)	L 4 0 5 9
草軒(そうけん・加藤)	→	善庵(ぜんあん・加藤かとう、藩士/医者)	L 2 4 6 0
桑泉(そうけん・宮原)	→	竜山(りゅうざん・宮原みやはら、藩儒)	E 4 9 1 9

操軒(そうけん・大江) → 宏隆(ひろたか・大江おおえ、神道家/国学) G 3 7 1 6

僧謙(そうけん) → 玄淳(げんじゅん;法諱、真宗本願寺派僧) J 1 8 8 0

- L2542 **宗源**(そうげん;法諱・乗願房じようぐわんぼう、権中納言藤原長方[1139-91]男)1168-1251⁸⁴ 京の浄土僧、初め仁和寺で密教を修学/のち法然門;浄土宗を修学;隠遁;竹谷たけだに上人と称される、一言芳談98段・徒然草222段・法然上人絵伝などに言動・逸話入
- B2528 **宗源**(そうげん・しゅうげん;法諱・雙峰そうほう;道号)1263-1335⁷³ 筑前の臨濟僧;
1275(13歳)京の東福寺円爾門;法嗣、円覚寺無学祖元・大休正念・西澗子曇・一山一寧門、博多崇福寺住寺/1315東福寺12世;同寺3住、その間南禅寺7世;東福寺兼帯、晩年は東福寺内桂昌庵を創建し隠居、生前に禅師号/没後に国師号を贈/門流は桂昌門派、「慧日山東福寺行令規法」「雙峰国師語録」著、
[雙峰宗源の別法諱/号]初法諱;逢源、禅師号;雙峰禅師、国師号(諡号);雙峰国師
- B2529 **宗沆**(そうげん;法諱・南江なんこう;道号、俗姓;土岐?)1387-1463⁷⁷ 美濃の臨濟僧/幼時に雲溪支山門、のち嗣法、相国寺後堂首座、終生官寺の住持に就かず、学芸;江西竜派門、心田清播・一休宗純と親交、晩年;還俗に近い生活;摂津住吉の草堂に没、「漁庵小稿」「鷗巢詩集」「鷗巢贖藁おうそうようこう」「四六稿」著、禅竹「六輪一露記」跋、
[南江宗沆の号] 漁庵/鷗巢
- H2512 **宗元**(そうげん・小笠原おがさわら、満長男)1411?-? 1489^存 足利幕府武将;義持-義政までの将軍に出仕、刑部大輔/美濃守、射芸に長ず、禅:一休宗純門、歌連歌を嗜む、「犬追物聞書」著、連歌;1473・1489「宗祇宗元何路百韻」一座、新撰菟玖波集4句入、
[宗元(;出家号)の名/字]名;弥六(;初名)/教長/政広、字;天関、持長の弟
- H2513 **宗源**(そうげん・市橋いちばし/本姓;藤原、長久男)?-1499 室町戦国期の武家、母;竹中元重女、美濃池田郡市橋の領主、土岐政房の家臣、連歌:新菟玖波1句入、
[宗源(;号)の名/別号]名;七郎/直信、別号;宗三、法名;宗源
- B2564 **宗玟**(そうげん;法諱・釈) ? - ? 戦国期の僧(石山本願寺関係の僧)、歌人、1563(永禄6)「十五夜三首歌合(永禄歌合)」参加(;判者柳原資定)、
[月影のうすき軒端の松が枝を吹きわく風の音ぞさやけき](永禄歌合;月前松風四番右)
- H2514 **宗源**(そうげん;法諱・号;桜正坊)?-? 江前期天台僧;日光輪王寺の住僧?、
「本堂結願作法」著
- H2515 **宗源**(そうげん・藤林ふじばやし、名;直良、河合善左衛門男)1608-95⁸⁸ 叔父藤林与兵衛の養嗣子、大和小泉藩片桐且元の小姓/のち片桐石州(貞昌)の側近/家老、茶湯:石州と共に桑山宗仙門/石州流茶の湯の完成に尽力、石州没後は一門を指導伝授、その直流を古石州流・藤林流・石州流宗源派と称す、松浦鎮信・怡溪いけい宗悦らの師、1680「本斎実記録」、「石州流茶書」編、「和泉草」/「藻志穂草」編/「石州流鎮信派聞書」、
[宗源(;号)の通称/別号]通称;助之丞、別号;本斎ほんさい/鷗軒庵/能改庵/宗淳
- H2516 **曹源**(そうげん;道号・滴水てきすい;法諱、津和野藩士神代信記男)1661-1717⁵⁷ 石見津和野曹洞僧:月舟宗胡門;得度・卍山道白門;法嗣、山城禅定寺・石見永明寺に歴住、1715加賀大乘寺32世、石見守源寺・伊勢白馬寺・山城竜雲寺を開創、1699「月舟和尚遺録」編、「月舟和尚行状」著、1702(元禄15)「摂州神応山興禅寺記」著、「曹源和尚三会禄」著(;1755日旋にっせん編纂)
- H2517 **曹源**(そうげん;法諱) ? - ? 江中期曹洞僧:瞎道本光門、1780(安永元)「正法眼蔵品目頌金剛莖草参」編
- H2518 **宗玄**(そうげん・羽佐間はさま、名;資承)?-? 江後期江戸芝源助町の医者;小児科が得意、1816「老婆心書」-26「為己執記」著、
[宗玄(;通称)の字/号]字;露有、号;瓢仙/旋頭茶翁/芝瓢
- H2519 **宗玄**(そうげん;通称・半井なからい、半井主善[貞長]の養子)?-1853 磐城の医者;江戸で医を修得、京の鍼医半井主善門、長崎に遊学、1816師半井主善の養子、1819磐城中村藩主相馬益胤の命で帰藩;藩医/法橋、1852江戸の桑田立斎門;種痘法修学、「忘飢草ぼうきそう」著
- 宗沆(そうげん;法諱・湘南)→ 湘南(しょうなん;道号・宗沆、臨濟僧) L 2 2 2 6
宗眼(そうげん・天叔;道号)→ 天叔(てんしゅく・宗眼、臨濟僧) D 3 0 7 8

宗玄(そうげん・鷲)	→ 仁右衛門(にえもん・鷲さぎ、狂言師)	3 3 1 0
宗玄(そうげん・中村)	→ 覺州(かくしゅう; 法諱・鳩、華嚴僧)	J 1 5 9 5
宗元(そうげん; 法諱)	→ 亨庵(こうあん; 道号・宗元、臨濟僧)	H 1 9 1 7
宗元(そうげん; 法名)	→ 親房(ちかふさ・北畠きたばたけ、廷臣/史学)	2 8 0 5
宗元(そうげん・北畠)	→ 茂兵衛(もへえ・北畠/須原屋初世、書肆)	E 4 4 9 0
宗元(そうげん)	→ 宗元(むねもと・土岐浜、歌人)	C 4 2 6 0
宗元(そうげん・不破)	→ 為貞(ためさだ・不破ふわ、藩士)	T 2 6 7 7
完元(そうげん; 初諱)	→ 雲歩(うんぽ; 法諱・行巖、曹洞僧/仮名草子)	B 1 2 6 0
宗玄(そうげん・渡辺)	→ 規綱(のりつな・渡辺、家老/茶/陶芸)	F 3 5 0 9
宗玄(そうげん・松平)	→ 四山(しざん・松平まつだいら、藩主/俳人)	D 2 1 7 9
宗彦(そうげん; 法諱)	→ 大綱(だいく; 道号・宗彦、臨濟僧)	B 2 6 3 8
宗源(そうげん; 法諱)	→ 宗源(しゅうげん; 法諱・徹宗; 字、臨濟僧)	X 2 1 1 2
宗源(そうげん・建部)	→ 賢之(かたゆき・建部たけべ、幕臣/和算家)	1 5 2 2
宗巖(そうげん・柳生)	→ 宗巖(むねよし・柳生、石舟斎/剣術家)	C 4 2 0 2
棗原(そうげん・町田)	→ 正記(まさり・町田まちだ、藩士/和算家)	G 4 0 1 3
聡玄(そうげん; 字)	→ 日諦(にったい; 法諱・慶隆院、日蓮僧)	E 3 3 9 8
像見(そうげん・大伴)	→ 像見(形見/方見かたみ・大伴宿禰、万葉歌人)	1 5 2 0
宗源院(そうげんいん)	→ 政豊(まさとよ・山名やまな/源、武将)	E 4 0 8 2
曹源院(そうげんいん)	→ 元次(もとつぐ・毛利/大江、藩主/儒者)	D 4 4 0 7
壮健翁(そうげんおう)	→ 金陵(きんりょう・半井なからい、浮世草子)	E 1 6 9 2
曹源寺(そうげんじ; 法号)	→ 綱政(つなまさ・池田、藩主/歌人)	B 2 9 3 0
双硯堂(そうげんどう)	→ 茶村(ちやそん・宮本、儒者/庄屋/詩人)	F 2 8 5 8
草原烈士(そうげんれっし)	→ 葦原(いばん・児島強介、儒/詩歌)	1 1 4 7

H2520 **宗箇**(そうこ・上田うねだ/豊臣、名; 重安、上田重元男/本姓; 源) 1563-1650⁸⁸ 尾張の武将; 丹波長秀臣、豊臣秀吉家臣; 越前に1万石/豊臣を賜姓、1595従五下主水正/1600関ヶ原で西軍; 所領没収、浅野幸長家臣; 家老職/1619浅野家の広島転封; 藩家老亀井城主1万2千余石、20縮景園造園、茶人; 利休・織部門: 上田宗箇流の祖、小堀遠州より伝授を受、「夜会の習の事」受、[宗箇(; 法諱)の幼名/通称/号]幼名; 亀丸、通称; 左太郎、号; 是斎、道号; 竹隠(竹陰)、法号; 清涼院竹隠宗箇

H2521 **宗古**(そうこ・大橋おおはし、初代大橋宗桂男) 1576-1654⁷⁹ 将棋大橋家2代; 1634継嗣/将棋2世名人、将棋所名人、1635大橋分家・伊藤家が創始; 将棋3家鼎立、「将棋教」「象戯作物」著、1636「象戯図」「小象戯」著/「象戯図式」補填

B2530 **宗胡**(そうこ・青木あおき) ? - ? 和学者、1648徒然草注釈「鉄槌てつゐ」著(; 林羅山「野槌のづち」の注を中心に記述)

K2598 **宗古**(そうこ; 法諱・道号; 霊岳れいごく、) 1695-1745⁵¹ 伊予の僧; 臨濟宗天徳寺12世、歌人

2508 **宗固**(そうこ・萩原はぎはら/初姓; 鈴木/本姓; 源、名; 貞辰さだとき) 1703-84⁸² 萩原貞頼の養子、幕府与力、歌人; 冷泉為久門、烏丸光栄・光胤・武者小路実岳・僧亨弁らの指導を受、のち冷泉為村門、石野広通・磯野政武と共に江戸冷泉派代表歌人/書物の手写に長ず; 多くの写本制作、古典注釈・歌道の聞書・家集・狂歌判などが現存、随筆「一葉抄」著、「新勅撰集秋風抄」「古今和歌抄」「宗固歌卷」、家集「志野乃葉しのは草」「樵山家集」著、「冷泉宗匠家伺書」(為村歌学の聞書)/「石なとり」「百花園随筆」「萩原問答」「由波太考」著、「閑窓百話」「雲上歌訓」「山家百首」著、「翁佐備」「雲上歌訓」「官暇文草」編、外編著多数、狂歌; 「賀邸・宗固両翁狂歌合」催、1770「明和十五番狂歌合」判者、狂歌才蔵集入、歌; 霞関集入、塙保己一の師、[立ちよりし袖にうつれる梅が香は木このもととほく過ぎてこそ知れ](志野乃葉草)、[老いは今さだかに鳴くも郭公ほととぎすあらぬ声かと人にこそ問へ](志野乃葉草)、[宗固(; 号)の通称/別号]通称; 又三郎/七左衛門、別号; 百花庵/百花園/蕉山、法号; 詠知院

B2531 **蒼狐**(そうこ・小菅こすげ、名; 観丈) 1712-66⁵⁵ 江戸の俳人; 旧室門、江戸宗因座沾涼側点者、亀戸天神に五千句奉納、「落栗集」評、1754竹翁「誹諧童の的」点句入、

[蒼狐(；号)の別号] 笠庵/五千堂/柳前斎

- H2522 **宗湖**(そうこ・堀別) ? - ? 江後期寛政1789-1801頃の医者、
紀伊和歌山藩医/のち阿波徳島藩に出仕;30人扶持、「油之書」著
- H2523 **宗古**(そうこ・片桐かたぎり、佑賢男/宗幽の孫)?-1809 幕臣旗本;寄合衆、茶人、「茶道学則」著、
[宗古(；号)の通称/別号]通称;熊蔵、別号;朝露庵
- H2524 **宗古**(そうこ、別号;無事庵/至哉坊)?-? 江後期文化1808-18頃伊勢四日市の俳人、
1812「桃の齡」、「無事庵発句稿」著
- K2585 **宗孤**(そうこ・島田しまだ、) ? - ? 江後期;歌人、幕臣?、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[常盤木の杜の下庵はるあきを知らで心も騒がざりけり]、
(大江戸倭歌;雑1715/林下幽閑)
- 宗古(そうこ・高橋) → 宗国(むねくに・高橋/紀、廷臣) B 4 2 3 0
宗古(そうこ・太淳;道号) → 太淳(たいじゆん・宗古そうこ、曹洞僧) K 2 6 2 7
宗古(そうこ・峰岸) → 宗岳(むねむら・峰岸みねざし、陪臣/国学) E 4 2 2 8
宗虎(そうこ;法諱) → 雄禅(ゆうぜん;道号・宗虎、臨濟僧) D 4 6 2 8
宗虎(そうこ・むねとら・立花) → 宗茂(むねしげ・立花/高橋、藩主/家訓) B 4 2 3 9
宗胡(そうこ・月舟;道号) → 月舟(げつしゅう・宗胡;法諱、曹洞僧) H 1 8 0 8
草湖(そうこ・富田) → 省斎(せいさい・富田とみだ、藩士/書家) I 2 4 1 8
- H2525 **宗悟**(宗忍そうご;法諱・悦溪えつげい;道号、仏照大鏡禅師)1462-1525⁶⁴ 近江臨濟僧;東溪宗牧門、
1515大徳寺79世/寺内に参雨軒創建、「悦溪和尚語録」「先師下火拈香」著
- H2526 **宗悟**(そうご;通称・蜂谷はちや、号;休斎)?-1588? 香道家;志野宗温門、志野流四世(蜂谷家の祖);
志野家は宗信・宗温・省巴3代で断絶;蜂谷宗悟が宗家を世襲、香道;宗温・省巴・建部隆勝門、
茶;武野紹鷗門、「香道軌範」著(以後追記がなされ江戸中期に改編されて現存)
- B2535 **草吾**(そうご) ? - ? 俳人、1732巴人「卯花千句」入
- H2527 **宗悟**(そうご;法諱) 1749 - 1788⁴⁰ 真言尼僧;飲光慈雲門、「沙彌十数」著
- K2566 **窓五**(そうご) ? - ? 安藝広島の俳人;蓼太門、
1781太湖「深川集」序、85刷物「人来よと」入
- H2528 **宗吾**(そうご・坂尾/阪尾さかお、名;文友たかとも、日向新兵衛3男)1763-1851⁸⁹ 庄内藩士;直指流槍術家、
景流居合術に長ず、坂尾職房の養子;1799家督継嗣、1807藩元締に就任;江戸在勤、
庄内帰藩の途中事件を起す;1810知行召上げ;永蟄居;1818赦免、蟄居中郷土古記録の整理、
俳諧・篆刻・謡曲を嗜む、「大泉叢誌」編/「飛鳥紀行」「回向院御系図」「御家御軍役」外著多数、
[宗吾(；号)の字/通称/別号]字;輔仁、通称;権四郎/宗五郎/儀太夫、別号;宋呉/四季庵、
幽栖の父、清風の祖父
- B2533 **霜後**(そうご・松籟庵2世)?-? 江戸の俳人;太無・柳居門、1790「太無発句集」編、
「柳居発句集」校訂、
[霜後(；号)の通称/別号]通称;左右六そうろく、別号;松籟庵2世/自然庵/六仙堂/仙堂
- J2511 **宗悟**(そうご・吉田よしだ/本姓;源、法印)?-? 江後期;医者、歌人、
「小品良方」「称意館品類摘録」著(称意館は吉田家歴代の室号)、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[吹く風の声をさそひてよもすがらきくも寒けき池の水鳥](大江戸倭歌;冬1222)
- 霜後(そうご・佐久間) → 柳居(りゅうきよ・佐久間、幕臣/俳人) D 4 9 3 3
宗五(宗悟そうご・伊勢) → 貞仍(貞頼さだより・伊勢/平、故実/歌) C 2 0 6 7
宗伍(そうご・五味) → 可都里(かつり・五味ごみ、俳人) C 1 5 5 6
宗吾(そうご;法体号) → 保有(ほゆう/やすとも・梶山、俳人/狂歌) E 3 9 7 8
宗吾(そうご・武田) → 識正(としまさ・武田たけだ/白玉、国学/歌) V 3 1 2 3
宗悟(そうご;法体号) → 曾良(そら・河合/岩波、俳人) 2 5 3 0
宋呉(そうご・坂尾) → 宗吾(そうご・坂尾/日向、藩士/武術家) H 2 5 2 8
荘吾(そうご・酒井) → 波浄(はじょう・酒井さかい、俳人) E 3 6 5 2
蒼梧(そうご・大塚) → 嘉樹(よしき・大塚おおつか、故実家) D 4 7 0 3
- B2536 **宗光**(宗亨そうこう;法諱・月庵げつあん;道号、正統大祖禅師、俗姓入江)1326-89⁶⁴ 美濃臨濟僧;峰翁門

- 大虫全岑門、但馬大明寺開/守護山名氏帰依;円通寺開、「月庵和尚法語」「月庵和尚語録」
- H2529 **宗巧**(宗功(そうこう)・寺井(てらい)/本姓;橘、名;賢(けん)仲(ちゆう)けんちゆう/かたなか)?-1515 戦国期武将;若狭小浜城主、谷小屋城城主/伯耆守、武田国信の家臣、1478(文明10)以後京住;和歌・連歌会に参加、1479-81賢盛「諸家月次連歌抄」入、宗伊・宗祇・兼載らと交流、1486宗祇「何人百韻」/87近江鉤「安養寺三十首続歌」参加/88宗祇「花下開百韻」参加、1490(延徳2)宗祇「何人百韻」2度参加/出家(法名;宗巧/宗功)、若狭に帰郷;没、1516宗碩による追善集「十花千句」(中江願主・宗碩草庵にて)
[宗巧(宗功;法名)の通称] 四郎兵衛尉/伯耆守
- B2537 **宗香**(そうこう;法諱・梅屋(ばい)おく;道号)?-1545 撰津兵庫の臨濟僧;南禅寺真乘院華屋宗庵門、華屋の法嗣、文筆;月舟寿桂門、1544(天文13)南禅寺259世、「梅屋和尚文集」「鷗庵集」著、[梅屋宗香の号] 鷗庵/臭庵/松鷗
- B2549 **宗好**(そうこう/むねよし・岡本(おかもと)1610?-8172? 京住の旗本/幕臣/歌;松永貞徳門;高弟、歌人;木下長嘯子・日野弘資・中院通茂・飛鳥井雅章門、貞徳より古今集の秘伝を受く、山本春正(しゅんしょう)と親交、1637(寛永14)江戸に下向/永住、江戸で徳川光圀に出仕、「宗好詠草」「宗好道記」「詠百首和歌」「露底集」(没後刊)著、1674光圀の命で山本春正・清水宗川を助け私撰集「正木のかつら」共編中没;13首入、歌;了然尼撰(茂睡編)[若むらさき]7首入、1700茂睡「鳥の跡(迹)」入、[立春 筆の海に今朝うつしても先づぞ見るさかゆく御代の春といふ文字](露底集)、[かれずなほ妻どふ千鳥声さむし河辺の茅原(ち)は霜深き夜に](鳥の迹:冬466/川千鳥)、[宗好(;名)の号] 号;露底軒、法号;仏性院
- F2505 **宗恒**(そうこう/むねつね・井上(いのうえ)?-? 江前期撰津俳人、1661成安「埋(う)もれ草」64「佐夜中山集」、1666可玖「遠近(おち)ち集」入、狂歌;1666行風「古今夷曲集」13首入
[肴舞(さかなまい)扇子の風もいやで候(を)今を盛りの花見酒には](古今夷曲集:一春歌)
(肴舞は酒席の余興の舞/花を散らすので扇の風も邪魔)
- E2584 **双光**(そうこう) ?-? 江前期俳人;1691不角「二葉之松」入(162)、[将門の威は各別の器(うつ)もの](二葉之松:162/前句;我が岡(おか)両(りやう)が(が)ぼも伽(が)に成(なり)けり)、(岡(おか)はここでは影武者/影武者も使う七変化の将門の器量の優秀さ)
- B2550 **宗好**(そうこう・窪田(くぼた)、通称;宗七/彦左衛門)?-1711 代々伊賀上野の酒造業(屋号;大和屋)、俳人・芭蕉門、猿雖と同姓の姻戚、
宗行(そうこう) すべて → 宗行(むねゆき)
宗光(そうこう・藤原) → 宗光(むねみつ・藤原、武士/早歌作者) D 4 2 3 2
宗光(そうこう・柳原) → 宗光(むねみつ・柳原やなごはら/藤原、廷臣/歌) C 4 2 5 4
宗光(そうこう・帖佐) → 宗光(むねみつ・帖佐(ちよ)う、武将/日記) C 4 2 5 6
宗光(そうこう;法名) → 行長(ゆきなが・東条/源、武将/連歌) F 4 6 1 4
宗好(そうこう・高橋) → 宗好(むねよし・高橋/紀、廷臣/記録) C 4 2 8 3
宗好(そうこう・間宮) → 宗好(むねよし・間宮(まみや)、国学者) C 4 2 8 8
宗皓(そうこう・吉田) → 宗達(そうたつ・吉田(よし)だ、幕府医者) I 2 5 3 8
宗晃(そうこう;法諱) → 春澤(しゅんたく;道号・宗晃、臨濟僧) L 2 1 4 7
宗綱(そうこう・しゅうこう・慧統) → 慧統(えいとう・宗綱、臨濟僧) 1 3 7 9
宗功(そうこう・車戸) → 宗功(むねたか・車戸(くるまど)/藤原、神職/国学) D 4 2 7 8
宗巧(そうこう・法名) → 政仲(まさなか・五辻(いつつじ)/源、泰仲/廷臣/歌/連歌) F 4 0 0 8
宗晃(そうこう;法諱) → 春沢(しゅんたく・宗晃、臨濟僧) F 2 2 7 7
宗興(そうこう・中原) → 宗興(むねおき・むねき・中原(なか)はら、廷臣/歌) B 4 2 1 1
宗興(そうこう・滋野) → 宗興(むねおき・滋野、廷臣/歌) B 4 2 1 2
宗興(そうこう・南化) → 南化(なんか;道号・玄興;法諱、臨濟僧) I 3 2 5 5
宗興(そうこう・高橋) → 宗興(むねおき・高橋(たかはし)/紀、廷臣) B 4 2 1 3
宗興(そうこう・伊達) → 宗興(むねおき・伊達(だて)/成田、藩士/国学) D 4 2 9 0
宗興(そうきよう・長岡) → 宗興(むねおき・長岡(なが)おか、歌人) E 4 2 1 4
宗向(そうこう・前田) → 玄以(げんい・前田(まへ)だ、武将/歌/連歌) F 1 8 1 6
宗広(そうこう・結城) → 宗広(むねひろ・結城、南朝武将) C 4 2 3 7

宗広(そうこう→むねひろ・伊達)→千広(ちひろ・伊達/宇佐美、藩士/歌) F 2 8 2 2
 宗孝(そうこう;法諱)→大義(だいき;道号・宗孝、曹洞僧) J 2 6 5 9
 宗孝(そうこう・犬塚/高橋)→宗孝(むねたか・高橋/紀/犬塚、廷臣) B 4 2 4 9
 宗孝(そうこう・三雲)→仙嘯(せんしょう・三雲みくも、篆刻家) F 2 4 9 5
 宗弘(そうこう・大宗)→大宗(だいたいしゅう/たいそう・玄弘、臨濟僧) K 2 6 2 1
 宗弘(そうこう・石川)→宗弘(むねひろ・石川いしかわ、邑主/治水対策) C 4 2 4 0
 宗恒(そうこう・伊達)→宗恒(むねつね・伊達だて、領主) B 4 2 7 1
 宗恒(そうこう・浅野)→宗恒(むねつね・浅野あさの、藩主/歌) B 4 2 6 9
 宗恒(そうこう・高橋)→宗恒(むねつね・高橋/紀、廷臣/故実) B 4 2 6 8
 宗恒(そうこう・杉浦)→止斎(しさい・杉浦/平、藩士/心学者) T 2 1 4 6
 宗恒(そうこう・宮沢)→宗恒(むねつね・宮沢みやざわ、国学者) E 4 2 2 9
 宗恒(そうこう・山本)→宗恒(むねつね・山本やまと/源、侍臣/楽) E 4 2 3 3
 宗高(そうこう;法名)→則宗(のりむね・浦上うらがみ/紀、武将/連歌) G 3 5 5 5
 宗高(そうこう;法名)→光信(みつぶ・細見、武将/連歌) E 4 1 3 2
 宗衡(そうこう・高橋)→宗衡(むねひら・高橋/紀、廷臣) C 4 2 3 5
 宗衡(そうこう・藤原)→宗衡(むねひら・藤原ふじわら、国学者) E 4 2 2 1
 宗康(そうこう・丹波)→宗康(むねやす・丹波たんば、医者) C 4 2 6 8
 宗綱(そうこう・松木)→宗綱(むねつな・松木まつきの、中御門/藤原、廷臣/記録) B 4 2 6 4
 双侯(そうこう・鉅鹿/魏)→琏(ほう・魏ぎ・鉅鹿おのが、明楽) F 3 9 8 8
 相行(そうこう・葵/池上/斎藤)→秋圃(あきう・周圃しゅうほ・斎藤/葵/池上、絵師) I 2 1 2 7
 相行(そうこう・関)→梨一(りいち・関・高橋/一祐・一紹、幕臣/俳人) 4 9 3 1
 総弘(そうこう・石川)→総弘(ふさひろ・石川いしかわ、儒者) C 3 8 2 4
 総光(そうこう・広橋)→総光(ふさみつ・広橋/藤原、廷臣/記録) C 3 8 2 6
 滄江(そうこう・井手)→伊明(いめい・井手/山内、藩士/歌人) Q 1 9 2 8
 蒼岡(そうこう・村田)→桃隣(とうりん・村田、幕臣/俳人) I 3 1 3 6
 霜江(そうこう・真木)→保臣(やすおみ・真木まき、神職/討幕) B 4 5 0
 莊公(そうこう;諡名)→頼貞(よりさだ・松平まつだいら、藩主/武術) I 4 7 6 4
 宗亘(そうこう;法諱)→古岳(こがく;道号・宗亘;法諱、臨濟僧) L 1 9 8 8
 相合(そうこう・毛利)→元綱(もとつな・毛利/大江、武将/兵法家) D 4 4 1 2
 滄広軒(そうこうけん)→波響(はきょう・蠣崎/松前、家老/絵師) C 3 6 4 6
 贈皇后宮(そうこうごうぐう)→懷子(かいし・藤原、花山天皇母/歌) S 1 5 0 1
 桑広田(そうこうでん)→広田麻呂(ひろたまる・桑原くわばら、官人/詩) G 3 7 3 0

H2530 **巢谷**(そうこく・三上みかみ、一巢男)?-? 母;里恵、武蔵所沢の酒造・米穀・馬継業;豪商、俳諧;母と共に北元門/父没後は寥松の傘下に属す、1818「人とはば」/26「屏風形」編息子巢二も俳人

宗国(そうこく・藤原)→宗国(むねくに・藤原ふじわら、廷臣/歌人) B 4 2 2 8
 宗国(そうこく・藤原)→宗経(むねつね・藤原/中御門、廷臣/歌人) B 4 2 6 6
 宗国(そうこく・高橋)→宗国(むねくに・高橋/紀、廷臣) B 4 2 3 0
 桑克(そうこく・星野)→六石(りっこく・星野ほしの/土岐、藩医) B 4 9 7 9
 僧滅(そうこく;号)→了空(りょうくう;法諱、真宗本願寺派僧) H 4 9 1 6

L2506 **象谷**(そうこく・玉楮たまかじ、藤川敬造男)1806-69 64 讃岐高松の漆工職人;靱塗師の父門、彫刻を修得、漆や彫刀の研究;象谷塗(岐苜醬)を創出、彫漆の発展に尽力;香川漆器の基礎、藩主の命で精緻な印籠を献上;官工となり名字帯刀;[玉楮たまかじ]を名乗る、祖父藤川理左衛門も靱塗師、藤川舜造(黒斎/讃岐彫り名工)の兄弟、藤川新造(文綺堂)・米造(文賞堂)の従兄弟、玉楮千畝(ちうね・槐庵)・斯行(しぎやう・拳石)・雪堂(せつどう・籐樹とうしゃ・九江)の父[象谷(;号)の名/通称]名;為造、通称;敬造(;父の称)/正直

蔵黒(そうこく・玉楮)→千畝(ちうね・玉楮たまかじ、槐庵/漆工) M 2 8 8 2
 桑谷山人(そうこくさんじん)→入素(にっそ、俳人) E 3 3 8 4
 宗吾居士(そうごこじ)→保友(ほうゆう・梶山、俳人/狂歌) E 3 9 7 8

- 瘦居士(そうじし) → 柳居(りゅうきよ・佐久間、俳人) D 4 9 3 3
 双五子(そうごし) → 義道(ぎどう; 法諱、真宗僧/経史) G 1 6 0 3
 藻湖痴人(そうこちじん) → 元佶(もとただ・多紀/丹波、幕臣/医者) C 4 4 9 5
 宗忽(そうこつ; 法諱) → 天倫(てんりん; 道号・宗忽、臨濟僧) E 3 0 5 8
 崇古堂(そうこどう) → 惣太郎(荘-そうたろう・越/塚越/斎藤、藩蘭医/尊攘) I 2 5 4 0
 宗五郎(そうごろう・青山) → 清友(きよとも・青木おおき、俳人) P 1 6 9 9
 宗五郎(そうごろう・坂尾) → 宗吾(そうご・坂尾/日向、藩士/武術家) H 2 5 2 8
 宗五郎(そうごろう・毛利) → 元敏(もととし・毛利もうり、藩主/歌人) L 4 4 7 0
 莊五郎(そうごろう・杉村) → 健(けん・杉村すぎむら、文筆家/年譜) H 1 8 4 7
 惣五郎(そうごろう・河合) → 曾良(そら・河合/岩波、俳人) 2 5 3 0
 惣五郎(そうごろう・渡辺) → 陶里(桃里とうり・渡辺、俳人) I 3 1 1 3
 惣五郎(そうごろう・柳) → 檜悦(ならよし・柳やなぎ、藩士/測量術) G 3 2 9
 惣五郎(そうごろう・木本) → 成理(なりまさ・木本、神道/軍学) I 3 2 1 4
 惣五郎(そうごろう・北条) → 香雪(こうせつ・北条ほうじょう、書家) K 1 9 1 5
 惣五郎(総五郎) → 安足(やすたり・土屋つちや、藩士/国学) B 4 5 9 7
 B2552 宗昆(そうこん) ? - ? 戦国期連歌作者、
 1537. 5. 22今城能親張行「伊予千句」連衆: 周桂・宗牧らと
 宗今(そうこん・池嶋) → 成之(せい・池嶋、俳人/宗匠) B 2 4 8 2
 B2553 宗巖(そうがん; 法諱、法印宗円男、俗姓; 高階) ?-? 鎌倉期僧; 法眼/歌、続現葉集入、続千載集1840、
 [人よりもなほ山深くすむ庵いほにげに世をいとふほどは見ゆらん](続千; 雑1840)
 H2531 宗巖(そうがん; 法諱・華屋かおく; 道号、紙衣道人) ?-1507? 京臨濟僧; 香林門・真乘院塔主、
 経論を講、「楞嚴りょうげん口義」、景徐周麟/月舟寿桂の師
 H2532 崇言(そうごん/すうごん; 法諱、俗姓; 菊池) 1791-1856 66 羽前鶴岡の真宗大谷派広濟寺住職/1849擬講、
 高倉寮で天台学を講義、「五十六番迷外か家之歌合」「易行品舳舻」「最要鈔賛折」外著多数、
 [崇言(法諱)の別法諱/号]別法諱; 叢巖そうごん、号; 以天羽/迷外(上人)/蓮華院/大宝院
 H2533 桑巖(そうごん; 字・恵実; 法諱、俗姓; 宇野) 1808-67 60 讃岐松原の真宗本願寺派教蓮寺の生、
 乘誓院性海門; 宗余乗を修学、1835大和下市瀧上寺目云門; 法嗣、寺内に学寮藤華閣創設;
 所化を教育、1841瀧上寺23世住職、1845学林に看護職・48安居兼主議を勤む、
 山命により諸国に宗典を講ず、1862司教/没後1903勸学職を追贈、
 「一鞭千里評」「正信偈葛藤録」「浄土論集註」「略書日新記」、1862「行信決議辨」外著多数、
 [桑巖(字)の号]藤谷とうこく/雪坊、龍音院
 莊巖院(そうごんいん) → 義堯(ぎぎょう; 法諱、真言僧/門跡) J 1 6 9 6
 相巖院(そうごんいん) → 正賛(まさよし・増山ましま/藤原、藩主) I 4 0 5 4
 B2554 宗左(初世そうさ・千せん、宗旦3男) 1613-72 60 京の茶人; 千家4世: 表千家の祖(4世)、不審庵を継承、
 以後代々[宗左]を名乗る、千利休(宗易)の曾孫/宗拙・宗守の弟/初世宗室の兄、
 肥前唐津藩主寺沢広高・讃岐高松藩主生駒高俊に出仕/1642紀州徳川家数寄屋頭で出仕、
 禄2百石; 以後幕末まで紀州徳川家の世臣、1670隠居/大徳寺清巖宗渭・玉舟宗璠に参禅、
 1662-3「逢源齋宗左夏書」66「千利休由緒書」、「旁求茶会記」著、
 [宗左(法名)の通称/別法名/号]通称; 十三郎とおさぶろう/左馬之允さまのじょう/右馬之助、
 初法名; 宗受、号; 堪笑軒/逢源齋/江岑こうしん/不審庵
 H2534 宗左(宗佐・2世そうさ・千せん、久田宗利男) 1646-91 46 茶人; 寛文1661-73頃; 千宗左初世の養嗣子;
 表千家5世、紀州徳川家の茶頭、日蓮宗信者、[宗左]の字を用いたので[人扁そうさ]と呼ぶ、
 「随流齋延紙一書」「権現様御年譜初而仰出候時千利休伝記御尋之覚書」著、
 [2世宗左(法名)の別法名/号]初法名; 宗巴、号; 随流齋/不審庵、法号; 良休宗佐居士
 H2535 宗左(3世そうさ・千せん、久田宗全男) 1678-1730 53 江前中期茶人; 千宗左2世の養嗣子、表千家6世、
 紀州徳川吉宗の茶頭、吉宗の將軍就任後に桑原茶碗を拝領、自身の手造楽焼茶碗を遺す、
 「茶道秘伝」著、
 [3世宗左(法名)の通称/別法名/号]通称; 勘太郎、初法名; 宗員、
 号; 原叟/覚齋/覚々齋流芳/不審庵
 H2536 宗左(宗佐・4世そうさ・千せん、3世宗左の長男) 1705-51 47 江中期茶人; 表千家7世、紀州徳川家出仕、

伝統の利休流茶道の稽古法・師匠門弟組織を改良;家元制の基礎を築く、茶道七事式制定、さらに伝来の道具類の整理など千家中興の祖となる、歌・画を嗜む、門弟;多田宗菊・堀内宗心・川上太白・一世住山楊甫・室友甫・鴻池宗羽・鴻池宗知・内本積雨、「茶道聞書集」「道具置合」「如心齋聞書記」「如心齋口授」「七事書口伝」「不審菴所蔵目」著、[4世宗左(法名)の号]如心齋じよんさい/天然てんねん/天然齋/丁々軒/丁々齋とうとうさい、椿齋ちんさい/不審庵

K2571 **宗左**(5世そうさ・千せん、4世宗左長男)1744-1808⁶⁵ 茶人;表千家8世、1751(8歳)父と死別、川上太白らの後見、叔父裏千家/一燈宗室(5世宗室・千家8代)門、1788利休2百回忌法要催、1804婿養子了々催宗左の9世を譲渡;隠退(宗旦を名乗る)、稲垣休叟の師、[5世宗左(法名)の別法名/号]別法名;宗員/宗旦(隠退号)、号;件翁/碎啄齋そつたくさい

H2537 **宗作**(そうさ・池永いけなが) ? - ? 戦国期京の茶人:武野紹鷗[1502-55]門;高弟、「池永宗作茶書」著

宗佐(そうさ・大輔公) → 宗佐(しゅうさ・大輔公、天台僧) H 2 1 4 0
 宗佐(そうさ・坂田) → 之昌(ゆきまさ・佐方さかた、歌人/連歌) B 4 6 1 9
 宗佐(そうさ・渡部) → 益庵(えきあん・渡部/渡辺、医者/紀行) D 1 3 6 2
 宗佐(そうさ;字) → 頼申(らいしん;法諱・宗佐、真言僧) 4 8 6 7
 宗些(そうさ) → 忠升(ただたか・本多ほんだ、藩主/儒/詩歌) F 2 6 2 3
 漱左(そうさ・村松) → 春甫(しゅんぼ・村松むらまつ、俳人/画) K 2 1 4 4

H2538 **宗最**(そうさい;法諱・悦堂;道号、悦叔宗兌そうたい)?-1622 臨濟僧・鍊甫宗純門、1603南禅寺269世、1622「悦叔和尚語録」著

H2539 **宗崔**(そうさい;法諱・雪窓/雪窓せつそう;道号)1589-1649⁶¹ 豊後直入郡松本の臨濟僧;初め1593(5歳)浄土門の寺に出家/1603(25歳)豊後臼杵の臨濟宗多福寺の了室に参禅、駿河臨濟寺鉄山より道号を受/のち臼杵多福寺住持、心嶽玄精の法嗣、長崎奉行の要請でキリスト教者に三帰戒を授与;持戒念仏勧誘に尽力、京の妙心寺156世、「邪教大意」、「層楼篇」「対治邪執論」著、[雪窓宗崔の諡号] 仏智丕照禅師

K2593 **宗斎**(そうさい・金井かない、)1573-1644⁷² 相模藤沢宿の人/歌/連歌;里村昌琢門、法橋、宗禎の祖父、井差大権現を勧請、[宗斎(名)の初名/通称/号]初名;清久、通称;昌与、号;随呼

H2540 **早才**(そうさい;号) ? - ? 江中期宝永1704-11頃尾張の俳人:露川門、1710刊「菊の宴」著

叟齋(そうさい) → 了古(りょうこ・叟齋、絵師) H 4 9 4 3
 宗濟(そうさい;法諱) → 宗濟(そうせい;法諱、僧/歌人) B 2 5 5 6
 宗濟(そうさい・水原) → 宗梁(むねはら・水原みずはら、神職/歌) C 4 2 2 5
 相宰(そうさい・木下/藤原) → 相宰(すけただ・木下きのした、医/絵師/歌) I 2 3 3 4
 棗齋(そうさい・町田) → 正記(まさのり・町田まちだ、藩士/和算家) G 4 0 1 3

B2557 **慥齋**(そうさい・山田やまだ、名;聯、静齋男)1781-1846⁶⁶ 京の儒者(家学);父門/闇齋学を修学、さらに服部栗齋門、下野佐野藩の儒臣、江戸深川住、「北齋備考草稿」「経済随筆」、「経世叢談」「先哲懿言貞行録」「満州源流考」/1809「北齋図説集覽備攷」外著多数、[慥齋(号)の字/通称]字;思叔、通称;綱二郎/居歴

B2558 **慥齋**(そうさい・奥宮おくのみや、藩士奥宮正樹の長男)1811-77⁶⁷ 土佐布師田村の儒者;父門、土佐藩士、儒;岡本寧浦門/国学・歌;田内菜園(真鉏まき)門、1830江戸で佐藤一齋門;陽明学を修学、帰郷;私塾蓮池書院を開き教授、藩校致道館の儒官、下士軽格組の勤王党を援助;1865閉門、維新後は藩校文学教授/高知県大参事/東京の教務省勤務/大講義、「詩文歌集」「慥々齋省録」「聖学端的」「神魂問答」「宗旨問答」「學術根源論」「神代事蹟考」、「日本書紀私講」「八宗要語」外著多数、[慥齋(号)の名/字/通称/別号]名;由/正由まさよし、字;子道/子通、通称;忠次郎/周次郎、別号;晦堂/百梅楼/敬簡齋

慥齋(そうさい・高久たかく) → 守静(もりしず・高久たかく、和算家) F 4 4 4 8
 蔵齋(そうさい・辛島) → 古淵(こえん・辛島からしま、藩士/儒者) L 1 9 7 5

- 相在室(そうざいしつ) → 三山(さんざん・谷たに、儒者) F 2 0 8 5
- B2559 宗左衛門(そうざえもん・小幡おばた)?-? 京の書肆;高古堂主人、嘸本・滑稽本作者、
1768「軽口はるの山」/70「狐講釈」/73「軽口大黒柱」/1773-4頃滑稽本「誠七百物語」著
- H2541 宗左衛門(そうざえもん・吉田よしだ、名;公寛/仲恭、西涯男)1801-58⁵⁸ 越前敦賀三島町築屋敷の眼科医、
上京;儒;猪飼敬所門、能書;敬所の碑文、1853敬所「猪飼敬所書柬しよかん集」編/54「北辺新聞」編
[宗左衛門の号] 兮矣けい
- H2542 総左衛門(惣-そうざえもん・尾崎おさき、名;弥助/朝秀ともひで、朝間3男)1812-65⁵⁴ 筑前福岡藩士;
到来奉行、買物奉行/座敷奉行、勤王家;1864富国強兵策を藩主に上書;周旋方に抜擢;
対馬藩内紛を周旋、帰藩後;1865藩の政変[乙丑の獄]で下獄;自刃を下命、「斉言楚語」著
- 宗左衛門(そうざえもん・安陪)→ 頼任(よりとう・安陪/安倍あべ、藩士/剣術家) J 4 7 1 1
- 宗左衛門(そうざえもん・雛屋/野々口)→ 立圃(りゅうほ・野々口、細工師/俳人) 4 9 1 3
- 宗左衛門(そうざえもん・友石)→ 慈亭(じてい・友石ともいし、農業/儒者) V 2 1 2 1
- 宗左衛門(そうざえもん・西山)→ 政樹(まさき・西山/中里、国学者/歌) L 4 0 8 1
- 宗左衛門(そうざえもん・栗橋)→ 保春(やすはる・栗橋くりはし、国学者) F 4 5 8 5
- 宗左衛門(そうざえもん・土川)→ 軌鎮(のりしず・土川つちかわ、役人/国学) J 3 5 1 8
- 宗左衛門(そうざえもん・本庄)→ 貞居(さだすえ・本庄ほんじょう、神道家) P 2 0 3 4
- 荘左衛門(そうざえもん・久保)→ 筑水(ちくすい・久保くぼ、漢学者/講説業) D 2 8 2 5
- 荘左衛門(そうざえもん・河合)→ 宗裕(むねひろ・河合かわい、藩士/国学) D 4 2 7 1
- 惣左衛門(そうざえもん・酒井)→ 波浄(はじょう・酒井さかい、俳人) E 3 6 5 2
- 惣左衛門(そうざえもん・越智)→ 古声(こせい・越智おち、酒造業/俳人) D 1 9 0 7
- 惣左衛門(そうざえもん・国富)→ 鳳山(ほうざん・国富くにとみ、藩士/儒者) B 3 9 0 3
- 惣左衛門(そうざえもん・高野)→ 春華(しゅんか・高野、藩士/儒者/詩) J 2 1 2 8
- 惣左衛門(そうざえもん・滝屋/渡辺)→ 直麿(なおまる・渡辺わたなべ、国学/歌) K 3 2 1 6
- 惣左衛門(そうざえもん・赤尾)→ 一樹(かずき・赤尾あかお/藤原、藩士/国学) T 1 5 3 5
- 惣左衛門(宗左衛門そうざえもん・曾我部)→ 則温(のりあつ・曾我部そがべ/秦/安田、庄屋/歌) I 3 5 8 5
- 惣左衛門(そうざえもん・勝俣)→ 秀安(ひでやす・勝俣かつまた、医者/国学) J 3 7 0 7
- 惣左衛門(そうざえもん・金野)→ 博昌(ひろまさ・金野さんの/横前、国学) J 3 7 3 2
- 惣左衛門(そうざえもん・渡辺)→ 為寧(ためやす・渡辺わたなべ、商家/国学) 2 7 4 2
- 惣左衛門(そうざえもん・山田)→ 大堅(ひろかた・山田やまだ、大肝煎/歌人) M 3 7 2 1
- 惣左衛門(そうざえもん・箕形)→ 政香(まさか・箕形みのかた/源、藩士/歌人) S 4 0 9 8
- 惣左衛門(そうざえもん・網屋)→ 敬直(あつなお・安田やすだ、本陣国学/歌) I 1 0 6 0
- 総左衛門(そうざえもん・岡/銭屋)→ 正佐(まさすけ・岡おか、商家/国学) O 4 0 5 2
- 総左衛門(そうざえもん・岡/銭屋)→ 雀汀(つばき・岡おか、儒/国学/詩) K 1 5 2 2
- 総左衛門(そうざえもん・唐金)→ 梅所(ばいしよ・唐金からかね/倉野、商家/詩文) B 3 6 5 3
- 総左衛門(そうざえもん・山内)→ 董正(ただまさ・山内やまのうち、幕臣/代官) Q 2 6 8 4
- 総左衛門(そうざえもん・神戸)→ 大江(おおはま・神戸かんべ、藩士/国学/歌) D 1 4 9 1
- 総左衛門(惣-そうざえもん・大島)→ 高任(たかとう・大島、鉄山開発) M 2 6 3 6
- B2560 宗作(そうさく) ?-? 戦国期1469-1501頃歌人/連歌作者:宗祇門、
1480宗祇の筑紫の旅に宗長と共に随行、「宗祇宗欽等何路百韻」参加、
1490日誉法印「七人付句判」参加、91「種玉庵人丸像新図供養三十首」出詠、
「宗長宗祇夢想百韻」参加
- 宗作(そうさく;法名) → 永重(えいじゅう・谷たに、俳人/連歌宗匠) B 1 3 4 7
- 宗作(そうさく・松浦) → 長年(ながとし・松浦、国学者) E 3 2 8 9
- 宗策(そうさく・塚原) → 簡(かん・塚原つかはら、和算家) P 1 5 8 9
- 贈左大臣(そうさだいじん) → 長実(ながざね・藤原、歌人) 3 2 0 8
- 贈左大臣母(そうさだいじんのはは)→ 長実母(ながざねのはは・藤原、経平女/歌) D 3 2 7 7
- 宗三郎(そうさぶろう・伊勢屋)→ 珉里(びんり、伊勢屋、札差/十八大通) H 3 7 8 5
- 宗三郎(3世そうさぶろう・伊勢屋、札差)→ 二三治(にそうじ・三升屋、男/歌舞伎作者) 3 3 0 2
- 宗三郎(そうさぶろう・野口)→ 保敏(やすすけ・野口のぐち、和算家) B 4 5 7 3
- 宗三郎(そうさぶろう・丸毛)→ 利通(としみち・丸毛まるも、幕臣/書家) W 3 1 5 0

- 宗三郎(そうざぶろう・杉山)→ 昌隆(まさたか・杉山、幕府鍼医/歌人) D 4 0 2 8
 莊三郎(そうざぶろう・宍戸)→ 泰長(やすなが・宍戸しど、国学者) F 4 5 9 8
 総三郎(そうざぶろう・清宮)→ 秀堅(ひでかた・清宮せいみや、農業/国学者) C 3 7 9 8
- H2543 宗三(そうさん・佐竹さたけ、基永[弓翁]男)?-? 母;土岐冬親の妹、戦国期の武家;常陸介、明応永正1492-1521頃の武家故実家;小笠原元長・元清門、弓術家;射手・弓矢に通ず、「弓法書」「歩射聞書」「御弓場次第聞書」「宗三弓三百四十七条」著、[宗三(宗参;出家号)の名/別号]名;光家/義方/舜方、別号;則一、通称;常陸入道
- H2544 宗三(そうさん・三上みかみ、名;豊弘、但馬守護山名致豊男)?-1564 但馬の生/初め仏門に入り修行、但馬出石の宗鏡寺住職;東陽蔵主と称す/のち還俗し武将;山名豊弘・三上兵庫を名乗る、天文1532-55頃因幡二上山城主;道竹城築城、毛利氏と結ぶ;因幡守護山名豊教に討伐、「軍幕日記」、「公方様就御尋三上兵庫入道宗三註令進上」著、[宗三(;入道号)の通称/法諱]通称;東陽蔵主/三上兵庫、法諱;東陽
- H2547 宗三(そうさん;法諱・槐山かいさん;道号)?-? 江前期臨濟僧;雪巖宗郝(そうかく)門/嗣法、尾張善昌寺開山、1639「大興心宗禪師行状」著
- B2561 宗三(そうさん;通称・中村なかむら)?-? 江前期盲人音曲家、尺八;大森宗勲門、一節尺八の名手/琴/三味線にも長ず、1664(寛文4)刊「糸竹初心集」著
- H2546 宗賛(そうさん・去来庵;号)?-1797 京の俳人/江戸住?、1793刊「蕉翁墨跡」編、「みよの月」編
- 宗三(そうさん・市橋) → 宗源(そうげん・市橋・藤原、武家/領主/連歌) H 2 5 1 3
 宗三(そうさん・近藤) → 寿俊(ひさとし・近藤こんどう、幕臣/馬術家) B 3 7 5 1
 宗三(そうさん・田沢/奈須) → 恒徳(つねのり・奈須なす/田沢、幕医) D 2 9 1 8
 宗算(そうさん・藤原) → 宗算(むねかず・藤原ふじわら、神職) B 4 2 1 7
 宗珊(そうさん;法諱) → 汎海(まんかい;道号・宗珊、曹洞僧) K 4 0 4 1
 草三(そうさん・木崎) → 正敏(まさとし・木崎、酒造業/歌/地誌) E 4 0 4 6
 左右三(そうさん・中村) → 良広(よひろ・中村/中臣/樋口、書家/歌) G 4 7 6 9
- C2573 宗山(そうざん・亀岡かめおか、名;政房/通称;石見、久兵衛男) 1640-? 1715存 幕府御石方棟梁、江戸中橋住、「後見草上巻」著:1657の明暦大火の記録(中下巻は杉田玄白著)、「明暦江戸延焼記」「亀岡記」「亀岡石見入道宗山書置」著
- H2548 箏山(そうざん・白水しろず/初姓;劉、名;棟) 1713-84 72 渡来明人の7世/京の京極家の侍医、1767法橋、1776法眼/79後桃園天皇の診脈;光格天皇の題医員、1771「劉氏活痘方」72「傷寒劉氏伝」、1774「作劑鑑」75「金匱要略襯註」、「隨証考方」、[箏山(;号)の字] 田良
- H2545 草山(そうざん;道号・祖芳そほう;法諱) 1722-1806 85 京の臨濟僧;5歳で父没/1733(12歳)古篆楚琳門、北野万松寺の梁山元旨門/嗣法、北野万松寺住持、晩年は妙心寺瓊林院住、没後妙心寺より禪師号、1792「大般若経校異」編/「樹下堂漫記」「樹下雜録」「樹下散稿」著、[草山祖芳の号]号;樹下堂/漢興鉄冠/無名子、諡号;贈妙心第一座草山祖芳座元禪師
- H2549 蒼山(そうざん;号・小川おがわ、名;恒蔵)?-? 江後期寛政1789-1801頃上野新田郡安養寺の俳人、俳諧;栗庵似鳩門、寛政期の上州新田俳壇を率いる、「萩のふすま」著
- B2562 霜山(そうざん・金子かねこ、華山男) 1789-1865 77 安藝広島(安芸)の儒者(家学);父(藩学問所教授)門、藩の学問所句読師/教授、のち歩行組次席、藩政改革参画;尽力、長沼流兵学を修学、1797-1844「藝備孝義伝」1856「詩伝纂要」58「四書纂要」、「近思録纂要」「近思録提要」、「易本義纂要」「易岳啓蒙纂要」「読啓蒙私記」「経説万余言」外著多数、「金子霜山先生詩文」、[霜山(;号)の名/字/通称/別号]名;忠順/中導/済民、字;伯成、通称;徳之助、別号;勉廬/八霜山人
- H2550 蒼山(そうざん・遠藤えんどう・長島) 1819-69 51 羽前赤湯の俳人;江戸の風外門/のち梅室門、1862京の四條に摩訶庵を結ぶ;63門人の要請で遠州目付に移住、1855江戸の春湖と四国・九州を行脚;1年9か月に及ぶ、金原明善と親交/天竜川治水に尽力、1855「雲鳥日記」著/58「露の臺」62「遊糸録」編/65「越の雪」「ひくまのにき」著、[蒼山(;号)の通称/別号]通称;慎七、別号;摩訶庵/雲の屋
- H2551 壯山(そうざん・道山みちやま、名;道穂みちあき) 1833-1900 68 岩代須賀川の俳人;奥州の有力俳人、正岡子規と交流、1860「柱石集」編、

[壮山(；号)の幼名/通称/別号]幼名: 莊吉、通称: 三次郎、

別号: 栗の本/竹晷ちくき亭/芳秋庵/可伸庵

- K2586 **宗山**(そうざん・岩崎いわさき、)1841-1907 67 陸奥宇多郡の修験者/神職/国学者、
高平山上之坊阿弥陀院寛徳寺62世、「磐城岩代方言考」著
宗山(そうざん→しゅうざん) → 宗山(しゅうざん・等貴;法諱、臨濟僧) X 2 1 3 9
宗山(そうざん・烏丸) → 光広(みつひろ・烏丸) 4 1 3 1
双山(そうざん・土屋) → 邦敬(くにたか・土屋つちや、農業/庄屋) E 1 7 3 5
壮山(そうざん・久米) → 道香(みちか・久米くめ、医者/歌人) I 4 1 9 3
想山(そうざん・三好) → 想山(しゅうざん・三好みよし、藩士/書家) J 2 2 3 0
倉山(そうざん・内村) → 鱸香(ろこう・内村うちむら/本郷屋、藩儒) B 5 2 4 7
蒼山(そうざん・藤原) → 昌芳(まさよし・藤原ふじわら、歌人) I 4 0 5 1
操山(そうざん・伴) → 蒿蹊(こうけい・伴ばん、商家/歌人/和文) 1 9 0 8
甌山(そうざん) → 徳内(とくない・最上もがみ、探検家/紀行) L 3 1 2 5
窓暫(そうざん・畠山) → 義里(よしさと・畠山はたけやま/源、奥高家) O 4 7 5 2
- K2583 **蔵山**(そうざん;道号・順空じゅんくう;法諱、俗姓;源頼兼男)1233-1308 76 幼時;肥前万寿寺神子栄尊門、
出家、臨濟僧;東福寺円爾門/嗣法、建長寺蘭溪道隆に参禅/1262-70入宋、
帰国後1270肥前高城寺を開創、博多承天寺住持/1300東福寺6世;退隠後に永明院開創、
門徒を永明門派と称す、歌人、没後;1314禅師号、
「倭伝燈録」「蔵山和尚語録」著、勅撰3首(順空上人名);新後撰(675)続千載(983/1938)、
[ここにやりかしこによばふ道はあれど我が心より迷ふとをしれ](新後撰;釈教675)
[蔵山順空の号]号;無量房、諡号;園鑿禅師えんかんぜんじ
- H2552 **蔵山**(そうざん;道号・良機りょうき;法諱)?-1729 曹洞僧;備中西来寺の徳翁良高門;法嗣、
備中玉島の円通寺3世、1717徳翁「続日域洞上諸祖伝」編纂刊行に尽力
蔵山(そうざん・滝口) → 美顔(よしみね・滝口たきぐち/紀、神職/歌人) H 4 7 5 4
象山(そうざん・佐久間国忠) → 象山(しょうざん・佐久間、松代藩士) N 2 1 0 4
蔵山(そうざん・順空) → 順空(じゅんくう・蔵山、臨濟僧) J 2 1 4 2
雙杉園(そうざんえん・小谷) → 古蔭(ふるかげ/ひさかげ・小谷こたに/おたに、歌人) E 3 8 6 5
艸山和尚(草山和尚そうざんおしょう) → 元政(げんせい、日政、日蓮僧/詩歌) 1 8 2 3
叢山処(そうざんしょ) → 鷄周(けいしゅう・野川のがわ、俳人) G 1 8 0 2
桑山人(そうざんじん) → 雄斎(ゆうさい・佐々木ささき、医者/歌人) B 4 6 7 5
- H2553 **桑子**(そうし・藤原、楓御息所、堤中納言兼輔女)?-921 平安中期醍醐天皇の更衣:章明親王の母
通称:堤中納言御息所つみちゅうなごんのみやすどころ、歌;拾遺637(小野宮太政大臣藤原実頼への返歌)
[長からじと思ふ心は水の泡によそふる人の頼まれぬ哉](拾遺;恋637/返歌)、
(愛情を水の泡に喩えるような人は信頼できない)、
(実頼の贈歌636;あな恋しはつかかに人をみづの泡の消えかへるとも知らせてしがな)、
☆兼輔「人の親の心は闇にあらねども子を思ふ道に惑ひぬるかな」(後撰)は桑子を思う歌
- H2554 **宗之**(そうし) ? - ? 江前期俳人;
1673西鶴「生玉万句」;第六一葉第三句/鶯発句等入、1689「あら野」入、
[いたゞける柴をおろせば霰あられかな](あら野;卷五仲冬、
頭に載せた柴をおろすとたまった霰がこぼれ落ちる)
- H2555 **草土**(草土そうし、別号;無根むこん)?-? 近江俳人;1709「根無草」編(尚白序)、
「白馬蹄」入/1698「続猿蓑」入、
[売り石やとつてもいなず年の暮](続猿蓑;卷下/買った人が運び出さないので困る)
- B2565 **操后**(そうし・落月堂) ? - ? 江中期浮世草子作家、
1713「怪談乗合船」、14「四民乗合船」著
- B2567 **宗子**(そうし・並木なみき) ? - ? 江中期歌舞伎作者、1768「関取二代勝負付」合作
- H2556 **壮貴**(そうし;号) ? - ? 江後期天保1830-44頃江戸の俳人:豪山[兀峰]門、
1833「つゆすすり」編
宗子(そうし・藤原) → 宗子(むねこ・藤原宗通女/皇嘉門院母/歌) E 4 2 3 5
宗子(そうし/むねこ・松木) → 敬法門院(けいほうもんいん、記録) N 1 8 1 9

宗氏(そうじ)すべて → 宗氏(むねうじ)
 宗之(そうじ・三井) → 宗之(むねゆき・三井みつゐ、眼科医/歌人) C 4 2 7 8
 宗之(そうじ・久貝) → 蓼湾(りょうわん・久貝くがい、幕臣/詩人) J 4 9 6 9
 宗師(そうじ;号) → 浄業(じょうごう;法諱、律僧/戒律宣揚) I 2 2 8 3
 崇芝(そうじ・性岱;法諱) → 崇芝(すうじ;道号・性岱、曹洞僧) F 2 3 2 8
 荘司(そうじ・伊藤) → 竜洲(りゅうしゅう・伊藤いとう/清田、藩儒) E 4 9 5 5
 荘司(そうじ・柏原) → 正康(まさやす・柏原かしわばら、国学者) O 4 0 8 4
 倉子(そうじ・石塚) → 倉子(くらこ・石塚いしづか、歌人) D 1 7 4 9
 草之(そうじ・彦部) → 知行(ともゆき・彦部ひこべ、機業/詩歌) W 3 1 1 8
 箏子(そうじ・村岡) → 箏子(ことこ・村岡むらおか/小橋、商家/和漢学) R 1 9 4 0
 操子(そうじ・児島) → 操子(みさおこ・児島こじま/手塚、国学) J 4 1 0 6
 操子(そうじ・水原) → 未瑳子(みさこ・水原みずはら/山田、歌人) K 4 1 7 0
 総司(そうじ・秋山) → 久勝(ひさかつ・秋山あきやま、藩士/国学) L 3 7 9 4
 聡師(そうじ) → 聖聡(しょうそう;法諱、浄土僧) T 2 2 9 7
 聡子(そうじ→さとこ・鳥居) → さと子(聡子さとこ・鳥居とりい、藩主室/歌) N 2 0 3 8

H2557 **総持**(そうじ;法諱、源みなもと景親女、叡尊の姪)?-? 1290存 大和の真言律尼僧:

幼少より仏典を読み多羅尼童子と称される、1244叡尊門;出家、具足戒を受、
 1256?師の依頼で河内西林寺を領す;弘通に励む、1286父の冥福祈願に法華懺法を修す、
 母への報恩のため「尼鈔資行録」を撰す、1290四王院の最勝会で叡尊の病氣平癒を祈祷、
 1271「西琳寺文永注記」、「河内国古市郡西林寺事条々」著
 [総持(;法諱)の幼名/号]幼名;多羅尼童子、号;日浄

2509 **宗二**(そうじ・林りん・饅頭屋、林道太男)1498-158184 戦国安桃期奈良の商家;饅頭屋を経営、
 饅頭屋創業の林浄因(竜山徳見に従い来日)から4代目、漢学;清原宣賢のぶかた門、
 神道・歌;吉田兼右(かねみぎ(-すけ)門/和学;三条西実隆門、歌;肖柏より古今伝授受:奈良伝播、
 漢和学;法隆寺・興福寺一条院などで書写;毛詩抄・左伝抄など抄物作成;饅頭屋本、
 「源氏物語林逸抄」「東坡詩抄」「春秋左氏伝抄」など多数、
 [宗二(;名)の別名/字/通称/号]別名;逸、字;桂室、通称;饅頭屋宗二、
 号;林逸/方生斎/安盛、法号;桂室宗二居士

B2568 **宗二**(そうじ・山上やまのうえ、宗壁男)1544-90処刑55 和泉堺の商人、茶人;千利休門、織田信長に接近、
 1573織田信長の京妙心寺茶会に招かれる;李安忠の唐絵を受、秀吉に堺衆茶匠として出仕、
 秀吉に不興を買い浪人;加賀の前田利家・大和郡山の豊臣秀長に出仕/高野山に登る、
 1588小田原北条家の庇護を受く;再び秀吉の怒りを買って1590(天正18)斬刑に処せられる、
 「瓢庵宗二伝書」「瓢庵宗二古書」「瓢菴茶談」/1588「茶器名物集」89「山上宗二記」著、
 1590「珠光之一紙目録」「茶の湯珍書」著、道七の父
 [常の茶湯なりとも路地へ入より出るまで一期に一度の会のやうに亭主を畏れ敬ふべし]、
 (山上宗二記;[一期一会]の語の最初)
 [宗二(;名)の通称/号]通称;三二、号;瓢庵

H2558 **宗治**(そうじ;法諱・南部/南都など)?-? 安桃江戸初期;奈良の真言律海竜王寺の僧、
 連歌作者;1598(慶長3)紹巴を迎え百韻連歌興行;「何木百韻」「何人百韻」、
 一乗院尊政法親王・中臣祐範・紹九らと奈良での連歌会に屢々参加

H2559 **宗次**(そうじ) ? - ? 俳人;1691「猿蓑」入、
 [じだらくに寝れば涼しき夕べかな](猿蓑;巻二/去来抄に逸話入)

H2560 **荘次**(荘二/宗治/宗子そうじ・並木、別号;半井宗治)?-? 江中期大阪歌舞伎作者;
 初世並木正三(しょうざ)門、2世嵐七五郎の娘婿、1768「寿館狐馬騷」「容競唐土噺」著、
 1768「関取二代勝負附」70「桑名屋徳蔵入船物語」著

B2569 **左右児**(左右二/双児そうじ・村上むらかみ、名;三十郎)?-1805 信濃松本の俳人;涼袋(建部綾足)門、
 1784加舎白雄(かやしらお)を迎え句会を催、
 息子の月下亭梅叟・門弟の石橋亭英子と共に川柳句集を刊、
 1804-05頃「田舎樽」著、追善集「古今田舎樽」息梅叟編
 [左右児(;号)の別号]左右二/双児/田舎坊

- H2561 **僧慈**(そうじ;法諱、通称;密庵)?- ? 1806存 日光の天台宗安楽律派の僧、
山王一実神道に関する著述;1784「秘密人法章」、「祭典開覆章」著
- H2562 **宗治**(そうじ・高柳たかやなぎ) ? - ? 江後期;江戸の歌舞伎作者:初世並木五瓶門、
のち木村園夫の創作に協力、1798(寛政10)「市川団蔵待請噺」著、
[高柳宗治(;号)の別号] 並木雷次/高柳宗次
- H2563 **草司**(そうじ・岩下いわした、名;貞諒)1771-1824⁵⁴ 江後期信濃善光寺町の茶商;屋号蔦屋を継嗣、
俳人:士朗門/一茶と交流/歌も嗜む、「桐屋集」著、「無物亭遺稿」、希言・文兆の甥、
[草司(;字・号)の別字/通称/別号]別字;子真、通称;平助、別号;無物亭、法合;介石院
- 宗二(そうじ・松尾) → 宗二(そうじ・松尾、茶人) I 2 5 6 4
 宗二(そうじ・梅沢、1849河原崎座) → 宗六(そうじ・梅沢) D 2 5 3 0
 宗二(そうじ・今枝) → 重直(しげなお・今枝いまえだ、武将/藩士) N 2 1 4 4
 宗二(そうじ・美濃屋/武藤) → 正道(まさみち・武藤、商家/国学) H 4 0 4 3
 宗二(そうじ;隠居後号) → 大江丸(おおえまる・安井/大伴、俳人) 1 4 0 3
 宗二(そうじ・小森) → 愚堂(ぐどう・小森こもり、医者/歌) C 1 7 5 4
 宗二(そうじ・琳斎/俵屋) → 宗理(5世そうり・俵屋/菱川、絵師) B 2 5 2 5
 宗二(宗治そうじ・奈河) → 七五三助(2世しめすけ・奈河、歌舞伎作者) F 2 1 8 8
 宗二(そうじ・島田) → 真恵美(まえみ・菊廼屋さくのみ、商家/狂歌師) 4 0 4 4
 宗時(そうじ) すべて → 宗時(むねとき)
- 宗治(そうじ・高橋) → 宗治(むねはる・高橋/紀、廷臣) C 4 2 2 6
 宗治(そうじ・曲淵まがりぶち) → 淡淡(たんたん・松木、俳人) 2 6 9 4
 宗治(そうじ・新井) → 道英(みちひで・新井あらい、国学/歌人) L 4 1 1 1
 宗治(そうじ・萩原) → 宗治(むねはる・萩原はざむら、神官/国学) E 4 2 1 6
 宗次(そうじ・人見) → 弁斎(べんさい・人見ひとみ、武芸者) B 2 7 2 2
 宗次(そうじ・清水/葛飾) → 為斎(いさい・葛飾かつしか、絵師) D 1 1 3 7
 宗爾(そうじ・石塚) → 資梁(すけやな・石塚いづか、神職/歌人) L 2 3 4 0
 宗邇(そうじ/むねちか・上島) → 鬼貫(おにつら・上島うえじま/平泉、俳人) 1 4 2 4
 莊治(そうじ・伊藤) → 錦里(きんり・伊藤いとう、藩士/儒者) E 1 6 9 1
 相二(そうじ・各務) → 文献(ぶんげん・各務かがみ、医者/整骨科) F 3 8 0 9
 倉治(そうじ・佐脇) → 嵩雪(すうせつ・佐脇さわき、絵師) F 2 3 3 0
 惣二(そうじ・赤尾) → 一樹(かずき・赤尾あかお/藤原、藩士/国学) T 1 5 3 5
 惣治(そうじ・長山) → 忠敏(ただとし・長山ながやま、商家/歌人) Y 2 6 7 3
 惣治(そうじ・宮田) → 有隣(ゆうりん・宮田みやた/服部、和学者) H 4 6 3 2
 左右二(そうじ・百井/万屋) → 塘雨(とうう・百井ももい、商家/俳人) B 3 1 1 6
 造次(造爾そうじ・堀) → 秀成(ひでなり・堀ほり、藩士/国学;音韻) D 3 7 5 2
 惣持院(そうじいん・惣持坊) → 行助(ぎょうじよ、天台僧/連歌) 1 6 3 4
 惣持院(総持院そうじいん) → 日慎(にっしん;法諱・温恭、日蓮僧) 3 3 5 5
 双芝園(そうしえん) → 純固(すみかた・久野くの、藩家老/詩歌) D 2 3 8 8
 蒼紫園(そうしえん) → 可彦(よしひこ・陸くが、医者) G 4 7 2 3
- B2570 **宗識**(そうしき) ? - ? 1516(永正13)古今注釈「古今和歌集註口伝抄」
- H2564 **宗色**(そうしき・磯辺いそべ) ? - ? 1601存 安桃期の武将:前田玄以(徳善院)の奏者、
連歌作者;1597昌叱と「八月十五夜夕何百韻」一座
- H2565 **宗竺**(そうじく、名;宗它) ? - ? 武家/室町中期讃岐守護の細川成之の家臣、
連歌;新撰菟玖波集1句入、
[宗竺(;号)の通称] 東条若狭守とうじょうわかさのかみ
- B2571 **操后子**(そうし;号、本名不祥)?- ? 京の人、行脚旅行、風俗研究、
1717(享保2)「諸国年中行事」著
莊司叟(そうしそう→しゅうじそう・色道軒) → 色道軒莊司叟(しきどうけんしゅうじそう、浮世草子) D 2 1 2 3
- F2517 **宗七**(そうしち・本屋ほんや) ? - ? 江戸亀戸の社家の生/歌舞伎作者;初世増山金八門、
1787江戸桐座に武井藤吉名で参加/94都座で豊島大作名/97森田座で本屋宗七に改名、
1813森田座で立作者格;初世福森久助・4世南北に助作/1820(文政3)玉川座で立作者、

1824まで活動、1818「東染栄久松」19「裏模様菊伊達染」20「声花拽高綱こえかけてひげやたかつな」、
 1823「陸奥千鳥女白浪こいのしらなみ」2世金八と合作、24「筐花手向橘」「牡丹蝶初筐」外著多数、
 [本屋宗七(；号)の通称/別号]通称；日本、別号；武井[竹井]藤吉/豊島大作、俳名；大東
 宗七(そうしち・窪田)→ 宗好(そうこう・窪田/大和屋、酒造業/俳人) B 2 5 5 0
 宗七(そうしち・茶屋ちや) → 筵史(えんし・多賀庵4世、俳人) E 1 3 8 0
 宗七(そうしち・那波/吉川)→ 宜大(ぎだい、吉川/那波、商業/俳人) F 1 6 7 3
 宗七(そうしち・菅谷) → 年緒(としお・菅谷[菅屋]、飛脚業/俳人) M 3 1 1 0
 宗七(そうしち・俵屋) → 百尺楼桂雄(ひゃくせきろうけいゆう、狂歌) E 3 7 6 1
 宗七(そうしち・野村) → 盛秀(もりひで・野村/野元、藩士/日記) G 4 4 3 3
 荘七(そうしち・隅田屋) → 圭峯(けいほう・隅田すみだ、商家/詩/月琴) G 1 8 6 7
 荘七(そうしち・伊部) → 中世(なかよ・伊部いべ、藩士/国学) L 3 2 1 0
 宗七郎(そうしちろう・那波/吉川)→ 五明(ごめい・吉川、商家/俳人) D 1 9 9 3
 宗七郎(そうしちろう・中川)→ 為親(ためちか・中川なかがわ、歌人) Y 2 6 5 2
 宗七郎(そうしちろう・平井)→ 櫻齋(ていさい・平井/源、儒者/本草家) 3 0 8 5
 総七郎(そうしちろう・片屋)→ 五明(ごめい・吉川、商家/俳人) D 1 9 9 3
 惣七郎(そうしちろう・荻生)→ 北溪(ほっけい・荻生/物、徂徠弟、儒者) E 3 9 5 8
 曾七郎(そうしちろう・寺田)→ 長興(ながおき・寺田てらだ、国学者) D 3 2 3 3
 惣七郎(そうしちろう・窪田)→ 猿雖(えんすい・窪田くぼた、商家/俳人) B 1 3 1 4

H2566 **宗室**(宗叱(そうしち)・島井(しまい)、名；茂勝) 1539?-1615?? 博多の豪商；酒造業/九州諸大名に金銀貸付、
 南蛮貿易、天正初1573頃博多津に勢力；1580和泉堺へ；天王寺屋道叱・津田宗及らと交流、
 茶人、信長秀吉に接近/1587秀吉の命で神屋宗湛と戦火荒廢の博多の復興に尽力、
 福岡築城の功績で黒田長政より知行3百石授与；辞退、
 「島井宗室日記」/1610「家訓十七か条」著(；養嗣子信吉に与えた家訓)、
 [今生(こんじょう)にては今生の外聞(名誉)うしなはぬ分別第一に候
 来世の事は仏祖もしらぬと仰せられ候](家訓)

[宗室(号)の通称/別号]通称；徳太夫、別号；瑞翁宗室/虚白軒/瑞運庵

B2573 **宗室**(初世(そうしち)・千(せん)、宗旦(そうたん)4男) 1622-9776 京の茶人；千利休(宗易)の曾孫、千家4世、
 裏千家の祖、医術；野間玄琢門；玄室に改称/師の急死；父宗旦の許で茶道研鑽；1651宗室名、
 父が晩年建立の今日庵(こんにちあん)・又隠・寒雲亭を継承；以後裏千家として代々[宗室]を襲名、
 加賀金沢藩主前田利常・綱紀に招聘；茶道茶道具奉行；京と往復、1688致仕、
 「茶禅同一味」補訂、宗拙・宗守(初世/武者小路千家)・宗左(初世/表千家)の弟、

[初世宗室(；法名)の通称/号]通称；長吉郎/玄室、号；仙叟/臘月庵、法号；仙叟宗室居士
 H2567 **宗室**(5世(そうしち)・千(せん)、表千家千宗左3世の3男) 1719-7759 茶人；兄裏千家7世千竺叟宗乾の養嗣、
 宗乾急逝により茶道裏千家8世を継承、兄宗左4世と協力して茶道七事式を制定、
 江戸の豪商千柄仙右衛門と交流；江戸における千家茶道普及に尽力、
 「茶道浜真砂」著/「茶禅同一味」補訂、
 [5世宗室(；法名)の通称/号]通称；十一郎(とおいちろう)、
 号；一燈/又玄齋/勿々軒(ぶつづけん)/梅含堂/今日庵、
 法号；一灯宗室居士

H2568 **宗室**(8世(そうしち)・千(せん)、三河奥殿藩主松平乗友男) 1810-7768 茶人；1819裏千家千宗室7世の養子、
 裏千家千家11世を継嗣、1839利休250年忌百会の茶事を主宰、加賀前田家出仕、
 伊予松山久松家・尾張徳川家出仕、維新後新しい世に即応する茶道裏千家の基礎を築く；
 1872(明治5)「茶道の源意」を政府に提出；[茶道]として公認、立礼式点前の考案など、
 「利休二百五十年忌追悼口切茶会記」「元伯宗旦二百回忌追慕百会茶之湯」著、
 「玄々齋茶道叢書」著、
 [8世宗室(；法名)の幼名/号]幼名；栄五郎/千代松、
 号；玄々齋/精中/不忘/虚白齋/寒雲/今日庵、法号；精中宗室居士

H2569 **相実**(そうじつ・しょうじつ；法諱、藤原頭実男) 1088?-1165?? 天台叡山僧；良祐の付法、
 最嚴・陽宴・恵什門、無動寺に法曼院を創建/1164法印権大僧都；法曼流の祖、
 大僧正を追贈(没479年後；1644)、

「師説集」「息心抄」「歡喜天相実記」「歡喜天口決料簡問答」「十八道覆審鈔」外著多数、
[相実(；法諱)の通称] 無障金剛/法曼院法印/法曼院百寿百和尚

- H2570 **宗実**(そうじつ;法諱) ? - ? 江中期臨濟僧:白隱慧鶴門、
師白隱の「槐安国語」を校訂注釈(同門元魯と);「槐安国語骨董稿」編
宗実(そうじつ・大炊御門)→ 宗実(むねざね・大炊御門おほいみかど/藤原、廷臣/歌) B 4 2 3 5
宗実(そうじつ・伊達) → 宗実(むねざね・伊達だて、領主/銃術/歌) B 4 2 3 6
宗実(そうじつ・秋田) → 実季(さねすえ・秋田/安倍、武将/藩主/詩歌) D 2 0 0 8
宗実(そうじつ・江村) → 青郊(せいこう・江村えむら、儒者) I 2 4 0 8
増質(ぞうじつ・雨森) → 炎洲(えんしゅう・雨森あめのもり、藩士/儒者) E 1 3 9 0
増実(ぞうじつ→ますみ・宮部)→ 鼎蔵(ていざう・宮部、兵学/倒幕運動) B 3 0 4 0
双紙亭此主(そうじていこぬし)→ 此主(こぬし・清書、籠屋/狂歌) G 1 9 6 3
- B2574 **綜子内親王**(そうしないしんのう、後三条天皇第一皇女)1050-1131⁸² 母;贈皇太后茂子(藤原公成女)、
1069(延久元)一品/准后/1073父後三条天皇死後薙髮;仁和寺住/同寺大教院に没、
歌人;千載1104、白河天皇の姉/輔仁親王の異母姉、
[山里のさびしき宿のすみかにも笥かけの水の解くるをぞ待つ]
(千載;雑1104/仁和寺から笥の水を輔仁親王に送り親王から贈歌あり/その返歌)、
[輔仁親王の贈歌;山里の笥の水の氷れるは音聞くよりもさびしかりけり]
綜子内親王(そうしないしんのう) → 月花門院(げつかもんいん、歌人) B 1 8 0 3
- B2575 **莊子[庄子]女王**(そうしによおう/しょうし、代明よりあきら親王女)930-1008⁷⁹ 母;藤原定方女、
950(天曆4)村上天皇の女御/通称;麗景殿いけいでんの女御、樂子らくし内親王・具平親王の母、
歌人、956「麗景殿女御歌合」主催、
963伊尹これまさ「宰相中将君達春秋歌合」;姉恵子女王と参加、967村上天皇没;出家、
惣持坊(そうじぼう) → 行助(ぎょうじよ、天台僧/連歌) 1 6 3 4
惣持坊(そうじぼう) → 智川(ちせん;法諱、天台叡山僧) E 2 8 5 4
惣持坊(そうじぼう) → 常観(じょうかん;法諱、天台僧) H 2 2 8 9
宗寂(そうじやく) → 宗舜(そうしゆん・法師、宗寂、歌人) B 2 5 9 4
双雀庵(初世そうじやくあん)→ 禾葉(かよう・双雀庵、俳人) P 1 5 5 7
双雀庵(二世そうじやくあん)→ 氷壺(ひょうこ・岡田、俳人) F 3 7 2 0
- B2577 **宗守**(初世そうしゆ・千せん、吉岡、宗旦2男)1593-1675⁸³ 茶人;利休(宗易)の曾孫、
茶道武者小路千家の祖、初め京の塗師吉文字屋与三右衛門の養子;吉岡甚右衛門と称す、
父宗旦没後に千家に復す;茶の湯専念1666讃岐高松藩主松平頼重に出仕/67退休、
京に武者小路千家通に官休庵を創建;武者小路千家流・官休庵流・武千家と称される、
代々[宗守]を名乗る、「一翁伝書」著、宗拙の弟/宗左初世(表千家)・宗室初世(裏千家)の兄、
[宗守初世(；法名)の通称/号]通称;甚右衛門、号;宗屋/宗安/似休斎/官休庵/一翁
巢守(そうしゆ・山本) → 由之(よしゆき・山本、良寛弟/国学/歌) K 4 7 3 1
- B2578 **草寿**(宗寿そうじゆ・南部なんぶ/本姓;平、旧姓;長尾)?-1688 京の儒者;江戸で木下順庵門、帰京講説、
1672長崎奉行鎮台牛込重忝の招聘で郷学を設立し教授、
1681頃富山藩主前田正甫の招聘で富山藩儒;朱子学を講ず、杏一洞と交流、
1666「倭忠経」69「徒然草諺解」80「太上感応編俗解」、「太上感応編和解」「憶ひ多志」、
「職原鈔支流」「御年譜省略」外著多数、先祖は越後長尾氏の一族、養嗣子;南山なんざん、
[草寿(；名)の字/号]字;子寿、号;陸沈軒/立庵/古硯子こけんし
- H2571 **宗寿**(そうじゆ;法諱・鶴洲かくしゅう;道号)1670-1725⁵⁶ 和泉の臨濟僧;大心義統門、1719大徳寺300世、
和泉堺の一法院住寺を兼任/1724東海寺輪番住職勤務、1
706「清源竜興編」編/「勅諭国英法鑑禅師年譜」著
- H2572 **宗寿**(そうじゆ・南部なんぶ、名;貞古/巖、正房男)1729-99⁷¹ 近江浅井郡青名村の医者;
京で中村静安・堀洵瀾門/儒者;林東溟門、寛政1789-1801頃「方鏡」著、
[宗寿(；通称)の字/別通称/法号]字;自安、別通称;宮内、法号;宗寿伯泉
- H2573 **宗寿**(そうじゆ;号) ? - ? 寛政1789-1801頃絵師;葛飾北斎or蹄斎北馬門?、
1798刊「狂歌花鳥集」画
宗珠(そうじゆ) → 午松齋宗珠(ごしょうさいそうじゆ、説話伝承) F 1 9 6 8

宗珠(そうじゆ;法諱)	→	大雲(だいうん;道号・宗珠、曹洞僧)	J 2 6 1 3
宗寿(そうじゆ;法諱・棠林)	→	棠林(とうりん;道号・宗寿、臨濟僧)	I 3 1 4 0
宗寿(そうじゆ;法諱)	→	仁岫(にんしゅう;道号・宗寿、臨濟僧)	G 3 3 4 4
宗寿(そうじゆ・伊藤)	→	宗桂(8代そうけい・大橋/伊藤、将棋士)	G 2 5 9 5
宗寿(そうじゆ・生駒)	→	信億(のぶり・生駒いこま、歌人)	H 3 5 2 5
宗寿(そうじゆ・児島)	→	政秀(まさひで・児島こじま/三宅、商家/国学)	P 4 0 6 5
宗受(そうじゆ・千)	→	宗左(初世そうさ・千せん、江岑宗左/茶人)	B 2 5 5 4
宗樹(そうじゆ)	→	田鶴樹(たづき・浅見、俳人)	2 6 3 6
宗寿(そうじゆ・杉木)	→	普斎(ふさい・杉木すぎき/荒木田、茶人)	B 3 8 9 9
桑樹(そうじゆ・加藤)	→	礼文(ひろふみ・加藤かとう、国学者)	I 3 7 9 8
雙樹(そうじゆ、雙樹園なみきのその)	→	政方(まさみち・名島、医/国学)	H 4 0 5 3
造酒(ぞうしゆ) すべて	→	造酒(みき)	

- H2574 **宗周**(そうしゅう・小村こむら、宗訊男)?-? 天文-天正1532-92頃和泉堺の連歌師:父門、父より古今伝授を受/書家;堺流、連歌;1565(永禄7)冬康らと百韻/85(天正13)清頓追善名号百韻など参加、[宗周(;号)の] 一咄斎いっかつさい
- B2580 **滄洲**(そうしゅう) ? - ? 俳人、1730午寂「太郎河」発句入
- H2575 **桑洲**(そうしゅう;法諱) ? - ? 1763存 豊前の真宗本願寺派僧、宗意に異論を唱える、1763(宝暦13)本山より懲戒;亡命中に没、「浄土真行儀」著
- B2581 **滄洲**(そうしゅう・新井あらい、名;義質、佐久間洞巖男) 1714-92 陸前仙台藩士新井家を継嗣、儒者;遊佐木齋門/服部南郭門、仙台藩儒;藩主侍読、詩人、「東都客中稿」著、1790「滄洲先生詩集初編」、「滄洲遺文稿」あり、字;子敬、通称;市郎/彦四郎
- B2585 **滄洲**(そうしゅう・津野つゆ、名;義見よしみ) 1718-90 73 飛騨高山二之町の酒造業福島屋の生、儒;江村北海門/詩文:松平君山門、丹波・丹後・但馬に遊学/飛騨の養蚕に尽力;蚕糸問屋、三河で蚕飼育法を修学;飛騨各地で指導/蚕種を無償で配布;生糸生産50倍;苗字帯刀許可、詩歌/俳諧/狂歌/絵画を嗜む、石の蒐集家/石器研究、晩年は参禅、木内石亭と交流/赤田臥牛の師、1754「飛騨八所詩俳句」著、1764「金華三愛集」83「飛騨物産狂歌詠」、「飛騨枕発句集」、「雲漢揮彩」著、「橋梁図纂」「十奇蹤詩歌」「騷邦産物狂詩詠」「飛州燕石録」「俳歌廻文詠」著、廷賢の父、[滄洲(;号)の字/通称/別号]字;有鄰、通称;福島屋五右衛門、屋号;福島屋、号;蒲公英主ほこうえいしゅう/金華主人/金華三愛主/愀徳斎、法号;勇見了義 ☆津野家;滄州 一 芳州 一 文卿 一 千萱ちがや 一 五三二(悟窓)
- B2579 **宗周**(そうしゅう;名・沢辺さわべ/渡辺?、号;東臯) ?-? 伊勢津藩士、詩人;奥田三角門;師中心に伊勢詩壇形成、1757-67歳旦詩集「絃歌余韻」(津藩士鈴木始卿と共編/風虎堂刊) 1780「亀石亭集序」著
- H2576 **滄洲**(そうしゅう・山口やまぐち、名;斉) ?-? 江中期阿波の儒者;若くして京・大阪に遊学、播磨網干住;のち播磨山崎藩主本多家の儒学教授、1774「老子芻狗」著、[滄洲(;号)の字/別号]字;思夫、別号;等庵
- H2577 **滄洲**(そうしゅう・益戸まこと、名;秀典、秀清[俳号;木柳]男) 1726-77 52 羽後秋田藩士;1747大番、1757-65江戸藩邸詰、67致仕、68再勤務;本方奉行/74病のため辞職、儒;徂徠学修学、俳諧/書画を嗜む、「鷗草」「さるすべり」「鹿廼細道」「遊槎詩文」「鷗の短羽」「梅の杖」著、「問槎紀行」「滄洲先生詩集」著、「滄洲遺稿」、[滄洲(;号)の幼名/字/通称/別号]幼名;仁蔵、字;伯惇/君徽、通称;助四郎、別号;沙鷗/沙鷗閑人/瓶隠子/春芽堂/南華亭/南華道人/查翁/仙鼠/巴釣/把丁はちよう、法号;亮岳智映信士
- H2578 **滄洲**(そうしゅう) ? - ? 伊勢川崎の俳人;1776樗良「月の夜」入、[澄む月のたへがたくてや鹿の声](月の夜;113/冴えて輝く月の美に耐え難い)
- H2579 **宗周**(そうしゅう・金子かねこ、通称;理平次/別号;重陰庵) ?-? 江戸の俳人:2世宗瑞門、1784師「杉家俳則」校補刊/序、1790「蕉門杉家手引糸」著

- B2582 **滄洲**(そうしゅう・赤松あかまつ、舟曳通益男)1721-180180 播磨三日月の生、赤穂藩医大川耕斎の養子、京で医学;香川修庵門/儒学;宇野明霞・岡竜洲門、1747赤穂藩儒・家老、1760病のため致仕、京で儒学を講ず/晩年赤穂に帰る/舟曳・大川共に赤松氏出身のため著述上**赤松**を名乗る、詩文に長ず、「博物強識」「静思亭文集」「静思亭雑著」「赤松鴻書」「一得録」「甲申漫采」、1772「静思亭集正編」、「赤穂四十六士論評」「周易象義」「周易便覧」「琉球談記」外著多数、[滄洲(;)号)の名/字/通称/別号]名;鴻、字;国鸞、通称;良平、別号;静思翁/静思亭
- B2583 **滄洲**(そうしゅう・磯谷いそがい、名;正卿)1737-180266 代々尾張藩家老竹腰家の家臣、尾張藩騎馬同心、儒;松平君山門/岡田新川と同門、1764朝鮮通信使節の南秋月と唱酬/称され留書頭に就任、文章に長ず、「滄洲文集」「敬公御家譜」「尾張国志」「買山集」「三世唱和」「日光紀行」著、1780「莫逆編」編/「麗沢唱和」著(没後1806刊)/恩田仲任「世説音釈」校訂(1816刊)、[滄洲(;)号)の字/通称/法号]字;子相、通称;覺左衛門、法号;緑雲印
- H2581 **笙洲**(そうしゅう・三谷みたに、名;樸)?-1823 近江江北の医者:京の小野蘭山門、1802刑屍解剖、漢方と西洋医学の折衷を主唱、1798「文法披雲」99「多識会品目」編/1813「解体発蒙」著、[笙洲(;)号)の字] 公器
- H2582 **桑州**(そうしゅう・宮原みやはら、名;国綸、南陸男)1762-182867 筑後久留米の儒者:藩儒の父門;闇斎学、柔剣術・越後流兵法に精通、1795-1813「筑後民間孝子伝」著(;忠臣・孝子・節婦の聞書集)、;説話編纂に対し久留米藩主より褒賞を受、真木和泉守保臣(妻の弟)の師、[桑州(;)号)の字/通称]字;世経、通称;文之進
- B2584 **滄洲**(そうしゅう・安井やすい、名;朝完/完、朝長男)1767-183569 日向飢肥藩士/儒者;叔父日高源助門、1804江戸詰/儒学;古屋昔陽・皆川淇園門、1813日向清武郷中野に郷校明教堂を創設、1831藩校振徳堂創設時に招聘され教授兼総裁、「滄洲隨筆」「古今体」「遊記」、[滄洲(;)号)の字/通称]字;子全、通称;平右衛門、息軒の父
- H2583 **滄洲**(そうしゅう・服部はっとり、名;厚戴)1801-8080 肥前の儒者/佐賀藩に出仕;奥小姓兼教諭、のち御側目附に昇進;事務・理論・俗文に通ず、「崎山遊吟」「庚子游草」著、[滄洲(;)号)の字/通称]字;公德、通称;文次
- H2584 **曹州**(そうしゅう;道号・卍源まんげん;法諱)?-? 江後期曹洞僧;九峰為鼎門/嗣法、伯耆久米郡和田の定光寺33世、1829「通俗玄談集」「直指単伝録」著
- 滄洲(そうしゅう・山内) → 豊策(とよかぜ・山内やまのうち、藩主/歌人) R 3 1 0 9
滄洲(そうしゅう・高橋/渋川) → 景佑(かげすけ・渋川しぶかわ、天文曆算家) K 1 5 9 2
滄洲(そうしゅう・戸田) → 藤蔭(ふじかげ・戸田とだ/田中、藩士/歌) C 3 8 4 2
棗洲(そうしゅう・三井) → 善之(よしゆき・三井、眼科医、詩人) H 4 7 9 3
相秀(そうしゅう・三室戸) → 光村(みつむら・三室戸/冷泉/藤原、歌) K 4 1 6 9
宗州(そうしゅう;法諱) → 鉄帚(てつそう;道号・宗州、臨濟僧) E 3 0 7 1
宗州(そうしゅう・加須屋) → 武義(たけよし・加須屋かすや/岩越、藩士/歌) W 2 6 3 9
宗拾(そうしゅう・坂内) → 新左衛門(しんざえもん・曾呂利、御伽衆) 2 2 2 4
宗周(そうしゅう/むねちか・伊達/桑折) → 宗臣(むねしげ・桑折こおり、藩家老/歌/俳人) B 4 2 4 2
宗秀(そうしゅう・大江) → 宗秀(むねひで・大江/長井、武家/歌人) C 4 2 3 2
宗秀(そうしゅう・長沼) → 宗秀(むねひで・長沼/中沼/藤原、武家/歌) C 4 2 3 3
宗秀(そうしゅう;法諱) → 宗秀(しゅうしゅう;法諱・心光房、天台僧) X 2 1 5 1
宗秀(そうしゅう・松平) → 宗秀(むねひで・松平まつだいら/本庄、藩主) D 4 2 5 3
宗琇(そうしゅう;法諱) → 玉仲(ぎよくちゅう;道号・宗琇、臨濟僧) P 1 6 2 6
宗修(そうしゅう・山崎) → 宗徳(そうとく・山崎/多紀、幕府/鍼医) I 2 5 5 9
- B2587 **宗徒**(そうじゅう・守田もりた、宗俊そうしゆん/慶得斎)?-? 実録軍記作者;1755「慶元軍記」編(40巻)
- 宗什(そうじゅう・岡本) → 玄治(げんや・岡本おかもと、医者) M 1 8 5 3
宗住(さそうじゅう;法名) → 元章(もとあきら・観世、能楽/謡曲改訂) C 4 4 0 3
宗重(そうじゅう)すべて → 宗重(むねしげ、むねたか)
増重(そうじゅう・末吉) → 増重(ますしげ・末吉すえよし、水運業/俳人) J 4 0 0 3
蔵充閣(そうじゅうかく) → 良礎(りょうそ・皆川みながわ、医者/俳人) I 4 9 6 3
総州葛飾辺老農升瓢(そうしゅうかつしかあたりのろうのうのしょうびょう) → 文耕(ぶんこう・馬場、講釈師) F 3 8 1 7
相州磯部[辺](そうしゅうのいそべ) → 柏琳(はくりん・仙客亭、戯作者) E 3 6 1 2

- 滄洲楼(そうしゅうろう) → 南畝(なんぼ・大田、狂歌/詩/戯作) 3 2 3 3
 滄州楼(そうしゅうろう) → 金塚(きんらち・馬場、狂歌) E 1 6 9 0
- 2510 **宗十郎**(初世そうじゅうろう・沢村さわむら、伏見宮家諸大夫三木長門3男) 1689?-1756 71 京歌舞伎役者；
 初世沢村長十郎門、1717大坂の大芝居に初舞台/沢村善五郎名/1718以降江戸で活動；
 沢村惣十郎名/のち宗十郎に改名、江戸の大立者；市川海老蔵(2世団十郎)と並稱、
 1747沢村長十郎3世襲名/53初世助高屋高助を称す/54真極上上吉無類に至る、
 和事・実事中心に武道・荒事もこなす/当り役；名古屋山三・梅の由兵衛・油屋庄九郎など、
 歌舞伎作者も兼る、書・俳諧・茶の湯も嗜む、俳；1726「代々蚕」入/31「落葉合」独吟歌仙入、
 1743句集「置土産」編(；大坂旅立送別句)、「俳諧画讃」著、
 脚本；1733「妻恋隅田川」35「鎧桜故郷錦」42「娘曾我凱陳八嶋」、55「大伴黒主束帯鑑」著、
 [初世沢村宗十郎(；通称)の幼名/名/別通称/号]幼名；藤之丞、名；藤五郎、
 別通称；染山喜十郎/沢村善五郎/沢村惣十郎/沢村長十郎3世/初世助高屋高助、
 俳号；訥子とつし、号；高賀こうが/李下斎、屋号；紀伊国屋、法号；高竜院
- B2588 **宗十郎**(そうじゅうろう・2世沢村、俳名；亀音きおん/曙山/訥子) 1720-70 51 歌舞伎役者；富沢門太郎門、
 初名；富沢長之助、のち竹中歌川・滝中歌川と改名/若女形/1742立役；歌川四郎五郎名、
 1749宗十郎2世襲名/和事から1754実悪に転ず/当り役；曾我十郎・工藤祐経・意休など
- B2589 **宗十郎**(そうじゅうろう・3世沢村、俳名；遮莫しゃぼく/訥子、2世宗十郎2男) 1753-1801 49 歌舞伎役者；
 江戸で子役/初名；沢村田之助、京で若衆方/1771立役；3世宗十郎を襲名、
 1776大坂出勤後；77江戸/91大坂；93上上吉；以後往復、1798立役半白極上上吉、
 和事が得意、当り役；曾我十郎・足利頼兼・由良之祐・源後兵衛・治兵衛・梅の由兵衛など
- B2590 **宗十郎**(そうじゅうろう・4世沢村、3世宗十郎長男) 1784-1812 早世 29 歌舞伎役者；1791初舞台/子役、
 初名；沢村源之助、若衆方/立役/和事で人気/1809立役上上半白吉/1811宗十郎4世襲名、
 1812；没(29歳)、脚本作者；1811「近江源氏湖月照」作、
 [4世沢村宗十郎の号] 俳名；曙山/遮莫/訥子、戯作号；紀の十子とつし
- B2591 **宗十郎**(そうじゅうろう・5世沢村) 1802-1853 52 歌舞伎役者；4世宗十郎門/子役・若衆方/沢村源平名、
 1817沢村源之助2世を襲名；立役、21大坂；22大坂浜芝居出勤/29江戸に帰る/31上上吉、
 1831沢村訥弁に改名/441宗十郎5世襲名/48立役大上上吉；沢村長十郎5世襲名、
 1852助高屋高助3世襲名；53名古屋に没、和事；芸域広い、当り役；刈萱道心・勘平など、
 [5世沢村宗十郎の号] 俳名；訥弁/訥子/高賀、屋号；紀伊国屋
 沢村源平/沢村源之助2世 沢村訥弁 沢村長十郎5世 助高屋高助3世
- 宗十郎(そうじゅうろう・内池) → 永年(ながとし・内池うちいけ、商業/国学) E 3 2 8 5
 宗十郎(総十郎そうじゅうろう・三井) → 高蔭(たかがげ・三井、商家/国学) C 2 6 5 9
 宗十郎(そうじゅうろう・三井) → 高延(たかのぶ・三井みつゐ、商家/国学) Z 2 6 7 8
 宗十郎(そうじゅうろう・三井) → 高猷(たかのり・三井みつゐ、商家/国学) Z 2 6 7 9
 宗十郎(そうじゅうろう・岡久) → 桂堂(けいどう・岡久おかひさ、儒者/教育者) G 1 8 4 6
 宗十郎(そうじゅうろう・小阪) → 北嵩(ほくすう・小阪/郷、儒者/詩) D 3 9 5 2
 宗十郎(そうじゅうろう・大久保) → 忠総(ただふさ・石川/大久保、藩主/記録) B 2 6 8 4
 宗十郎(そうじゅうろう・雲井) → 正扶(まさすけ・雲井くもい、国学者) P 4 0 4 2
 総十郎(そうじゅうろう・石川) → 憲之(のりゆき・石川いしかわ、藩主/儒者) G 3 5 1 0
 惣十郎(そうじゅうろう・高尾) → 嘉文(よしふみ・高尾/今井、幕臣/和学) N 4 7 6 9
 竈洲老樵(そうしゅうろうしやう) → 円識(えんしき；法諱、本願寺派僧) E 1 3 8 2
 巢守園(そうじゆえん) → 千庵(せんあん・森田もりた、医者) L 2 4 5 5
 雙樹園(そうじゆえん → なみきのその) → 政方(まさみち・名島、医/国学) H 4 0 5 3
 双樹園(そうじゆえん) → 茂韶(もちあき・蜂須賀はちすか、藩主/政治) K 4 4 9 9
 草主翁(そうしゅおう) → 万李(ばんり・潮田/桑野、藩士/俳人) I 3 6 6 2
- B2592 **宗叔**(そうしゆく・石井いしい) ? - ? 江戸後期文政1818-30頃の江戸の医者、嘶家に転ず、
 江戸の長咄(人情嘶)の創始者、音曲入の咄、
 辞世[もろ鳥も囀る春の手向かな](武蔵草加の墓の碑文入)
- H2585 **宗肅**(そうしゆく・大高おおたか) ? - ? 江戸後期大阪の医者、堂島住/のち大江橋東に住、
 「医方集要」、「見聞雑録」著、

[宗肅(；名)の字/通称]字；知道、通称；元恭

宗肅(そうしゆく・村崎) → 宗肅(むねかね・村崎むらさき、朴齋、茶人) B 4 2 2 6

宗肅(そうしゆく・三井) → 高延(たかのぶ・三井みつゐ、商家/国学) Z 2 6 7 8

宗俣(そうしゆく；法諱) → 春林(しゅんりん；道号・宗俣；法諱、臨濟僧) M 2 1 1 0

宗叔(そうしゆく・加藤) → 円齋(えんさい・加藤/賀嶋、儒者；経学) E 1 3 7 2

宗叔(そうしゆく・浅田) → 棕園(そうえん・浅田あさだ、医者) G 2 5 3 6

荘叔(そうしゆく・宮原) → 蒨山(ぶざん・宮原みやはら、儒者/医者) C 3 8 3 5

爽肅院(そうしゆくいん；法号) → 定通(さだみち・松平まつだいら、藩主/教育) J 2 0 7 7

桑宿齋(そうしゆくさい) → 周桂(しゅうけい、連歌師) 2 1 4 7

荘肅先生(そうしゆくせんせい) → 竜洲(りゅうしゅう・伊藤いとう/清田、藩儒) E 4 9 5 5

贈従三位為子(そうじゆさんみためこ) → 為子(ためこ・二条、尊良親王の母/為世女) G 2 6 8 0

B2593 宗俊(そうしゆん；法諱、俗姓；池・千葉/本姓；平) ?-? 1307存 鎌倉期；刑部大輔/時宗僧、

1307「一遍上人(遊行)縁起絵伝」編述(；開祖一遍と2代真教の伝記)；時宗教団嫡流を示す

B2594 宗舜(そうしゆん・法師、宗寂、高階?) ?-? 鎌倉後期叡山阿闍梨/歌；鎌倉期末「比叡社歌合」参加、

1278-88遺塵集入、1303後宇多天皇「嘉元仙洞百首」入(；宗寂名)、

[吉野山峰の続きもたえまなくかかるや春の花の白雲] (比叡社歌合；七番右)、

[うき雲の一村すすき雨すぎて夕べさびしき秋の山もと] (嘉元百首；2036/薄)

I2569 宗春(そうしゆん・飯川いね、光助男?) ?-? 戦国期能登の禅僧；畠山義総に寵愛される、

室町幕府との交渉に当たる、度々上洛し政僧として活動、

歌/連歌；1517能登来訪の冷泉為広門(息子光範みちのりと)、

連歌；七尾城で1523「賦何路連歌」・25「賦何人連歌」に光範と参加

B2595 宗俊(そうしゆん、井筒屋) ?-? 京住/立売衆、俳人、1633重頼「犬子えのこ集」7句入、

[魚も木にのぼるためしか桜鯛] (犬子集；桜鯛、

謡曲竹生島；緑樹影沈んで魚木に上る景色あり；水に映る桜と魚)

B2551 宗俊(そうしゆん、八尾やお) ?-? 摂津の住人/狂歌；1666行風「古今夷曲集」1首入、

[梅が枝えはそなたのえてむ楽らくさうに口笛なるかやよや鶯] (夷曲集；春25)、

(梅枝は能の曲；後シテが越天楽の今様唱歌[梅枝]を舞謡う/笛の稽古に口笛を代用、

越天楽に得意技の得手・楽そうを掛る、鶯に呼びかけ)

B2596 宗春(そうしゆん・西山にしま、宗因[1605-1682]男) 1642-172382 大阪の連歌作者；父門/昌程門、

1670父宗因薙髮法体後に大坂天満宮連歌所宗匠；父の職を継嗣、

父宗因と「両吟亡母追善百韻」催、1697良恵「柴屋寺奉納発句」、「末吉宗久懐旧千句」参加、

「発句愚草」「発句集」「連歌文字撰」「連歌仙三十六人」「一鷗岫雪両吟抜句」著、昌察の父、

没後；1734孫昌林編「西山三籟にしまさんらい集」入(宗因・宗春・昌察三代の連歌発句集)

[宗春(；号)の通称/別号]通称；伊之助、別号；含雪軒/嘯林齋/吾楽堂/実庵、

法号；実庵宗春処士

H2586 宗春(そうしゆん・鈴木すずき、法眼鈴木宗因の養嗣子) ?-? 江中期京の医者；曲直瀬まなせ玄淵門、

1696「医家要言」1704「歳時語苑」編

H2587 宗春(そうしゆん；通称・細川ほそかわ、名；季明すえあき) ?-? 江中期京の医者；1725「二川随筆」(信意補筆)

B2597 宗春(そうしゆん・三宅みやけ) ?-? 江中期俳人、

1770「孝婦集」編(若狭早瀬浦の孝婦を讃え上瀬宮奉納；三宅嘯山序；嘯山の後援で出版)、

[宗春(；号)の別号] 菜根子/百事亭

L2537 宗俊(そうしゆん；法諱) ?-? 江中期；京の真宗大谷派の円重寺僧、

歌人；宮川松堅門/1722松堅[倭譚五十人一首]/顕紀[同追加(2首)]入、

[時雨かとおくれば窓の落葉にて落葉ときけばまた時雨する] (五十人一首；27落葉)

[さびしさにたへぬ夕の柴の戸を訪れてゆく峰の松風] (倭譚五十人一首追加/夕風)

宗春(そうしゆん・猪苗代) → 兼載(けんさい・猪苗代、歌/連歌師) 1 8 1 3

宗春(そうしゆん・万国；道号) → 万国(まんにく・宗春、曹洞僧) K 4 0 5 2

宗春(そうしゆん・徳川) → 宗春(むねはる・徳川/松平/源、藩主) C 4 2 2 7

宗春(そうしゆん・中山) → 宗春(むねはる・中山なかやま、神道/歌人) E 4 2 1 1

宗春(そうしゆん・坂野) → 致知(むねとも・坂野さかの、商家/歌人) B 4 2 8 9

宗俊(そうしゅん・高階) → 宗俊(むねとし・高階たかしな、廷臣/歌人) B 4 2 8 1
 宗俊(そうしゅん・藤原) → 宗俊(むねとし・藤原ふじわら、廷臣/奏楽) B 4 2 8 0
 宗俊(そうしゅん:法諱) → 志山(しざん;道号・宗俊:法諱、臨濟僧) T 2 1 5 8
 宗俊(そうしゅん:法名) → 護道(もりみち・内藤・藤原、武家/連歌) G 4 4 5 5
 宗俊(そうしゅん・守田) → 宗従(そうじゅう・守田もりた、軍記作者) B 2 5 8 7
 宗俊(そうしゅん/むねとし・寺西) → 尚亭(しょうてい・北川/寺西、藩士/儒者) U 2 2 3 8
 宗俊(そうしゅん/むねとし・北村) → 瓠界(瓠海こかい・北村、俳人) C 1 9 2 1
 宗俊(そうしゅん・青山) → 宗俊(むねとし・青山あおやま、藩主/歌) B 4 2 8 3
 宗俊(そうしゅん・山田) → 凶南(となん・山田、幕府医官/漢学者) O 3 1 5 9
 宗峻(そうしゅん;法諱・孤岫) → 孤岫(こしゅう;道号・宗峻、臨濟僧) M 1 9 7 2
 宗舜(そうしゅん・日峰;道号) → 日峰(にっぽう・宗舜、臨濟僧) F 3 3 5 4
 僧濬(そうしゅん;法諱) → 鳳潭(ほうたん;字、華嚴中興の祖) C 3 9 2 5
 草春(そうしゅん・高向) → 草春(くさはる・高向たかむこ、官人/歌人) C 1 7 0 9

- 2511 **宗純**(そうじゅん;法諱・一休いっしゅう;道号、後小松天皇の落胤?) 1394-1481⁸⁸ 母;花山院某の女、臨濟僧;1399京安国寺の象外集鑑門;童子として修行、詩;慕哲竜梵門、外典・経録;清叟師仁門、のち謙翁宗為に参禅;師没後に華叟宗曇門;嗣法、1418一休号、1440大徳寺如意庵塔主/以後諸所修業/1474大徳寺住持の勅命;入寺法語のみで入寺なし、1476堺の豪商尾和宗臨の援助で大徳寺を応仁乱の再興に尽力;法堂・山門等を建設、詩・狂詩を制作、「狂雲集」「続狂雲詩集」「自戒集」「仏鬼軍」、1457「一休骸骨」「一休清語」、「一休水鏡」「一休問答和歌」「往生道百首」「山林風月集」、「一休和尚法語」外著多数、[いづれの時か夢のうちにあらざる いづれの人か骸骨にあらざるべし
それを五色の皮につつまもてあつかふほどこそ男女の色もあれ](一休骸骨)
[宗純(法諱)の別法諱/号]初法諱;周建/一時;宗順、号;狂雲[子]/夢闈/瞎驢/国景/曇華
- F2509 **宗順**(そうじゅん;法諱、俗名;業光、日野資親男)?-? 室町戦国期廷臣;侍従/従五下、1443出家法師、歌人;1472藤原俊成女筆「古今集」を東常縁に送る;1477常縁より古今伝授を受、1494後土御門天皇の御会に参加、連歌;新撰菟玖波集3句入、[宗順(;法諱)の号]雲芳軒
- H2588 **宗恂**(そうじゅん;法諱・西川せいせん/さいせん;道号)?-? 京の臨濟僧;妙心寺の悟溪宗頓門/法嗣、1502美濃瑞竜寺住持、京の妙心寺16世、美濃竜徳寺の開山、「十様錦」「偈集」著
- H2589 **宗順**(そうじゅん;法諱) ? - ? 戦国期永正1504-21頃大坂の天台宗四天王寺別当、四天王寺秋野坊に住;1510(永正7)の地震に破損の本尊を補修、1512(永正9)「四天王寺金堂本尊再興勸進帳」/1517良閑と「何木百韻」一座
- H2590 **宗純**(そうじゅん・長谷場はせば、治純男) 1546-1623⁷⁸ 薩摩の国人/武将、1555-94国人とし戦闘;功績、1603(慶長8)「長谷場越前日記」(;戦闘功績記録)、[宗純(;名)の通称/法号]通称;弥四郎/兵部少輔ひょうぶのしょう/越前守/越前入道(;出家後)、法号;徹山慶菫庵主
- H2591 **宗順**(そうじゅん・内侍原/奈子原なはら?)?-? 1632存 連歌:古田織部・伊達政宗らの連歌会に参加、安楽庵策伝と交流、1604紹由と「千句」「人何百韻」、16「何人百韻」-18「何路百韻」など、智仁親王・仙巖と「三吟何人百韻」、良恕法親王らと「四吟百韻」、外百韻参加多数
- H2592 **宗恂**(そうじゅん・吉田よしだ、宗桂2男) 1558-1610⁵³ 京の医者:父の医業を継嗣;豊臣秀吉・秀次に仕、1600後陽成天皇に調薬を献上;効能/のち徳川家康に出仕、法眼/法印、運氣・本草に精通、漢学;藤原惺窩門、「万病回春鈔」「古今医業」「纂類本草」「修製纂類」「素問講義」著、「難経註疏」「漏刻草」「医方大成論抄」「運氣諸論図」著、「医事雑書」編、外編著多数、[宗恂(;名)の別名/通称/号]初名;光政、通称;孫次郎/意安/意庵、号;又玄子/邨恂
法号;通真院、角倉了以の弟、宗達の父
- B2598 **宗準**(そうじゅん) ? - ? 大阪の俳人、1691賀子「蓮実」4句入、1703矩久「青すだれ」連句入、[春雨や所々しよにひゞきて鐘の音](蓮実;151)
- H2593 **僧遵**(そうじゅん;法諱・号;祥光坊)?-? 寛政1789-1801頃越後の真宗本願寺派光林寺住職、「五重儀勸談」「五重儀勸考」「西路指授編」著

- L2517 **宗淳**(そうじゆん・和田わだ、) ? - 1807 江中後期;江戸の国学者/歌人、
[宗淳(;通称)の名/字/号]名;長純、字;子淳、号;襲明
- B2599 **僧純**(そうじゆん;法諱) 1791 - 1872 越後の真宗本願寺派僧;僧朗門;修学、
美濃垂井の専精寺住職、弘如宗主の時に本山の財政改革尽力、真宗篤信者妙好人伝記編纂、
1842-56「妙好人伝」編刊、1845「法の道志ば」49「仏説孝子経和解」51「日本往生殿和解」、
1858「皇都靈跡志」61「親鸞聖人霊瑞編」66「国恩辨」、「阿弥陀経玄義」外著多数、
[僧純(;法諱)の号] 中山園/正聚房
- 僧遵(そうじゆん;法諱) → 超倫(ちょうりん;字・帛溪/真宗僧/詩人) M 2 8 9 3
宗順(そうじゆん;字) → 慈海(じかい;法諱・宗順、天台僧) P 2 1 7 6
宗順(そうじゆん・藤島) → 宗順(むねのぶ・藤島、神職/歌人) C 4 2 1 4
宗順(そうじゆん・早川) → 丈石(じょうせき・早川はやかわ、俳人) T 2 2 8 6
宗順(そうじゆん;法諱) → 和溪(わけい/かけい;道号・宗順;法諱、臨濟僧) 5 3 1 8
宗順(そうじゆん・すうじゆん;法諱) → 逆翁(げきおう;道号・宗順、曹洞僧) G 1 8 8 8
宗順(そうじゆん・佐々木) → 元俊(げんしゆん・佐々木ささき、藩士/医者) J 1 8 7 5
宗淳(そうじゆん) → 覚勝院(かくしょういん、源氏注釈) E 1 5 7 2
宗淳(そうじゆん・佐々) → 十竹斎(じゅちくさい・佐々木ささき/良峯/丹羽、漢学/史編纂) F 2 1 0 8
宗淳(そうじゆん・藤林) → 宗源(そうげん・藤林ふじばやし、家老/茶人) H 2 5 1 5
宗淳(そうじゆん・高橋) → 親宗(ちかむね・高橋たかはし/紀、廷臣/故実) B 2 8 9 9
宗純(そうじゆん/むねずみ・伊達) → 斉宗(なりむね・伊達、藩主/歌人) I 3 2 3 0
宗純(そうじゆん;法名) → 国貴(くにたか・津守つもり、神職/歌人) 1 7 7 1
宗純(そうじゆん;字) → 宥算(ゆうさん;法諱・宗純、真言僧) B 4 6 8 5
宗純(そうじゆん・江村) → 宗晋(そうしん・江村えむら、藩士/地誌) I 2 5 0 6
- C2500 **増春**(ぞうしゆん;法諱・通称;大法師) ?-? 天曆947-57頃華嚴学僧;華嚴の一乗論を研究、
「華嚴一乗義私記」著(;天曆年間)
- H2594 **蔵俊**(ぞうしゆん;法諱・教明房;号、俗姓;巨勢こせ) 1104-8077 大和高市郡池尻の僧;覚晴門、
唯識法相学;良慶・定清・長有門、左大臣藤原頼長に因明を講義/1168維摩会講師、
1176権律師/77(治承元)元興寺別当/78権少僧都/79興福寺権別当、
興福寺菩提谷に興善院創建;多くの門弟育成;勝詮・覚憲・信円らの師、
没後;1214僧正法印大和尚位追贈、1156「因明唯量鈔」57「因明教授抄」、「因明四相違要文」、
「因明疏抄」「有法自相」「法華玄賛文集」「法相宗名目科」「類聚抄」「因明疏広文集」外著多数、
[蔵俊(;法諱)の通称] 菩提院上綱/八舌僧正
- H2595 **増春**(ぞうしゆん;号・頤生軒、俗姓;壬生) ?-? 1598存 壬生(小槻)朝芳の兄/連歌;1576和漢聯句参加、
山科言経と交流/柳原・高倉等諸家で連歌・聯句を出詠、仁和寺任助親王とも交流、
1593共孝と「何船百韻」/95智仁親王としひとしんのうと「何人百韻」/98清澄と「山河百韻」
増春(ぞうしゆん・吉松) → 増春(ますはる・吉松よしまつ、藩士/和漢学) T 4 0 7 1
宗春院(そうしゆんいん) → 樗園(ちよえん・杉本/宮村、幕府侍医) K 2 8 1 7
- C2501 **宋助**(そうじよ;法諱) ? - ? 1326存 鎌倉後期醍醐三宝院権僧正・法印、
歌人;自分の歌が統後拾遺集に漏れたことを歎き法眼行済に歌を送る、統現葉集入、
勅撰2首;新後拾遺(1394)/新続古今(2116)、
[さりともと慰めきつる行く末も頼みなきまで身こそふりぬれ](新後拾;雑1394)
- C2526 **相助**(そうじよ・平井ひらい/本姓;源) 1329-? 1419存 武将;近江京極氏の出身?、周防大内家の家臣;
特に大内盛見もりはるに恩顧を受、古典;四辻善成の源氏物語講釈を聴く;疑問を質し一書著、
二条良基門、連歌に長ず、1386-88頃「源氏物語千鳥抄」著:盛見に贈る、
- C2502 **宗恕**(そうじよ) ? - ? 俳人;宗祇門、1487「葉守千句」入
- C2503 **宗恕**(そうじよ・大和晴完) ? - 1604 足利家家臣/武家故実家、
1595「謡抄」編(:大元軍配担当)
- C2504 **宗恕**(そうじよ) ? - ? 和泉堺住の俳人、1633重頼「犬子集」4句入、
[年も人もそだつはじめはむ月哉](犬子集;元日6)
- L2516 **宋恕**(そうじよ・吉田よしだ、通称;弥六) ?-1843 江中後期;陸奥(陸中)和賀郡の医者、
国学;平田篤胤(1776-1843)門、1836-7(天保7-8)稗貫・和賀の百姓一揆に関与(指導)

- 宗恕(そうじょ;法諱) → 宥峰(ゆうほう;道号・宗恕;法諱、臨濟僧) D 4 6 7 7
 宗恕(そうじょ;法諱・春庸) → 春庸(しゅんよう;道号・宗恕、臨濟僧) L 2 1 9 5
 宗恕(そうじょ・伊藤) → 担庵(たんあん・伊藤、医/儒/詩歌) 2 6 8 6
 相如(そうじょ→しょうじょ・高岳/高) → 相如(すけゆき/しょうじょ・高岳、詩歌) D 2 3 2 0
 相如(そうじょ・藤原) → 相如(すけゆき・藤原ふじわら、廷臣/歌人) 2 3 1 0
 相如(そうじょ・山崎) → 北華(ほっか・山崎/平、医/俳人/戲作) E 3 9 4 8
 相恕(そうじょ・瀬戸/拝崎) → 琴台(きんだい・拝崎はいざき、藩士/儒者) R 1 6 3 5
- H2597 宗清(そうじょう;法諱、道清男、俗姓;田中/本姓;紀) 1190-1237 48 鎌倉期山城の社僧;1198出家、
 1199少別当/1213法印/35石清水八幡宮寺34世別当/1237検校、家伝の文書・記録類の整理、
 自家の地位確立に尽力、1223「貞応二年宗清法印立願文」37「仏像目録」、「多賀大社或問」著、
- C2506 宗性(そうじょう;法諱、藤原隆兼男) 1202-78 77 鎌倉期華嚴僧;1214東大寺に入;中院・尊勝院住、
 華嚴学;道性・光暁門、弁暁門;華嚴奥義を究む、因明学;良遍門、1219維摩会堅義を勤める、
 尊勝院より大安寺に移住/1226法勝寺の法華八講に参加、
 1228東大寺「華嚴探玄記」三十講で良忠と討論、1246尊勝院院主/60東大寺別当;62辞任、
 貞慶の跡を慕い海住山寺十輪院に隠棲/1266後嵯峨院の招請で宮中で華嚴を講ず、
 1269権僧正、晩年は笠置寺般若院に隠棲、門弟に凝然・公暁など、「華嚴經探玄記抄」著、
 1225「華嚴肝要抄」49「日本高僧伝指示抄」51「日本高僧伝要文抄」著、「華嚴宗祖師伝」著
 「春華秋月抄草」「文華風月至要抄」編、外編著多数、
 歌;続拾遺1381(卷十九;釈教歌)、1237刊[檜葉集]2首入(宗性法師名)、
 [色も香も心の中にあるものを惜しむにいかで花の散るらん](続拾;1381/法界唯心)
 [尊勝院の歌合に冬月を、
 いかなればこのはくもらぬ冬の夜の月にかつらのかげのこるらむ](檜葉;冬305)、
 [☆勅撰作者部類の1192-1282;91歳は誤り]
- I2516 僧生(そうじょう;法諱・館開(かんかい);字、地頭徳田章通2男) ?-? 1333 存 鎌倉期能登羽咋館開の曹洞僧、
 明峰素哲門/能登大忍寺に住/1333羽咋に道興寺開山/永光寺住/美濃に静泰寺を開山;没、
 「僧生仮名法語」著
- C2505 宗松(そうじょう) ? - ? 連歌、1452「宝千句」連衆;第2何路
- C2507 宗証(そうじょう;法名、俗名;長尾(ながお)下総守) ?-? 室町中期の武家;越後守護上杉房定の家臣、
 連歌作者;1500頃宗祇「字良葉うらば」入、新撰菟玖波集入
- C2508 巢松(そうじょう・小谷(おたに)、名;薫) 1788-1854 67 伊勢神戸の儒者;佐野西山門/經史文章・詩に通ず、
 伊勢神戸藩儒;致仕/1824津藩儒;伊賀崇広堂講官・武具奉行/1847督学、1853津に帰る、
 斎藤拙堂・大塩中齋と親交、「巢松詩文集」「巢松西遊記」「羈官漫興」「群書雜抄」、
 「小谷双松詩文稿」「行尚類稿」「漁山吟稿」「双松館詩稿」、1842「木蔭のしづく」外著多数、
 [巢松(;号)の字/通称/別号]字;徳孺、通称;左金吾、別号;双松/友松/紵山(ちよざん)
- 宗性(そうじょう;出家号) → 頼元(よしもと・清原きよはら、廷臣/明經道) 4 7 4 7
 宗肖(そうじょう・伊藤) → 信徳(しんとく・伊藤いとう、商家/俳人) 2 2 4 2
 宗尚(そうじょう・難波) → 宗尚(むねひさ・難波/藤原/飛鳥井、廷臣/日記) C 4 2 2 9
 宗昭(そうじょう・覚如) → 覚如(かくによ・宗昭、真宗本願寺3世) B 1 5 7 0
 宗松(そうじょう・半井) → 卜養(ぼくよう・半井/和氣、医/俳人) 3 9 6 7
 宗松(そうじょう・柘植) → 宗勝(むねかつ・柘植つげ/平、砲術家) B 4 2 2 3
 宗勝(そうじょう;法号) → 元連(もとつら・飯尾いのお/三善、室町幕臣/歌人) D 4 4 1 9
 宗勝(そうじょう・武田) → 元光(もとみつ・武田、武将/伝統保護) E 4 4 3 8
 宗勝(そうじょう・朝原) → 宗勝(むねかつ・あさはら、神職/歌人) D 4 2 6 2
 宗勝(そうじょう/むねかつ・中川) → 乙由(おつゆう・中川なかがわ、俳人) 1 4 2 0
 宗将(そうじょう・徳川) → 宗将(むねのぶ・徳川/松平/源、藩主) C 4 2 1 1
 宗紹(そうじょう・高橋) → 花陶(かとう・高橋たかはし、俳人) O 1 5 1 8
 宗章(そうじょう・村士) → 玉水(ぎよくすい・村士すぐり、儒者/兵学) I 1 6 8 5
 宗章(そうじょう・桐園/勝野) → 秀雄(ひでお・勝野かつの/三勝、製造業/神職/歌) J 3 7 0 6
 宗彰(そうじょう/むねあき・高橋) → 古溪(こけい・高橋たかはし、儒者) M 1 9 2 9
 宗彰(そうじょう・堀江) → 宗彰(むねあき・堀江、里正/国学/教育) E 4 2 2 2

- 宗承(そうじょう;法諱) → 宗承(そうじょう;法諱、真言僧) H 2 5 9 8
 双松(雙松そうじょう→なべまつ・荻生)→徂徠(そらい・荻生おぎゅう、儒者) 2 5 3 1
 双松(そうじょう・島津) → 久光(ひさみつ・島津、領主/藩政実権) C 3 7 0 1
 双松(そうじょう・小谷) → 巢松(そうじょう・小谷おたに、藩儒/詩文) C 2 5 0 8
 双松(そうじょう・小林) → 寒翠(かみすい・小林こばやし、藩士/漢蘭学) H 1 5 6 9
 総昌(そうじょう・石川) → 総昌(ふさまさ・石川いしかわ、旗本/幕臣) H 3 8 9 9
- H2598 宗承(そうじょう;法諱) 1443 - ? 1502存 京真言宗東寺の僧;1457出家、59鎮守供僧、
 1464灌頂を受/1483東寺別当権律師、1501-2宝輪院法印として御影供の供養法の奉行、
 「見聞雑記」「護摩供事抄」「東寺造営文書符案」/1485「東寺法会記」著、
 1497「廿一口方引付条目大概目安」編
- C2509 宗静(そうじょう・土橋どばい、重俊3男) 1636-98 63歳 撰津平野の合薬・酒造業/平野郷総年寄25年務む、
 のち大坂に移住、連歌;里村家門/俳諧;西山宗因門、平野権現連歌壇の興隆に尽力、
 貞門・談林の諸集に入集/1673西鶴「生玉万句」第六駒迎発句等参加、
 1697宗長の遺跡柴屋寺さいおくじに諸家の発句を奉納;「柴屋寺奉納発句」編輯(;息良恵編)、
 [宗静(;号)の通称/別号]通称;九郎右衛門、以計/以慶?、
 別号;宗頤(;初号)/真休斎/大学軒、春林?
 春林と同一説あり? → 春林(しゅんりん・土橋、談林俳人) M 2 1 0 3
 (名・通称・号などで混同がある)
- C2510 宗仍(そうじょう) ? - ? 連歌:1561「飯盛千句」・1573「大覚寺千句」参加
- H2599 倉常(そうじょう;名、菅井すがい、通称;文平)?-? 江中期大阪の医者;奇異の治療で有名、
 1787「扁倉伝註」95「産痘湿痧瘟五正論并斥素問評」、「内経發揮」「難経發揮」「医之道知辺」著
- 宗条(そうじょう・松木) → 宗条(むねなが・松木まつきの、中御門/藤原、廷臣/記録) C 4 2 0 1
 宗城(そうじょう/むねき・源) → 巨城(おおき・源、廷臣/歌人) C 1 4 7 7
 宗城(そうじょう・難波) → 宗城(むねき・難波/飛鳥井/藤原、廷臣/蹴鞠) B 4 2 2 7
 宗城(そうじょう・山口/伊達) → 宗城(むねなり・伊達南洲、藩主/歌) C 4 2 0 5
 宗乗(そうじょう・多賀) → 直昌(なおまさ・多賀たが、藩士/茶道) C 3 2 4 4
 宗乗(そうじょう・朝原) → 宗乗(むねのり・朝原あさはら、神職/歌人) D 4 2 6 3
 宗趙(そうじょう;法諱) → 柏舟(はくしゅう;道号・宗趙、臨濟僧) D 3 6 2 2
 層城(そうじょう;号) → 成章(なりあきら・富士谷、国学/歌) 3 2 2 7
 草城(そうじょう・遠藤) → 信道(のぶひろ・遠藤、国学者) C 3 5 5 3
 相常(そうじょう・田原) → 相常(すけつね・田原たわら、書肆) G 2 3 5 2
 荘条(そうじょう・森) → 養(よう・森もり、医者/書) 4 7 5 4
 藻城(そうじょう・長尾) → 勝元(かつもと・長尾ながお、藩士/記録) N 1 5 9 2
 双松庵(そうじょうあん) → 可搏(よしひろ・蜂屋はちや、藩の連歌師) O 4 7 5 4
 双松園(そうじょうえん) → 真幸(まさき・長瀬、藩士/国学者/歌人) 4 0 0 8
 双松園(そうじょうえん) → 広休(ひろよし・西村にしむら、商家/本草家) H 3 7 7 2
 瘦松園(そうじょうえん) → 玄鶴(げんかく・黒田、医/詩人) I 1 8 2 6
 瘦松翁(そうじょうおう) → 玄鶴(げんかく・黒田くろだ、医者/詩文) I 1 8 2 6
 双松軒(そうじょうけん) → 辰方(ときかた・松岡、故実家) J 3 1 0 4
 僧正聖尋母(そうじょうしやうじんのはは) → 経平女(つねひらのむすめ・衣笠、鷹司基忠の妻/歌人) D 2 9 5 3
 雙松亭(そうじょうてい) → 行義(ゆきよし・松岡/丹治、辰方男/故実/歌) 4 6 2 9
- C2511 蒼松亭清楽(そうじょうていせいらく、3世二松庵)?-? 京栗田口の狂歌作者:2世二松庵万英門、
 師の庵号を継嗣、文字遊戯に長ず、1771(明和8)「狂歌文字俱佐梨くさり」「狂歌巻轆轤」著
- 僧正遍照(そうじょうへんじやう) → 遍照(へんじやう、歌人) 3 9 0 5
 宗松ト養(そうじょうとくよう) → ト養(とくよう・半井、云也男、俳人) 3 9 6 7
 双松楼(そうじょうろう) → 燕石(えんせき・日柳くさなぎ、詩人/勤王派) B 1 3 8 1
 双松老人(そうじょうろうじん;号) → 杭州(こうしゅう;道号・克文;法諱、臨濟僧) J 1 9 5 0
 蔵書園(そうじやえん) → 玉晁(ぎやくちやう・小寺こでら、随筆家) H 1 6 3 1
 宗植(そうじよく;法諱) → 松堂(しょうどう;道号・宗植、臨濟僧) L 2 2 1 6
 宗植(そうじよく;法諱) → 茂林(もりん;道号・宗植、臨濟僧) G 4 4 9 6

- 宗殖(そうしょく・村士) → 淡斎(たんさい・村士すぐり、儒者/茶人) I 2 6 1 2
 宗緒母(そうしよのはは・藤原) → 宗緒母(むねおのはは・藤原ふじわら、歌人) B 4 2 1 4
- C2512 惣四郎(そうしろう・初世銭屋ぜにや、佐々木春重) 1732-9463 1751(宝暦元)京姉小路に書肆を創業、
 店の楼号を竹苞楼/屋号を銭屋とす、伴蒿蹊作品の出版、「竹苞ちくほう楼大秘録」著
 ☆書肆銭屋(佐々木)惣四郎家は初代春重の創業以後[惣四郎]を継承、
 2代春行/3代春蔭/4代春明(1823-81)/5代春吉(出版廃止/販売のみ)/6代春隆と続く、
- C2513 惣四郎(そうしろう・2世銭屋、佐々木春行、春重男) 1764-181956 京の書肆:竹苞楼、故実考証、
 天明の大火で類焼;1801(享和元)寺町通姉小路上の西側に移転、
 伴蒿蹊・高芙蓉・上田秋成と交流、国学・漢学の書籍を多数出版、「近世畸人伝」版、
 「宋本鑑定雑記」「観氏春秋」「素謡世々之蹟」著、
- K2595 惣四郎(そうしろう・3世銭屋、佐々木春蔭、旧姓;能勢) 1800-6061 2代春行の養嗣子、
 3代目を継嗣、国学者、台帳「蔵板員数」「蔵板仕入簿」を調制、
 [春蔭(;名)の通称/号]通称;惣四郎、号;竹苞楼(店の楼号)、屋号;銭屋
- 宗四郎(そうしろう・金吹屋) → 線来(せんらい・入江いりえ、商家/俳人) H 2 4 0 1
 宗四郎(そうしろう・伊勢屋) → 曉雨(せいう・2世ぎょうう、札差/俳人) C 1 6 2 0
 宗四郎(そうしろう・直山) → 大夢(だいむ・直山なおやま、俳人) C 2 6 2 3
 宗四郎(そうしろう・村岡) → 景福(かげとみ・村岡2代むらおか、商家/歌) V 1 5 9 1
 宗四郎(そうしろう・村岡) → 正徳(まさのり・村岡5代、商家/尊攘家) T 4 0 0 7
 宗四郎(そうしろう・奥田) → 三角(さんかく、奥田おくだ、藩士/儒者) E 2 0 1 9
 宗四郎(そうしろう・原田) → 鵲斎(せきさい・原田はらだ、医者/詩歌) K 2 4 0 4
 宗四郎(そうしろう・礪はざま) → 師古(しこ・礪はざま、絵師) T 2 1 2 9
 荘四郎(そうしろう・高橋) → 寛光(ひろみつ・高橋、藩士/紀行記録) H 3 7 4 0
 荘四郎(そうしろう・池内) → 信夫(のぶお・池内いけうち、藩士/養蚕) H 3 5 2 8
 相四郎(そうしろう・岩瀬) → 京山(きやうざん・山東さんとう、戯作者) 1 6 3 3
- C2514 惣二郎(そうじろう・春日かすが、高坂昌信の甥) ?-? 軍学者、1592頃・昌信「甲陽軍鑑」補筆
- 総次郎(そうじろう・伊達) → 輝宗(てるむね・伊達だて、城主/連歌) D 3 0 0 0
 総次郎(そうじろう・伊達) → 忠宗(ただむね・伊達、藩主/詩歌・連歌) Q 2 6 9 6
 総次郎(そうじろう・伊達) → 斉邦(なりくに・伊達、藩主/謡曲/歌) H 3 2 3 1
 総次郎(そうじろう・伊達) → 茂村(しげむら・伊達だて、歌) S 2 1 8 8
 総次郎(そうじろう・間宮) → 士信(ことぶ・間宮、儒者/昌平黌総裁) F 1 9 8 2
 宗次郎(そうじろう・水野) → 忠敬(ただのり・水野みずの、幕臣/本草) Q 2 6 4 5
 宗次郎(そうじろう・土山) → 孝之(たかゆき・土山つちやま、幕臣/豪遊) N 2 6 6 1
 宗次郎(そうじろう・沢) → 米友(べいゆう・沢さわ、書肆/俳人) 2 7 8 2
 宗次郎(そうじろう・黒川) → 通淳(みちあつ・黒川くろかわ、藩士/歌人) J 4 1 0 0
 壮次郎(そうじろう・田島) → 春園(はるぞの・田島たじま、神職/詩歌) K 3 6 3 3
 荘次郎(そうじろう・池田) → 勝古(かつひさ・池田いけだ/橋、商家/国学) T 1 5 6 0
 荘次郎(そうじろう・桑折) → 頼長(よりなが・桑折こおり/くわおり、藩士/国学/歌) M 4 7 6 6
 荘治郎(そうじろう・清水) → 汲元(くみもと・清水しみず、神職/国学) E 1 7 2 3
 想治郎(そうじろう・加藤) → 雪湖(せつこ・加藤かとう、俳人) K 2 4 8 6
 倉次郎(そうじろう・井上/米良) → 東嶠(とうきやう・米良めら/米、藩士/漢学) C 3 1 8 1
 惣次郎(そうじろう・杉原) → 光基(みつもと・杉原すぎはら/村井、国学者) J 4 1 3 4
 惣次郎(そうじろう・中村) → 七友斎(しちゆうさい、中村、儒者/藩士) E 2 1 6 3
 惣次郎(そうじろう・北郷) → 久嘉(ひさよし・北郷きたごう、藩家老/国学) J 3 7 2 7
 惣治郎(そうじろう・渡辺) → 為主(ためぬし・渡辺わたなべ、商家/国学) 2 7 4 3
 惣治郎(そうじろう・秋山) → 富南(ふなん・秋山あきやま、郷士/地誌) D 3 8 5 7
- C2516 相真(そうしん;法諱) ? - ? 鎌倉期僧;法橋、二条派歌人;続現葉入、
 続千載1982、
 [うきたびになほ世をかこつ心こそげに数ならぬ身を忘れけれ](続千;雑1982)
- I2500 宗信(そうしん・法師、高階?) ?- ? 鎌倉期僧/歌人;1300遺塵集入、
 一万首作者と同一? → 宗信(そうしん;法諱/法印;1379前に没) C 2 5 1 8

- C2515 **宗親**(そうしん;法諱) ? - ? 南北期の僧;権大僧都/法印、
歌人/勅撰3首;新千載(1945)/新後拾遺(784)/新続古今(954)、
[憂き世ともなかなかいはじひたすらに数ならぬ身はあるに任せて](新千;雑1945)
- C2518 **宗信**(そうしん;法諱) ? - ?1379前没 南北期大原魚山?の僧;法眼/法印、
歌人:1364頃成立「一万首作者」入/1366「年中行事歌合」参加、
勅撰3首;新拾遺(1540)新後拾遺(698/1392)、
[老いらくの涙に曇る春の夜は月も昔や思ひ出づらん](新拾遺;雑1540)
- C2517 **宗深**(そうしん・しゅうじん;法諱・雪江せつこう;道号、俗姓;野間)1408-8679 撰津の臨濟僧;
建仁寺五葉庵の文瑛門;得度/諸師参禅、五山を出て関山派日峰宗俊・義天玄詔門;嗣法、
京の竜安寺住寺、1462大徳寺41世、応仁乱後の妙心寺復興に尽力;妙心寺9世、
「雪録」「雪江集」「偈集」「正法山妙心禅寺記」著、「雪江和尚語録付行状」
[雪江宗深の諡号] 仏日真照禅師
- I2501 **宗信**(そうしん) ? - ? 室町戦国期/歌人;
1474太田道灌「武州江戸歌合」参加、
[うらめしな扱も一夜の隔てなくまつとばかりの月日へよとや]、
(武州歌合;十七番左/連夜待恋)
- I2502 **宗信**(そうしん・志野しの/篠しの)1445-152379 香道志野流の開祖、足利義政の近習、歌・茶道、
村田珠光と交流、1501自邸で名香合(志野家名香合)を開催、「香道記」「名香之目録」、
1501「志野宗信筆記」、「志野宗信香合式」「志野夫の岡」「炷合しごう十種香之伝」外著多数、
[宗信(;号)の名/通称/別号]名;以実通称;三郎左衛門/三郎右衛門尉、
別号;松隠軒/花香舎、宗温そうおん・松栄尼しょうえいにの父
- I2503 **宗岑**(そうしん・松田まつだ、名;元藤、元成男/本姓;藤原)1494-155966 室町幕府の鷹匠:
下毛野武氏門、備前で出家入道?、「蒙求臂鷹往来」著、
[宗岑(;法名)の通称] 左馬助さまの付
- I2504 **宗真**(そうしん;法諱) ? - ? 桃山江前期文禄慶長1592-1615頃和泉堺の社僧、
天神西坊の社僧、連歌:宗柳門、1597「慶長二年十月五日盛誉円玖等何船百韻」参加
- I2505 **宗真**(そうしん・小島こじま)1580- ?(70余歳没) 安桃・江前期京の書家:本阿弥光悦門、
「尚書説命及高宗彤日篇」書、
[宗真(;名)の号] 慎独軒/晴斎
- C2519 **宗親**(そうしん;法諱、佐渡代官旗本田中清六正長3男)?-? 1665存 法相僧;清水寺執行/僧都、
清水寺の管理/1629清水寺炎上後の再建復興に尽力、1665事あり執行職を奪われ失脚、
易学:1643「摧邪易論」、44仮名草子「祇園物語」-59「三国僧位要記略」著、山中倡庵の師
- C2520 **宗信**(そうしん;号、姓;広岡ひろおか)?-? 江前期明暦延宝1655-81頃大阪の俳人:令徳門、
談林派俳諧;西鶴と交流、1657「牛飼」入、
1675「千宜理記ちぎりき」編(:重頼の巻頭句/宗房名の芭蕉句入)、
1673西鶴?「哥仙大坂俳諧師」76西鶴「古今俳諧師手鑑」78西鶴「物種集」入、
[霧の海ふりをかへてや雪の山](哥仙;十五番左/ふり;容姿)
[宗信(;剃髮号)の通称/別号]通称;紅屋弥兵衛、別号;定房(;初号)/柳雨軒
- I2506 **宗晋**(そうしん・江村むら)1663- ? 1699存 京の人;1687美作津山藩士として出仕、
家老長尾勝明の命で1691地誌「作陽誌」編纂、「作陽十一社記」著、
1699(元禄12)宗純に改名;肥後熊本藩に出仕、
[宗晋(;初名)の別号/号]後名;宗純、号;春軒
- I2507 **宗心**(そうしん・堀内ほりのうち/初姓;三好・次姓;本橋)1719-6749 堀内仙鶴の養子;堀内家2代目継嗣、
茶人;7世千宗左(如心斎天然)門;師を支え七事式制定にも関与、
以後表千家入門者は久田・堀内両家の取次を経ることとなり稽古も両家でおこなった、
「千家茶道伝授之巻」著、宗琢の父/方合斎宗心の養父、
[宗心(;通称)の別通称/号]別通称;弥五郎、号;桃源斎/不寂斎/宗関、
- I2508 **僧斟**(そうしん;法諱) ? - ? 天明1781-89頃撰津の真宗僧、
1783「浄土和讃四十八首絵抄」、「改悔文絵抄」「改悔状絵抄」「蓮如上人一代絵抄」著
- K2596 **宗真**(そうしん・代田しろたゝ)1827-189064 播州竜野の生、茶道;宗徧流市村宗泉・吉田宗意門、

竜野藩脇坂家の茶頭さとう、維新後;宗徧流四方庵五世と称し江戸で茶道普及に尽力、池坊華道に長ず、国学・歌人、

[宗真(;名)の別名/通称/号]別名;醜磨にまろ/真学、通称;重之助

号;5世四方庵よほうあん/習々斎/羽白庵/陸沈斎

宋臣(そうしん・山田)	→	重秋(しげあき・山田やまだ、漢学/大肝煎)	a 2 1 0 2
宗心(そうしん;法名)	→	頼則(よりのり・能勢のせ/源、武将/連歌)	J 4 7 4 4
宗心(そうしん;剃髮号)	→	天竺徳兵衛(てんじくとくべえ、貿易商;シヤム渡航)	D 3 0 6 4
宗心(そうしん;法諱)	→	祖道(そどう;道号・宗心;法諱、曹洞僧)	B 2 5 6 3
宗心(そうしん・窪田)	→	松栞(しょうひ・窪田/西川、俳人)	B 2 2 3 0
宗心(そうしん)	→	夜白(やはく・長谷川はせがわ、商家/俳人)	D 4 5 9 6
宗真(そうしん;法諱・実伝)	→	実伝(じつでん;道号・宗真、臨濟僧)	U 2 1 9 7
宗真(そうしん・笹島/雨森)	→	牛南(ぎゅうなん・雨森あめのもり、医者/詩)	G 1 6 4 7
宗岑(そうしん;法諱)	→	大虫(だいちゅう;道号・宗岑、臨濟僧)	K 2 6 6 3
宗臣(そうしん・伊達/桑折)	→	宗臣(むねしげ・桑折こおり、藩家老、歌/俳人)	B 4 2 4 2
宗森(宗岑そうしん・片岡)	→	旨恕(しじよ・片岡かたおか、俳人/連歌)	E 2 1 0 2
宗辰(そうしん・柘植)	→	宗辰(むねとき・柘植つげ、藩士/旧記集録)	B 4 2 7 8
宗辰(そうしん・前田)	→	宗辰(むねとき・前田まえた、藩主/和学)	E 4 2 2 3
宗信(そうしん・藤原)	→	宗詮(むねあきら・藤原、廷臣/連歌)	B 4 2 0 1
宗信(そうしん・海部)	→	宗信(むねのぶ・海部あまべ、武家/連歌)	C 4 2 0 9
宗信(そうしん;法名)	→	秀長(ひでなが・東坊城ひがしほうじょう、歌人)	D 3 7 4 2
宗信(そうしん;法諱)	→	宗信(しゅうしん;法諱、真宗本願寺派僧)	X 2 1 6 1
宗信(そうしん・平)	→	宗宣(宗信むねのぶ・平たいら、廷臣/歌)	C 4 2 0 7
宗信(そうしん・深田)	→	明峯(めいほう・深田ふかだ、藩儒者)	4 3 3 5
宗信(そうしん・深田)	→	慎斎(しんさい・深田/永原、明峯の養子/藩儒)	O 2 2 3 8
宗信(そうしん/むねのぶ・堀内)	→	仙鶴(せんかく・堀内、茶道/俳人)	F 2 4 0 3
宗信(そうしん・桂)	→	宗信(むねのぶ・桂かつら、絵師)	C 4 2 1 3
宗信(そうしん)	→	勘兵衛(三世かんべえ・村上、書肆)	G 1 5 6 0
宗信(そうしん・島津)	→	宗信(むねのぶ・島津しまづ、藩主/弓術)	D 4 2 8 6
宗津(そうしん;法諱)	→	月航(げっこう;道号・玄津、臨濟僧)	H 1 8 0 2
宗親(そうしん・藤原)	→	宗親(むねちか・藤原ふじわら、廷臣/詩人)	B 4 2 5 8
宗親(そうしん・長沼/藤原)	→	宗親(むねちか・長沼/中沼/藤原、廷臣/歌)	B 4 2 5 9
宗親(そうしん;初法諱)	→	月耕(月耕げっこう;道号・道稔、黄檗僧)	H 1 8 0 3
宗箴(そうしん;法諱)	→	益之(えきし;道号・集箴しゅうしん;法諱、臨濟僧)	F 1 3 6 5
宗深(そうしん;初法諱)	→	宗典(そうてん;法諱、真言醍醐寺僧)	I 2 5 5 7
崇信(そうしん;法諱)	→	月筌(げつせん;字・崇信、真宗僧/宗典)	H 1 8 1 4
相真(そうしん)	→	長相(ながすけ・藤原/持明院、歌人)	D 3 2 8 9
相親(そうしん・今中)	→	大学(だいがく・今中いまなか、藩士/日記)	J 2 6 4 8
相信(そうしん・狩野)	→	春笑(しゅんしょう・狩野かのう、絵師)	L 2 1 0 3
艸臣(草臣そうしん→しげおみ・児島)	→	葦原(いげん・児島強介、儒/詩歌)	1 1 8 2
草臣(そうしん・幸田)	→	草臣(くさおみ・幸田こうだ、国学/歌人)	E 1 7 1 8

C2521 **宗尋**(宋尋そうじん;法諱、法性寺ほっしょうじ為信男/本姓;藤原)?-? 鎌倉南北期;興福寺僧;法印、為理ためり弟、歌人;頓阿(1289-1372)と交流(;草庵集入)、1350「為世十三回忌和歌」参加、勅撰2首;新千載868・新拾遺1852、
[心からこころの月のすみかねていくよの闇に迷ひきぬらん](新千;釈教868/寄月尺教)、
[ありはつる世とし思はばいかばかり数ならぬ身の猶うからまし](新拾;雑1852)

C2522 **宗訊**(そうじん・小村こむら、名;友弘)1483-1551⁶⁹ 戦国期和泉堺の町人/屋号;河内屋、宗周の父、連歌師;肖柏門/1506師肖柏より古今伝授を受、肖柏没後堺連歌壇の中心として活動、「宗訊句集」「潮信句集」、「牡丹花肖柏伝」著、「宗訊不審抄」問、1506肖柏らと「恋百韻」、1515肖柏と「何路百韻」/35幸松と「山何百韻」/50寿慶・三善長慶と「三吟何人百韻」参加、
[宗訊(;号)の通称/別号/道号]通称;与四郎、別号;潮信/潮信斎、道号;三玄

- I2509 **宗仞**(そうじん;法諱・千岳[嶽]せんかく;道号、俗姓;奥村)?-? 大阪の臨濟僧:出家後諸国行脚、美濃の正伝寺惟久門/1617加賀金沢に移住;宝勝寺を創建、藩主前田綱紀命で伝灯寺再興、1655(明暦元)伝灯寺住寺;前田家の帰依を得て光高・利常公の追福詩句を献ず、1658「微妙陽広公奉悼詩歌」、「宝勝寺千岳和尚啓書」著
- C2523 **宗仁**(そうじん) ? - ? 伊勢山田住の俳人、1633重頼「犬子集」4句入、[松風に散らすや梅の笠とがめ](犬子集;156松笠に梅花笠が笠咎めしている見立て)
- I2510 **桑人**(そうじん・草々庵) ? - ? 尾張の美濃派俳人:宗匠、1748「延享五戊辰歳旦」49「寛延二己巳暦歳旦」50「廿日正月」53「宝暦三とりのとし歳旦」編
宗仁(そうじん・長) → 清楓(せいふう・長ちよう、儒者/絵師) J 2 4 5 2
宗岑(そうじん、宗森そうしん) → 旨恕(じよ・片岡、俳人) E 2 1 0 2
- I2511 **造真**(そうしん;法諱) ? - ? 紀州住の天台僧、
「十不二門指要抄科文」「楞伽経りょうがきょう心玄義講録」著
造真(そうしん;字) → 堅亮(けんりやう;法諱・造真、真宗僧)M 1 8 9 7
宗神舎(そうしんしゃ) → 秀政(ひでまさ・吉野よしの、神職/地誌) D 3 7 8 1
宗深道人(そうしんどうじん) → 洞雲(とううん・狩野かのう、探幽門/絵師) B 3 1 2 0
宗心房(そうしんぼう) → 謙信(けんしん・上杉、武将/歌人) C 1 8 3 5
- K2549 **窓睡**(そうすい) ? - ? 江前期俳人;1691不角「二葉之松」2句入(154/390)
早穂(そうすい・西村) → 早穂(はやお・西村にしむら、歌人) J 3 6 5 9
宗水(そうすい・宮川) → 良致(よしむね・宮川みやがわ、茶道/歌) P 4 7 3 7
- C2524 **宗瑞**(そうずい・阿佐井野あさいの)?-1531or32(60歳頃没) 戦国期和泉堺の商家[遠野屋]の生、医者;女科(阿左井婦人科と称)を得意、私財を投じ1528(享保元)「新編名方類証医書大全」刊行、(これは明の熊宗立の「医書大全」を翻刻;日本最初の医書開版となる)、なお阿佐井野家は阿佐井野版と称される「三体詩」「論語」などを開版;印刷普及に貢献
- C2525 **宗瑞**(初世そうずい・中川なかがわ、)1679/85-174466-60? 江戸蔵前の両替商/幕府御用達、晩年は窮乏、俳人;杉風・沾徳門/其角と交流、1705沾徳「余花千句」入、16「江戸筏」編(沾徳点)独吟歌仙入、俳諧改革;1731「五色墨」(5人;共編)、「柿むしろ」(咫尺と共編)、「甲山行」「ななやどり」編、沾徳追善「白字録」沾洲らと共編、追善集;「翌のたのむ」(至芳編)「白兔余稿」(:2世宗瑞編)、[年となく夜のあるや桐火桶きりひおけ](江戸筏第一発句)
(年の余の「冬」・日の余の「夜」は火鉢を抱えての読書の時間)、
[初世宗瑞(;号)の通称/別号]通称:三郎兵衛、別号;風葉(;初号)/白兔園
参照 → 五色墨の五子(ごしきずみのごし)
- I2512 **宗瑞**(2世そうずい・広岡ひろおか/修姓;菅)1721-7252 常陸水戸藩士、江戸目白台住/俳人;初世宗瑞門、1751「続五色墨」編、64初世宗瑞追善「白兔余稿」編、67「白兔茶話」72「鼎足集」著、1778「頭陀の日記」著、80「庚子歳旦」編、84「杉家俳則」編(;84宗周校訂補刊)、「白兔五類」編、外編著多数、追善「白兔園余稿」;門弟梅人編(俳諧作法書)、
[2世宗瑞(;号)の通称/別号]通称;戸太夫、片枯先生、
別号;2世白兔園/白兔山人/以竜庵/白眼台/一叟/柳門/竹堂/梅人、法号;正容院
- I2513 **宗瑞**(3世そうずい・松井まつい)1743-181472 江戸の俳人;2世宗瑞門、
1801「宗瑞歳旦集」著、1810「文化七庚午歳旦」編、
[3世宗瑞(;号)の通称/別号]通称;忠二郎、別号;3世白兔園/目白山人/李門/竹道
宗瑞(4世そうずい・浅井) → 寥和(りやうわ・浅井あさい、俳人) J 4 9 6 7
宗瑞(そうずい・北条) → 早雲(そううん・北条/伊勢、武将/城主) G 2 5 0 6
宗瑞(そうずい・毛利) → 輝元(てるもと・毛利、武将/藩主/連歌) D 3 0 0 1
蒼翠園(そうすいえん) → 景寛(かげひろ・高林たかばやし/久津見、藩士/歌) U 1 5 9 5
相水翁(そうすいおう) → 秀和(しゅうわ・大野、武士/俳人) I 2 1 4 8
藻水亭東子(そうすいとうし) → 東子(とうし・藻水亭そうすい、俳人) T 3 1 1 4
相崇(そうすう・秦) → 相崇(すけたか・秦はた、神職) G 2 3 3 6
- C2527 **宗輔**(宗助そうすけ・為川ためかわ、別称;並木閣蔵)?-? 江中期宝暦-天明1751-89頃大阪歌舞伎作者:為永千蝶門;1760大坂姉川新四郎座出勤/64三榎大五郎座で立作者/初世並木正三門、正三の二枚目/一時並木閣蔵名/1773(安永2)正三没後紀州に閑居?、74奈河亀輔に従う、

1776五十五十輔・85奈河七五三助の許で二枚目/浜芝居兼任/1789頃から不明、
 1764「龍宮城たつのみや弓勢祝言ゆんぜいことぶき」65「小ぎく半兵衛新板二冊物」65「男女相性鑑」、
 1765「大坂日記塩の長次郎」70「淀屋橋喧嘩」74「突殺噂の廿八夜」85「艶女の恋妬」、
 1786「大湊恋憶当」、「近頃河原達引ちかごろかわらのたてひき」外著多数

C2528 **宗輔**(そうすけ・金井かない) ? - ? 江中期宝暦1751-64頃江戸歌舞伎作者;金井三笑門、
 師の助作者、1761「江戸紫根元曾我」助作

2512 **宗輔**(そうすけ・並木なみき) 1695- 1751 57 大阪の生/備後三原の成就寺僧/還俗、
 浄瑠璃作者:西沢一風(or田中千柳)門/豊竹座付、1726「北条時頼記」(;一風・蛙文と合作)、
 好評;以後立作者;15年間豊竹座中心作者として活躍/1741-42江戸肥前座に出勤、
 帰阪後;一時歌舞伎作者、1475浄瑠璃作者に復帰;並木千柳名で竹本座で合作/晩年豊竹座、
 1730「蒲冠者藤戸合戦」43「女鳴神振分曾我」、45浄瑠璃に復帰;46「菅原伝授手習鑑」、
 1747「義経千本桜」48「仮名手本忠臣蔵」50「文武世継梅」51「一谷嫩軍記」など名作多数
 [宗輔(;号)の別号/家名/法諱]別号:宗助/惣輔、千柳(初世)/舎柳/市中庵、
 家名:松屋、法諱:断継

I2514 **左右助**(そうすけ・原はら/初姓;真下/松本) 1790-1860 71 上州碓井郡板鼻の生、儒者原思斎の養子、
 松本家を嗣ぐ、和算/暦算;小野栄重門/師栄重が伊能忠敬に従い全国測量に時に随伴、
 のち白石長忠門、暦算・測量・製図の研究に専念、
 「諸家算題額集」「円内外四円術」「楕円錐算積解」著、
 [左右助(;通称)の名/別通称/号]名:賀度、別通称;加免太郎/賀一/左右介、号;行簡

I2515 **宗助**(そうすけ・渋沢しづさわ、号;誠室、宗休男) 1794-1870 77 武蔵榛沢郡血洗島村の製藍玉業/養蚕家、
 代々岡部藩主安部家の御用達/領内の名主役、書;中村仏庵門、1855「養蚕手引抄」著

- | | | | |
|-----------------|---|---------------------------|-----------|
| 宗助(そうすけ) | → | 宗輔(そうすけ並木、浄瑠璃作者) | 2 5 1 2 |
| 宗助(そうすけ・岩崎) | → | 守斎(しゅさい:号・岩崎いわさき、儒者) | Y 2 1 7 7 |
| 宗助(そうすけ・渡辺/石井) | → | 屋烏(おくう・渡辺/石井、藩士/俳人) | B 1 4 4 6 |
| 宗助(そうすけ・松永) | → | 花遁(かんとん・松永まつなが、商家/詩人) | O 1 5 2 3 |
| 宗助(そうすけ・西山) | → | 正之(まさゆき・西山にしま、幕臣/国学) | R 4 0 4 2 |
| 宗助(そうすけ・菱川) | → | 月山(げつざん・菱川/菅/修姓;菱藩士/儒者) | E 1 8 7 7 |
| 相助(そうすけ・平井) | → | 相助(そうじよ・平井ひらい/源、武将/連歌) | C 2 5 2 6 |
| 荘助(そうすけ・西尾/芝田) | → | 温(はる・芝田/西尾にしお、儒者) | F 3 6 9 4 |
| 荘助(そうすけ・神戸) | → | 由道(よしみち・神戸かんべ、詩人) | H 4 7 3 9 |
| 荘助(そうすけ・伊形) | → | 霊雨(れいう・伊形いがた、儒者/詩人) | 5 1 1 1 |
| 荘介(そうすけ・加藤) | → | 蘭山(らんざん・加藤かとう、藩士/儒者) | C 4 8 2 8 |
| 惣輔(宗助そうすけ・並木) | → | 宗輔(そうすけ・並木なみき、浄瑠璃作者) | 2 5 1 2 |
| 惣助(そうすけ・恩田) | → | 直高(なおたか・恩田おんだ、藩士) | B 3 2 4 8 |
| 惣助(総助そうすけ・丹羽) | → | 思亭(してい・丹羽にわ、儒者/家塾教育) | V 2 1 1 8 |
| 惣助(そうすけ・岸名/新保屋) | → | 昨囊(さくのう・岸名、材木業/俳人) | B 2 0 4 6 |
| 惣助(そうすけ・萱場) | → | 重章(しげあき・萱場かやば、藩士/国学) | O 2 1 0 9 |
| 惣助(そうすけ・佐野) | → | 正直(まさなお・佐野さの、藩士/儒・国学/歌) | P 4 0 8 9 |
| 惣助(そうすけ・島地) | → | 保定(やすさだ・島地しまじ、藩士/歌人) | F 4 5 9 9 |
| 惣助(そうすけ・大坂屋) | → | 長秋(ながあき・橋本はしもと、商家/和漢学) | O 3 2 3 5 |
| 総介(そうすけ・吉野屋) | → | 鉄之介(てつのすけ・関、藩士/桜田門外変) | C 3 0 5 9 |
| 総助(そうすけ・長島) | → | 宜青(よしはる・長島ながしま、歌人) | O 4 7 2 4 |
| 左右助(そうすけ・松本) | → | 賀慶(がけい・松本まつもと、和算家) | K 1 5 7 8 |
| 左右助(そうすけ・丁野) | → | 遠影(とおかげ・丁野ちやうの、藩士/官吏/歌) | V 3 1 7 5 |
| 左右輔(そうすけ・升屋/西島) | → | 信敬(のぶあき・西島にしじま、商家/歌人) | J 3 5 5 0 |
| 象頭山人(そうずさんじん) | → | 正勝(まさかつ・越智おち/山下/津田/久保、神職) | C 4 0 1 0 |
| 象頭山人(そうずさんじん) | → | 匡直(まさなお・牧まき、石潭/儒者/歌人) | S 4 0 5 4 |
| 宋是(そうぜい) | → | 几圭(きけい・高井、俳人) | 1 6 1 2 |

B2556 **宗濟**(そうせい;法諱、中御門[藤原]宗経男?) ?-? 鎌倉前期?の僧;法眼/歌人;新後拾遺1435、
 [夜な夜なはかよふ夢路ゆめぢやうつつにも面影ちかきむかしなるらむ](新後拾;雑1435)

- I2517 **宗清**(そうせい;法諱・以天[伊天]いてん;道号)1472-1554⁸³ 山城の臨濟僧;出家後に東海宗朝門;嗣法、1519大徳寺住寺、1521北条早雲開基の相模早雲寺開山に招聘/22大徳寺再住;83世、1553後奈良天皇より禪師号を受、「伊天和尚録」「江湖集秘語抄」「芥入須弥稿」著、[以天宗清の号]号;正宗大隆禪師/機雪
- C2531 **宗清**(そうせい・村田むらた) ? - ? 音曲家;尺八、1669「洞簫曲どうしょうきょく」;秋田屋刊
- I2518 **宗清**(そうせい;通称・蜂谷はちや、号;石見掾)?-1688 香道家;志野流七世(蜂谷家四代)、1660頃「古代御香炷合之式」著
- C2532 **宗清**(そうせい) ? - ? 京の西六条の俳人、1657燕石「牛飼」入;35、1690言水「新撰都曲」入;56、
[いかならん富士の霰あられのこけ所どころ](都曲;56/広大な裾野と小さな霰の取合せ)
- 僧生(そうせい;法諱・館開)→ 僧生(そうしょう;法諱・館開;字、曹洞僧) I 2 5 1 6
 宋世(そうせい→そうよ;法名)→ 雅康(まさやす・飛鳥井/藤原、歌学/蹴鞠/書) 4 0 2 2
 宗性(そうせい;法諱) → 宗性(そうしょう;法諱、華嚴僧/歌人) C 2 5 0 6
 宗清(そうせい) → 宗清(そうしょう、社僧/検校) H 2 5 9 7
 宗清(そうせい;法名) → 為広(ためひろ・冷泉れいぜい、廷臣/歌人) 2 6 7 4
 宗清(そうせい・喜多村) → 立以(りゅうい・喜多村/北村きたむら、俳人) 4 9 0 7
 宗清(そうせい・高木) → 元隆(もとたか・高木たかぎ、商家/歌人) K 4 4 3 8
 宗清(崇清そうせい;隠居号)→ 高房(たかふさ・三井、4代八郎右衛門) D 2 6 6 7
 宗静(そうせい・土橋) → 宗静(そうじょう・土橋、商家/連歌/俳人) C 2 5 0 9
 宗濟(そうせい) → 宗濟(そうさい、歌人) B 2 5 5 6
 宗成(そうせい) → 一雨(いちう・夏目、俳人) C 1 1 4 4
 宗成(そうせい;法諱) → 九峰(きゅうほう;道号・宗成、臨濟僧) M 1 6 8 9
 宗成(そうせい・楠) → 宗成(むねしげ・楠くすのき、歌人) E 4 2 3 4
 宗成(そうせい・鳥山) → 崧岳(すうがく・鳥山とりやま、儒/詩人) 2 3 9 6
 宗正(そうせい・大橋) → 宗桂(そうけい・大橋おおはし、将棋士) G 2 5 9 1
 宗正(そうせい・幸阿弥) → 幸阿弥(よしかみ・四世こうあみ、蒔絵師) N 1 9 6 1
 宗正(そうせい・那須) → 宗正(むねまさ・那須なす、国学/歌人) E 4 2 0 7
 宗誓(そうせい) → 宗誓(しゅうせい、真宗大谷派僧;親鸞調査) X 2 1 8 0
 宗精(そうせい・手島) → 毅庵(きあん・手島てしま、心学者) J 1 6 5 3
 宗誠(そうせい・淵) → 岡山(こうざん・淵ふち/大神、儒者) G 1 9 3 3
 宗盛(そうせい・平) → 宗盛(むねもり・平たいら、清盛男/武将) C 4 2 6 3
 巢生(そうせい・林) → 屋山(おくざん・林はやし、儒者) D 1 4 0 4
- 2513 **宗砌**(そうせい、姓;高山/本姓;源/名;時重)?-1455 室町期武家;山名宗全の家臣、連歌師;浅山梵燈庵門、1427以前高野山に出家/1428「初心求詠集」著、歌学;正徹門、1433將軍の北野社万句参加/京の連歌会に復帰/1449北野会所奉行;宗匠に就任、一条兼良と式目改訂作業、連歌会指導;技巧を排し正統連歌復活に尽力、1449伊勢下向、1449忍誓「広柏ひろがしむ千句」参加;円熟期([種を誰たれま葛のかゝる岩根松]第二発句)、1450「宗砌句集」兼良に提出/兼良邸異体連歌興行参加/52「花能万賀喜はなのまがき」著、1454「宗砌句」自編/同11月政変で山名宗全の但馬退居に随い離京、12月「行助句集」加點、上記以外の主な作品;1434「独吟山何百韻」45「月千句」「雪千句」/52「宝徳千句」、「宗砌発句」「救済宗砌百句合」「古今連談集」「袖内」「密伝抄」「宗砌返札」「砌塵抄」外多数、新撰菟玖波115句(付句92/発句23)入
 [しのゝめのあしたの山のうす霞](新菟玖波;一春上/前句;裏か表かころもともなし)
 [宗砌(;号)の通称/法名]通称;民部少輔みんぶのしょう、法名;玉底
 双清窩主人(そうせいかしゅじん)→了英(りょうえい;法諱・松林、真宗僧/漢学)M 4 9 2 8
 相生軒(そうせいけん) → 景吉(かげよし・村上むらかみ、医者/僧) L 1 5 4 8
 蒼生彦(そうせいげん→たみこ・白田)→正秋(まさあき・白田うすだ/鷲見、国学者)N 4 0 9 6
 そうせい侯(そうせいこう;綽名)→敬親(たかちか・毛利もうり/大江、藩主/維新推進)D 2 6 0 0
 蒼生子(そうせいし・羽倉/荷田)→蒼生子(たみこ・荷田かだ、国学/歌人) G 2 6 5 8
 双星子(そうせいし・千柳亭)→唐麿(からまる・千柳亭/錦織、綾彦、狂歌)F 1 5 9 6

- 蒼生女(そうせいじょ・米川)→ 蒼生女(たみじょ・米川よねかわ、歌人) U 2 6 4 2
 蒼生雄(そうせいゆう・西川)→ 蒼生雄(民雄たみお・西川にしかわ、国学) Y 2 6 8 2
- 2514 **宗碩**(そうせき・月村齋げつそんさい;号)1474-153360 尾張茨江うばえの生/伊勢住;連歌作者;宗祇門、1498正月「山河百韻」参加;初見、1501宗祇より古今集の講釈を受/宗祇最後の旅に随伴;1502宗祇の函根湯本での客死を看取る、三条西実隆邸に出入し詠作指導を受、種玉庵の跡に住;連歌師総宰として活動、1513頃知恩寺の婦人と結婚;子女あり、各地行脚;能登七尾の畠山氏に下向/1516-17肥後・薩摩・種子島へ、1531秋門弟周桂と中国へ;33長門府中に客死、源氏物語・百人一首など古典・連歌の註釈、肖柏「池田千句」参/1516自邸で3月11-13日「十花千句」催(;賢仲百日追善/中江員継願主)、1518「東山(安養寺)千句」参加、百韻多数;1502伊香保三吟百韻/04宗碩独吟百韻/10肖柏性繁と三吟百韻/22何人百韻など、「勅撰名所和歌集」編纂/紀行「佐野の渡」「美濃紀行」「藻塩草」「宗碩回章」外著多数
- I2519 **草碩**(そうせき・廬ろ、名;玄琢、庄左衛門男)1647-8842 明人廬君玉の末裔、肥前長崎の医者:1658小野昌碩門/1673京の桂草叔門、長崎で医業、天文;小林謙貞門、本草学にも通ず、福山徳順の師、「薬性集要」著、[草碩(;字)の通称/号]通称;徳兵衛、号;葆庵
- I2520 **宗碩**(そうせき・小山田おやまだ、名;重範、重明男)1648-171063 常陸細谷の医者;江戸の数原宗的門、1687(貞享4)水戸藩医、「幼々彙略」著、[宗碩(;通称)の字/別通称/法号]字;子寛、別通称;半八、法号;陽正院
- I2575 **草石**(そうせき) ? - ? 江前期俳人;1691不角「二葉之松」入(187)
- C2533 **雙石**(そうせき・落合おちあい、名;賡こう、兼令男)1785-186884 日向飫肥藩士/漢学・程朱学・詩;僧海洲門、漢音;1804長崎の吉村正隆門/1807帰藩;藩校学問所教授職/江戸の冢田大峯門、昌平黌入学、詩;藝備の菅茶山・頼春水門/1824昌平黌再入学;舎長、安井息軒らと同学、1830飫肥帰藩;藩主侍読、31藩校振徳堂教授、大坂藩邸監として1866(慶応2)まで大坂滞在、「国語統」「左伝統」「詩経統」「書経統」「周易統」「論語統」「孟子補義」、1859「鴻爪詩集」著 [雙石(;号)の字/通称]字;子載、通称;鉄五郎/敬助
- 宗碩(そうせき・摂待) → 盛武(もりたけ・摂待せつたい、藩士/故実家) F 4 4 6 0
 宗碩(そうせき;法諱) → 大巖(だいてん;道号・宗碩;法諱、臨濟僧) K 2 6 7 4
 宗碩(そうせき;初法諱) → 超宗(ちやうしゅう;道号・如格;法諱、臨濟/黄檗僧) I 2 8 6 8
 宗碩(そうせき・横田) → 伯慎(はくしん・横田よこた、儒者) D 3 6 3 4
 宗碩(そうせき・久山) → 好武(よしたけ・久山ひさやま、医者/歌人) L 4 7 0 7
 宗積(そうせき・比喜多) → 松斎(しょうさい・比喜多ひきた、茶人) I 2 2 9 7
 宗績(そうせき;法諱) → 妙喜(みょうき;道号・宗績、臨濟僧) G 4 1 2 9
 桑石(そうせき・中山) → 桑石(くわし・中山なかやま、藩士/国学者) D 1 7 5 6
 漱石(そうせき・村田) → 桃隣(とうりん・村田、幕臣/俳人) I 3 1 3 6
 漱石(そうせき・黒崎) → 洗心(せんしん・黒崎くろさき、儒者/詩人) M 2 4 6 6
- I2521 **漱石子**(そうせきし・藤井ふじい) ? - ? 江中期享保1716-36頃京の絵師、1732刊「和朝名勝画図」画
- C2534 **宗節**(そうせつ;法名・観世元忠かんぜもとただ、元広[道見]男)1509-8375 母;金春元安[禅鳳]女、能役者:観世大夫7世;1522(14歳)父没後父の従弟観世長俊より指導を受、徳川家康の知遇を得、江戸期の観世家隆盛の基礎を築く、世阿弥書を书写、天正年間1573-92「音曲和集」著、[宗節(;法名)の名/通称/号]名;元忠もとただ、通称;三郎/左近、号;一安斎
- C2535 **草拙**(そうせつ・廬ろ、名;元敏、草碩男)1671or75-172959-55 明人廬君玉の末裔、肥前長崎の学者、早く父母と死別;祖母に養育/幼時多病のため晩学;経義を修学/子弟教授、天文;関庄三郎門/文学;高田宗賢門/道教を修学、長崎聖堂の学頭/鎮台掌書監;書物改、1719江戸へ;西川如見と天文御用を勤める;将軍吉宗の洋学撰取に影響、岡島冠山と交流、1747「吟嚙録」、「天地一指」著/「先民伝」著(:婿養子驥き刊)、[草拙(;字)の幼名/通称/号]幼名;卯之助/平吉、通称;元右衛門、号;清素/清素軒/葆真/草拙、法号;清素斎草拙居士、驥の養父
- E2589 **宗雪**(そうせつ) ? - ? 江前中期俳人、

1714月尋「伊丹発句合」;四季発句入、
[指い出す文箱に鮎の句ひ哉](伊丹発句;夏)

- I2522 **宗説**(そうせつ・児島こじま、雲碩[元敬]男)1740-1811?72 医者;会津藩侍医頭、
藩校日新館医学寮創設時に教科書制定、1802「古医方晰義」、「古医方活套」「奇方類選」、
「診脈精要」「医林良材」「千年眼」「痘疹証治大成」「癩脹晰義」「腹診精微」外著多、雲琳の父、
[宗説(;通称)の別通称/号]別通称;冲夫、号;楊臯/惟翮^{いれき/翮}、法号;宗説院
- I2523 **宗節**(そうせつ・斎藤さいとう) ? - ? 江後期肥後小川の郷土史家、「小川年代記」著
宗雪(そうせつ・観世元広:仮名、「実鑑抄」編)→ 秋扇翁(しゅうせんおう) H 2 1 9 4
宗雪(そうせつ・黙雷庵:茶号)→ 不白(ふはく・川上、俳人、茶人) D 3 8 6 3
宗雪(そうせつ・山口)→ 雪溪(せつけい・山口やまぐち、絵師) E 2 4 1 5
宗雪(そうせつ・石尾)→ 氏一(うじかず・石尾いしお/藤原、幕臣) D 1 2 5 4
宗節(そうせつ・室谷)→ 賀世(よしつぐ・室谷むろたに、商家/国学者) E 4 7 6 9
宗節(そうせつ・福田)→ 誠好斎(せいこうさい・福田、剣術/医/神職) I 2 4 1 3
宗節(そうせつ・檜崎)→ 員輪(かずもと・檜崎ならさき、歌人) V 1 5 2 7
宗設(そうせつ;法諱・謙道)→ 謙道(けんどう;道号・宗設、臨濟僧、寧波の乱) L 1 8 6 8
宗晰(そうせつ・鳥養)→ 道晰(どうせつ・鳥養とりかい、書家/謡本整版) G 3 1 0 4
蒼雪(そうせつ・矢田)→ 我柳(がりゅう・矢田やだ、俳人) P 1 5 7 1
蔵拙庵(そうせつあん)→ 太老(たいろう・鈴木すずき、俳人) C 2 6 4 0
窓雪院(そうせついん)→ 裏住(うらずみ・大屋、久須美、狂歌) 1 2 9 8
- I2524 **宗詮**(そうせん;法諱・通称;政所法印)?-? 鎌倉後期天台宗地藏院の僧、「叡嶽最要記」著
- I2525 **宗仙**(そうせん;号・如言;別号)?-? 安桃期奈良の連歌師:1589九月「山河百韻」参加、
1596「薄何百韻」参加、「宗仙等紹巴点百韻」著
- C2536 **宗川**(そうせん・清水しみず、名;良世/通称六兵衛)1614-97?84 京の歌人:飛鳥井雅章に近侍;入門、
歌:松永貞徳門、1661江戸住;水戸徳川家出仕/古典研究歌集編纂に従事/83頃致仕、
江戸歌壇で活躍、1674「正木のかつら」/76「源氏要心抄」編、
歌;1691茂睡編(了然尼撰)「若むらさき」(12首)/1700茂睡「鳥の迹」入、
1681光圀催[水戸徳川家九月十三夜会]参加/90[南部家桜田邸詩歌会]参加、
「清水宗川聞書」門人編、
[けふはまづよろづの民の言の葉に治る御代の春をしるかな](鳥の迹;春3)、
[一通り村雨過ぐる山端に涼しくむかふ夏の夜の月](桜田邸/雨後夏月)、
[宗川の別号] 主一堂/松葉子/半梅軒、法号;主一堂逝翁
- C2537 **宗先**(そうせん・高木たかぎ) ? - ? 江前期俳人、1677以仙「難波千句」入、
1678西鶴「物種集」/82春林「俳諧百人一句難波色紙」入、
[西施せいし西湖見ばやたとへて花吉野](難波色紙;52/譬えれば西施は桜花・西湖は吉野)
自問と同一? → 自問(じもん・高木、大阪俳人) F 2 1 9 6
- I2526 **宗先**(そうせん・蜂谷はちや、名;宜豊、宗栄男)?-1737 香道家;志野流九世(蜂谷家六代)、
「香道之大意」「器具図式」「源氏香録正傍点図」「一日炷香しゅうこうの式」著、
1723「香炉名寄並出所」33「雪月花香之式」34「名香」著、「雪月花五事之記」編、外編著多数、
[宗先(;通称)の別通称/号]別通称;丈助、号;葆光斎
- I2527 **宗占**(そうせん;号・村上むらかみ、名;親方)?-? 江中期常陸土浦藩医、1743「愈穴辨解」著、
1745「骨度正誤図説」93「銅人形引経訣」著
- C2538 **宗泉**(そうせん・狩野かのう/旧姓;奈須、名;政信)?-? 戦国期狩野派絵師:狩野松栄[1519-92]門、法橋、
「御霊屋御唐門御彩色仕本」画、
[宗泉(;号)の別号] 宗仙/松白子
- I2528 **宗仙**(そうせん・草間くさま、名;正寿)?-? 江後期信州諏訪の医者、
天保1830-44頃江戸芝で医業、「射山漫筆」「射山精義翼」「傷寒論経験録」著、
[宗仙(;通称)の字/号]字;公眉、号;射山/無害堂
宋専(そうせん・山本)→ 松江(しょうこう・山本やまと、俳人) S 2 2 1 2
宗宣(そうせん・平)→ 宗宣(宗信むねのぶ・平たいら、廷臣/歌) C 4 2 0 7

- 宗宣(そうせん・大佛/平) → 宗宣(むねのぶ・大佛おさらぎ/北条/平、幕府執権/歌) C 4 2 0 8
 宗宣(そうせん・松木) → 宗宣(むねのぶ・松木まつのき/中御門/藤原、廷臣/歌) C 4 2 1 0
 宗宣(そうせん;法諱) → 慈宣(じせん;法諱・説心;道号、臨濟僧) U 2 1 2 0
 宗宣(そうせん・浜川) → 自悦(じえつ・浜川、名;行中、俳人) B 2 1 2 0
 宗詮(そうせん;法諱) → 明道(みょうどう;道号・宗詮、臨濟僧) G 4 1 6 5
 宗詮(そうせん・藤原) → 宗詮(むねあきら・藤原、廷臣/連歌) B 4 2 0 1
 宗川(そうせん・田沢) → 周任(かねとう・田沢たざわ、幕臣:儒者) O 1 5 6 8
 宗潜(そうせん;法諱/臨濟僧) → 竜溪(りょうけい;道号・性潜、黄檗僧) H 4 9 2 1
 宗先(そうせん・細川) → 元隆(もとたか・細川/源/坂、幕臣/医者) C 4 4 8 1
 宗先(そうせん・西村) → 藐庵(みやくあん・西村、名主/書・茶・歌) F 4 1 9 0
 宗仙(そうせん・長塩) → 平六(へいろく・長塩ながしお、藩士/歌) 2 7 8 4
 宗仙(そうせん・昌木) → 晴雄(はるお・昌木まさき/杉山、医/尊皇) K 3 6 8 0
 宗仙(宗専そうせん・中山) → 葎菘(せいが・中山なかやま、医・藩儒者) 2 4 8 5
 宗専(そうせん・村田) → 延年(のぶとし・村田むらた、藩士/国学/歌) K 3 5 1 5
 藻川(そうせん・山口) → 睦斎(ぼくさい・山口、和漢学者/教育) D 3 9 1 4
 瘦仙(そうせん・細川) → 林谷(りんこく・細川ほそかわ/広瀬、篆刻家/詩人) K 4 9 2 7
- I2529 宗禪(そうぜん;号・窮源;法諱)?-? 南北室町期京の嵯峨律宗地藏院の住職、
 1361権大僧都/1398招提寺43世(中興23世)、
 「有法自相抄」「法自相深秘抄」「法自相二帖短尺」著
- I2530 宗禪(そうぜん;法諱、俗姓:内山)?-? 江前期大和石上布留神宮本社の社僧、
 1704(宝永元)「石上布留神宮寺伝記」著
- C2539 宗全(そうぜん・久田ひさだ、徳誉斎、本名;本間勘兵衛)1647-1707 61 江前中期茶人;久田家3世、
 表千家流、楽茶碗・花入れ・茶道具制作;特に[宗全籠]は有名
- I2531 宗然(そうぜん・大文字屋だいまんじや)?-? 江中期大阪周防町の書肆、
 1772「西国略打順礼記」著
- 宗全(そうぜん) → 幸阿弥(三世こうあみ、戦国期蒔絵師) F 1 9 4 1
 宗善(そうぜん/むねよし・興山) → 好継(こうけい・興山、武士/歌人) I 1 9 3 8
 宗善(そうぜん/むねよし・伊勢村) → 重安(じゅうあん・伊勢村、仏師/俳人) G 2 1 7 9
 宗善(そうぜん・本間) → 光丘(みつおか・本間ほんま、豪商/藩政参画) K 4 1 4 5
- I2532 蔵泉(そうせん;道号・紹泰しょうたい;法諱)1799-1863 65 臨濟僧:自性寺寧山門/方広寺の竜水門;嗣法、
 播磨龍谷寺住持、「蔵泉夜話」著
- 増詮(そうせん;初法諱) → 義運(ぎうん;法諱、天台僧/歌人) 1 6 8 0
 宗善庵(そうぜんあん) → 重安(じゅうあん・伊勢村、仏師、俳人) G 2 1 7 9
 宗仙院(そうせんいん) → 元周(もとしか・橋たばな/吉田、幕府医者) D 4 4 0 4
 蒼髯斎(そうぜんさい・乾) → 景寛(かげひろ・乾いぬい、国学/歌人) T 1 5 7 0
 漕川小舟(そうせんしょうしゅう→ざちかわしょうしゅう) → 亀成(初世きせい・山本、俳人/画) B 1 6 3 5
 艸川真観坊(そうせんしんかんぼう) → 思順(しじゆん;法諱・天祐;道号、臨濟僧/歌) D 2 1 9 4
 宗川夢翁(そうせんむおう) → 国昭(くにあき・津守、神職) C 1 7 5 9
- C2540 草々(そうそう) ?-? 美濃の俳人、1691江水「元禄百人一句」目録入
 蒼々(蒼々そうそう・秋声庵、俳号) → 一鳳軒(いっぽうけん・西沢、歌伎作者) 1 1 2 6
 繰叟(そうそう・堀) → 麦水(むくすい・堀ほり、医/俳人) 3 6 0 9
 宋相(そうそう・赤石/明石) → 希范(希範きはん・赤石/明石、医者) L 1 6 8 1
 葱窓(そうそう・桜井) → 春樹(はるき・桜井さくらい、歌人) K 3 6 0 4
- K2594 宗蔵(そうぞう・後藤ごとう、守黒もりくみ長男)1807-61 55 佐渡加茂郡舟下の国学者/歌・書を能くす、
 文中(医者/歌人)の兄
- I2533 荘三(そうぞう・瀬尾せお、名;重臣)?-1877 秋田藩士、1834蝦夷松前藩に出仕/44勘定奉行格、
 1848先手組/一代中の間席に累進/目付役・右筆、1852藩主松前徳広[14代藩主]の傳役、
 書・芸術の師範役/藩主崇広の信頼厚く褒賞を受、歌人、1854「草叢」編
 [荘三(;通称)の号] 剃髮号;鷗波/のち号;随波
 総三(そうぞう・相良) → 埒満(まさみつ・小島こじま、相良総三/赤報隊) P 4 0 6 0

草三(そうぞう・木崎) → 正敏(まさとし・木崎、酒造業/歌/地誌) E 4 0 4 6
 荘蔵(そうぞう・鈴木/高柳) → 荘丹(そうたん・高柳/鈴木、医者/俳人) C 2 5 4 8
 荘蔵(そうぞう・墨江) → 武禪(ぶぜん・墨江すみえ、絵師) D 3 8 1 2
 荘蔵(そうぞう・宮地) → 水溪(すいけい・宮地みやじ、藩士/儒・国学) 2 3 4 3
 宗増(そうぞう・淡路守) → 宗増(むねます・信濃小路、淡路守/狂歌) C 4 2 4 9
 宗蔵(そうぞう・青地) → 二三治(にそうじ・三升屋、歌舞伎作者) 3 3 0 2
 宗蔵(そうぞう・五味) → 可都里(かつり・五味ごみ、俳人) C 1 5 5 6
 宗蔵(そうぞう・菅) → 基(もとき・菅すが、藩士/儒者) C 4 4 4 1
 宗蔵(そうぞう・山岸) → 正伸(まさのぶ・山岸やまぎし/平、陪臣/歌) T 4 0 4 2
 宗蔵(そうぞう・滝田) → 穀住(からすみ・滝田たきた、藩士/歌人) U 1 5 9 6
 惣蔵(そうぞう・有沢) → 致貞(むねさだ・有沢、藩士/軍学/算法) B 4 2 3 3
 惣蔵(そうぞう・野矢) → 常行(つねゆき・野矢のや、藩士/歌人) E 2 9 1 4
 惣蔵(そうぞう・仁科) → 保謙(やすかね・仁科にしな、庄屋/歌人) B 4 5 2 0
 惣蔵(そうぞう・上田) → 槐堂(かいどう・上田うえだ、儒者) I 1 5 9 9
 惣蔵(そうぞう・長谷川) → 敬(けい・長谷川はせがわ、藩士/尊攘論) F 1 8 2 0

I2534 蔵叟(そうそう;道号・朗誉ろうよ;法諱)1194-1277/74 鎌倉期臨濟僧;上州世良田長樂寺釈円榮朝門;
 嗣法、のち長樂寺住寺/1259(正元元)鎌倉壽福寺住持、晩年上野長樂寺に帰る、説法に長ず、
 「無住詩」著、寂庵上昭の師

艸々庵(そうそうあん) → 雪川(せつせん・艸々庵、俳人) E 2 4 4 7
 草々庵(そうそうあん) → 南陔(なんがい・富永とみなが、国学/詩歌) I 3 2 6 8
 草々庵(そうそうあん) → 桑人(そうじん・草々庵、俳人) I 2 5 1 0
 草々園(そうそうえん) → 梅童(ばいどう・渡辺、里正/俳人) B 3 6 9 0
 蒼々園(そうそうえん) → 可松(かしょう・上田うえだ、俳人) L 1 5 9 4
 慥慥斎(そうそうさい) → 東涯(とうがい・伊藤、儒者/教育) 3 1 0 6
 慥慥斎(そうそうさい) → 順蔵(じゅんぞう・児玉こだま、医者/蘭学) L 2 1 3 0
 瑤々室(そうそうしつ→ゆらむろ) → 弁玉(べんぎょく;法諱、浄土僧/歌人) B 2 7 2 0
 草々舎(そうそうしゃ) → 千引(ちびき・大石おおいし、国学者/歌) 2 8 1 6
 桑々畔(そうそうはん) → 貞佐(ていさ・桑岡、初世平砂/俳人) 3 0 0 3
 桑々畔(そうそうはん) → 鼎左(ていさ・藤井、奇淵門/俳人) 3 0 7 9
 早速(そうそく・伊能) → 友寿(ともなが・伊能いのう、藩士/神職) U 3 1 1 1
 宗則(そうそく・松木/寺島) → 宗則(むねのり・寺島/松木/長野、洋学/外交) C 4 2 2 3
 宗統(そうそく・井上) → 宗統(むねつぐ・井上いのうえ、神職/歌人) D 4 2 6 1
 宗統(そうそく・東条) → 宗統(むねつぐ・東条とうじょう、国学者) E 4 2 0 1
 増則(そうそく/ますり・末吉) → 道節(どうせつ・末吉すえよし、商家/俳人) G 3 1 0 6
 倉鼠松蘿居士(そうそしゅうらこじ) → 種彦(たねひこ・柳亭、高橋、初世笠亭仙果、戯作者) 2 6 4 4
 倉卒亭(そうそつてい) → 正宣(まさのぶ・山川やまかわ、商家/国学者) F 4 0 7 9
 速総別王(そくべつおう) → 速総別王(はやぶさわけのおおきみ、歌謡) F 3 6 7 3
 倉鼠松蘿居士(そうそしゅうらこじ、笠亭仙果) → 種彦(たねひこ・2世) 2 6 4 4

I2535 宗尊(そうそん;法諱) ? - ? 南北室町期日蓮僧;日什門/侍者?、
 1396(応永3)「什門建立由緒」、「日什聖人御由来之事」著

宗村(そうそん・伊達) → 宗村(むねむら・伊達だて、藩主/歌人) C 4 2 5 7
 桑村(そうそん・児島) → 利涉(としただ・児島こじま、国学者) V 3 1 1 7

I2536 宗存(そうぞん;法諱) ? - ? 安桃江戸前期;慶長-寛永1596-1644頃天台僧、
 京北野常明寺・伊勢常明寺に住、「法苑珠林」編刊、「法苑珠林奥書」編、多くの仏書編刊参画

C2541 操存斎(そうぞんさい・中島なかじま、藩医加峰謙亮男)1822-68/47 1834筑前秋月藩士中島正賀の養嗣子、
 秋月藩校稽古館に修学/1839藩校仮句読師/40家督継嗣、儒;江戸の佐藤一斎門、
 安藝の吉村秋陽門/帰郷;1851藩校助教、傍ら家塾精義草廬を開設;陽明学を講ず、
 公武合体論を主唱、「精義草廬遺稿」
 [操存斎(;号)の名/字/通称/別号]名;正健/健、字;仲強、通称;健次郎/衡平、
 別号;精義草廬

- 宗尊親王(そうそんしんのう) → 宗尊親王(むねたかしのう) 4 2 0 5
 窓村竹(そうそんちく) → 園村竹(そのむらたけ、多田敏包、狂歌) E 2 5 1 7
 宗它(そうた) → 宗竺(そうじく、武家/連歌作者) H 2 5 6 5
 宗兌(そうだ/そたい・悦叔えっしゅく) → 宗最(そうさい;法諱・悦堂、臨濟僧) H 2 5 3 8
 増太(ぞうた・中島) → 米華(べいか・中島なかじま、藩士/儒者) 2 7 1 5
- 12537 蔵蛇(ぞうだ) ? - ? 俳人;1777江涯こうがい「仮日記」入、
 [伊勢源氏春のながめのしめり哉](仮日記;55/恋物語読後の心はあはれで湿りがち)
- 宗泰(そうたい) すべて → 宗泰(むねやす)
 宗岱(そうたい) → 直弼(なおすけ・井伊、藩主/大老/国学) B 3 2 3 9
 宗焯(そうたつ・矢島) → 伊浜(いひん・矢島やじま、儒者) E 1 1 3 8
 宗兌(そうだ・悦叔えっしゅく) → 宗最(そうさい;法諱・悦堂、臨濟僧) H 2 5 3 8
 霜台(そうだい・朝倉) → 実備(さねなが・さねとも、沢崎、藩士/史家) L 2 0 1 4
- K2537 桑宅(そうたく・木原きはら) 1816- 1881 66歳 安藝広島の医家に生/広島藩学問所に入学;
 儒;坂井虎山門、1862(文久2)漢学を評価され学問所教授に抜擢;儒医組となる、
 吉田松陰と交流、第2次長州征伐に「治本策」を提出;尊王に基づく幕政改革を主唱、
 木原章六(裁判官)の父、
 [桑宅(;号)の名/字/通称/別号]名;籍之、字;君茅、通称;慎斎/慎一郎、別号;燃白老人
- 宗沢(そうたく;法諱・東瀾) → 東瀾(とうらん;道号・宗沢、渡来臨濟僧) H 3 1 9 8
 宗沢(そうたく・田沢) → 仲舒(なかのぶ・田沢、医者/歌人) F 3 2 1 3
 宗琢(そうたく;法諱/臨濟僧) → 竜溪(りゅうけい;道号・性潜、黄檗僧) H 4 9 2 1
 宗琢(そうたく・三井) → 高福(たかよし・三井、商家;財閥の礎) N 2 6 7 7
- L2514 蔵澤(ぞうたく・吉田よしだ) 1722- 1802 81 伊予松山藩士/絵師、1763(宝暦13)風早郡代官、
 1769(明和6)野間郡代官兼任、農民に善政/1781(天明元)特筒頭/84者頭;藩政参画、
 画;木村東巷門/狩野派、のち明清絵画の影響を受け墨画;蘭・菊・梅から竹画に移る、
 墨竹画の大家となり[竹の蔵澤]と称される;子規の句[蔵澤の竹も久しや庵の秋]、
 墨竹画は甥の大高坂南海→丸山閑山→中野雲濤へ続く、
 [蔵澤(;号)の名/字/通称/別号]名;良香、字;子響、通称;彌三郎/久太夫(代々の称)、
 別号;豫章人/贅巖窟/白雪堂主人/應乾/翠蘭亭/倦翼/東井/白浜鷗/不二庵/醉桃館
- C2543 宗達(そうたつ;法諱・津田つた、屋号;天王寺屋、宗柏男) 1504-66 63 戦国期堺町衆/豪商;豊後に商圈、
 堺材木町住/茶人;名器秘蔵、北向道陳・武野紹鷗らと茶の湯発展に寄与、道叱・宗閑の兄、
 参禅;古岳宗亘・大林宗套門、「津田宗達日記」、道号;大通/法号;大通宗達居士、宗及の父
- 12538 宗達(そうたつ・吉田よしだ、宗恂そうじゅん男) 1584-1622 39 医者;父門/1610父の跡継嗣;徳川家康の医者、
 駿府に出仕/1613法印/大坂の陣に陪侍、のち京住;隔年に参勤、家康没後は秀忠に出仕、
 本草学にも精通、「医学類聚」「三尺求凶教求路程求山高遠法」「本草和名集」「方考」著、
 宗恪そうかくの父、
 [宗達(;名)の別名/通称/号]別名;宗皓/吉皓、通称;意安、号;如見、法号;良知院
- C2544 宗達(そうたつ・俵屋たからや) ? - 1644?(80歳位没) 一説に能登の生/琳派絵師の祖/法橋、
 京の上層町衆/烏丸光広・千少庵・本阿弥光悦と交流、妻は本阿弥光悦の妻の姉妹、
 1602(慶長7)巖島平家納経の修理;金銀泥絵様式を確立;扇面画・和歌巻の下絵に活用、
 工房俵屋を主宰、障屏画の装飾絵師として知名度を上げる、
 「源氏物語関屋濡標凶屏風」「風神雷神凶屏風」「保元平治扇面凶」「四季草花絵巻」画、
 [俵屋宗達(;号)の別号] 伊年/対青軒
- 12539 宗達(そうたつ・速水はやみ、彦達男) 1727-1809 83 京代々の医者の家;医業修学/儒;伊藤仁斎門、
 歌;小沢蘆庵門、茶の湯;千家又玄斎一灯宗室門;師の代理で備前岡山藩池田家茶道師範、
 のち茶道新流派を認可され速水流の祖となる/堂上家に知己多い;
 聖護院宮盈仁親王より[大日本茶博士]称号と[養寿院]の号を受、宗暉そうけいの父
 「茶之湯扣」「茶之湯扣録」「茶事譚」「卑言類聚」「手水之辨」「点茶辨正」「速水流点茶式」著、
 「安閑陵出玉器記」「織部百ヶ条の解説」/1784「大目点の座敷図」1801「茶理譚」外著多数、
 膨大な遺稿を息子宗暉が整理刊行、
 [宗達(;号)の字/別号]字;希棟、別号;養寿院/扶桑翁/滌桑翁じょうそうおう/できそうおう/滌源居、

速々完/東々完、大日本茶博士、法号;養寿院妙照日寿

宗達(そうたつ・和田) → 以悦(いえつ・和田わだ、儒者/歌人) 1 1 4 1
宗大夫(惣一・総一・そうだゆう・河崎) → 清厚(きよあつ・河崎/度会、神職/国学) G 1 6 5 1
宗太夫(そうだゆう・杉木) → 如之(じよし:号・杉木、正直/師職/俳人) C 2 2 5 3
宗太夫(そうだゆう・杉木) → 如之(じよし:号・杉木、正純/俳人) M 2 2 4 1
宗太夫(そうだゆう・杉本) → 吏舩(りこう・杉本すぎもと、神職/俳人) B 4 9 0 0
宗太夫(そうだゆう・丸岡) → 久氏(ひさもと・丸岡まるおか、神職/歌人) L 3 7 2 9
宗太夫(そうだゆう・丸岡) → 正善(まさよし・丸岡まるおか/久米、神職/国学) S 4 0 7 9
宗太夫(そうだゆう・三木) → 雲門(うんもん・三木みき、儒者) E 1 2 0 9
宗太夫(そうだゆう・添田) → 完太夫(かんだゆう・添田そえだ、将棋士) R 1 5 3 1
宗太夫(そうだゆう・喜田) → 祈年(のりとし・喜田きた、大工/庄屋/国学) I 3 5 1 5
荘太夫(そうだゆう・西垣) → 桐齋(とうさい・西垣にしがき、儒者/詩文) E 3 1 2 1
総太夫(そうだゆう・戸村) → 義暢(よしのぶ・戸村とむら、藩士/歌人) N 4 7 9 8
惣太夫(そうだゆう・石川) → 依平(よりひら・石川いしかわ、国学/歌人) 4 7 3 5
惣大夫(そうだゆう・叶屋) → 宗閑(そうかん・杉岡すぎおか、歌人) G 2 5 6 7

I2540 惣太郎(そうたろう・越こし;修姓、塚越つかこし/斎藤、塚越吉衛門長男) 1821-64刑死44 常陸蘭医、常陸真壁郡小川村の出身/医;郷医山本貞惇門/開業、1844昌平覺に修学、長崎で蘭医術を修学、1847(弘化4)結城藩校秉彝館教授/侍医、1849江戸遊学;各藩の尊攘派と交流、1864(元治元)筑波拳兵の檄に応じ同志と行動謀議;捕縛、岩代上台村で刑死、「長崎陪従目録」「長崎客中秘録」「日記雑稿」著、「崇古堂遺稿文集」、[惣太郎(;通称)の名/字/通称/号/変名]名;温、字;崇珉/宗珉/翠齡/子新、号;崇古堂、変名;井阪行蔵

L2511 宋太郎(そうたろう・増田ますだ、久行男) 1849-77戦死29 母;渡辺重名女、豊前中津藩士、国学;渡辺重石丸いかりまる門;水戸学、尊攘、福澤諭吉の再従弟;1870諭吉暗殺を計画;議論ののち福沢の価値観に賛同/慶應義塾へ入学、中津帰郷後英語を教授、維新後;自由民権運動に参加、撰津住吉神社少宮司、西南戦争に薩軍側で中津隊を率い従軍;和田峠敗戦後も西郷に随従、1877(明治10)城山戦で戦死(斬首説あり)、[宋太郎(;名)の通称] 久米丸

荘太郎(そうたろう・永井) → 勝則(かつのり・永井ながい、藩士/日記) N 1 5 7 7
荘太郎(そうたろう・小山) → 敬容(たかやす・小山こやま、国学者) N 2 6 5 7
荘太郎(そうたろう・佐和) → 莘齋(しんさい・佐和さわ、儒者/勤王/僧) O 2 2 4 4
荘太郎(そうたろう・大原) → 正樹(まさき・大原おおはら/源、国学者) O 4 0 4 3
宗太郎(そうたろう・三木) → 幹齋(かんだい・三木みき、詩/書/俳諧) Q 1 5 7 1
宗太郎(そうたろう・伊藤) → 錦里(きんり・伊藤いとう、藩士/儒者) E 1 6 9 1
宗太郎(そうたろう・服部) → 武喬(たけたか・服部、藩士/儒/語学) E 2 6 3 9
宗太郎(そうたろう・村田) → 益次郎(ますじろう・大村、藩士/兵学) J 4 0 0 4
宗太郎(そうたろう・川北) → 朝鄰(ちようりん・川北かわきた、数学者) K 2 8 1 3
錘太郎(そうたろう・戸田) → 忠友(ただとも・戸田とだ、藩主/国学) Y 2 6 3 6
総太郎(そうたろう・長沢) → 東海(とうかい・長沢ながさわ、儒者) B 3 1 8 7
総太郎(そうたろう・赤城) → 彩霞(さいか・赤城あかぎ、儒者) G 2 0 5 6
惣太郎(そうたろう・河崎) → 清厚(きよあつ・河崎/度会、神職/国学) G 1 6 5 1
惣太郎(そうたろう・金子) → 国信(初世くにのぶ・歌川、絵師/草双紙) B 1 7 5 8
惣太郎(そうたろう・田沢) → 固成(もとなり・田沢たざわ、国学者/歌人) K 4 4 2 5

C2545 宗湛(そうたん・神屋/神谷/紙屋かみや、神屋紹策男) 1551or53-163585-83? 博多の商人;父に従い肥前唐津に住、広く中国・朝鮮・東南アジアと交易;豪商、1587博多再興に尽力、名護屋陣営・福岡城建設など貢献、茶人;千利久・津田宗休と親交、「紙屋宗湛茶会記」「神谷宗湛茶日記」著、[宗湛(;号)の字/通称/別号]字;貞清、通称;善四郎、別号;宗旦/宗丹/置安斎惟精

C2546 宗旦(そうたん・千せん、千少庵宗淳長男) 1578-165881 母;千利休[宗易]女の龜、利休の孫、

和泉堺の茶人;1580父宗淳と京へ移住/88喝食として大徳寺三玄隠入;春屋宗園に侍す、
1591祖父利休自刃/父宗淳には1594秀吉より京本法寺前に千家再興の許可が下る、
宗旦も還俗し千家に戻る、1600(慶長5)家督継嗣;不審庵を継承、今日庵を建立、
利休の確立したわび茶を追究;茶禅一味を提唱、生涯仕官せず;[乞食宗旦]と称される、
「宗旦口授」「宗旦直伝集」「宗旦集」「茶禅一味」「古織百ヶ条之内」「宗旦伝授聞書」著、
長男;宗拙(1592-1652)、次男;宗守(1593-1675武者小路千家の祖;官休庵を創建)、
三男;宗左初世(1613-72表千家の祖;4世を名乗る/不審庵を継承)、
四男;宗室初世(1622-97裏千家の祖/今日庵を継承)、

[宗旦(;法名)の号]号;元伯/元叔/咄々斎/咄斎とつさい/不審庵/今日庵、法号;元伯宗旦居士

- 2515 **宗旦**(そうたん・池田・松井、元翁/也雲軒/依帽子) 1636-9358 京俳人・松江重頼門、1674撰津伊丹住、
俳学校の也雲軒創設/伊丹風俳諧振興の礎、1674「遠山鳥」78「当流籠抜」83「三人蛸」編、
1687「野梅」編、91「無尽経」、「四人法師」「鶴のまね」「無分別」「食俳諧」「か様に候物は」著、
「西瓜三つ」編、狂歌;1666行風「古今夷曲集」入(宗丹名)、1676西鶴「古今俳諧師手鑑」入、
追善集「逃亭伊丹希李にげいにけり」、
[踏まれけり花口惜しか今一度咲け](当流籠抜)

- C2547 **宗愴**(宗胆(そうたん・板垣いたがき/本姓;源、名;矩、中村[板垣]正伯男) 1638-9861 江戸生/医;塙宗悦門、
国学/歌;日野弘資・中院通茂門、旧姓板垣を名乗;1666水戸藩に出仕;彰考館編纂事業参加、
契沖と親交、1681光圀の命で「扶桑拾葉集」編纂と「万葉集纂註」(釈万葉集)編纂に尽力;
万葉編纂(15-16巻まで草稿)途中没(;以後伴暢・安藤為章・藤全昌により1735廿巻完成)、
歌;1681光圀催[延宝九年水戸徳川家九月十三夜会]参加;3首入、
[まだ暮れぬ沖つ塩瀬やたどるらん霞める方に海士のよび声](茂睡[鳥の迹]春19)、
[宗愴(;字)の別字/号]別字;陰徳、号;眞庵/聊爾齋りょうじさい

- C2548 **莊丹**(そうたん・高柳たかやなぎ/鈴木、鈴木悦心男) 1732/34-1815/1786-82? 武蔵与野の医者;
村上坦庵門、俳人;門瑟・蓼太門、50余歳まで江戸住/のち武州鴻巣・与野よの辺に隠棲、
注釈;1796「其角句解」96「晋子発句撮解」「三家発句解」/1806「芭蕉句解参考」、
1806「嵐雪発句撮解」、1809自撰句集「能静草のうせいそう」、「猪武者」著、
[よし雀きりの拍子揃ふや船大工ふなだく](能静草)、
[顔見世や燕脂べにほのぼのと朝朗あさぼらけ](能静草/11月待ちに待った狂言;女客の頬)、
[莊丹(;号)の名/通称/別号]名;莊蔵/伊良、通称;新十郎、
別号;雪奴せつぬ(;初号)/梅郎/菜窓/菖庵/能静/莊郎そうろう/石菖窓

- C2549 **宗旦**(2世(そうたん・赤松あかまつ、名;義知、初世宗旦男) 1806-6257 常陸布川村の生;1813(8歳)父死別、
母方の下総吉高村住/医;前田宗珉門、1838帰郷;医業、傍ら寺子屋を開設;子弟教育、
地誌家、1855「利根川図志」/「利根川水源記行」「銚子日記」「布川案内記」「赤松軒雑話」著、
[2世宗旦(;号)の別号] 南陽軒、

宗旦(そうたん・千) → 宗左(5世そうさ・千せん、茶人) K 2 5 7 1
宗旦(宗丹(そうたん・神屋) → 宗湛(そうたん・神屋/神谷/紙屋、商家/茶人) C 2 5 4 5
宗旦(そうたん・永島) → 安庵(あんりゅう・永島、医者/引水工事) D 1 0 1 6
宗単(そうたん・菅原) → 貞継(さだつぐ・菅原すがわら、神職/国学) O 2 0 6 9
草端房(そうたんぼう) → 大我(たいが/だいが;法諱・絶外、浄土僧) B 2 6 1 0

- L2522 **宗知**(そうち;法諱) ? - ? 江前期;上方の禅僧/歌人;
1670下河辺長流[林葉累塵集]16首入、

[世の中をわたりわたりてみしことは皆まことなき夢の浮橋](林葉累塵;雑1120)

- I2541 **宗知**(そうち・県/縣あがた、名;俊正) 1656-172166 江戸の茶人;遠州流茶道;上柳甫斎門、
幕府御庭方出仕、「県宗知茶書」「遠宗拾遺」「庭作心得書」「茶事伝説」著、「遠州百会記」伝?
[宗知(;通称)の号] 玉泉子/見性

宗智(そうち・惟宗) → 孝言(たかとき・惟宗これむね、詩人) D 2 6 1 5
宗知(そうち) → 敬順(けいじゆん;法諱、真宗僧/茶/紀行) D 1 8 4 9
宗知(そうち・横谷) → 宗珉(そうみん・横谷よこや、彫金師) C 2 5 9 7
宗知(宗智(そうち/むねとも・沢田) → 風月庄左衛門(初世ふうげつしょうざえもん、書肆) 3 8 5 2
宗知(そうち/むねとも・五十川) → 春昌(はるまさ・五十川[河]いそかわ、医者) G 3 6 8 3

- 宗知(そうち・中野) → 宗知(むねとも・中野なかの/高木、大庄屋/歌人) E 4 2 0 9
 宗値(そうち・西島) → 信廉(のぶやす・西島にしじま、商人/日記) D 3 5 5 6
 滄池(そうち・平井) → 聴雪(ちようせつ・平井/服部/平、儒/詩) J 2 8 2 5
 棗池(そうち・服部) → 李曠(りこう・服部はつとり、商家/俳人) B 4 9 0 1
- C2551 宗竹(そうちく・雲翁うんおう) ? - ? 連歌、1747連歌辞書「跡云草あといぐさ」著(1742序)
 I2542 宗竹(そうちく・生島いししま、別号;春樺) 1482-? 1573存 摂津河辺郡生島の武士;管領細川家家臣?、
 細川氏を中心とする内紛・戦況を見聞し老後に記録:1573「細川両家記」著
 I2543 窓竹(そうちく;号・及川おいかわ、通称;甚作)?-? 江後期嘉永1848-54頃;陸中江刺郡岩谷堂の俳人、
 「俳諧雑集」著
- 宗築(そうちく;法諱・大愚) → 大愚(だいう;道号・宗築、臨濟僧) J 2 6 7 1
 宗竹(そうちく・田辺) → 玄齡(げんれい・田辺たなべ、医者/詩歌) N 1 8 1 4
 瘦竹(そうちく・内藤) → 万里助(まりのすけ・内藤/八谷、藩士/日記) K 4 0 2 0
 瘦竹(そうちく・柏木) → 如亭(じよてい・柏木/柏、幕府棟梁/詩) C 2 2 8 3
 叢竹庵草羅(そうちくあんそうら) → 月歩(げつぽ・田中たなか、俳人/文人) H 1 8 3 6
 雙竹園(そうちくえん) → 蘭山(らんざん・佐藤さとう、儒者) C 4 8 3 4
 窓竹齋(そうちくさい) → 烏川(うせん、俳人) C 1 2 9 8
 瘦竹廬(そうちくろ) → 梅村(ばいそん・山田やまだ、儒者/詩人) B 3 6 7 7
- C2552 宗仲(そうちゅう;法名) ? - ? 僧;法師/歌人、
 勅撰2首;1384成立「新後拾遺集」(1107)、新続古今(1737)、
 [偽いつはりの数そふ中は契りても頼みならはぬ夕暮の空](新後拾;恋1107)
 I2544 宗仲(そうちゅう;号) ? - ? 和泉堺住/1524三条西実隆と交流、
 1528「韻鏡」開版;清原宣賢跋
 連歌;1495宗祇種玉庵の「新撰菟玖波祈念百韻」連衆(3句入)、
 [晴れやらで霞を残せ空の月](祈念百韻;二表/前句;たたずむかげは春の山風;恵俊)
- C2553 宗仲(そうちゅう;号・半雲齋;号、雲庵男)?-? 1551存 能登の連歌作者・宗祇門、1508越前住、
 1511上京後再び越前住;越後を往来、月舟寿桂から齋号を受、「詠百首和歌」著、
 連歌会;1496「何人百韻」/1507専芸と「片何百韻」/1516宗長と「何人百韻」参加、
 1516宗碩邸「十花千句」に発句/1551(天文19)玄清らと「何路百韻」、新撰菟玖波集1句入、
 「宗仲百首」?
- B2586 宗中(そうちゅう・小堀こぼり/本姓;源、6世政寿男) 1786-1867 82歳 近江小室の生、茶道;父門、
 7世正方(田沼意次の土岐伏見奉行)の時の伏見騒動により1788(3歳)領地没収;
 京に移住;孤独篷庵に養育される、40年間の浪人生活、1828幕臣に招聘;3百俵小普請組、
 茶道により小堀本家の名跡を再興;没収中の小堀遠州以来の諸道具類を返還される、
 尾張徳川齊荘に招聘され目利を行う;城代家老竹腰篷月に茶道を伝授、旗本公家に指導、
 遠州流中興の祖と称される、息子正和(宗本)と道具目録「過眼録」編纂・古文書整理、
 歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入(息子正和と共に入集)、
 [山深くのがれし宿の桜ばな世に吹く風の知らずもあらなん]、
 (大江戸倭歌;春273/山家花;大膳正保名)、
 [宗中(;号)の名/通称/別号]幼名;梅之助、名;正優まさかつ/正保まさやす、通称;大膳、
 別号;和翁/塩味/大建庵
- 宗忠(そうちゅう・藤原) → 宗忠(むねただ・藤原、右大臣/故実/歌) 4 2 0 7
 宗忠(そうちゅう・黒住) → 宗忠(むねただ・黒住くろずみ、神道家) B 4 2 5 6
 宗忠(そうちゅう・服部) → 宗忠(むねただ・服部はつとり/野辺、藩士/国学) E 4 2 1 8
 宗仲(そうちゅう・川田) → 喬遷(きょうせん・川田かわた、藩士/儒者) O 1 6 2 5
 宗註(そうちゅう;法諱) → 詮叟(せんそう;道号・宗註、臨濟僧) B 2 4 1 9
- I2545 増忠(そうちゅう;法諱・通称;嚴泉坊) 1468-? 1498存 戦国期天台宗園城寺北院の住僧、
 1498(明応7)「俱舎論頌疏私聞書」
- 藻虫庵(そうちゅうあん) → 光軌(みつり・打它うた/うた、歌人) E 4 1 4 5
 藻虫齋(そうちゅうさい) → 由己(ゆうこ・大村、軍記作者/連歌) B 4 6 5 1
- I2546 宗澄(そうちよう;法諱) ? - ? 室町期応永1394-1428頃天台僧;阿闍梨、

叡山廻峯行に関する証憲法印の秘本を抜萃;「当山巡礼修行記」著

- 2516 **宗長**(そうちょう・柴屋軒、刀鍛冶職義助(慶金)男) 1448-1532⁸⁵ 駿河島田の生/守護今川義忠に出仕、1465出家/66連歌;宗祇門、76義忠没後離郷/禪;大徳寺一休門/78・80宗祇に随伴し行脚、駿河安部川畔に結庵;宗長と改号、95「新撰菟玖波集」宗祇らと共に撰/1501宗祇を訪問;師の最後の旅に同行、1504今川氏の庇護;宇津山麓に柴屋軒さいおくけん結庵;妻帯;自適、1488水無瀬三吟/91湯山三吟参加、百韻多、紀行;「宗祇終焉記」「宗長日記」「宇津山の記」、1518「東山(安養寺)千句」催(8月10-12日/能勢頼豊崇心以伝3回忌追善)、古典に精通、句集;「壁草」「那智籠」「老の耳」「宗長百番連歌合」、連歌論書;「連歌作例」「連歌比況集」、
「雨夜の記」「永文ながふみ」「三河下り」、「閑吟集」編?、新撰菟玖波集42句入、
[猿の尻こがらし知らぬ紅葉もみぢかな](犬筑波集)
[川風に一むら柳春みえて](水無瀬三吟;何人第三句/前句;行く水遠く梅句ふ里;肖柏)
[宗長の別号] 宗歆(初号)/長阿/柴屋軒さいおくけん
- C2554 **宗長**(そうちょう・荒川あらかわ、林鷲峰[春勝]の従兄弟、林羅山の女婿)?-? 江前期京の儒者、1662(寛文2)鷲峰・読耕齋共編「羅山林らざんはやし先生集」(羅山の詩文集)を刊行
- I2547 **宗澄**(そうじょう) ? - ? 正徳享保1711-36頃黄蘗僧;鉄心道胖に近侍?、「鉄心禅師武陵語録」編
- C2555 **宗澄**(そうじょう・石井い、名;昭房/明房あけふさ) 1736-1802⁶⁷ 上州甘楽郡宇田村の名主、歌;1772澄月門;82(天明2)古今伝授を受、澄月門を関東特に上州に広げるために尽力、澄門四高足の1(備前西山拙齋/尾張堀田知之/信濃桃沢夢宅)、1791「都紀行」著、信房の父、
[宗澄(;号)の通称/別号]通称;平兵衛/太内、別号;竹亭/松風軒、法号;中光院
- 2517 **巢兆**(そうちょう・建部たけべ/藤沢、名;英親/英進、山本竜齋男/藤沢家養子) 1761-1814 江戸日本橋生、俳人・白雄門、江戸3大家(成美・道彦と)、書画に長ず、月並句合、句風;清高洒脱、1796「月見ほくそろひ」98「巢兆日記」1800「宮古紀行」/02「せきやてう」09「玉の春」編、1810「老賀染飯」「よろこひさうし」編/11「巢兆選句集」「仙都紀行」/12「あをたつら」画、1812「うさき馬」13「木実あはせ」編、「曾波可理」「一鐘集」「徳万歳」/「珠の市」編外多数、晩年は武蔵関屋せきやに隠棲、追善集;「星の林」「谷はゞき集」、
[朝顔の花に澄みけり諏訪の湖うみ](曾波可理そばかり)、
[巢兆(;号)の字/通称/別号]字;族父、通称;藤沢平右衛門/関屋巢兆、
別号;黄雀/秋香庵/菜翁、喜国
- C2556 **早聴**(そうじょう) ? - ? 江戸雑俳点者、1834一声「歌羅衣」入
- I2548 **宗朝**(宗長そうちょう・伊丹いたみ)?-? 江中期江戸町人・茶人;表千家千宗左6世原叟門、さらに千宗左7世天然門、「伊丹宗朝伝茶の湯式」「棚物飾並長坂図式」著、
[宗朝(;名)の号] 黙守庵/萩軒/似旧齋/一翁齋/似烏齋
- 宗朝(そうじょう;法諱・東海)→ 東海(とうかい;道号・宗朝、臨濟僧) B 3 1 8 3
宗朝(そうじょう・小山) → 宗朝(むねとも・小山おやま/藤原、武将/歌) B 4 2 8 8
宗朝(そうじょう・本居) → 信郷(のぶさと・本居もとおり、国学者) B 3 5 5 5
宗長(そうじょう・難波) → 宗長(むねなが・難波/藤原、廷臣/蹴鞠/歌) B 4 2 9 8
宗長(そうじょう・紀) → 宗長(むねなが・紀/高橋、廷臣) B 4 2 9 9
宗長(そうじょう;入道号) → 元長(もとなが・小笠原おがさわら、武将/故実) D 4 4 5 0
宗長(そうじょう・安倍) → 宗長(むねなが・安倍、廷臣/天文博士/歌) C 4 2 0 0
宗長(そうじょう・伊藤) → 宗長(むねなが・伊藤いとう/自然齋、家老/茶人) D 4 2 5 6
宗長(そうじょう・藤) → 広則(ひろのり・藤とう/藤原、暦算家) G 3 7 8 8
宗蝶(そうじょう・島岡) → 真心(まうら・島岡しまおか、歌人) O 4 0 5 5
宗趙(そうじょう)→そうじょう;法諱)→ 柏舟(はくしゅう;道号・宗趙、臨濟僧) D 3 6 2 2
宗肇(そうじょう;法名) → 公敏(きんとし・洞院とういん、廷臣/歌人) E 1 6 3 9
宗激(そうじょう;法諱) → 江峯(こうほう;道号・宗激、臨濟僧) L 1 9 2 3
荘潮(うらじょう・鷹羽) → 雲滄(うんそう・鷹羽たかのほ、藩士/詩人) B 1 2 8 6
聡長(そうじょう・五条/東坊城) → 聡長(ときなが・東坊城ひがしぼうじょう、文章博士/詩) J 3 1 6 1
総長(そうじょう・高辻) → 総長(ふさなが・高辻たかつじ、廷臣/詩歌) C 3 8 2 0
増長院(そうじょういん) → 日顕(にちけん;法諱、日蓮僧) B 3 3 5 2

- 相長軒(そうちようけん) → 景吉(かげよし・村上むらかみ、医者/僧) L 1 5 4 8
 爪長山人(そうちようさんじん) → 杜陵(とりりょう・村上、諸芸; 講釈・俄) R 3 1 9 3
 相直(そうちよく・平賀) → 相直(すけなお・平賀ひらが、俳人) B 2 3 0 2
 宗直(そうちよく)すべて → 宗直(むねなお)
- C2557 宗椿(そうちん) ? - ? 戦国期連歌作者、
 1537. 5. 22今城能親張行「伊予千句」連衆: 周桂・宗牧らと
- C2559 宗珍(そうちん) ? - ? 江前期宝幢院僧/説話伝承;
 牛庵・源幸らと「奇異雑談さいぞうだん集」共編(上巻2・19話を伝承)
- I2549 宗鎮(そうちん・三谷みたに/初姓; 多々良、名; 義方) 1665-1741 77 播磨明石の儒者: 京の伊藤東涯門、
 表千家流茶; 千宗左3世(原叟)門; 四天王の1/三谷派を開く、改姓; 三谷、
 茶人として安藝広島藩主浅野家に招聘; 儒者格2百石となり京藩邸の定詰となる、
 1711「四畳半差図」、1718「和漢茶誌」、「茶器」著、
 [宗鎮(;号)の字/通称/別号]字; 良朴、通称; 丹下、別号; 南川子/不偏斎/不易斎
- 宗陳(そうちん; 法諱・古溪) → 古溪(こけい; 道号・宗陳、臨濟僧) M 1 9 2 4
 宗椿(そうちん; 法諱・春荘) → 春荘(しゅんそう; 道号・宗椿、臨濟僧) F 2 2 6 2
 宗琛(そうちん; 法諱・桂林) → 桂林(けいりん; 道号・宗琛、臨濟僧) G 1 8 8 2
- L2544 増珍(そうちん; 法諱、) 1036 - 1109 74 平安後期; 天台園城寺の学僧/阿闍梨/権少僧都、
 忠命(986-1054)の弟?、袋草紙; 狐(野干)に招請され化かされた等の逸話入
- C2558 増珍(そうちん; 法諱、惟康親王男?) ?-? 室町期僧; 大僧正に至る、
 歌人; 「贈足利満詮みつあきら(養徳院)家百番歌合」参加、新統古今集1958、
 [これまでも老ぞかなしきいにしへは身の行末を頼みしものを](新統古; 1958/百番歌)
- 双枕亭(そうちんてい・花笠外史) → 文京(ぶんきょう・花笠はながさ、歌舞伎作者/戯作) F 3 8 0 2
 蔵槌(そうちい・狩野) → 晴臯(せいこう・狩野かのう、藩御用絵師) H 2 4 5 5
 宗通(そうつう・藤原) → 宗通(むねみち・藤原ふじわら、廷臣/歌人) C 4 2 5 1
 増通(そうつう・森) → 増通(ますみち・森もり、商家/歌学) Q 4 0 1 9
- I2550 宗貞(そうてい; 法諱) ? - ? 鎌倉期臨濟: 宗峰妙超門/宗峰の侍者、
 「筑州太宰府万年崇福寺語録」著
- C2560 宗貞(そうてい) ? - ? 戦国期天文1532-55頃連歌作者、
 1536「何木百韻」参加、1537. 5. 22能親張行「伊予千句」: 第六何垣百韻発句、
 1549「三条西実隆十三回供養連歌」参加
- C2561 宗禎(そうてい・阿佐井野あさいの) ?-? 戦国期和泉堺の商家[遠野屋]の生、儒者、
 1494「増註唐賢絶句三体詩法」(周弼選/円至註)の版木を購入し出版; 阿佐井野版、
 家塾を開き経史を教授、
 同族に「医書大全」刊行の宗瑞がいる → 宗瑞(そうざい・阿佐井野あさいの、医者) C 2 5 2 4
- K2592 宗禎(そうてい・金井かない、通称; 与伯ともりの) 1613-1705 長寿 93歳 相模藤沢宿の旧家/宗斎の孫、
 宗栄(与通/?-1718)の父、歌人; 冷泉為綱(1664-1722)門?
 1684(貞享3)祖父宗斎勸請の井差大権現を再営
- C2562 宗貞(そうてい) ? - ? 噺本: 1697「露鹿懸合咄」判;
 露五郎兵衛と鹿野武左衛門の噺の懸合判
- I2551 宗貞(そうてい・本田ほんだ、名; 融) ?-? 江中期肥州の医者、1772刊「古方区別」
- I2552 宗禎(そうてい・福田ふくだ、名; 太忠) 1791-1840 50 上野吾妻郡沢渡村代々医者、医; 中之条丸山家門、
 儒詩; 江戸に出て市河寛斎門/古医方; 二宮桃亭門、帰郷す; 家業を継嗣、蘭学に関心;
 蘭医; 高野長英門/長英と救荒作物研究; 馬鈴薯・蕎麦を広める、富山藩より招聘; 仕官せず、
 「救荒二物考」「病名辨疑」「北越紀行」著、「傑氏児科」訳、
 [宗禎(;通称)の字/別通称/号]字; 士宣、別通称; 徳郎/一忠、号; 浩斎
- L2513 操貞(そうてい・松本まつもと、号; 桂之屋) 1846-1914 69 上野邑楽郡の生/下野足利郡住、
 国学・歌; 足利の奥河内(今尾)清香(1805-73)門、
 宗貞(そうてい・武野) → 宗瓦(そうが・武野/武田、紹鷗男/茶人) G 2 5 4 3
 宗貞(そうてい・浅沼) → 宗貞(むねさだ・浅沼あさぬま、俳人) B 4 2 3 2
 宗貞(そうてい・原田) → 平入(初世へいにゅう・原田、幕臣/茶人) 2 7 7 5

宗貞(そてい・七条) → 宗貞(むねさだ・七条しちじょう、藩士/儒者) B 4 2 3 4
 宗定(そてい・高橋) → 宗定(むねさだ・高橋/紀、廷臣) B 4 2 3 1
 宗定(そてい・永富) → 宗定(むねさだ・永富ながとみ、庄屋/国学) E 4 2 1 2
 宗定(そてい・深沢) → 宗定(むねさだ・深沢ふかざわ、国学者/狂歌) E 4 2 1 9
 宗鼎(そてい・河合) → 道臣(ひろおみ・河合かわい、家老/殖産) F 3 7 6 1
 僧禎(そてい;法諱) → 鳳洲(ほうしゅう;法諱、金峯、真宗僧) B 3 9 3 6
 叢亭(そてい・若林) → 正晃(まさあきら・若林わかばやし、商家/詩人) T 4 0 7 7
 棗亭(そてい・鳥飼/大塚) → 毅齋(きさい・大塚おつか、藩士/儒者) I 1 6 5 4
 瘦丁(そてい・中村) → 愈積(まさかず・中村なかむら、歌人) R 4 0 1 9
 霜堤(そてい・近藤) → 清石(きよし・近藤こんどう、藩士/国学) P 1 6 6 0
 操貞(そてい・菅沼) → 正氏(まさうじ・菅沼すがぬま、幕臣/国学者) Q 4 0 3 3
 慥亭(そてい・鈴木) → 桃野(とうや・鈴木すずき、幕臣/儒者) H 3 1 5 1
 宗亭古丸(そていこまる) → 明清(あききよ・山本、国学) 1 0 6 3
 宗的(そてき;初法諱) → 恵中(えちゅう;法諱、曹洞僧/仮名草子) 1 3 7 5
 宗滴(そてき;初法諱) → 紹滴(しやうてき;法諱・一凍;道号、臨濟僧) L 2 2 0 3

C2563 宗哲(そてつ・初号;宗益) ?-1523 連歌作者;宗祇門、一時和泉堺に住、
 1490宗祇・肖柏と一座「山河百韻」/93「清水本式連歌百韻」入(宗益名)、
 1496「何人百韻」(宗哲名)/1496永原千句・1508?池田千句・16十花千句参加、新菟玖波1句入、
 [うすくこくたつや嵐の朝霞](永原千句;第八発句)

I2553 宗哲(宗啞そてつ;号) ? - ? 安桃期文禄1592-96頃京の連歌作者、
 紹巴・易林(幽庵)・山科言継らとの和漢聯句・連歌の会に参加、
 1594(文禄3)紹巴と「薄何百韻」/1597祐心と「薄何百韻」

I2554 宗哲(そてつ;号・奈良なら) ? - ? 江中期京二条通御幸町角の医者;村上宗伯門、
 1713「袖珍仙方」28「医門俗説辨」、「治身論」、「傷寒方彙」著

I2555 宗哲(そてつ・石坂いしざか、名;永教) 1770-1841 72 甲斐甲府の医者;鍼灸科を専門、法眼、
 甲府医官督学、蘭方も修学;解剖の要を説く、のち幕府医官、1812「鍼灸説約」25「鍼術論」、
 1826「医源」「石坂流針治十二条提要」「竿斎先生答問書」「竿斎叢書」、「医学叢書」外著多数、
 [宗哲(;字)の別字/号]別字;廷玉、号;竿斎、法号;忠純院

I2556 宗臺(そてつ・木村きむら) ? - 1856 近江滋賀郡堅田の大庄屋、国学:地誌研究、
 1845「琵琶湖志」、「湖水浦廻り名所寺社便覧図蹟」著、
 [宗臺(;号)の通称/別号]通称;徳右衛門/徳玄、別号;臺/徒然庵、法号;徒然庵

宗哲(初代そてつ・中村八兵衛) → 八兵衛(はちべえ・中村なかむら、千家塗師) J 3 6 4 3

宗哲(2代そてつ・中村八兵衛) → 汲斎(きゅうさい・中村、千家塗師) S 1 6 9 3

宗哲(3代そてつ・中村八兵衛) → 漆翁(しつおう・中村、千家塗師/俳人) F 2 1 1 1

宗哲(4代そてつ・中村八郎兵衛) → 深斎(しんさい・中村、千家塗師) U 2 2 4 7

宗哲(5代そてつ・中村八兵衛) → 豹斎(ひょうさい・中村、千家塗師) Q 2 1 4 5

宗哲(6代そてつ・中村八兵衛) → 樸斎(ちようさい・中村、千家塗師) L 2 8 4 8

宗哲(7代そてつ・中村八兵衛) → 獭斎(ぼくさい・中村、千家塗師) J 3 6 4 4

宗哲(8代そてつ・中村八郎兵衛) → 至斎(しさい・中村、千家塗師) Q 2 1 4 5

宗哲(そてつ・寺沢) → 明(阿支羅あきら・寺沢、国学) E 1 0 2 0

宗哲(そてつ・緒方) → 黙堂(もくどう・緒方おがた、儒者) B 4 4 0 2

宗哲(そてつ・法諱) → 幻庵(げんあん・北条、早雲男/文人) H 1 8 6 2

宗哲(そてつ・向井) → 守静(もりきよ・向井むかい、国学者/歌人) L 4 4 6 5

宗鉄(宗鏡そてつ・田付) → 景澄(かげすみ・田付たつけ、砲術家) B 1 5 8 7

I2557 宗典(そてん;法諱) 1426 - 1517 長寿92歳 真言宗醍醐寺入;理性院で出家/五智院の住僧、
 数年間東寺学頭を勤める/1507(永正4)権僧正、三条西実隆と交流、「僧服問答」著、
 「三宝院重書等事」「太元雑雑記」「宗典権僧正注記年中記抜書」著、「辨才弁七日成就法」伝、
 [宗典(そてん;法諱)の初法諱/号]初法諱;宗深、号;奥坊

宗恬(そてん・吉田) → 宗恬(むねやす・吉田よしだ、幕府医官) C 4 2 7 0

艸田斎(そてんさい、艸田子) → 丈伯(常伯じょうはく・苗村むら、仮名草子) B 2 2 2 3

- 宗套(そうとう;法諱) → 大林(だいにん;道号・宗套;法諱、臨濟僧) L 2 6 2 6
- 宗藤(そうとう;法名) → 親祐(ちかすけ・速水はやみ、官人/歌人) B 2 8 0 0
- 宗藤(そうとう・高橋) → 宗藤(むねふじ・高橋/紀、廷臣/記録) C 4 2 4 2
- 宗藤(そうとう・高橋) → 宗藤(むねふじ・松木まつきの/中御門/藤原、廷臣/日記) C 4 2 4 3
- 宗洞(そうどう;法諱) → 法雲(ほううん;道号・明洞;法諱、黄檗僧) D 3 9 8 4
- 宗道(そうどう・田村) → 宗道(むねみち・田村たむら/松岡、藩士/神職) D 4 2 8 7
- 宗道(そうどう・時尾) → 宗道(むねみち・時尾ときお/時岡、神職;黒住教) E 4 2 0 2
- 宗道(そうどう・那須) → 宗道(むねみち・那須なす、国学者/歌人) E 4 2 0 5
- 草堂(そうどう) → 知周(ともかね・栗田、神職/歌人) P 3 1 3 6
- 草堂(そうどう) → 玄碩(げんせき・岩佐、歌人) K 1 8 5 0
- 草堂(そうどう・平野) → 平角(へいかく・平野ひらの、商人/俳人) 2 7 1 6
- 草洞(そうどう・前田) → 玄通(げんつう・前田まえだ、医者) L 1 8 4 6
- 草堂(そうどう・中林) → 竹洞(ちくどう・中林、絵師/儒詩/歌) D 2 8 6 0
- 草堂(そうどう・栗田) → 知周(ともかね・栗田あわた、神職/歌人) P 3 1 3 6
- 草堂(そうどう・齋藤) → 規敦(のりあつ・齋藤さいとう、藩士/国学者) I 3 5 6 0
- 草堂主人(そうどうしゅじん) → 厚載(あつり・金子かねこ、藩士/測量/歌) E 1 0 7 9
- 宗灯律師(そうとうりっし) → 憲静(けんせい/けんじょう;法諱、真言僧) K 1 8 4 2
- C2564 宗徳(そうとく・釈) ? - ? 江前期の僧;仮名草子作者、1655「勸孝記」著
- I2558 宗徳(そうとく;法諱・号;梅松軒)?-? 江中期享保1716-36頃大阪の僧/歌人、
各地行脚、「播州法華山法楽記」著
- I2559 宗徳(そうとく・山崎やまざき/本姓;源、名;元方、多紀元恵[元徳]男) 1772or82-1842 母;松井保勝女、
奥医山崎宗運の養子;1800養父代行で鍼灸を講義/幕府西丸の侍医/19法眼/36奥医師、
鍼学;幕府医学館で講義、1820「小児戒草」編、
[宗徳(;通称)の字/別通称/号]字;毅叔、別通称;菽吉/安肅/宗修、号;菁園/一蠹翁いっとう
- 宗篤(そうとく・藤原) → 宗篤(むねあつ・藤原ふじむら、連歌作者) B 4 2 0 3
- 宗徳(そうとく・山崎) → 宗運(そううん・山崎、幕臣/医者) G 2 5 0 8
- 宗徳(そうとく・勝俣) → 秀安(ひでやす・勝俣かつまた、医者/国学) J 3 7 0 7
- 宗徳(そうとく・清水) → 宗徳((むねのり・清水しみず、名主/神職/事業家) D 4 2 8 5
- 宗得(そうとく・田中) → 宗得(むねのり・田中たなか、神道家) C 4 2 2 0
- 藻徳(そうとく・戸塚) → 静海(せいかい・戸塚、蘭医/幕府奥医) H 2 4 7 0
- 宗頓(そうとん;法諱) → 悟溪(ごけい;道号・宗頓;法諱、臨濟僧) M 1 9 3 0
- I2560 宗曇(そうどん;法諱・華叟かそう;道号、俗姓;藤原) 1352-142877 播磨揖保郡の臨濟僧;
1359(8歳)京の大徳寺の徹翁義亨門/1365得度、1369河内の雪翁盛に参禅、
大徳寺の言外宗忠門;嗣法、近江堅田の祥瑞寺開山、大徳寺22世、晩年は近江塩津高泉院住、
「碧巖集下語」編、養叟宗頓・一休宗純の師、
[華叟宗曇の諡号] 大機弘宗禅師
- 宗鈍(そうどん;法諱) → 鉄山(てつざん;道号・宗鈍、臨濟僧) C 3 0 3 4
- 荘内(そうない、鈴木) → 養察(ようさつ・鈴木、儒者) B 4 7 0 2
- 荘内(そうない・鈴木) → 養斎(ようさい・鈴木、養察の孫/儒者) 4 7 9 3
- 惣内(そうない・小浦) → 広名(ひろな・小浦こうら、藩士/国学/歌) J 3 7 5 2
- 惣内(そうない・鈴木) → 春雄(はるお・本田ほんだ、和学者) K 3 6 3 9
- 総内(そうない・穴沢) → 杵斎(よきさい・穴沢あざわ、藩士/暦学) 4 7 9 1
- 僧那院(そうないん) → 日豊(にっぽう;法諱・鷲峰院、日蓮僧) F 3 3 5 7
- C2565 窓南(そうなん・合原ごうはら/あいはら、名;余修、道秋男) 1663-173775 筑前三藩郡住吉村儒者;1672出家、
儒・経義学;浅見綱斎門、1709筑後久留米藩の儒者;一時致仕/享保1716-36頃再登用、
藩主有馬頼僮よりゆきの侍講/久留米藩に宋学興隆の魁、「魂魄論」「鬼神論」「四書資講」、
「初学筈要」「読書録類纂」「古語仮字講義」「論語朝聞道草講義」「久留米城之記」外著多数、
[窓南(;号)の通称/別号]通称;権八/藤蔵、別号;菟斎
- I2561 双南(そうなん;号) ? - ? 寛政1789-1801頃京の俳人、
尾張に行き士朗一門と交流/3年後帰京、1799「なごやの月」編

- I2562 **操南**(そうなん・藤原ぶじら、名;練清、弥一衛門の長男)1786-1865⁸⁰ 備前上道郡三幡村の大庄屋;
1828家督継嗣、のち郡代掾に登用/1862致仕、書・詩歌人、大日本史・万葉代匠記などを書写、
「松竹処吟稿」「書道論」「滄洲館草稿」著、遺稿「練清文集」
[操南(;)号)の字/通称]字;澄江、通称;深蔵
- I2563 **巢南**(そうなん・大塚おつか/初姓;水落、名;紳)?-1863^{獄死} 越後柏崎の詩人;梅辻春樵門、
乞われ大塚昌伯の養子/家督を継嗣、
1860桜田門外変後藩内の批判を受けた彦根藩家老木俣清左衛門守長の罪をかぶり投獄、
1863獄中に没、「巢南遺稿」、
[巢南(;)号)の字/通称]字;佩玉、通称;六郎
- I2564 **宗二**(そうに/そじ・松尾まお、名;重賢、松尾宗俊の養子)1677-1752⁷⁶ 近江の生/茶人;町田秋波門、
久田宗全門/さらに表千家3世千宗左(覚々斎)門;茶の湯の奥義を修得
京押小路東洞院住/1724師の命で千家茶道普及のため終わり名古屋に住;暫遊亭を設ける、
のち覚々斎の代稽古;京と名古屋を往復、松尾流の祖、陶芸・漆芸・組物工芸に長ず、
1722「敝帚記」、「敝帚記補」「喫茶編」著、
[宗二(;)号)の通称/別号]通称;治兵衛/角之丞、別号;楽只斎/嘉隠軒、法号;嘉隠宗二居士
- I2565 **巢二**(そうに・三上みかみ、巢谷男)?-? 江後期武蔵所沢の酒造・米穀・馬継業;豪商、
俳人・父門/さらに父・祖父一巢・祖母里恵と共に寥松門、1826(文政9)「屏風形画頌」著
[巢二(;)号)の通称/別号]通称;半次郎、別号;佳年
- 宗入(そうにゅう;出家号) → 晴通(はれみち・久我こが、廷臣/連歌) H 3 6 1 2
宗入居士(そうにゅうこじ) → 梅盛(ばいせい・高瀬、俳人、狂歌) 3 6 0 6
宗如(そうにょ;法諱) → 巨海(こかい;道号・宗如;法諱、臨濟僧) L 1 9 8 2
- C2566 **宗忍**(そうにん;法名、姓;門司もじ、名;興俊、武員男/本姓藤原)?-? 武将;もと大内氏家臣・出家、
1485宗祇「愚句老葉」奥書に政弘との仲介役門司宗忍の名あり、一時上杉家臣/佐渡城主、
連歌;独吟「宗忍千句」、1495宗祇種玉庵の「新撰菟玖波祈念百韻」連衆(4句入)、
「ありそのまたま」編、新撰菟玖波集3句入、[宗忍の通称]与三/藤左衛門、
[植えそえんわれも香ばし家の風](宗忍千句;発句)
- I2566 **宗仁**(そうにん・むねひと・長谷川はせがわ、宗的男)1539-1606⁶⁸ 京武将;信長に出仕/1577従五下・秀吉家臣、
法眼/刑部卿、茶の湯;武野紹鷗門;1598(慶長3)秀吉の醍醐の花見に茶席を設ける、
1600家康に出仕;秀吉の北政所の守備を務める、1547「宗仁聞書」「万式大笠懸」、
1549「犬追物葛袋」50「宗仁笠掛記」、「宗仁北野物語」著、
[宗仁(;)名・号)の名/通称/号]名;宗仁むねひと、通称;源三郎/刑部卿法眼ぎょうぶきょうのぼうげん、
号;宗仁そうにん/帰本軒、法号;長徳院、守知の父
- 宗仁(そうにん;諱) → 鳥羽天皇(とばてんのう) O 3 1 6 8
宗任(そうにん・安倍) → 宗任(むねとう・安倍あべ、武将/豪族) B 4 2 7 2
僧任(そうにん;字) → 等照(とうき;法諱・僧任、浄土僧) C 3 1 4 4
宗能(そうのう・藤原) → 宗能(むねよし・藤原、廷臣/故実/歌) C 4 2 8 0
宗納(そうのう・松平) → 治郷(はるさと・松平、藩主/茶道) G 3 6 3 8
壮之丞(そうのじょう・そうのすけ・伊地知) → 貞馨(さだか・伊地知いちち、藩士) H 2 0 8 7
想之丞(そうのじょう・熊谷) → 直一(なおかず・熊谷くまがい、国学/歌人) L 3 2 9 2
- J2595 **宗之助**(そうのすけ・小出こいで/本姓;藤原、名;祐順[すけより?])、英筠ふさたけ3男)1817-? 父は丹波園部藩主、
次兄英発ふさおき(1810-62)が8代藩主を継嗣/祐順は長兄祐英の養子、歌人、
「鈴屋翁靈祭歌集」共編(四大人[春満・真淵・宣長・篤胤]を祭る歌集;
作者7人は祐順の外に猿渡容盛ひろもり・根本真苗・大久保忠保・三輪義方・寛正庸・小中村清矩、
歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[行く水にかげはまかせて川風のすがたになびく岸の青柳](大江戸倭歌;春153/河柳)
- 惣之助(そうのすけ・衣笠) → 明親(あきちか・衣笠きぬがさ、藩医/詩歌) D 1 0 5 1
惣之助(そうのすけ・渡辺) → 為忠(ためただ・渡辺わたなべ、商家/国学) 2 7 3 8
惣之丞(そうのすけ・園村) → 浄尚(きよなお・園村そのむら、藩士/神道) Q 1 6 0 1
荘之介(そうのすけ・唐坊) → 長秋(ながあき・唐坊とうぼう、藩士/儒者) D 3 2 1 5
荘之介(そうのすけ・清宮) → 正辞(まさこと・木村/清宮、国学/万葉研究) C 4 0 5 0

- 莊之助(そうのすけ・北村) → 安雅(やすまさ・北村きたむら、国学者) F 4 5 8 4
 操之助(そうのすけ・碧川) → 好尚(よしひさ・碧川みどりかわ、藩士/国学) G 4 7 3 1
 宗之助(そうのすけ・大橋) → 白鶴(はつかく・大橋/富川とみかわ、儒者) F 3 6 0 8
 宗之助(そうのすけ・三井) → 高猷(たかのみ・三井みつゐ、商家/国学) Z 2 6 7 9
- C2576 **宗播**(そうは/そいはん:法諱・叔英しゅくゑい:道号)?-1441 播州の臨濟僧:幼時に太清宗渭門;嗣法、
 学芸;義堂周信・絶海中津門/五山文学、1415頃建仁寺108世/南禅寺117世、
 晩年南禅寺内に慧雲院を開;没、「禅林曇華集」編、「五燈会元抄」著、
 [叔英宗播の号] 交蘆道人/推枕/番易
- C2567 **宗坡**(そうは;号) ? - ? 1512存 戦国期連歌師;宗祇門、三条西実隆と交流、
 1495宗祇種玉庵の「新撰菟玖波祈念百韻」(2句入)、
 1502「伊香保三吟百韻」(宗祇宗碩と一座;33句入)、1508?池田千句参加;第八百韻の発句
- C2568 **宗巴**(そうは・秦はた、筑後守善秀男) 1550-1607 58 (or 56 or 59) 丹波八木城の生;秦人徐福の後裔?、
 8歳で連歌、1575(26歳)上京し医者;吉田宗桂門/曲直瀬一溪道三門、
 1587豊臣秀次の侍医・法印、寿命院号を受、1600家康の侍医;禄5百石、
 連歌:紹巴と百韻、1593紹巴と何舟百韻、
 1600仮名草子「犬枕并狂哥」/1604「徒然草寿命院抄」(徒然草最初の注釈書/如庵宗乾刊)、
 「医学的要方」「炮炙洋鑑」「本草序列抄」「兪穴参伍的法」「素問註鈔」著、
 [なりそうでならぬ物 去年植へた柿の木 新皮あらかわの小鼓
 側より見る芸 上気はうきする人 数寄の道](犬枕)
 [宗巴(;名)の字/号]字;徳岩、号;寿命院/立安/立庵りゅうあん
- C2569 **宗波**(滄波・そうは) ? - ? 江前期芭蕉庵近隣の住む黄檗僧、本所原庭の庭林寺住寺、
 俳人;芭蕉の鹿島紀行に同行、芭蕉書簡・詞書に名が出る(1694老と呼ばれた)、続猿入、
 [落葉たく色々の木の花かな](嵐雪「其袋そのふくろ」入)
- C2570 **蒼波**(そうは:宗波と同一か?)?-? 俳人、1689杉風と角田川吟遊:杉風「角田川紀行」入
- I2567 **滄波**(そうは・一葉庵3世) ? - ? 江後期俳人:烏水門、1776「五十鈴川句合」著、
 1801「入庵吟」「こゝは伊勢」編/06「一葉額」編/18「桐がもと」著
- I2568 **艸巴**(そうは) ? - ? 俳人;1776樗良「月の夜」1句入、
 [朝風に零こぼるゝ柳かな](月の夜;83)
- L2509 **宗葩**(そうは・比喜田ひきた、) ? - 1804 京の歌人;小沢蘆庵門、
 [宗葩(;号)の別号]観月庵雪翁
- 宗播(そうは・叔英) → 宗播(そうはん・叔英、臨濟僧) C 2 5 7 6
 宗巴(そうは・千) → 宗左(宗佐・2世そうさ・千せん、久田、茶人) H 2 5 3 4
 叟馬(双馬そうば) → 土岐双馬(ときのそうば、藤田専助、狂歌) J 3 1 6 9
 相馬(そうば・丹羽) → 氏摩(うじあき・丹羽にわ/近藤、国学・歌) B 1 2 6 9
 相馬(そうば・三宅) → 瓶斎(へいさい・三宅みやけ、藩士/詩人) 2 7 3 4
- C2571 **窓梅**(そうばい) ? - 1806? 川柳作者;江戸麴町平河天神傍に住、
 1782別会桜題万句合参加(誹風柳多留一七篇入)/89吉例花角力参加(柳多留二三篇入)、
 麴町紀三井寺屋の鳥組[初音連]月並で和笛の副評/和笛没後は麴町組連の主評、
 1805和笛追善句合の礫川と両評(柳多留三一篇入)
 [しゝが見へねえしゝが見へねえにむこを取](柳多留;一七)
- 窓梅(そうばい・高井) → 立宜(りゅうぎ・高井、初世立志男/俳人) D 4 9 3 1
 瘦梅(そうばい・大窪) → 詩仏(しぶつ・大窪おおくぼ、儒者/詩人) 2 1 3 2
 瘦梅(そうばい・遠藤) → 香村(こうそん・遠藤・猪狩いかり、絵師/詩) K 1 9 4 1
 瘦梅(そうばい・松岡) → 政之助(まさのすけ・周布すぶ、藩政改革) F 4 0 4 8
 宗梅(そうばい・木村) → 逸志(いっし・木村・笠家、俳人) B 1 1 4 3
 窓梅斎(そうばいさい) → 慈悪(じあく・窓梅斎、俳人) B 2 1 0 3
- C2572 **宗珀**(宗柏/宗白そうはく・伊予屋)?-? 1534存 和泉堺町衆/連歌・歌;肖柏門;古今伝授を受、
 1515肖柏と「何路百韻」/1524三条西実隆の高野山参詣道案内、周桂と富士山見物、
 1521土祥重吟と「山何百韻」、「肖柏中将等何船連歌」など参加、
 狂歌;行風「古今夷曲集」1首入、

[落葉かく親子のもののいさかひはちゝりなりとぞ住吉の松](夷曲集;九630)、
(ちちり[まつぼっくり]に父利を掛る/醒睡笑四には[~唐崎の松]徹書記とある)

- I2570 **宗珀**(そうはく;法諱・玉室ぎよくし;道号、俗姓園部)1572-164170 京臨濟僧;伯父春屋宗園門、
1607大徳寺147世/寺内に芳春院・大源院創設、1620後水野尾天皇から禅師号、
1629-31出世制度の紫衣勅許事件で陸奥赤館に配流、茶の湯、
「心源禪」「心源禅師睡眠稿」著、狂歌;「策伝和尚送答控」入、
[玉室宗珀の号] 瞳眠子/直指心源禅師
- I2571 **宗伯**(そうはく・浅田あさだ、名;直民/惟常、儕庵男)1815-9480 信濃筑摩郡の医者;高遠・京で修学、
祖父東斎・父儕庵共に儒医、江戸に出て開業/傷寒論を究明;西洋説を弁駁、
上京し経書;猪飼敬所門/詩文;頼山陽門/1836剃髪;宗伯を称す、1866幕府奥医師・法眼、
仏国公使を治療、維新頃川路聖謨と交流;国事に奔走、維新後;東宮侍医、
「傷寒辨術」「傷寒辨証」「傷寒論識」「杏園摘抄」「杏林風月編」「古方薬議」「牛渚偶談」外著多、
[宗伯(;通称)の字/号]字;識此、号;栗園
- | | | | |
|------------------|---|------------------------|-----------|
| 宋柏(そうはく・今井) | → | 魯斎(ろさい・今井いまい、藩儒者;史官) | B 5 2 5 0 |
| 宗白(そうはく・片桐) | → | 貞昌(さだまさ・片桐かたぎり、藩主/茶人) | J 2 0 6 6 |
| 宗伯(そうはく) | → | 幸阿弥(五世こうあみ、戦国期蒔絵師) | 1 9 6 5 |
| 宗伯(そうはく・田沢/森/安部) | → | 仲舒(なかのぶ・田沢、医者/歌人) | F 3 2 1 3 |
| 宗伯(そうはく) | → | 蝶酔(ちようすい・平山、商家/俳人) | J 2 8 0 8 |
| 宗柏(そうはく;法諱) | → | 茂源(もげん;道号・紹柏/宗柏、臨濟僧) | B 4 4 1 7 |
| 宗柏(そうはく・滝沢) | → | 興継(おきつぐ・滝沢、医者/文筆) | B 1 4 4 4 |
| 宗博(そうはく・加藤) | → | 九阜(きゅうこう・加藤かとう、医者) | M 1 6 4 8 |
| 宗博(そうはく・今村) | → | 宗博(むねひろ・今村いまむら、歌人) | D 4 2 6 6 |
| 宗博(そうはく・高松) | → | 宗博(むねひろ・高松たかまつ、和漢学) | D 4 2 9 7 |
| 荘伯(そうはく;諡号・中山) | → | 和清(かずきよ・中山なかやま、藩士/兵学者) | M 1 5 1 7 |
| 総博(そうはく・藤井) | → | 総博(ふさひろ・藤井ふじい、故実家) | C 3 8 2 3 |
- I2572 **相莫**(そうばく;名・西村にしむら)?- ? 江中期越前の神職/安賀社学頭引田以西の末弟、
1743「神道錦以呂波」著
- | | | | |
|---------------|---|-----------------------|---------|
| 双白堂(そうはくどう) | → | 野虹(やこう・長野、庄屋/俳人) | 4 5 5 6 |
| 双巴斎(そうはさい・皆川) | → | 梅翁(ばいおう・皆川みながわ、藩士/儒者) | 3 6 7 0 |
- C2574 **惣八**(そうはち・大野屋おおのや、屋号:大惣だいそう)?-? 尾張名古屋の貸本屋、戯作者、多くの作者を支援、
1800洒落本「軽世界けいせいかい四十八手」編(椒芽田楽序;軽世界は尾陽なごやの酒店ちやや)、
1801旭亭主人「天岩戸」・04摸积舎「駅客娼穿えきかくしゅうせん」は初め大惣の貸本用写本、
洒落本作者椒芽田楽きのめでんがく・随筆作者小寺玉晁ぎよくちようも大惣の貸本用制作から出発
- | | | | |
|-----------------|---|------------------------|-----------|
| 宗八(そうはち・日下) | → | 陶溪(とうけい・日下くさか、藩士/儒者) | D 3 1 1 6 |
| 荘八(そうはち・岡部) | → | 以忠(以礼ゆきただ・岡部、藩士/執政) | E 4 6 7 6 |
| 曾八(そうはち・前川) | → | 正遠(まさとお・前川まえがわ、藩士/文筆家) | E 4 0 2 8 |
| 倉八(そうはち・松川) | → | 痴堂(ちどう・松川まつかわ、藩儒/詩賦) | E 2 8 9 6 |
| 蒼八(そうはち・桂井) | → | 在高(ざいこう・桂井かつらい、医/詩文) | E 2 0 9 0 |
| 惣八郎(そうはちろう・新保屋) | → | 昨囊(さくのう・岸名、材木業/俳人) | B 2 0 4 6 |
| 惣八郎(そうはちろう・土屋) | → | 朝吉(ともよし・土屋つちや/平、陪臣/歌人) | V 3 1 7 8 |
| 草波亭蛙鳴(そうはていあめい) | → | 蛙鳴(あめい・草波亭、狂歌作者) | F 1 0 0 9 |
- I2573 **宗範**(そうはん;号・玉泉坊)?- ?1495前没 天台比叡山僧/法印、連歌・新撰菟玖波集1句入
- C2575 **宗般**(そうはん;号) ?- ? 1495存 加賀の連歌作者;上京し宗祇門、
1482宗伊と「何人百韻」初見/86「能勢頼則千句」87「葉守千句」「宗祇宗般何木百韻」参加、
1489宗祇より「連秘抄」(祇般問答)を受、1494宗祇と「何路百韻」参加、新撰菟玖波集12句入
- C2577 **宗畔**(そうはん・馬淵まぶち、名;重治じゅうじ・しげはる)?-1655 京の俳人;貞徳門、のち江戸住、
1629西武亭主の「妙満寺俳諧」参加/43「俳諧独吟千句」著、
1656貞室「玉海集」・60加友「絵そらごと」入、没後;1676西鶴「古今俳諧手鑑」入、
[染めつけて花野やうつす桔梗皿](手鑑/桔梗皿;桔梗の花の如き形の皿)
- I2574 **宗璠**(そうはん;法諱・玉舟;道号、伊藤)1600-6869 山城臨濟僧;宗珀門、1649大徳寺185世/高林庵開、

茶の湯、1656禅師号、「春睡稿」「碧巖秘鈔」「臨濟録秘鈔」著、

[玉舟宗璠の号] 春睡/青霞山人/優遊自在、大徹明心禪師

- C2578 **宗伴**(そうはん・土田つた) ? - ? 江前期俳人、1676蝶々子「俳諧当世男」入・跋
- C2579 **宗範**(そうはん・法諱) ? - ? 江前期元禄1688-1704頃の黄檗僧、
鉄心道胖に近侍か?、1697刊「鉄心禅師語録」編
- 走帆(そうはん・永井) → 如瓶子(じょへいし・永井/大江、書家/狂歌) C 2 2 9 5
- 宗繁(そうはん・安宅) → 冬康(ふゆやす・安宅あたぎ/三好、武将、連歌) E 3 8 4 4
- 宗繁(そうはん・大隈) → 言朝(こととも・大隈おおくま、商家/国学) Q 1 9 5 0
- 宗範(そうはん・赤松) → 宗範(むねのり・赤松あかまつ/源、武将/歌) C 4 2 1 7
- 宗範(そうはん) → 猗蘭(いらん・本多忠統、藩主/詩歌) B 1 1 9 3
- 宗範(そうはん・森本) → 宗範(むねのり・森本もりもと、国学/医者) C 4 2 2 1
- 宗範(そうはん・辻) → 宗範(むねのり/そうはん・辻つじ、茶道家/歌) D 4 2 9 9
- 宗般(そうはん・法諱・大岫) → 大岫(だいしゅう; 道号・宗般、臨濟僧) K 2 6 2 2
- 宗播(そうばん・法諱) → 宗播(そうは: 法諱・叔英: 道号、臨濟/五山文学) C 2 5 7 6
- 曹範(そうはん・平敷) → 慶隆(けいりゅう・平敷へしき、琉球廷臣/和文) N 1 8 9 5
- 走帆堂(そうはんどう) → 肇(はじめ・寺井てらい、藩士/故実家) E 3 6 4 1
- 走帆堂(そうはんどう) → 如瓶子(じょへいし・永井/大江、書家/狂歌) C 2 2 9 5
- 掃半路(そうはんろ) → 団斎(だんさい・別号; 麦笠庵、俳人) I 2 6 7 4
- I2576 **宗比**(そうひ・本柳坊) ? - ? 伊勢俳人、1698「続猿蓑」3句入、
[山鳥やまどりのちつとも寐ぬや峰の月](続猿蓑; 卷下秋名月/月の明るさで眠れまい)
- C2580 **双飛**(そうひ・岩田いわた) ? - ? 武蔵寄居の俳人: 宗瑞門、建部綾足(涼袋)と交流、
1748涼袋の寄居の虎雪亭夜話「俳諧いせのはなし」編(友人伊山・虎岡参加; 四吟百韻入)、
1763「古今明題集」50句入
[双飛(;号)の別号] 兎雪/虎雪亭(;寄居の邸宅名)
- 宗非(そうひ・不見庵; 茶号) → 昌綱(まさつな・朽木くつき、藩主/古銭学) E 4 0 0 0
- I2577 **僧尾**(そうび; 法諱・戒如かにか; 号)?-1793 浄土僧: 湛慧門/のち徳門普寂門; 宗余乗戒律を受、
1761徳門に請われ京の成等庵3世、1781江戸芝増上寺恵照律院7世、1778「湛慧和上行状」著、
「学戒類要」「心経略疏要解并開題」「願生浄土義稽拠」「大乘起信論義記懸叙」著
- 宗弼(そうひつ・松永) → 長鯨(ちようこん; 法諱、儒学/真言僧) I 2 8 3 4
- C2581 **草肥堂**(そうひどう) ? - ? 江前期俳人; 雑俳、大坂住?、
1709「俳諧三国志」編纂(大坂毛利田庄太郎版/三都の点者撰の前句付・笠付集)
- 雙非房(そうひぼう) → 鮮妙(せんみょう; 法諱・利井かがい、真宗僧) N 2 4 1 4
- 糟百春(そうひやくしゅん) → 清狂(せいきやう・西村にしむら、絵師) H 2 4 8 9
- 増豹(そうひょう・立花/黒田) → 増熊(ますくま・黒田/立花、藩家老/歌) I 4 0 9 7
- 蔵氷(そうひよう; 法名) → 安信(やすのぶ・脇坂わかさか、武将/歌人) C 4 5 5 3
- 宗品(そうひん・日置) → 正次(まさつぐ・日置へき、弓術家) D 4 0 8 4
- C2582 **僧敏**(そうびん; 法諱・密成みつじょう; 字、俗姓; 小西) 1776-1851 76 讃岐の天台僧; 9歳で福寿院慈圭門;
得度、経史; 西山拙斎門、1797比叡山で教観二門を修学、天王寺唯門より菩薩戒を受、
勝尾寺の徳本より浄土教を修学、唯門没後; 備中浅口郡黒崎に隠棲/再び行脚、
宝寿院瑞幢より安祥寺流密教を修学/泥牛禅師より禅を修学、歌; 木下幸文門、
1825安藝広島教禅院で天台四教儀を講ず; 各地に移住し専修念仏を弘める、
晩年は備中紫雲寺甘露庵住職、
「神国決疑編考証」/1846「六字名号呼法辨」49「神道異説辨」外著多
[僧敏の号] 紫雲/空々道人
- 宗敏(そうびん・長瀬) → 宗敏(むねとし・長瀬ながせ、歌人) E 4 2 1 5
- 宗敏(そうびん・吉田) → 宗敏(むねとし・吉田よしだ、里正/紀行) B 4 2 8 5
- 宗敏(そうびん・木暮) → 宗敏(むねとし・木暮こぐれ/小久保、歌人) D 4 2 8 2
- I2578 **宗孚**(そうふ・佐世せせ、名; 元嘉、清宗男) 1545-1619 75 武将: 尼子氏の一族、初め小早川家に出仕、
のち毛利輝元の家臣; 老臣として禄8千余石、萩移封後4千石; 1607所領失う; 復禄2千石余、
連歌; 1581(天正19)「紹巴元嘉等懐旧百韻」一座、1609「佐世宗孚書案」著、

[宗孚(；法体号)の通称]与三左衛門/石見守/長門守

- C2583 **草夫**(そうふ・竹葉山ちくようざん)?- ? 連歌;含翠軒清閑の孫/祖父家本より連歌論集編、1694「世々之指南よのしなん(後刷;連歌をだまき)」編(宗祇・兼載・紹巴・新田尚純の著作5部)、(宗祇「連歌諸体秘伝抄」「角田川[吾妻問答]/兼載「連歌要心問答[若草山]」、紹巴「連歌教訓」/新田尚純「連歌会席式」の5部掲載)
- C2584 **宗富**(そうふ) ? - ? 俳人・立圃門、1633立圃「誹諧発句帳」55句入
- I2579 **双鳥**(そうふ・瀬上せがみ、別号;瀏岡庵りゅうこうあん/井下庵/春峨房)?-? 江後期京の俳人:雲柱門、1802刊「春帖」編、03「憎からぬ之巻」評、「乙卯歳旦集」編
- I2580 **宗普**(そうふ・今井いまい、別号;一志軒)?-? 江中期華道家;生花古流の開祖、「古流生花指南」著、春木三応門?、門弟;梨雲斎宏道(宏道流祖)・本松斎一得(遠州流)・笠翁斎乱鳥(独流)など、古流は安藤凉宇が2世を継嗣
- I2581 **相孚**(そうふ・葉山はやま) ? - ? 江後期大阪の俳人;樗堂・桐栖門、1837(天保8)「天保山四季発句集」、
[相孚(；号)の別号] 桃室/二畳庵/椎本庵
- | | | | |
|------------|---|-------------------------|-----------|
| 崇孚(そうふ;法諱) | → | 太原(たいげん;道号・崇孚、臨濟僧) | J 2 6 8 7 |
| 操夫(そうふ・志野) | → | 知郷(ともしと・志野しの、藩士/和算家) | P 3 1 5 1 |
| 瘦夫(そうふ) | → | 穉山(ちざん・瘦夫、俳人) | E 2 8 2 9 |
| 宗阜(そうふ;法名) | → | 利綱(としつな・斎藤/土岐/藤原、武将/歌) | M 3 1 8 8 |
| 宗富(そうふ・高橋) | → | 宗国(むねくに・高橋/紀、廷臣) | B 4 2 3 0 |
| 草父(そうふ・前田) | → | 道通(どうつう・前田、医者/家塾) | G 3 1 5 5 |
| 草阜(そうふ・壺井) | → | 益春(ますはる・壺井つばい/山本、役人/国学) | Q 4 0 9 8 |
- K2599 **宗斌**(そうふ;法諱・字;玉枝ぎやくし)1780-1839⁶⁰ 但馬の臨濟宗無量寺住職、近江犬上郡住、歌人;[彦根歌人伝・鶴/続寿附録]入、
[宗斌の号]玉礫ぎやくけい/玉叢
- | | | | |
|-------------|---|--------------------------|-----------|
| 宗武(そうふ・田安) | → | 宗武(むねたけ・田安/徳川/松平/源、国学/歌) | 4 2 0 6 |
| 宗武(そうふ・樋口) | → | 宗武(むねたけ・樋口ひぐち、国学者/書家) | B 4 2 5 3 |
| 宗武(そうふ・上妻) | → | 宗武(むねたけ・上妻こうつま、戸長/国学) | D 4 2 8 3 |
| 掃部(そうふ) すべて | → | 掃部(かもん) | |
| 藏釜(そうふ・高麗屋) | → | 正七(初世しょうしち・清水、歌舞伎作者) | S 2 2 7 5 |
| 臧夫(そうふ・寺井) | → | 養拙(ようせつ・寺井てらい、書家) | B 4 7 3 0 |
| 艸不庵(そうふあん) | → | 魚淵(なぶち・吉村・佐藤、医/俳人) | G 3 2 8 4 |
- C2585 **草風**(そうふう・盛田もりた、名;光教)?-? 伊勢の俳人;露川門、1691刊「まくら笈」撰
1717撰集「西国曲さいごくり」草風・燕説・梅風の共撰(露川と燕説の中国九州紀行と句を集録)
- 桑風(そうふう・照井) → 尋風(しんぷう・照井てらい、医者/俳人) P 2 2 7 3
- I2582 **宗福**(そうふく・下村しもむら、通称;)?-? 1508存 武家;細川政元に出仕?・1508(永正5)出家、
軍記作者;1508「細川政元記(大心院記)」著、
[宗福(；法名)の通称] 五郎左衛門/五郎左衛門尉入道ごろうざえもんじょうにゅうどう
- | | | | |
|------------------|---|-------------------------|-----------|
| 宗福(そうふく・石野) | → | 都蝶(とちよう・石野、落語家) | O 3 1 3 9 |
| 桑腹赤(そうふくせき) | → | 腹赤(はらあか・はらか・桑原/都みやこ、詩人) | F 3 6 7 9 |
| 草婦人(そうふじん) | → | 珈涼(かりよう・飯島、女流俳人) | D 1 5 3 3 |
| 莊武神靈(そうぶしんれい;神号) | → | 時良(ときよし・清水、幕臣/弓術) | K 3 1 3 2 |
- I2583 **宗沕**(そうぶつ・隠岐おき) ? - 1713 茶人;表千家良休宗左門、名物茶器収集;鑑識に長ず、
「茶人系譜」「三斎流茶湯之書」「茶祖珠光伝」/1695「泉南宗湯茶書」著、
[宗沕(；名)の通称/号]通称;与左衛門、号;高林斎/潜斎、屋号;駿河屋
- | | | | |
|----------------|---|------------------------|-----------|
| 巢阜坊(そうぶぼう・藁科) | → | 松伯(しょうはく・藁科わらしな、藩医/詩人) | L 2 2 3 6 |
| 宗棼(そうぶん;法諱・無学) | → | 無学(むがく;道号・宗棼;法諱、曹洞僧) | 4 2 3 0 |
- C2586 **宗分**(そうぶん・大庭おおば、名;賢兼かたかね)1523-? 武将;大内家家臣/のち毛利元就の家臣、加賀守、
1571出家、歌人;飛鳥井雅教門/歌学研究、連歌;1568(永禄11)「賦何木連歌」、
1571「宗分歌集」/74「伊勢物語口伝抄」82「源氏物語」(諸注集成)著、「百首歌」著、
[宗分(；号)の別号] 休庵/任弄斎/桃岳

- 宗分(そうぶん・;法諱) → 別伝(べつでん;道号・宗分、曹洞のち臨濟僧) B 2 7 0 1
 宗文(そうぶん・坂本) → 宗文(むねふみ・坂本さかもと、産科医) C 4 2 4 4
 宋文(そうぶん) → 政宣(まさのぶ・明智あけち/源、幕臣/連歌) F 4 0 5 1
 宋文(そうぶん・児島景范かげのり) → 天渤(てんろく・児島、儒者) E 3 0 6 4
 荘文院武林(そうぶんいんぶりん) → 為経(ためつね・冷泉/葉室、歌人) H 2 6 0 7
 C2587 草芬堂(そうふんどう) ? - ? 雑俳作者、1705「誹諧万人講」撰(柏原屋清右衛門版)、
 大阪の書肆柏原屋清右衛門か? → 清右衛門(せいえもん・柏原屋) 2 4 7 2
 C2588 草坪(そうへい・高橋たかはし、名;雨、商人真木屋久平2男) 1804-35³² 豊後杵築の絵師;田能村竹田門、
 竹田門四天王の1、南画家、篠崎小竹にその才を愛され小竹の姪を妻とす、
 1830-31「山水花卉帖八図」画/1860「集古名公画式」著、「耶馬溪図」画、
 [草坪(;号)の幼名/字/法号]幼名;富三郎、字;元吉、法号;哲真画工居士
 宗平(そうへい・鷹司) → 宗平(むねひら・鷹司/藤原、廷臣/歌・連歌) C 4 2 3 4
 宗平(そうへい・堤) → 量水(りょうすい・堤つみ、藩士/和算家) I 4 9 3 2
 宗平(そうへい・岡村) → 直枝(なおえ・岡村おかむら/中西、典医/歌) L 3 2 4 8
 宗平(そうへい・北村/北屋) → 命亮(のぶたか・北村きたむら、里正/歌人) I 3 5 2 2
 宗平(そうへい・植田) → 有年(ありとし・植田うえだ、医者/勤王) H 1 0 0 8
 壮平(そうへい・立川) → 曾秋(そしゅう・立川たちかわ、農/俳/心学) L 2 5 0 5
 惣平(そうへい・多田) → 竹子(ちくし・多田ただ、俳人) G 2 8 3 0
 惣平(そうへい・田丸屋) → 素鴉坊(そにゅうぼう、俳人) K 2 5 2 8
 惣乗(そうへい・江村) → 愚亭(ぐてい・江村むら、儒者/詩人) C 1 7 4 9
 左右平(そうへい・川原) → 保吉(やすきち・川原/河原かわはら、和算家) B 4 5 2 3
 左右平(そうへい・金子) → 昌良(まさよし・金子かねこ、和算家) I 4 0 7 4
 I2584 荘兵衛(そうべえ・山元やまもと、名;盛富、藤兵衛5男) 1795-1856⁶² 薩摩鹿兒島藩の樟脳製造の小頭職、
 楠実並びに諸木植付掛、樟の人工実生法を發明;増殖に尽力、1850藩林支配人、
 以後廢藩まで長男藤助・次男正助が支配人となる、1851各地の山林を自費で視察;
 藩より褒賞を受、1851「山元氏記録」著
 I2585 惣兵衛(そうべえ・大竹おおたけ) ? - ? 江戸末期岩代伊達郡梁川の養蚕家、
 1859(安政6)「養蚕頭秘録」著、天明1781-89頃の養蚕家大竹甚右衛門の一族か?
 惣兵衛(そうべえ・水野) → 忠友(ただとも・水野みずの、藩主/老中) Q 2 6 1 4
 惣兵衛(そうべえ・高尾) → 嘉文(よしふみ・高尾/今井、幕臣/和学) N 4 7 6 9
 惣兵衛(そうべえ・染物屋) → 信光(しんこう、染物屋惣兵衛/俳人) E 2 2 0 6
 惣兵衛(そうべえ・明田屋) → 養老館路産(ようろうかんろさん、国学/狂歌) B 4 7 6 5
 惣兵衛(そうべえ・伊藤) → 為憲(いけん・伊藤、旗本家臣/文筆家) F 1 1 4 0
 惣兵衛(そうべえ・伊藤) → 祐敏(すけとし・伊藤いとう、庄屋/国学) L 2 3 3 6
 惣兵衛(そうべえ・桂) → 文治(初世ぶんじ・桂かつら、噺家) F 3 8 5 6
 惣兵衛(宗兵衛そうべえ・袋屋) → 雨什(うじゅう・生方うぶかた、俳人/狂歌) C 1 2 8 0
 惣兵衛(宗兵衛そうべえ・根本) → 精器(せいき・根本ねもと、鑄師/俳人) H 2 4 8 5
 惣兵衛(宗兵衛そうべえ・檜村) → 守国(もりくに・橋たちばな/檜村、絵師) F 4 4 3 7
 惣兵衛(そうべえ・金屋/佐藤) → 月窓(げつそう・佐藤さとう、医者/歌人) H 1 8 1 7
 惣兵衛(そうべえ・飯高) → 尚寛(しょうかん;名・飯高、農漁業/詩人) F 2 2 9 3
 惣兵衛(そうべえ・森川) → 香山(こうざん・森川もりかわ、弓術家) J 1 9 1 5
 惣兵衛(そうべえ・服部) → 正樹(昌樹まさき・服部、藩士/国学/歌) C 4 0 2 7
 惣兵衛(そうべえ・林) → 正明(まさあき・林はやし、本陣/国学者) R 4 0 9 1
 惣兵衛(そうべえ・畑) → 豊久(とよひさ・畑はた、歌人) W 3 1 0 9
 惣兵衛(そうべえ・遠山) → 正躬(まさみ・遠山とおやま、歌人) R 4 0 0 6
 総兵衛(そうべえ・小島) → 宗賢(そうけん・小島こじま、俳人) B 2 5 2 4
 総兵衛(そうべえ・若松) → 常齡(つねとし・若松/下代、藩士/農政家) C 2 9 6 8
 総兵衛(そうべえ・蘆沢) → 一閑(いっかん・蘆沢あしざわ、藩士/記録) G 1 1 8 1
 総兵衛(そうべえ・山崎) → 繁平(しげひら・山崎やまざき、国学者) Z 2 1 9 7
 荘兵衛(そうべえ・河/上河) → 淇水(きすい・上河うえかわ/河、心学者) B 1 6 3 0

荘兵衛(そうべえ・萩原) → 正平(まさひら・萩原、国学/神道家) G 4 0 8 8
 荘兵衛(そうべえ・村上) → 喜隆(よしたか・村上むらかみ、和算家) E 4 7 0 0
 荘兵衛(そうべえ・山田) → 常山(じょうざん・山田やまだ、藩奉行/国学) V 2 2 4 1
 壯兵衛(そうべえ・駒屋/内田) → 成行(しげゆき・内田うちだ/吉田、国学/歌) N 2 1 5 0
 宗兵衛(そうべえ・前田) → 利太(としか・前田まえだ、武将/日記) M 3 1 1 7
 宗兵衛(惣兵衛そうべえ・伊藤) → 正作(まさなり・伊藤、医者/農業研究) F 4 0 4 5
 宗兵衛(そうべえ・谷口) → 重以(じゅうい・谷口たにぐち、俳人/歌人) G 2 1 8 0
 宗兵衛(そうべえ・杉田) → 花丸(はなまる・春光園・優々館、戯作/狂歌) F 3 6 4 9
 宗兵衛(そうべえ・本荘) → 維芳(惟芳いほう・本城/本荘、漢学/白話) D 1 1 9 6
 宗兵衛(そうべえ・中西) → 重孝(しげたか・中西、農業/国学者/歌) R 2 1 2 2
 宗兵衛(そうべえ・河村) → 内郷(うちさと・河村かわむら、郷土/国学) D 1 2 0 7
 宗兵衛(そうべえ・米屋) → 悠斎(有斎ゆうさい・高村、医者/心学) B 4 6 7 6
 宗兵衛(そうべえ・浅田屋) → 乎佐丸(おさまる・鶴廼屋、狂歌) D 1 4 0 7
 宗兵衛(そうべえ・中西) → 多豆伎(たずき・中西なかし、国学者/歌) P 2 6 0 0
 惣兵衛尉(そうべえのじょう・安倍) → 直貞(なおさだ・安倍あべ、和学者) K 3 2 7 0

C2589 藻壁門院(そうへきもんいん、名; 樽子じゆんし、九条道家女)?-1233 後堀河天皇中宮:1229入内、
女房歌人に少将・但馬がいる

藻壁門院少将(そうへきもんいんのしょうしょう) → 少将(しょうしょう・藻壁門院) N 2 1 6 4

藻壁門院但馬(そうへきもんいんのだじま) → 但馬(たじま・藻壁門院) E 2 6 6 6

C2590 宗徧(そうへん・山田やまだ、明覚男) 1627-1708 82 母;山田監物女、真宗大谷派長徳寺の生、
長徳寺5世を継嗣/還俗;母方の姓を名乗る、茶道;小堀遠州門/1600頃より千宗且門、
洛西鳴滝の三宝寺内に茶室四方庵を設置/1655宗且の推挙で三河吉田藩主小笠原家茶頭、
百石を知行;吉田住、1697藩主転封のため致仕;江戸本所二丁目に茶室建設/門弟教育、
宗徧流茶道の祖、手工の技に長じ茶杓・茶碗・琵琶・木像を制作/造庭にも秀でる、
宗且より不審庵・今日庵の称を許可、大高源吾に吉良家茶会を教えたとされる、
1675「茶道要録」著/80「茶道便蒙抄」編、1702「利休茶道具図絵」著、「茶式」著、
宗倫・宗屋・宗俊の父、
[宗徧(;号)の別号]別号;宗円/周学(僧号)/如箭子/如竿子/不審庵/今日庵/力圃斎、
四方庵よほうあん、法号;不審庵周学宗徧居士

L2528 増辨(増弁そうべん;法諱、)? - ? 鎌倉期;興福寺僧;貞慶じょうけい(1155-1213)門/権律師、
歌人;1237刊[檜葉集]4首入、宝積院卅講の講師;師貞慶との問答(続古今795/檜葉;545)、
[朝がすみよこほりかけてたちにけりそこともみえずさやの中山](檜葉;春7/霞越山)

I2586 宗甫(そうほ・北村きたむら) ? - ? 江前期加賀金沢藩士、尾張在国時より前田利家家臣、
加増;禄千20石、連歌;1605(慶長10)加賀白山比咩社造営時に鷹栖明宗と両吟連歌を奉納、
「白山万句」著、
[宗甫(;出家号)の通称] 三郎右衛門/作内

C2591 宗甫(そうほ;号・林はやし、通称;甚兵衛、屋号;蠟燭屋) 1623-94 72 京二条の地誌家/大和郡山に移住、
植槻に住、1681「大和名所記」著、俳人;重頼系、1672重徳「俳諧塵塚」漢和8吟入、
1676西鶴「古今俳諧師手鑑」入、
[紅葉狩や家を離れて八九月](手鑑/謡曲[道明寺];家を離れて三四月)

F2506 宗鋪(そうほ・井上いのうえ) ? - ? 摂津の俳人、狂歌、1666行風「古今夷曲集」4首入
[やるまいぞやるまいものを時鳥きいたかきいたか今のひとこゑ](古今夷曲集:二夏歌)
(やるまいぞは狂言の台詞/きいたかきいたかは歌舞伎の台詞)

I2587 宗歩(そうほ・天野あまの/本姓;平、名;教弘) 1816-59 44 江後期江戸本郷の将棋士、
1821(6歳)11世大橋宗桂門、長じて関西に修業/京で門弟指導/1852江戸帰郷、
将軍家棋席に列す;棋聖と称されるが終生7段に甘んず、1853「将棊精選」55「将棊方鑑」著、
[宗歩(;出家号)の幼名/通称]幼名;留次郎、通称;富次郎

宗甫(そうほ) → 遠州(えんしゅう・小堀政一) 1 3 0 1

宗甫(そうほ・田村/照井) → 長柄(ながら・照井てるい、医/神職/国学) G 3 2 6 0

宗甫(そうほ・渡辺) → 規綱(のりつな・渡辺、家老/茶/陶芸) F 3 5 0 9

- 宗甫(そうほ・小見山) → 天老(てんろう・小見山こみやま、医者/俳人) E 3 0 6 2
 宗甫(そうほ・松尾) → 宗甫(むねとし・松尾まつお、藩医/国学/歌) E 4 2 2 6
 宗輔(そうほ・藤原) → 宗輔(むねすけ・藤原ふじわら、廷臣/舞・笛) B 4 2 4 4
 宗輔(そうほ・土井/源) → 利徳(としなり・土井/伊達、藩主/歌人) N 3 1 3 3
 荘甫(そうほ・新居) → 百梅(ひゃくばい・新居にい、藩医/詩人) E 3 7 7 6
- C2592 宗朋(そうほう・柏原、通称;板原三郎兵衛)?-? 紀伊和歌山俳人;貞徳門、1633立圃「誹諧発句帳」、
 1636重頼「毛吹草」38西武「鷹筑波集」入、狂歌;1666行風「古今夷曲集」8首入、
 [たはけとも中々いはじ明る夜の花を見捨てて帰るがながり](古今夷曲;春77)
- 12588 宗鳳(初世そうほう・青木あおき) 1690-1765 76 大阪の茶人;山田乗仙門/遠州流茶法修学、
 茶道文献の研究、「古今茶語」「服紗考」「喫茶南方録細註」著、
 [宗鳳(;名)の号]紫雪庵/凡鳥/水蒲/一統子、 息子;2世宗鳳/孫;3世宗鳳
- 12589 宗那(そうほう・中曾根なかそね) 1824-1906 83 上州碓氷郡下里見村の和算家;桜井義鄰門、
 斎藤宜義門/剣持章行門、洋法測量術;内田五観門、1853「円理解義一」「円理解術五題」、
 1854「適尽方級法」60「数理神篇」著、60「数理神篇」編、「楕円中容大小九円詳解」外著多数、
 [宗那(;名)の通称/号]通称;新五郎/慎吾、号;忠郷たださと/榛陽しんよう
- 雙峰(そうほう;道号) → 宗源(そうげん;法諱・雙峰、臨濟僧) B 2 5 2 8
 相方(そうほう・源) → 相方(すけかた・源みなもと、廷臣/歌人) B 2 3 9 8
 宗彭(そうほう・沢庵) → 沢庵(たくあん、臨濟僧/詩歌人) E 2 6 1 8
 宗峰(そうほう;道号) → 宗峰(しゅうほう・妙超、臨濟僧) Y 2 1 3 8
 宗法(そうほう・小見山) → 天老(てんろう・小見山こみやま、医者/俳人) E 3 0 6 2
 宗法(そうほう・小見山) → 友房(ともふさ・小見山、医/歌人) Q 3 1 5 1
 宗芳(そうほう・高橋) → 宗芳(むねよし・高橋/紀、廷臣/記録) C 4 2 9 0
 宗芳(そうほう・中小路) → 宗芳(むねよし・中小路なかこうじ/菅原、神職/歌) E 4 2 0 8
 蒼峯(そうほう・倉根) → 是明(これあき・倉根くらね、藩士/教育/詩歌) Q 1 9 6 6
 漱芳(そうほう・岩田/大枝) → 流芳(りゅうほう・大枝/大江/巖、香道家・煎茶) F 4 9 6 3
 総芳(そうほう→ふさよし・鳥海) → 酔車(すいしゃ・鳥海とりうみ、里正/郷土史家) E 2 3 6 2
 宗房(そうほう・吉田) → 宗房(むねふさ・吉田/勸修寺/藤原、廷臣/歌) C 4 2 4 1
 宗房(そうほう・藤原) → 成通(なりみち・藤原、廷臣/蹴鞠/歌人) 3 2 2 9
 宗房(そうほう・飛鳥井/松木) → 宗満(むねみつ・松木まつきの/中御門/藤原/飛鳥井、廷臣) C 4 2 5 5
 宗房(そうほう・松尾) → 芭蕉(ばしょう・松尾、俳人) 3 6 1 7
 宗房(そうほう・伊達) → 宗房(むねふさ・伊達だて/田手、領主) D 4 2 9 1
 宗房(そうほう・谷沢/沢/油与) → 近嶺(ちかね・沢/谷沢、商家/歌文) B 2 8 5 0
 嗽芳菴(そうほうあん) → 猿左(えんさ、俳人) B 1 3 7 4
 嗽芳庵(そうほうあん) → 墨芳(ぼくほう・羽田、猿左の後輩俳人) D 3 9 9 0
 漱芳閣(そうほうかく) → 梅堂(ばいどう・浅野、幕臣/文筆) B 3 6 9 2
 雙峰国師(そうほうこくし) → 宗源(そうげん;法諱・雙峰;道号、臨濟僧) B 2 5 2 8
 双峯山人(そうほうさんじん) → 通理(みちまさ・岡本おかもと、儒者/国学) C 4 1 5 5
 僧法水(そうほうすい) → 松荘(しょうそう・奈良なら、詩歌人) K 2 2 5 6
 雙峰禪師(そうほうぜんじ) → 宗源(そうげん;法諱・雙峰;道号、臨濟僧) B 2 5 2 8
 相忘亭主人(そうぼうていしゅじん) → 寛(ひろし・生方うぶかた/源、書家) F 3 7 9 0
- 2518 宗牧(そうぼく・谷たに、別号;孤竹斎/月林斎)?-1546 越前一乗谷(or和泉堺)の連歌師;宗長・宗碩門、
 京住、宗祇の理論を継承、京で三条西実隆・近衛尚通・植家と連歌・古典の交流、
 活動前半期(享禄1528-32頃まで)は肖柏・宗長・宗碩の陰で目立たない、
 1516-7(永正14-4)宗碩に随行し九州一周行脚/伊勢・尾張・越前・能登を行脚、
 活動後半期;特に1533宗碩没後は連歌界第一人者/細川播州家・自邸で頻りに連歌会、
 1536連歌宗匠;40将軍家初卯千句に招聘、細川家「北野法楽千句」参(将軍代理巻頭発句)、
 1544宗養を伴い東国へ出京;織田家に女房奉書を伝え駿河に越年/43筑波・白河を巡る、
 帰京途中下野佐野にて客死、
 連歌作品;1523「独吟千三百韻」24「独吟千二百韻」27「矢嶋小林庵百韻」、
 1537能親「伊予千句」(第九発句)、「名所百韻」「氏泰館独吟百韻」「百番連歌合」など、

句集;「孤竹」「宗牧句集」「宗牧独吟句集」など、註釈;「住吉百韻注」「湯山千句注」など、
連歌論;「胸中抄」「連歌秘袖抄」「闇夜一燈」「当風連歌秘事」「連歌極秘之書」「春霞」など、
連歌集;「連歌扱善集」「発句拔書集」「連歌付句集」編、
紀行;「東国紀行」「宗牧和歌」外著多数、
[花の色も鳥の音惜しむ夕かな](十二番連歌仙/晩年代表作)、
辞世の歌[もみち葉は常なき風に散りぬともなほ木のもとをあはれとは見よ]、
(古今伝授の筥に入れ近衛植家に送り息子宗養の庇護を要請)

I2590 **宗樸**(宗朴/宗璞そうぼく;法諱・玉質ぎよくしつ;道号、俗姓;一色)1586-? 丹後臨濟僧;1596西笑承兌門、
のち閑室元佶門;法嗣、1614駿府円光寺2世、「黔驢集」、
[宗樸の通称] 朴蔵主

I2591 **宗卜**(そうぼく・大町おおまち) ? - ? 江前期元禄1688-1704頃京の外科医、
「阿蘭陀外科全書」「和蘭陀膏薬」編/1696「阿蘭陀薬油製方并図」編

C2593 **宗卜**(そうぼく) ? - ? 大阪の俳人、1751千葉春耕編「あふ夜」20句入
半井瑞直みずなお(宗卜/堺の医者/1711-61)と同一?

I2592 **僧樸**(僧璞そうぼく;法諱・抱質;字、高橋久之丞男)1719-6244 越中射水郡小泉の真宗本願寺派僧、
1734射水郡二口村の誓光寺で出家/1736上京;本願寺派学林で法霖門;各地学匠を歴訪、
1745安藝仏護寺住/49安藝可部の品窮寺住/堺小山新田に祐貞寺創建、
1753法主光闡(法如)の命で若狭の春東の誤を弁破;59「真宗法要」編纂(泰巖・道粋と)
1760京の宏山寺5世;室を昨夢廬と称す、門弟;僧鎔・慧雲・崇廓・大同・玄智・大麟・仰誓ら、
「休々法語」「昨夢廬法語」「昨夢廬談聴記」「往生礼讃偈昨夢録」「陳善院法語」外著多数
[僧樸(法諱)の幼名/別号]幼名;久之丞、別号;休々子/昨夢廬、諡号;陳善院、

K2587 **宗朴**(初代そうぼく・狩野かのう、)1748-181871 京の生/大坂で茶商、茶人;裏千家8代千宗室門、
古器の鑑定に長ず、
[宗朴(名)の通称/号]通称;辰三郎、号;素斎/訥翁とつおう/指月庵/自責庵/枝月庵

K2588 **宗朴**(2代そうぼく・狩野かのう、初代宗朴2男)1799-184848 大坂の茶人;父門、兄宗寿早世;2代目継嗣、
[2代宗朴(名)の通称/号]通称;幾次郎、号;琢叟/皎斎こうさい/枝月庵

K2589 **宗朴**(3代そうぼく・狩野かのう、2代宗朴長男)1833-190876 大坂の茶人;裏千家11代千宗室門、
国学・歌;中村良顕門、茶室・茶庭の設計に長ず、歌人/俳人、
[3代宗朴(名)の初名/通称/号]初名;宗玖、通称;正三郎、
号;尚翁/玄筌斎/枝月庵/章元/荻垣内

宗卜(そうぼく・中村) → 宗卜(むねしめ・中村なかむら、武将/城主) E 4 2 1 0

宗卜(そうぼく・半井) → 瑞直(みずなお・半井なからい、医者/歌俳人) J 4 1 9 9

宗牧(そうぼく/そうもく;法諱) → 東溪(とうけい;道号・宗牧、臨濟僧) D 3 1 0 1

宗牧(そうぼく・半井) → 瑞成(よしなり・半井なからい、医者/歌) O 4 7 2 7

宗睦(そうぼく・徳川) → 宗睦(むねちか・徳川/松平/源、藩主/詩歌) B 4 2 6 0

宗朴(そうぼく・日向) → 元秀(げんしゅう・日向ひゅうが、本草家) J 1 8 6 2

藪北(そうぼく・稲岡) → 秋平(あきひら・稲岡いなおか、藩医/歌人) H 1 0 0 3

I2593 **宗本**(そうほん;通称・小川おがわ、名;立命)1652-9544 常陸水戸の医者;1679医業、1682「方書摘要」著

宗本(そうほん・小堀) → 正和(まさかず・小堀こぼり/源、茶道/書) M 4 0 6 6

棗本(そうほん・安田) → 躬弦(みつる・安田/源、藩医/国学/歌) F 4 1 2 8

I2594 **宗凡**(そうぼん;法諱・津田つだ、屋号;天王寺屋、宗及男)?-1612 堺の町衆/豪商/茶人;父門、
秀吉の茶頭(父を継承)、文禄役に随従/関ヶ原戦で三成に与し没落、「津田宗及日記」

惣本寺(そうほんじ) → 高政(たかまさ・菅野谷すげのや、俳人) 2 6 1 6

相馬(そうま・丹羽) → 氏擘(うじあき・丹羽にわ/近藤、国学・歌) B 1 2 6 9

相馬(そうま・三宅) → 瓶斎(へいさい・三宅みやけ、藩士/詩歌人) 2 7 3 4

相馬(そうま・樺山) → 忠陽(ただあき・樺山かばやま、藩士/歌人) W 2 6 5 7

壮馬(そうま・大島) → 直章(なおあき・磯野いその/大島おおしま、歌) 3 2 6 1

叟馬(そうま) → 土岐双馬(とぎのそうば、藤田専助、狂歌) J 3 1 6 9

左右馬(そうま・寺田) → 剛正(たけまさ・寺田てらだ、藩士/佐幕派) O 2 6 7 6

相馬小二郎(そうまのこじろう) → 将門(まさかど・平たいら、武将/天慶乱) C 4 0 1 4

- 宗満(そうまん・黒田) → 宗満(むねみつ・黒田/京極/源、歌人) C 4 2 5 3
 宗満(そうまん・飛鳥井/松木) → 宗満(むねみつ・松木まつのき/中御門/藤原/飛鳥井、廷臣) C 4 2 5 5
- C2595 宗味(そうみ) ? - ? 京住、1633重頼「犬子集」1句入、
 [かりがねは後に大儀な料理哉](犬子集;四1074借金も雁の料理も後が大変だ)
 ☆楽らく宗味と同一? → 常慶(じょうけい・楽らく、陶工/歌人)
- 宗味(そうみ・楽) → 常慶(じょうけい・楽らく/田中、陶工) V 2 2 4 2
 相覧(そうみ・巨勢) → 相覧(おうみ・巨勢こせ、金岡男/絵師) C 1 4 6 5
 宗名(そうみょう) → 玄妙(げんみょう:法諱、真宗本願寺派僧) M 1 8 4 5
- K2584 増名(ぞうみょう;法諱) ? - ? 江後期;僧/歌人、
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
 [ふるさとは薄すき高がやしげりあひて駒うち入れん道だにもなし]、
 (大江戸倭歌;雑1705/故郷)
- 増命(ぞうみょう;法諱・千光院) → 静観(じょうかん;諡号、天台座主) F 2 2 9 4
- C2596 宗眠(そうみん) ? - ? 俳、1674宗旦「遠山鳥」4吟百韻入
- C2597 宗珉(そうみん・横谷よこや、宗与男) 1670-1733 64 江戸の彫金師横谷家3世、装剣工師、
 初め幕府御用後藤家の下地師;宗知名、1690頃独立;改名宗珉、絵風彫刻を創始、
 片切彫に長ず/町彫まぼりの宗家、「筠庭雑録」入、
 [宗珉(;名)の別名/通称]初名;宗知、通称;長二郎/治兵衛
- I2595 宗珉(そうみん;通称・前田まへだ、名;温潤) ?-? 江後期常陸土浦の医者;稲葉蚕水門、
 1804(文化元)刊「復古明試録」編
- 宗珉(そうみん・江村) → 剛斎(こうさい/ごうさい・江村えむら、儒者) B 1 9 1 3
 宗珉(崇珉そうみん・塚越/越) → 惣太郎(荘-そうたろう・越/塚越/斎藤、藩蘭医/尊攘) I 2 5 4 0
 宗民(そうみん・池辺) → 宗民(むねたみ・池辺いけべ、国学/歌) D 4 2 6 5
 草民(そうみん・芝) → 秀恭(ひでやす・芝しば/加藤、藩士/神職) J 3 7 7 7
- C2598 宗務(そうむ・遠藤えんどう) ? - ? 医者、
 1604頃林道春公開講義で太平記講義(;なぐさみ草入)
- C2599 宗牟(そうむ) ? - ? 和泉堺住の俳甚、1633重頼「犬子集」3句入、
 [矢にあたり血のながるゝや紅鹿子べにかのこ](犬子集;三757/鹿は初夏出産)
- 宗無(そうむ、宗無居士) → 来山(らいざん・小西、俳人) 4 8 0 1
- I2596 宗明(そうめい;法諱) ? - ? 鎌倉期正安1299-1303頃大和室生寺の僧、
 1302「室生山御舎利相伝縁起」著
- I2597 宗明(そうめい;法諱) ? - ? 室町期永徳永正1381-1441頃下総真間の日蓮僧、
 弘法(ほう)寺俗別当、1434「開会抄」、「開目鈔文段」著
- 宗明(そうめい・宇野) → 宗明(むねあき・宇野うの、商家/古銭蒐集) 4 2 6 5
 宗明(そうめい・源) → 宗明(むねあき・源みなもと、廷臣/歌人) B 4 2 0 0
 宗明(そうめい → むねあき・佐藤) → 馬耳(ばに・佐藤さとう、本陣役人/俳人) E 3 6 3 6
 宗命(そうめい) → 宗命(しゅうみょう;法諱、鳥羽僧都、真言僧) Y 2 1 4 2
 相明(そうめい・逸見) → 石龍子(せきりゅうし・逸見、相法家) K 2 4 5 3
 相命(そうめい・東) → 相命(すけとし・東ひがし/秦、神職) J 2 3 0 3
 滄溟(そうめい) → 蕪村(ぶそん・与謝・谷口、俳人/絵師) 3 8 1 1
 滄溟(そうめい) → 御調(みつぎ・松岡/佐野、神職/国学) D 4 1 2 7
 藻溟(そうめい・片岡) → 高茂(たかしば・片岡かたおか、国学者) W 2 6 4 7
 増名(ぞうめい) → 増名(ぞうみょう;法諱、僧/歌人) K 2 5 8 4
 増命(ぞうめい → ぞうみょう;法諱) → 静観(じょうかん;諡号、天台座主) F 2 2 9 4
 聡明九郎(そうめいくろう) → 持之(もちゆき・細川、武将/管領/歌人) B 4 4 7 7
 草銘軒(そうめいけん) → 基邑(もとむら・後藤ごとう、郷土史家) E 4 4 4 1
- I2598 宗模(そうも;法諱・径山けいざん;道号、別法諱;禅模) ?-1868 丹波臨濟僧:碩王/迦陵門、慈雲寺住、
 晩年は駿河大中寺の子院徳落寺住、「鷲頭山下集」「禅林退歩集」
- 宗茂(そうも・立花) → 宗茂(むねしば・立花/高橋、藩主/家訓) B 4 2 3 9
 宗茂(そうも・中尾) → 宗茂(むねしば・中尾なかお、神道家) B 4 2 4 3

- 宗茂(そうも・水竹軒) → 静林(じょうりん;法諱・水竹軒、僧/歌人) L 2 2 9 9
 荘茂(そうも・宮地) → 水溪(すいけい・宮地みやじ、藩士/儒・国学) 2 3 4 3
 総茂(そうも・石川) → 総茂(ふさげ・石川いしかわ、藩主) C 3 8 0 9
- E2528 宗孟(そうもう・栗山くりやま、川内)?-? 江前期俳人、1678西鶴「物種集」入、
 [しの字をひきし横雲の空](物種集、前句;細長き夢の浮き橋打ち渡り、
 一休和尚が比叡山頂より麓まで一筆書きでしの字に下りた逸話/定家の春の夜の歌)
- I2599 僧黙(そうもく;法諱) ?-? 安永1772-81頃安藝真宗本願寺派真行寺住職、
 1779刊「金剛鉾論講翼」、「阿弥陀経玄談講翼」、「大乘起信論義記玄談講翼」、「理趣了義抄」著
 宗牧(そうもく/そまほく;法諱) → 東溪(とうけい;道号・宗牧、臨濟僧) D 3 1 0 1
 草木庵(そうもくあん) → 大巢(たいそう・高橋/平井、商家/俳人) K 2 6 5 4
 桑門時貞(そうもんじてい) → 慈円(じえん;法諱、慈鎮、天台僧/歌人) 2 1 0 4
- D2500 宗也(そうや・岩手いわた、名;英方、通称;治[次]左衛門)?-?1670頃没 江前期1628讃岐丸亀藩に出仕、
 藩主生駒高俊の家臣、1640生駒騒動で主家改易;浪人、のち相模小田原藩主稲葉家の家臣、
 稲葉正則に出仕;重臣となる、歌/連歌;里村昌琢門、俳諧;宗因と親交、狂歌作者、
 「讃岐下りの記」著(;狂歌入の紀行)、「京より讃州高松江道行」、連歌句集「水海月」著、
 1666「古今夷曲集」7首入、没後;1676西鶴「古今俳諧師手鑑」入、
 [寒き夜はいかなる歌も詠みつべしあまりかゞめば人丸になる](夷曲集;冬250)、
 (寒さでかがんで人の丸ができる;歌聖人人麻呂になる)
- D2501 草也(そうや;号・安江やすえ、澄心軒)?-? 江前期備後三原の俳人/談林系;西鶴と交流、
 1683調和「俳諧題林一句」入/94南水「熊野がらす」入、95「備後砂」編、
 [化して登る朱の人魚や花の滝](俳諧題林一句)
- K2579 草也(そうや) ?-? 上州松井田の俳人、1695不角「昼礫ひるつぶて」入
 [子のためと常盤両夫のへらず口](昼礫/義朝・清盛・一条長成に嫁いだ常盤御前)
- J2500 草也(そうや・木村きむら) 1678 - 1749? 相模の酒造業/傍ら三崎奉行所に勤務、
 俳人;志村無倫・立羽不角門、「俳諧三崎志」編、地誌「三崎誌」著、松月亭市明しめい(俳人)の父、
 [草也(;号)の通称/別号]通称;伝右衛門、別号;鶯丘舎
 息子 → 市明(しめい・木村きむら、商家/俳人) V 2 1 7 9
- C2542 宗也(そうや・久田ひさだ、3世久田宗全の弟市三郎の男) 1681-1744? 茶道家;久田家4世、
 茶人;表千家6代覚々斎門、3世久田宗全の甥/久田家4世を継嗣、5世宗悦の父
 [宗也(;号)の名/通称]名;弥次郎、通称;不及斎、
- D2502 艸也(そうや;号・奥田おくだ、別号;五六房)?-? 俳人;蓼太と親交、1743蓼太「ほうぐ袋」編纂
- D2503 桑也(そうや) ?-? 俳人、1756超波追善絵俳書「わかかな」玉峨らと共編
- 草野(そうや・平瀬) → 徹斎(てっさい・平瀬、書肆) C 3 0 3 0
 草野(そうや・倉沢) → 清也(きよなり・倉沢くらさわ、庄屋/国学/神職) U 1 6 2 2
 宗也(そうや・伊賀屋) → 忠由(ちゅうゆう・谷たに、商家/俳人) G 2 8 8 9
 宗弥(そうや・林) → 風草(ふうそう・林はやし、商家/俳人) 3 8 8 8
 草野子(そうやし・深見) → 草野子(くさのこ・深見ふかみ、歌人) D 1 7 8 8
- D2504 増瑜(ぞうゆ;法諱) ?-? 南北期?僧;権僧正/僧正、歌;新後拾遺730、
 [夜もすがらもる庵近き鹿のねはいなば風やさそひきぬらん](新後拾:雑秋730)
- D2505 宗祐(そうゆう;法諱) ?-? 南北期?僧/法師、歌人;
 勅撰2首;新拾遺1842、新後拾遺1189、
 [いくたびか憂き世の外に捨てし身を又立ちかへり歎きわぶらむ](新拾:雑1842)
- J2501 宗雄(そうゆう;法諱、俗姓;稻常、名;元成[元盛])?-?1495前没 武家;細川勝元の家臣/連歌作者、
 出家、心敬より形見の詠草を贈られる、1474宗祇と「両吟何木百韻」、新撰菟玖波集2句入
- B2534 宗友(そうゆう・沙弥、山内藤次盛道もりみち/本姓;藤原)?-? 室町期早歌伝承者;口阿門/1425相伝、
 將軍側近の武士/出家、1463高橋富職に伝授
- D2506 宗友(そうゆう・石井、法名;行本ぎょうほん)?-? 堺の商人/出家/連歌;1460頃宗祇と交流、
 1486住吉白洲亭での「何人百韻」/87宗祇「葉守千句」参加、新菟玖波7句入、
- J2502 宗尢(そうゆう、香川かがわ、光景2男) 1545-1619? 周防岩国の武将、広景の弟・学澄の兄、
 毛利元就の臣;1564(永禄7)伯耆尼子軍の不動ガ嶽城を攻撃に参加/65八橋城攻略に参加、

さらに月山富田城の戦に参加、1568美作に侵攻；三浦貞盛の高田城を攻略、九州大友家と対立；豊前へ転戦/1569(永禄12)尼子再興軍と宇喜多直家が連合軍結成；春継は父光景・兄広景と共に高田城入城し連合軍と合戦、のち元就2男吉川元春に出仕、1586(天正14)秀吉九州征討に吉川軍として参加；豊前の高橋元種攻略に貢献、1600関ヶ原戦後毛利家防長移封で岩国領主吉川広家の家臣；吉川家家老となる、兵部大輔、連歌；里村紹巴門、「宗尤独吟千句」著、家景・家継(一汀)の父
[宗尤(；号)の名/通称]名；春継はつぐ、通称；又左衛門

- D2507 **宗祐**(そうゆう) ? - ? 京の俳人、1649立圃「花月千句」連衆
- L2525 **宗由**(そうゆう；法諱) ? - ? 江前期；上方の沙弥/歌人、
1670下河辺長流[林葉累塵集]3首入、
[老が世をなげく涙にいざからんくろき筋なき滝の白玉](林葉累塵；雑1148)
- D2508 **相有**(そうゆう；法諱) ? - ? 江中期豊前の天台宗彦山巖王院の座主/詩人、
1715(正徳5)「彦山勝景詩集」編
- J2503 **宗幽**(そうゆう・片桐かたぎり、名；友従ともゆき、友春男)1728-180174 幕臣；1744吉宗家臣/60家督/83致仕、
茶道；篠田松嶺門、「利休茶ノ湯秘伝書」編、「数寄屋差図」(伝)、
[宗幽(；致仕号)の幼名/通称/別号]幼名；虎之助、通称；民部/帯刀、別号；一法庵/幽古
- 宗友(そうゆう・) → 宗友(むねとも・/廷臣散位/歌人) E 4 2 3 7
- 宗友(そうゆう・和久) → 半左衛門(はんざえもん・和久わく、藩士/書家) H 3 6 7 0
- 宗友(そうゆう・藤原) → 宗友(むねとも・藤原ふじら、廷臣/漢学) B 4 2 8 7
- 宗友(そうゆう・小堀) → 政方(まさみち・小堀こぼり、藩主) H 4 0 4 4
- 宗友(そうゆう・杉村) → 宗友(むねとも・杉村すぎむら、神職/俳人) B 4 2 9 2
- 宗有(そうゆう・立花) → 実山(じつざん・立花たちばな、藩士/学芸) E 2 1 9 1
- 宗邑(そうゆう・峰岸) → 宗邑(むねむら・峰岸みねがし、陪臣/国学) E 4 2 2 8
- 宗雄(そうゆう・荻野/稻次) → 宗雄(むねお・稻次/荻野、武将/藩家老) B 4 2 0 9
- 宗雄(そうゆう・藤井) → 宗雄(むねお・藤井ふじい、商家/神道家) B 4 2 1 0
- 宗雄(そうゆう・岡村) → 直枝(なおえ・岡村おかむら/中西、典医/歌) L 3 2 4 8
- 宗幽(そうゆう・古沢/鹿島) → 月扇(げっせん、古沢/鹿島、俳人) F 1 8 0 6
- 宗融(そうゆう；法諱) → 松雲(しょううん；道号・宗融、曹洞僧) G 2 2 9 9
- 宗祐(そうゆう・狩野) → 玉染(ぎよくらく、狩野かのう/藤原、絵師) P 1 6 3 9
- 宗裕(そうゆう・河合) → 宗裕(むねひろ・河合かわい、藩士/国学) D 4 2 7 1
- 宗遊(そうゆう・小島) → 嘉木(よしか・小島こじま/水原、陪臣/歌人) M 4 7 7 3
- 相雄(そうゆう→まさお・浦田) → 蘆本(ろほん・浦田うらた、俳人) C 5 2 4 2
- 増熊(ぞうゆう・黒田) → 増熊(ますくま・黒田/立花、藩家老/歌) I 4 0 9 7
- 宗遊庵(そうゆうあん) → 紫麦(しばく；号・野田のだ、俳人) V 2 1 4 6
- 宗猷大光禪師(そうゆうだいきょうぜんじ) → 英璵(えいよ；法諱・玉隠、臨濟僧) 1 3 4 9
- 棗由亭負米(そうゆうていふまい) → 負米(ふまい・棗由亭、狂歌) D 3 8 7 7
- 宗猷達悟禪師(そうゆうたつごぜんじ) → 徳叟(とくそう；道号・周佐、臨濟僧) L 3 1 1 3
- 双楡軒(そうゆうけん) → 季範(きはん・双楡軒、俳人) B 1 6 7 1
- L2531 **宗誉**(そうよ；法諱、僧正円経男)?-? 鎌倉期；南都興福寺の僧/法印大僧都、
範玄僧正(1137-99)孫/尊賢(天台法印大僧都)・宗懐(興福寺別当僧正)の兄弟、
尊朝(法眼)の父、1237刊[檜葉集]2首入(宗誉法師名)、
[禅定院尊者人々に歌よませ侍りけるに、
けさまでは雪げの雲のはれやらでかすむもしらぬみよしの山](檜葉；雑748)
- J2504 **宗与**(そうよ・大橋おおはし、大橋分家2代道仙男)1648-172881 将棋大橋分家3代；
5世伊藤宗看没後；1723(76歳)将棋所6世名人に就く、1716「象戯筌」、「将棋養真図式」著
- J2505 **宗璵**(そうよ・中村なかむら) ? - ? 江前期肥前長崎の医者；南蛮外科の専門家、
1684(貞享元)「紅毛外科療治集」著
- J2506 **宗与**(そうよ；通称) ? - ? 加賀の法印流鍼術の名手、「法印流医書」著
宗与(そうよ；法名) → 元信(もとのおぶ・観世かんぜ、小鼓方宗家5世) D 4 4 6 9

宗与(宗璵そよ・穂積) → 甫庵(ほあん;通称・穂積ほづみ、藩医) 3902
 宋世(そよ;法名) → 雅康(まさやす・飛鳥井/藤原、歌学/蹴鞠) 4022
 桑誉(そよ・伝蓮社) → 了的(りょうてき;法諱・導故;字、浄土僧) J4901
 莊誉(そよ・得蓮社) → 浄嚴(じょうごん;法諱、浄土僧) I2292
 聡誉(そよ・明蓮社) → 西仰(ゆうこう;法諱、浄土僧) B4658

D2509 **増誉**(そよ、大納言藤原経輔男) 1032-1116長寿85 天台僧;園城寺(三井寺)の乗延門;得度、行観ぎょうかんより灌頂を受/大峰山/葛城山で山岳修行、白河・堀河両天皇の護持僧、1090(寛治4)白河上皇の熊野参詣の先達;最初の熊野三山検校に就任、京に聖護院を建立;天台宗修験道園城寺門派7世・聖護院の開祖、天王寺別当・園城寺長吏を歴任/1105(長治2)天台座主;延暦寺の反対で翌日辞任、のち尊勝寺など13ヶ寺の別当を兼任、通称;一乗院大僧正、園城寺長吏職は行尊が継嗣

J2507 **増誉**(そよ;法諱・光明院;通称、幕臣真田長兵衛男)?-1707 真田行幸村の落胤説あり、真言僧、江戸千駄ヶ谷の真言宗聖輪寺住職・法印、兵学者;軍学に精通、麹町で軍学軍術を教授、「良将言行録」「明良洪範」「増誉雑言」著

2519 **宗養**(そよう・谷に、宗牧男) 1526-6338 地下歌人:父門/連歌師;父門、1545父没後;昌休(父の門弟)・近衛尚道植家父子の庇護を受、連歌界の第一人者となる、三善長慶・尼子晴久・細川藤孝・安宅冬康等の武家や近衛植家・三条西公条等の廷臣と一座、大覚寺義俊・聖護院道増等の僧や元理・紹巴等の連歌師と同座、1551義隆「宮島千句」発句、1552-53出雲・56若狭・59越前加賀に行脚、1555「石山千句」58「花千句」61「飯盛千句」等参加、百韻多数;「尼子晴久夢想披百韻」/1556「永原百韻」61長慶と「両吟何垣百韻」等、1555「連歌秘袖抄」、「連歌天水抄」「連歌書抄」「結題百首」「宗養発句帖」「宗養三卷集」等著、[行水ゆくみややさざれ苺けむす岩つつじ](永原重興新宅百韻;何路発句)[宗養(;号)の別号] 無為/半松齋

J2508 **僧鎔**(そよう;法諱、渡辺彦左衛門男) 1723-8361 越中新川郡市江の農家、真宗本願寺派僧、明光寺靈潭門/出家、1741越中浦山の善巧寺に入住;11世、上京:僧樸門/真宗学を修学、堺の祐貞寺を譲られ講義/本山錦華殿でも講義、越中の自坊に空華学舎を創設;学制教育、宗学を大成し空華学派の祖となる、「空華小部集」編、「本典金華録」「安楽集空華録」著、「教行信証頂戴録」「浄土論玄談」「観無量寿経玄談」「玄義分鎔記」「読安楽集」外著多数、[僧鎔(;法諱)の幼名/字/別法諱/号]幼名;与三吉、字;子練、初法諱;靈閑、号;慶叟/仰峰/甘露/雪山/空華廬、諡号;明教院

J2509 **宗曄**(そよう・速水はやみ、宗達そうだつ2男) 1771-182555 京の茶道速水流2世、父宗達の膨大な遺稿整理、「肄業集前篇」/1821「速水流盆点」24「速水流茶通箱点法」著/25「喫茶指掌編」校訂、[宗曄(;号)の別号] 守拙齋/養寿院2世 宗寛の父

J2510 **桑葉**(そよう・蜂須賀はちすか)?- ? 江後期阿波徳島藩の中老稲田筑後の家臣、度々江戸へ往還/俳人、1846刊「しろかきしふ」編、[桑葉(;号)の通称/別号]通称;隼人、別号;夏日園

宗曄(そよう;法諱・曇栄) → 曇栄(どんえい;道号・宗曄、臨濟僧/詩) S3103
 宗容(そよう・北村) → 宗容(むねかた・北村きたむら、藩家老) D4276
 宗養(そよう・三井) → 高蔭(たかかげ・三井、商家/国学) C2659
 宗養(そよう・松田) → 拙斎(せつさい・松田まつだ、儒者) K2493
 宗庸(そよう;初法諱) → 雄禅(ゆうぜん;道号・宗虎、臨濟僧) D4628
 桑楊庵(そようあん) → 光(ひかる・頭つむりの、町代/絵師/狂歌) 3701
 桑楊庵(2世・そようあん) → 干則(ほしのり・浅草、狂歌) E3921
 桑楊庵(3世・そようあん) → 市万呂(いちまる・3世桑楊庵、狂歌) G1142
 蒼鷹館(そうようかん) → 途興(みちおき・齋藤さいとう、名主/歌人) J4115
 掃葉山房(そようさんぼう) → 琴台(きんだい・東条とうじょう、儒者) E1624
 宋世女(そよのむすめ) → 雅康女(まさやすのむすめ・飛鳥井、歌人) H4023
 宗頼(そうらい・高橋) → 宗頼(むねより・高橋/紀、廷臣) C4292
 宗頼(そうらい・桑折) → 宗頼(むねより・桑折こおり/くわおり、家老/歌) D4280
 叟楽(そうらく・小篠/二宮) → 献(けん・二宮にのみや、医者) H1846

- 相覧(そうらん・巨瀬) → 相覧(おうみ・巨瀬こせ、絵師) C 1 4 6 5
 屠巒窟(そうらんくつ) → 青敷(せいふ、俳人) J 2 4 5 0
- F2586 宗利(そうり・久田ひさだ、受得齋、本名;本間利兵衛、初世久田宗栄男)1610-8576 茶人;
 茶道久田家2世、表千家流;千宗旦門/宗旦女を娶る、5代目千宗左の父、藤村庸軒の兄
- D2511 草籬(そうり) ? - ? 1690北枝「卯辰集」3句入、
 [尼が園その泪なみだにやそだつ芥子の花](卯辰集;181)
- D2512 宗理(初世そうり・俵屋たわらや)?- ?1782頃没 江戸中期活躍の江戸の町絵師、江戸琳派の魁、
 初め幕府御用絵師住吉広守門/尾形光琳の画風を修得/俵屋宗達に私淑;俵屋を称す、
 葛飾北斎(2世俵屋宗理)の師、「楓図屏風」画/1758俳書「世諺拾遺」の挿画
 [宗理(;号)の通称/別号]通称;元知、別号;柳々居/百琳
- B2525 宗理(5世そうり・俵屋/菱川ひしかわ)?-? 江後期寛政文化1789-1818頃江戸馬喰町の絵師、
 ;初世葛飾北斎門、1799(寛政11)5世宗理を襲名、絵暦・摺物・版本の挿絵などを画く、
 1801「插花衣の香」03「狂歌絵本職人尽」画、「職人三十六番」画、
 [5世俵屋宗理(;号)の号]琳齋宗二/俵屋宗二/5世俵屋宗理/菱川宗理/巢雲齋/百琳
 宗理(そうり・俵屋2世・百琳・北斎、琳派期の名)→ 北斎(ほくさい・葛飾)3 9 6 2
 宗理(そうり・室谷) → 賀親(よしちか・室谷むろたに、商家/国学者)E 4 7 5 8
 宗利(そうり) → 宗利(むねとし、俳人) B 4 2 8 2
 宗利(そうり/むねとし・高田)→ 宗賢(むねかた・高田たかた、国学者/俳人) B 4 2 2 2
 宗利(そうり・伊達) → 宗利(むねとし・伊達だて、藩主/歌) B 4 2 8 4
 莊陸(しょうりく・杉本) → 隆重(たかしげ・杉本/中臣/樋口、神職/歌俳)X 2 6 7 1
 藪里翁(そうりおう・石川) → 丈山(じょうざん・石川、儒者/詩人) S 2 2 5 7
 宗立(そうりつ・菊池) → 宗雨(そうう・菊池きくち、俳人) G 2 5 0 4
 宗立(そうりつ) 参照 → 宗立(そうりゅう)
 宗立齋(そうりつさい・曲淵)→ 宗立齋(そうりゅうさい・曲淵まがりぶち、兵法家)J 2 5 1 7
- J2512 宗柳(宗立そうりゅう;法諱、俗名;甲斐親秀?)?-? 1582存 肥後の武家;菊池氏の裔?、
 肥後上益郡御船城主甲斐の一族?、1576(天正4)上京、連歌;紹巴・心前と百韻一座、
 1582甲斐一族が龍造寺隆信に忠誠誓約「甲斐宗運外六名連署起請文」の甲斐左京入道と同一、
 [宗柳(;法諱)の通称] 左京入道
- D2513 宗柳(そうりゅう;号) ? - ? 1601存 安桃期和泉の堺衆、連歌;等恵とうけい門;古今伝授を受、
 1593独吟「宗柳千句」(1601百韻;細川幽齋の判を仰ぐ)、日蓮僧日蓮につけいと「山何百韻」、
 1589-1601頃良益・善秀・九閑・祐心・道由・円久らと百韻、
 「宗柳雑談聞書」(;宗柳の連歌雑談を記述した書)、
 [宗柳(;号)の別号/通称]別号;葦竹齋、通称;下田屋
- L2526 宗柳(そうりゅう;法諱) ? - ? 江前期;上方の僧;法師/歌人、
 1670下河辺長流[林葉累塵集]入、
 [山寺にまかりてよめる、
 松もふりすぎさへ老いて郭公つねに鳴くべく見ゆる山寺](林葉累塵;雑1208)
- D2515 窓柳(そうりゅう) ? - ? 江中期俳人、
 1767丸窓「豆鉄炮」の「真先天満宮奉納」に入
- J2513 僧竜(そうりゅう;法諱・上田氏右衛門男)1773-184270 阿波徳島藩士の家/1789名西郡真言徳蔵寺入、
 同寺で得度/のち阿波名東郡国府の福万寺住職、放生会を主唱、1824入田の建治寺に隠居、
 のち徳島持明院住寺;荒廃の寺を復興、1821「諸祭文」編/24「放生明驗記」「放生大悲門」著、
 1834「天如峻山大和上傳」著、「大放生勸誘帳」著
- J2514 蒼竜(そうりゅう・竹中たけなか/本姓;源、名;恭、南峰の長男)1801-6363 京の医者、詩文/鉄筆に手水、
 京の東洞院錦小路北に住、「痘科折衷」「整骨知要」「瘍瘡一家言」著、
 [蒼竜(;号)の字/通称]字;子讓、通称;猷吉
- J2515 宗竜(そうりゅう;名・大森おもり、通称;筑後)?-? 幕末維新时期京の茶道家、茶道教授、
 「茶道夏木立」「置土産浮世茶話」著
 宗劉(そうりゅう;法諱) → 竜嶽(りゅうがく;道号・宗劉/臨濟僧) D 4 9 2 3
 宗竜(そうりゅう;法諱) → 江雲(こうん;道号・宗竜、臨濟僧) H 1 9 4 2

宗立(そうりゅう・江雪;道号)→ 江雪(こうせつ・宗立、臨濟僧、江雲の同門先輩) K 1 9 1 2
 宗立(そうりゅう;剃髮後、宗且「遠山鳥」入)→ 友直(ともなお・河崎屋、俳人) P 3 1 9 7
 宗流(そうりゅう・江村) → 訥齋(とっさい・江村えむら、儒者) O 3 1 4 9
 宗柳(そうりゅう・塙) → 直利(なおとし・塙はなわ/原田、幕府医者) O 3 2 3 9
 宗隆(そうりゅう;法諱) → 景川(けいせん;道号・宗隆、臨濟僧) G 1 8 2 3
 宗隆(そうりゅう・藤原) → 宗隆(むねたか・藤原ふじむら、廷臣/歌人) B 4 2 4 5
 宗隆(そうりゅう・篠屋) → 宗隆(むねたか・篠屋、俳人) D 4 2 5 1
 宗隆(そうりゅう・小畑) → 宗隆(むねたか・小畑おぼた/柴山、藩士/国学者) D 4 2 6 8
 莊流(そうりゅう・伊東;講釈)→ 春雅(しゅんが・為永、噺家/戯作者) J 2 1 2 9
 草竜(そうりゅう・回春園) → 策司(さくじ・古田ふるた、藩士/歌) P 2 0 2 9
 蒼竜(そうりゅう・西村) → 義忠(よしただ・西村にしむら/源、国学者) E 4 7 2 6
 蒼竜(そうりゅう・樋口) → 光訓(みつなり・樋口ひぐち、藩士/国学者) K 4 1 2 0
 師竜(そうりゅう・大江) → 広海(ひろみ・大江/早川、国学者/歌) H 3 7 2 0

J2516 **増隆**(そうりゅう;法諱・智瑞;字、医者三宅慈仙3男/高岡)1823-93⁷¹ 大坂島之内三津寺筋油町の生、
 真言僧;1828(6歳)阿波美馬郡穴吹村享保寺隆資門;出家/儒学;讃岐極楽寺増長門、
 顕密;備前蓮台寺増旭門/1839般若院深雅門;伝法灌頂を受/1849高野山月輪寺に住、
 1852南山において西南院隆快より御流及び三輪流神道を受、1879高野山無量寿院住職、
 「菩提心論分科」/1863「唯一両部神道見聞録」、「神道聞書類」「神書要領採出」著、
 [増隆(;法諱)の初法諱/号]初法諱;隆定/大心、号;不背

蒼竜院(そうりゅういん) → 安董(やすただ・脇坂、藩主/老中/狂歌) B 4 5 9 1
 桑流下(藪流下そうりゅうか) → 巴静(はじょう・太田、俳人) 3 6 1 3
 双竜閣(そうりゅうかく) → 燕石(えんせき・日柳くさなぎ、詩人/勤王派) B 1 3 8 1
 蒼竜窟(そうりゅうくつ) → 洪川(こうせん;道号・宗愷そううん;法諱、臨濟僧) K 1 9 2 1
 蒼竜窟(そうりゅうくつ) → 継之助(つぐのすけ・河井、藩家老/儒者) 2 9 7 7

D2529 **草竜組**(そうりゅうぐみ;組連)? - ? 江戸新堀端の雑俳の組連、
 取次;1737・38「収月評万句合」入、
 取次例;[給金の外は何やらしれませぬ](万句合/前句ゆるしこそすれゆるしこそすれ)

蒼竜闕(そうりゅうけつ) → 湖舟(こしゅう・蒼竜闕、洒落本作者) C 1 9 9 2
 蒼竜軒(そうりゅうけん) → 安董(やすただ・脇坂、藩主/老中/狂歌) B 4 5 9 1
 蒼竜軒(そうりゅうけん) → 義所(ぎしょ・鳥山とりやま、儒者/尊王派) K 1 6 8 9

J2517 **宗立齋**(そうりゅうさい・曲淵まがりぶら)?-? 江初期甲斐武田氏の家臣;兵法家、
 関ヶ原戦後;近江彦根藩主井伊直政家の預、武田家兵法を彦根藩に伝授、
 1596「井家軍記」97「井家記」、「武田流故実」「曲淵宗立齋等言上書」著

草竜子(そうりゅうし) → 虚庵(きょあん・洪川/板部/王、絵師) N 1 6 0 8
 雙竜子(そうりゅうし・新井) → 玉英(たまてる・新井あらい、刀匠) S 2 6 2 5
 蒼竜神霊(そうりゅうしんれい) → 八重平(やえひら・伊波/印南いなみ/源、藩士/神道) F 4 5 2 8
 掃溜先生(そうりゅうせんせい) → 掃溜先生(はきだめせんせい、狂詩) C 3 6 4 5
 双龍叟(そうりゅうそう) → 慈雲(じうん;字・欽光おんこう、真言僧) 2 1 0 2

D2516 **宗令**(そうりょう/そうれい;法諱・大徹だいてつ;道号)1333-1408⁷⁶ 南北・室町期九州出身の曹洞僧;
 筑前妙楽寺無方宗応門/能登総持寺2世の峨山韶碩(がさんじょうせき)門;印可を受、
 美濃妙応寺住持/越中立川寺を開山、能登総持寺8世住持、峨山25哲の1

J2518 **桑梁**(そうりょう;法諱) ? - ? 江後期阿波の真宗本願寺派東光寺の住職、
 神道と仏教の関係研究;真宗門徒心得を説く、1814「雪窓夜話」22「諸神本懐集跋渉録」著、
 「神代巻潤余録」「行信論」「鳴鼓録」著

J2519 **僧亮**(そうりょう;法諱・諦観たいかん;字)?-1830 安藝の真宗本願寺派僧;大瀛門;宗乗を修学、
 三業惑乱の諍論の際に大瀛の侍者として江戸に随従;師没後普厳と共に遺骨奉じ帰る、
 周防都濃郡末武の浄蓮寺住職/1828司教、「行一念録」「本典総序聴記」「讃弥陀偈聴記」、
 「信一念義随聞記」「信一念統講随聞記」著、
 [僧亮(;法諱)の通称/諡号]通称;実乗、諡号;竜城院

J2520 **僧亮**(そうりょう;法諱、俗姓;松本)1809-59⁵¹ 肥後高瀬町真宗本願寺派光浄寺の生、

肥前長専寺忍廓門/和泉堺万福寺性海門;宗学を研鑽、1836肥後飽託郡小島の専照寺住職
堺の祐貞寺を兼務;学徒を教育、晩年自坊に学寮清涼閣を創設;子弟教育、
「王本願成就文記」「観章要論」「化巻真門章講述」「秋夜夢物語」「宝章指要編」外著多数、
[僧亮(法諱)の通称] 行信僧亮ぎょうしんそうりょう

C2529 僧梁(そうりょう;法諱、俗姓;松浦)1841-192282 真宗僧;初め漢学修学、宗乗・余乗を修学、
1888近江坂田郡鳥居本の本願寺派専宗寺入;13世住職、鎮西義塾創立、
自坊に学寮博貫舎を設立;学徒教育、1914勸学、1860「一枚起請文備考」、「伝燈略記」著、
[僧梁(法諱)の号/通称]号;鉄心/瑤樹、通称(変名);藤野鉄也/佐伯曆之助、諡号;瑤樹院

宗梁(そうりょう・水原) → 宗梁(むねはり・水原みづはら、神職/歌) C 4 2 2 5

宗良(そうりょう・藤原) → 宗良(むねよし・藤原、廷臣/歌人) C 4 2 8 1

宗良(そうりょう;法諱) → 賢谷(けんこく;道号・宗良、臨濟僧) I 1 8 8 6

宗良(そうりょう・伊達/田村) → 宗良(むねよし・田村/鈴木/坂上/伊達、藩主) C 4 2 8 6

宗量(そうりょう・松木) → 宗宣(むねのぶ・松木まつきのき/中御門/藤原、廷臣/歌) C 4 2 1 0

早良親王(そうりょうしんのう) → 早良親王(さわらしんのう、崇道天皇、配流/怨霊) L 2 0 7 1

宗良親王(そうりょうしんのう) → 宗良親王(むねながしんのう、天台僧/南朝/歌人) 4 2 0 8

D2517 宗霖(そうりん;法諱・甘沢かんたく;道号)?-1488 臨濟僧;快庵祖驪門;嗣法、1484東福寺177世;
1日で退隱/1487南禅寺234世住持、「甘沢和尚語録」著

D2518 宗麟(そうりん;号) ? - ? 戦国期連歌作者、1501正般と「山河百韻」一座、
1504(永正元)独吟「宗麟名所千句」著

D2519 宗麟(そうりん・大友おとも、名;義鎮よししげ、義鑑よしあき男)1530-8758 戦国武将、
豊後府内中心に九州併合、6ヶ国の守護となる・キリシタンに帰依;キリシタン大名、
南蛮貿易を振興、歌人、存心?「大友記」は義鎮一代の批判的軍記

D2520 宗臨(そうりん・谷たに、名;守光、眠牛斎宗本男)1532-160170 和泉の堺衆;豪商、茶の湯;千利休門、
歌;細川藤孝(幽斎)門/等恵より古今伝授を受/連歌作者、南宗寺の大林宗套に参禅、
有職;山科言継門、独吟「呼雲斎千句」、1589「宗臨百句付」著、大徳寺の仙嶽宗洞の兄、
雲英宗偉の父、

[たがゆふべ誰あけぼのぞ春霞](呼雲斎千句;第一何船発句)、

[宗臨(号)の通称/別号]通称;善三郎、別号;呼雲斎こうんさい、道号;大成(禅号)

宗林(そうりん;法諱・月舟) → 月舟(げつしゅう;道号・宗林、曹洞僧) H 1 8 0 7

宗林(そうりん・鹿島) → 貞喜(ていき・鹿島、俳人) 3 0 5 3

宗琳(そうりん・半井) → 瑞成(よしなり・半井なからい、医者/歌人) O 4 7 2 7

宗倫(そうりん・藤原) → 宗倫(むねとも・藤原ふじわら、武士/歌人) E 4 2 3 8

宗麟(そうりん・森) → 昌胤(まさたね・森/源/雨森、神道家) D 4 0 5 9

宗麟(そうりん・佐崎) → 了重(りょうじゅう・佐崎ささき、本願寺派僧) H 4 9 9 0

宗麟(そうりん) → 昌瑞(しょうずい;法諱、本願寺派僧/歌) V 2 2 0 9

巢林子(そうりんし) → 門左衛門(初世もんだいもん・近松、浄瑠璃作者) 4 4 3 7

双林寺(そうりんじ) → 静仁法親王(じょうにんほっしんのう、天台僧/歌) B 2 2 1 3

双林寺大僧正(そうりんじのだいそうじょう) → 全玄(ぜんげん;法諱、天台僧/歌) F 2 4 3 1

宗礼(そうらい・伊達) → 斉邦(なりくに・伊達、藩主/謡曲/歌) H 3 2 3 1

宗令(そうらい;法諱) → 宗令(そうりょう/そうらい;法諱・大徹;道号、曹洞僧) D 2 5 1 6

窓令斎(そうらいさい・町田) → 柳舟(りゅうしゅう・町田まちだ、俳人) E 4 9 5 4

宗歴(そうれき・朽網) → 宗歴(むねゆき・朽網くたみ/入田、豪族/武将) C 4 2 7 5

宗櫟(そうれき・松下) → 真山(しんざん・松下/坂上、儒者/医者) E 2 2 3 3

宗烈(そうれつ;初法諱) → 法雲(ほううん;道号・明洞;法諱、黄檗僧) D 3 9 8 4

爽烈院(そうれつゐん;法号) → 利熙(としひろ・堀ほり、幕臣/海防・交渉) N 3 1 6 2

K2560 曾礼好兼(そうれのよしかね) ? - ? 狂歌;1787「才蔵集」入(;500);

[深川富が岡 第一の富が岡へとつく船のへさきは岸に当るとぞみる](八幡宮の富くじ)

J2521 宗蓮(そうれん;法諱) ? - ? 1231存 鎌倉期天台宗北山庵住僧、1231「大法師浄蔵伝」編

D2521 宗蓮(そうれん、木下長嘯子の義弟)?-? 僧/歌、1649長嘯子「挙白集」入;妻(長嘯子女)3回忌頃の歌
[なぐさまぬ三とせの春の山ざくらなき面影は花にのこれど]

- D2522 **草連**(そうれん) ? - ? 俳人;嵐山門、1777?嵐山「猿利口さるぢえ」編・版
 双蓮(そうれん) → 尾谷(初世びく・千足、俳人) 3 7 5 4
 想蓮房(そうれんぼう) → 親範(ちかのり・平、円智、廷臣/出家/歌) B 2 8 5 8
- K2561 **宋路**(そうろ・津田つた、名;重胤)1840-191172 駿河沼津の印刻業/俳人:関為山門、
 1874(明治7)夜半亭継承;7世、師為山を嗣ぎ2世梅廼本、
 [宋路(;号)の別号]竹堂(;印刻号)、夢外/梅廼本耆山うめのもとときざん、夜半亭7世
 草露(そうろ・戀) → 寥松(りょうしょう・戀みね、俳人) I 4 9 1 4
 草露(そうろ・竹林) → 小諸(こもろ・竹林たけばやし、国学/歌人) Q 1 9 9 8
 草廬(そうろ・竜) → 公美(きんえ・竜りゅう・武田、儒者/詩歌) E 1 6 8 7
 草廬(そうろ・近藤) → 有年(ありとし・近藤こんどう、大里正/国学) H 1 0 6 0
 草廬(そうろ・泉川) → 星堂(せいどう・泉川いずみかわ、儒者/詩人) J 2 4 3 1
 草廬(そうろ・今中) → 親教(ちかのり・今中いまなか/秦、藩士/国学) M 2 8 1 1
 宗魯(そうろ・以心庵乙馬) → 範房(のりふさ・堤つみ、藩士/歌人) F 3 5 7 0
 宗魯(そうろ・田中) → 桐江(とうこう・田中、儒者) D 3 1 7 2
 棕廬(そうろ・加藤) → 景纘(かげよし・加藤かとう、儒者/詩画) L 1 5 5 0
 荳芦(そうろ・渡辺) → 樵山(しょうざん・渡辺わたなべ、藩儒) S 2 2 5 6
 草露庵(そうろあん) → 文兆(ぶんちょう・岩下いわした、俳人) G 3 8 2 1
- D2523 **滄浪**(そうろう・住江/墨江すみえ、名;昭猷、中瀬豊長2男)1691-172838 肥後熊本藩士住江宗春の養子、
 1727家督嗣/小姓役大組付、荻生徂徠に私淑;古文辞学(徂徠学)主唱;藩学に導入、
 詩文・書画に長ず、服部南郭と交流、38歳で病没、「滄浪草稿」著、中瀬柯庭の弟、
 [滄浪(;号)の字/通称/法号]字;君徽、通称;万之允/万之丞まんのすけ、法号;靈性院
- D2524 **滄浪**(そうろう・富永とみなが、名;瀾)1733-6533 近江浅井郡国友村の代々鉄砲鍛冶;藩より俸禄、
 幼時より漢学に親しむ/儒:独学で諸家の説を修学、家督は弟に譲渡、門弟を教育、
 「古学弁疑」「鶏肋集」「孝経彙註」「詩経彙註」「周易彙註」「書経彙註」「論語彙註」著、
 竜蔵廬の「名詮」「典詮」2著は滄浪「古学弁疑」の剽窃と言われる、
 [滄浪(;号)の字/通称]字;子源、通称;左仲/左冲
- D2525 **滄浪**(そうろう・石川いしかわ、名;清)1745-8339 奥州の儒者;江戸の井上金峨門;折衷学を修学、
 金峨没後は師説を継述、武蔵金沢藩主米倉昌晴に信任され賓師として遇される、
 「滄浪遺稿」、
 [滄浪(;号)の字/通称]字;濁、通称;清平
- J2522 **滄浪**(そうろう・向井むかい、名;友章)1759-181254 鹿児島藩士/儒;医者市来兼伯門、1776昌平鬻入、
 1778帰藩;御薬奉行格、詩人、「滄浪詩集」著、「滄浪遺稿」、
 [滄浪(;号)の字/通称/別号]字;達夫、通称;源五左衛門、別号;賀山かやま山人、法号;賀山院
- D2526 **滄浪**(そうろう・秦はた、名;鼎/字;士鉉、峨眉男)1761-183171 名古屋藩儒;父門/1791藩校明倫館典籍、
 1792教授並/97致仕;古書校勘、1795「詩韻含英摘註」1810「一宵話」「眠睡雑史」「国語定本」、
 [滄浪(;号)の通称/別号]通称;嘉奈衛かなえ、別号;小棧翁/小翁/夢仙、法号;大誉小翁居士
- J2523 **僧朗**(そうろう;法諱、正念寺覚音9男)1769-185183 越後姫川原の真宗本願寺派正念寺の生、
 1798得度/異母兄の僧音門;法嗣、1799越中の北天門;宗学を修学、1811正念寺住職、
 兄と共に布教活動/1828司教/31勸学職/33本山学林の年預職、法相・華嚴・天台学に通、
 崑崙社三葉勸学の1、百叡・宣界・葆晃らの師、「二門偈記」「三論玄義科」「四教義集注録」、
 「五教章卯巳記」「六合釈録」「定善義筆記」「正文類記」「蓮如上人御一代記聞書略解」外著多、
 [僧朗(;法諱)の号] 扱善房/実行院
- D2527 **滄浪**(そうろう・間崎まさき、名;則弘、房之助則忠男)1834-67自刃34 土佐の儒者;1849江戸安積良斎門、
 斎藤竹堂と交流/塾頭、3年後帰郷;開塾;門弟多数、土佐藩に出仕;職を罷免、
 武市瑞山と親交;尊攘を主唱、前藩主山内容堂の怒に触れ捕縛;自刃を命ぜらる、
 「全唐詩抄」編、遺稿「滄浪亭存稿」(;友人田中光頭が編纂)、
 [滄浪(;号)の字/通称]字;士毅、通称;哲馬
 滄浪(そうろう・滄浪居/滄浪居士) → 南溟(なんめい・入江、儒者) J 3 2 5 5
 滄浪(そうろう・室) → 鳩巢(きゅうそう・室、幕臣/儒者) 1 6 2 8
 滄浪(そうろう・岡井) → 嶮州(けんしゅう・岡井おかい、藩士/儒者) C 1 8 0 5

滄浪(そうろう・藤木) → 実斎(じつさい・藤木ふじのき、儒者/詩人) U 2 1 7 0
 荘郎(そうろう) → 荘丹(そうたん・高柳、俳人) C 2 5 4 8
 草浪(そうろう) → 草浪(くさなみ・聴風軒、狂歌) C 1 7 3 9
 宗朗(そうろう;法諱) → 宗朗(しゅうろう;法諱・若拙;字、本願寺派僧) Y 2 1 5 2
 滄浪観(蒼浪観そうろうかん) → 有中(ゆうちゅう;法諱、真宗僧/俳人) D 4 6 4 2
 滄浪居(そうろうきよ) → 文素(ぶんそ・北川、俳人) G 3 8 0 1
 滄浪居(そうろうきよ) → 嘯山(しょうざん・三宅、商家/詩/俳人) S 2 2 5 0
 滄浪居(そうろうきよ) → 李流(りりゅう・三宅みやげ、嘯山男/俳人) J 4 9 8 9
 滄浪居主人(そうろうきよしゅじん) → 嘯山(しょうざん・三宅、商家/詩/俳人) S 2 2 5 0
 滄浪軒(そうろうけん) → 蘭腕(らんえん・樋口ひぐち、藩士/新田開発) B 4 8 5 8
 滄浪居士(そうろうこじ) → 嘯山(しょうざん・三宅、商家/詩/俳人) S 2 2 5 0
 滄浪舎不濁(そうろうしゃふだく) → 未生斎(2世みしょうさい・広甫こうほ、華道家) 4 1 8 8

D2528 滄浪亭(そうろうてい・中村なかむら、勝清3男)1775-1824⁵⁰ 彦根藩士;兄早世により1795家督嗣、
 2百50石/儒者、1799藩校稽古館素読方/のち物主兼書物奉行添役、
 武芸;弓・剣・槍術奥義を究める、「滄浪亭詩文集」「徳棄録」「学館私議」「論語微便覧」著、
 [滄浪亭(;号)の名/字/通称]名;重勝、字;子威、通称;且三郎/政八郎/加介/弾之介、
 竹香斎の父

滄浪亭(そうろうてい) → 紅器(こうき・高月たかつき、商家/俳人) I 1 9 1 8
 滄浪亭まん尼(そうろうていまんに) → まん尼(まんに・滄浪亭、俳人未雷の妻) K 4 0 7 6
 桑老父(そうろうふ) → 布門(ふもん・桑原/井上、俳人) E 3 8 1 7

J2524 宗六(そうろく・佐々木ささき/本姓:源、名;庸綱、利綱男)1768-1853⁸⁶ 伊勢書家、京の花山院愛徳門、
 書の免許を受/九条家に出仕/のち名古屋南天道町清安寺前西で書を教授;佐々木流と称、
 有職に通ず、1831「光演寺記」、「六書童訓」著、門人多数;三好想山など、
 [宗六(;通称)の号]号;玩易斎/敬斎、諡号;志純院玩易何言、徳綱の兄/包綱の父

D2530 宗六(そうろく・梅沢うめざわ) ? - ? 1865存 江後期1848-65頃江戸の歌舞伎作者、
 河原崎座勤務/1856市村座付;2世河竹新七[黙阿弥]の下で助作活動;
 1854「吾孀下五十三駅」57「網模様燈籠菊桐」58「江戸桜清水清玄せいげん」60「三人吉三廓初買」

宗六(そうろく・三井) → 牧山(ぼくざん・三井みつゐ、詩人) G 3 9 4 0
 荘六(そうろく・細合) → 張庵(ちやうあん・細合ほそあい、儒者/詩人) H 2 8 1 3
 惣六(そうろく・篠田) → 五瓶(ごびん・3世ごへい・並木、歌舞伎作者) 1 9 4 2
 惣六(そうろく・白井) → 固(かたし・白井しらゐ、藩士/歌人) M 1 5 9 4
 操六(そうろく・北野) → 好友(よしとも・北野きたの、名主/国学) M 4 7 4 8
 蒼鹿(そうろく・林) → 鶴梁(かりょう・林、幕臣/儒者) E 1 5 8 0
 左右六(そうろく;通称) → 霜後(そうご、太無門俳人) B 2 5 3 3

J2525 蔵六(そうろく・原田はらだ、名;種存) ?-? 江前期近江大津の商人、原田加助の曾孫、
 1688「淡海記」-89「淡海録」、「江州諸村役高並領主附」著、
 [蔵六(;通称)の別通称/号]別通称;伝兵衛、号;淡海散人

J2526 蔵六(4世そうろく・浜村はまむら/初姓;塩見、名;澥)1826-95⁷⁰ 備前岡山の篆刻家;3世浜村蔵六門、
 師の養子となり浜村蔵六家4世を継嗣、1865(慶応元)「蔵六居印譜」編、
 [蔵六(;号)の字/通称/別号]字;観候、通称;参蔵、別号;大澥/雨村/薇山

蔵六(そうろく;号) → 性堂(しょうどう;道号・慧泉;法諱、臨濟僧) L 2 2 1 8
 蔵六(そうろく・荒木) → 是水(ぜすい・荒木あらき、書家) K 2 4 6 4
 蔵六(そうろく・村田) → 益次郎(ますじろう・大村、蘭・兵学) J 4 0 0 4
 蔵六(そうろく・白井) → 固(かたし・白井しらゐ、藩士/歌人) M 1 5 9 4
 蔵六(そうろく・高橋) → 種之(たねゆき・高橋たかはし、藩士/教育) S 2 6 1 2
 蔵六(そうろく・児島) → 清文(きよふみ・児島こじま、絵師/国学) U 1 6 3 4
 蔵六(そうろく・西川) → 吉輔(吉介よしすけ・西川にしかわ、国学者) D 4 7 8 0
 蔵六(そうろく・岩間) → 春樹(はるき・岩間いわま、医者/国学/歌) J 3 6 7 4
 蔵六(そうろく・蔵六庵/多田) → 棹好(とうこう・多田ただ、国学/歌人) V 3 1 5 9
 蔵六庵(そうろくあん) → 嘯台(しょうだい・宮田/田、酒造業/詩人) K 2 2 7 2

- 蔵六菴(ぞうろくあん) → 正躬(まさみ・佐々木ささき、歌人) P 4 0 8 2
 蔵六園(ぞうろくえん) → 亀世(きせい・下郷しもと/千代倉、造酒業/俳人) B 1 6 3 4
 蔵六翁(ぞうろくおう) → 時綱(ときつな・真野/藤波、神道家) J 3 1 3 5
 蔵六山人(ぞうろくさんじん) → 小太郎(こたろう・奥平、藩士/儒/勤王) N 1 9 0 5
 蔵六亭(ぞうろくてい) → 忠世(ただよ・内藤、藩家老/俳人) R 2 6 2 2
 蔵六亭(ぞうろくてい) → 道輔(みちすけ・大谷おおたに、商家/国学者) I 4 1 3 8
 蔵六堂(ぞうろくどう) → 常清(つねきよ・朝山あさやま/源、廷臣/歌) F 2 9 1 6
 惣六郎(そうろくろう・白井) → 固(かたし・白井しらい、藩士/歌人) M 1 5 9 4
 蔵六郎(ぞうろくろう・岡田) → 守常(もりつね・岡田/遠山、藩士/詩人) F 4 4 8 1
 霜露軒(そうろくけん) → 貞柳(ていりゅう・油煙斎・鯛屋、狂歌) 3 0 0 9
 蔵六岡(ぞうろくこう) → 亀世(きせい・下郷しもと/千代倉4世、俳人) B 1 6 3 4
 蔵六園(ぞうろくえん) → 亀世(きせい・下郷しもと/千代倉、造酒業/俳人) B 1 6 3 4
 蔵鷺叟(ぞうろそう;号) → 逆翁(げきおう;道号・宗順そうじゅん、曹洞僧) G 1 8 8 8
- J2527 宗和(そうわ・塩瀬しおせ) ? - ? 安桃江前期;慶長元和1596-1674頃奈良の儒者、
 饅頭屋塩瀬(林りん)家の一族か?、連歌;1614(慶長19)古田織部興行「何船百韻」出座;7句詠、
 1620(元和6)「三体詩絶句鈔」著
- J2528 宗和(そうわ・金森かなもり/本姓;源、名;重近、飛騨高山城主可重の長男)1584-1656 73 母;遠堂慶隆女、
 武家;豊臣秀吉の家臣;飛騨守/従五下、1614父の勘気を受け母と共に京に籠居;剃髮、
 大徳寺の紹印伝双に参禅;宗和と号す/茶人;小堀遠州・片桐石州と交流/公家にも指導、
 作陶指導・茶室設計も行う、「茶事秘録」「金森宗和流茶湯秘事聞書」「宗和公献立」著、
 連歌;1614(慶長19)重然と「何人百韻」興行
 [宗和(;号)の法号] 甲堅院
- J2529 宗和(そうわ) ? - ? 江戸俳人;1689「あら野」入、
 [わが宿はどこやら秋の草葉哉](あら野;四仲秋/とりえのない我が陋屋にも秋が来た)
 相和(そうわ・佐藤) → 栢堂(はくどう・佐藤、儒者/詩人) D 3 6 7 4
- D2531 素雲(そうん・佐治さじ、別号;吟鳥)?-? 京の茶商、俳人、「素雲集」著、
 1687信徳「三月物」/92?幸左「大湊」入、1702轍士「花見車」1句入、
 [鶉ずき親にしらせそ朝もどり](花見車;133/朝まで鶉の鳴き声を競う、
 本歌;夜をこめて鳥のそら音やうづらずき;絵入百人一句/藤原氏言因)
- J2530 楚雲(そうん・中井なかい) ? - ? 大阪の俳人;雑俳/1757律中「耳勝手」入
- D2532 素云(そうん) ? - ? 江中期俳人、
 1785蟻窓主人「俳諧百貫樋ひやつかんとひ」跋
- K2568 楚雲(そうん・三上みかみ) 1754 - 1815 62 備後作木村の庄屋/俳人;「いだれはゝきゝ」著、
 1794鳳沖「虫の骸」/95其両追善「さゝ栗の露」入
 岨雲(そうん・今村) → 長順(ながより・今村、医者/俳人) G 3 2 5 8
 素雲閣(そうんかく) → 春道(はるみち・村田むらた、商人/国学/歌) 3 6 3 7
 楚雲堂(そうんどう) → 山丘(さんきゅう・楚雲堂、狂歌作者) F 2 0 7 3
- D2533 素英(そえい) ? - ? 江前期出羽の俳人、
 1689等躬「葱摺」/-91信徳「胡蝶判官」/1705「一の木戸」入
- D2534 祖英(そえい・菊岡坊) ? - 1768 江中期俳人、
 没後;祖英3回忌追善集「俳諧菊農露」(1770素山ら編)
- D2535 咀英(そえい;号・向岡舎) ? - ? 江中期江戸の俳人;吾山[1717-87]門、
 1777(安永6)「俳諧百苑香」編(:江戸宗匠付句集)
- J2531 素英(そえい・酒井さかい) ? - ? 江後期常陸多賀郡福田の生、勿来関に移住、
 文化文政1804-30頃活動の俳人、由誓編「俳諧木の葉集」の序文を執筆、
 「素英判句帖」「吹寄」著、
 [素英(;号)の通称/別号]通称;平右衛門、別号;一眺舎/萌陽亭
- K2597 素瑛(そえい;法諱) 1795 - 1859 65 飛騨大野郡石浦の真宗大谷派速入寺18世、
 国学;田中大秀門、
 [素瑛の号] 葦溪/懷璧

- 素英(そえい) → 常頭(つねあき・東、武将、歌人) B 2 9 4 7
 素栄(そえい・佐藤) → 素栄(もとひで・佐藤さとう、国学者) K 4 4 0 1
 素盈(そえい・佐藤) → 祖豊(そじょう;法諱、禅僧/歌人) L 2 5 4 1
 祖英(そえい;法諱) → 全春(ぜんしゅん;道号・祖英、曹洞僧) M 2 4 5 3
 祖永(そえい;法諱) → 方巖(ほうがん;道号・祖永;法諱、臨濟僧) 3 9 3 5
 添石親雲上(そえいしべんくしん) → 正英(せいえい・豊川とよかわ、琉球廷臣、和文) O 2 4 3 3
- J2532 **そへ子**(楚恵子そえこ・竹内たけうち) 1763-1838 76 遠江掛川の歌人;栗田土満・石川依平・小国重年門、
 1828-54加納諸平「類題鮫玉ぶきぎょく集」入集、「千尋の陰」著、竹内玄撮(春平/医者・歌人)の母
- L2508 **祖右衛門**(そえもん・日野ひの、名;重儀しげのり、久左衛門重泰男) 1814-92 79 信濃伊那郡松島宿の間屋、
 国学者;平田鍊胤門
 素右衛門(そえもん・近藤) → 南門(なんもん・近藤、儒者/刀劍鑑定) 3 2 3 9
 且右衛門(そえもん・千田) → 澳魚(おきな・千田せんだ/平、藩士/歌) D 1 4 7 0
 且右衛門(そえもん・加増) → 正魚(まさお・加増かぞう/千田、陪臣/国学) O 4 0 6 5
 祖右衛門(そえもん・青山/井口) → 機山(きざん・井口いぐち、儒者) K 1 6 6 2
 曾右衛門(そえもん・丸山) → 作楽(さくら・丸山、藩士/国学/詩歌) F 2 0 1 3
 曾右衛門(そえもん・日高) → 為春(ためはる・日高ひだか、藩士/歌人) Z 2 6 1 6
- D2536 **祖圓**(そえん;法諱・規庵;道号、如鏡上人、諡号;南院国師) 1261-1313 53 信州長池の臨濟僧:
 無学祖元門、1291南禅寺入/南禅寺2世;堂宇整備/1328後醍醐天皇より国師号、
 「南院国師語録」著
- L2521 **素円**(そえん;法諱/法師) ? - ? 江前期;京の僧/歌人;1682河瀬菅雄[麓の塵]入、
 [つくづくと覚めて思へばうたたねの夢も心のほかは見ざりき][麓の塵;雑648/夢]
 素円(そえん;法名) → 久明親王(ひさあきらしんのう、將軍/歌人) 3 7 0 4
 素円(そえん;号) → 祐常(ゆうじょう;法諱、天台僧/画) C 4 6 6 1
 素淵(そえん;法諱・黙子) → 黙子(もくし;道号・素淵、曹洞僧) 4 4 8 8
 素園(そえん、剃髮号) → 千代尼(ちよに、加賀の千代、俳人) 2 8 3 0
 祖縁(そえん;法諱) → 別宗(べっしゅう;道号・祖縁、臨濟僧) 2 7 9 8
- D2537 **祖応**(そおう;法諱・夢巖むがん;道号、諡号;大智円応禅師) ?-1374 出雲の臨濟僧;東福寺潜溪処謙門、
 潜溪の嗣法、1369(応安2)東福寺40世/のち潜溪の塔所本成寺2世、外学に秀でる、
 「早霖集」著(没後1422祖機編刊)/「夢巖和尚外集」「夢巖和尚語録」「海蔵和尚行状」著
- D2538 **素翁**(そおう) ? - ? 俳、1694不角「蘆分船」序
 素翁(そおう・山鹿) → 素行(そこう・山鹿やまが、儒/軍学者) 2 5 2 2
 蘇翁(そおう・宇野) → 貞恵(貞恵さだのり・宇野うの、藩士/儒者) J 2 0 2 6
- J2533 **素屋**(そおく・岸田きしだ、貞瑳男?) 1813-78 66 大坂南農人町住/大坂南組の役人、俳人;梅室門、
 1843「はちの巢」48「かさ日記」54「友ちとり」56「芒とち」59「海苔柴」60「梅若菜」編、
 「袖すゝり」「なにはふり」著、
 [素屋(;号)の通称/別号]通称;礼助、別号;松蔭/松の本/此の本、法号;真誉浄定素屋居士
 素音(そおん;法名) → 濤仙(たうせん;法諱、僧/歌人) V 3 1 8 2
- D2539 **祖荷**(そか) ? - ? 絵師、1774秀国「江戸の幸」肖像画
 素果(そか) → 師氏(もろしじ・東、歌人) 4 4 3 1
- J2534 **素蛾**(そが・瓊舎たまのや、名;清慮) ?-1877? 江戸京橋常磐町住・日本橋呉服町住の狂歌作者;
 苧環連判者/水魚連判者、1844「狂歌怜葉集」62「狂歌怜唸集」67「人物集」編
 [瓊舎素蛾(;号)の通称/別号]通称;伏見屋吉蔵、別号;素蛾乎/素鷺乎/芳泉堂/輝雄
 噌峨(そが・小沢) → 精庵(せいあん・小沢おざわ、漢学/洋学) H 2 4 2 8
 鼠河(そが・吉川) → 五明(ごめい・吉川/那波、商家/俳人) D 1 9 9 3
 祖海(そかい;字) → 敬首(きょうしゅ;法諱・祖海、浄土僧) G 1 6 7 8
 祖价(そかい;法諱・卍室) → 卍室(まんじつ;道号・祖价、曹洞僧) K 4 0 6 2
 素懐(そかい) → 公直(きんなお・今出川/菊亭、廷臣/歌) E 1 6 4 5
 素快(そかい;出家号) → 実任(さねとう・清水谷/藤原/阿野、権大納言/連歌) L 2 0 0 2
- D2540 **素外**(そがい・谷たに/旧姓;池田) 1734?-1823 90? 大阪鰻谷の商家/江戸に下り神田お玉ヶ池住、
 俳人;涼袋[綾足]門;[号;烏朴・瀾城]/市鼠を奥羽行脚、事あって破門、

江戸談林の蒼狐門;[号;一陽井・素外]/1766江戸談林7世継承、晩年;著述、息女素塵も俳人、1768「俳諧百鈞瓶」81「俳諧類句弁」84「俳諧江戸川」89「俳諧一物連歌」編/93「絵本玉池水」、1797「俳諧根源集」96「絵本多能志美種」1809「四季津鳥」11「玉池雜藻」19「玉池発句集」編、歳旦集多数など外に著多数、[淺漬の色や胡瓜きりの深みどり](玉池雜藻)、[素外(号)の別号]烏朴/瀾城/一陽井/玉池庵/玉池翁/採草庵、法号;超倫院

- J2535 **素外**(そがい) ? - ? 江後期安藝広島の俳人、頼春水と親交、
1816「梅仏うめぼけ」(鳳山らと共編)、1817砂童「阿為多伝」入、
[炉に添ふて居眠る日也枇杷の花](短冊)
- D2541 **素覚**(そかく;法諱、俗姓;藤原/橘、名;家基いせもと、藤原家光男)?-? 1172存 母;藤原知家女、
平安後期廷臣;従五下刑部少輔、橘俊綱の孫/伊綱・皇嘉門院尾張の父/素俊の曾祖父、
1160-70頃出家;沙彌素覚、歌人;俊恵と交流;歌林苑会衆の1、
1160清輔歌合(;家基名)/70住吉社歌合(;素覚名)/72広田社歌合参加、言葉集・月詣集入、
勅撰8首;千載(5首173/752/990/1012/1081;家基)新古今(986/1956;素覚)続後撰(623)、
[浮雲のいさよふ宵の村雨に追ひ風しるくにはふたち花](千載;夏173;家基名)
- J2536 **祖覚**(そかく;法諱・亨宗こうそう;道号)?-? 江中期美濃の臨濟宗慈溪寺の僧、妙心寺331世、
「法華經科証考」著
素覚(そかく;法名) → 惟喬親王(これたかのみこ、歌人/伊勢物語に逸話) 1 9 4 6
素覚(そかく;法名) → 後嵯峨天皇(ごさがてんのう、歌人) C 1 9 6 1
素覚(そかく・万蓮社) → 十思覚(じゅうしかく、浄土僧/歌人) a 2 1 6 5
- J2537 **素嶽**(そかく;道号・元禎げんてい;法諱)?-? 江前期黄檗僧;1707悦山門;嗣法、
「素嶽禅師語録」「素嶽和尚不惑初度集」著
素鷲子(そがこ・関本) → 日暁(にちぎょう、日蓮宗尼僧) B 3 3 4 3
素蛾乎(素鷲乎そがこ) → 素蛾(そが・瓊舎たまのや、狂歌作者) J 2 5 3 4
咀華亭(そかてい) → 芳年(よしとし・月岡/歌川、吉岡、絵師) E 4 7 9 6
- D2542 **素観**(そかん・すかん;法諱) ? - ? 僧;上人/歌人;1384成立「新後拾遺集」入(734)、
[湊田の稲葉に風の立ちしより雁か鳴きわたる秋の浦波](新後拾;雑秋734)
- J2538 **祖看**(そかん;法諱、道家どうけ尾張守三十郎男)?-? 1643存 父は織田信長の家臣、
尾張春日井郡安井の浄土僧、京の清浄華院の塔頭松林院住職、「信長公入洛記」著、
1643(80歳代)「道家祖看記どうけそかんき」著(;父の述べ置いた立入宗継の活躍を記録)
- D2543 **素閑**(そかん・我等菴) ? - ? 伊勢の俳人、1674蘭秀「後撰犬筑波集」入、
1674撰集「音頭おんど集(伊勢踊音頭集)」編(三保序;伊勢中心の475名の発句類題)
- D2580 **祖寛**(そかん・釈) ? - ? 江前期上方の僧/俳人、
1682春林「俳諧百人一句難波色紙」入、
[うごきけり松吟すれば鳶鱗つうろこ](難波色紙;81、
松風に和して吟ずると松に絡む鳶が躍る魚の鱗のように動く)
- D2544 **素閑**(そかん・平山ひらやま) ? - ? 京人、1698「石田軍記」著?作者詮議、前太平記の兀亭子か?
兀亭子 → 元(はじめ・藤元、兀亭子こつてい) E 3 6 3 8
- J2539 **鼠肝**(そかん・深川ふかがわ、宝晋斎3世/其角堂6世)?-? 江戸御徒町の俳人;6世湖十門/其角座点者、
1848沾山せんざん7世「俳諧鱗はいかいけい」28点句入、永機[1823-1904]の父
鼠肝(そかん・森部/曾/深川) → 湖十(初世こじゅう・曾/深川、江戸前中期俳人) 1 9 3 1
鼠肝(そかん・穂積/深川) → 螺窓(らそう・穂積ほづみ、鼠肝/俳人) B 4 8 4 4
祖閑(そかん;号) → 可透(かとう;法諱・祖閑、天台僧) O 1 5 1 4
曾観(そかん) → 春庵(しゅんあん・曾観、真言僧/連歌) J 2 1 1 7
素観(そかん;法号) → 四溟(しめい・岡部おかべ、幕臣/漢学/詩) F 2 1 8 6
- J2540 **素願**(そがん;法諱) ? - ? 僧/連歌作者;1356成立「菟玖波集」1句入、
[こほりや月のすがたなるらむ](菟玖;雑1191/前句;池水に波の立つとは見えつるに)
- D2545 **素玩**(そがん;号/別号;奉珠庵)?-? 江後期文化文政1804-30頃京の俳人、
1812「滑稽深大寺」/13「葦江湖」/18「多羅葉集」編、成美・巢兆・南畝らと交流
素眼(そがん/そげん) → 素阿(そあ、連歌) 2 5 3 4
曾観春庵(そかんしゅんあん) → 春庵(しゅんあん、連歌) J 2 1 1 7

- 鼠丸堂(そがんどう) → 休計(きゅうけい・厚東ことう、俳人) B 1 6 9 7
鼠肝坊(そかんぼう) → 湖十(こじゅう・五世、俳人) C 1 9 8 9
D2546 祖機(そき) ? - ? 室町期漢学者、1422夢巖祖応著「早霖かんりん集」編刊
素菊(そきく・秋岡) → 籬亭(りてい・秋岡素菊、歌人) C 4 9 1 8
D2547 素及(そきゅう・慙雪舎さんせつしゃ) ? - ? 浮世草子作者、「怪談実妖録」著、
静観堂により1750(寛延3)「怪談登志男としおとこ」として刊(静観房静話編/静観房好阿序)
J2541 素弓(そきゅう・関田せきた) 1754- ? 1845(92歳)存 信州松代の俳人:天姥門、紀行文を多く著述、
化政1804-30頃白雄門流の撰集に入集、「あづま紀行」「赤くら紀行」「草津紀行」著、
「霜枯草」「蟬の羽」「厄落し」著、
[素弓(;)号)の通称/別号]通称;庄助、別号;星晴観
祖休(そきゅう;初道号) → 了翁(りょうおう;道号・道覚;法諱、黄檗僧) G 4 9 6 1
素久(そきゅう・出目) → 素久(もとひさ・出目でめ、能面師) D 4 4 9 9
素牛(そきゅう・広瀬) → 惓然(いぜん・広瀬、俳人) 1 1 2 8
J2542 素鏡(そきょう・上田うえだ) 1698- 1771 74 信州上田の書家;内藤素水門、
陸奥弘前藩主津軽信著に出仕;右筆/江戸本所津軽屋敷に住、
「教訓文章」「陽春帳」「書札集」著、
[素鏡(;)号)の字/通称/別号]字;思父、通称;与三右衛門/与五郎、別号;随古堂
D2548 素郷(そきょう・小野おの、名;通昭) 1749-1820 72 陸中盛岡の富商和泉屋の生/俳人;1771上京;蘭更門、
1772;蝶夢門、観世流謡曲に通ず;1774宮中出入を勅許され御能初め参加、
1782盛岡郊外志家村に望春亭建設;俳諧と謡曲を指南、1783「みちのくぶり」編、
1783「みやこしま」93「詠帰章」、1818-撰集「柴の戸」編、1783維駒「五車反古」入、
[雲の峯いとど小さき我が栖すみか](柴の戸発句集)、
[素郷(;)号)の通称/別号]通称;永二、別号;素里/望春亭/松濤舎/松廼舎、法号;釈素郷
D2549 素鏡(そきょう・住田すみだ、名;保堅) 1772-1847 76 信濃水内郡長沼の農業/地主;豪農、村役人を勤む、
俳人;一茶門/長沼一茶門の十哲の1、1826(文政9)「たねおろし」編(一茶による援助)、
[素鏡(;)号)の幼名/通称/別号]幼名;三吉、通称;奥右衛門、別号;皎斎
D2550 祖郷(そきょう;号・過日庵) ? - 1858 筑前福岡の俳人、諸国行脚;1830頃江戸に到る、
俳諧;鳳朗門、一具と親交、1836(天保7)[奥の細道]の跡を慕い奥羽の旅、
1837「こもつち集」39「花苗集」44「ひとへかき」編、
1847「近世俳諧十家類題集」(:後刷「近世俳諧十家五百題」)編、
1852「百家類題集」「名家類題集」54「百庵玉詠集」「俳諧花吹雪」「蒼虬翁発句集」編
1858「澄月しふ」編、「俳諧古今類題群玉集」編(没後1860刊)
素経(そきょう・東とう) → 素経(そけい・東、歌人) D 2 5 6 1
蘇狂(そきょう) → 晩得(ばんとく・佐藤さとう、藩士/俳人) I 3 6 4 4
素狂(そきょう・山県) → 有朋(ありとも・山県、藩士/内閣組織) F 1 0 5 3
祖暁(そきょう;法諱・天巖) → 天巖(てんがん;道号・祖暁、曹洞僧) D 3 0 2 7
祖暁(そきょう;法諱・天鷄) → 天鷄(てんけい;道号・祖暁、曹洞僧) D 3 0 4 1
素行智(そきょうち、法名) → 後小松天皇(ごこまつてんのう) C 1 9 5 5
J2543 祖旭(そきょう;法諱・旗雲きうん;道号、俗姓;藤原) 1424-92 69 越前曹洞僧;越前慈眼寺の希明清良門、
;得度、新豊寺の天叟祖寅門;嗣法、能登総持寺輪住/武州竜淵寺2世、1464下総国守の招聘、
越中光厳寺住持;諸堂復興;光厳寺中興と称される、「旗雲旭和尚語録」著
D2551 素玉(そきょう) ? - ? 俳人;雑俳、1767丸窓「豆鉄炮」の「真先天満宮奉納」入
素玉(そきょう) → 自笑(3世じしょう・八文字、安藤興邦、書肆/俳) E 2 1 0 9
J2544 祖欽(そきん;法諱・梅園はいえん;道号、俗姓;大野) 1725-1800 76 信州松代の曹洞僧;
1735(11歳)佐久の宗清寺路山門;出家、正安寺の圭立法瑛に参禅;1744嗣法、
1768近江善勝寺/70信濃耕雲寺/89上州松井田の補陀寺住持、
「梅園祖欽禅師語録並摘藁」著
素芹(そきん) → 白芹(はつきん・関根、旅宿業/俳人) F 3 6 1 6
素琴(そきん・高田) → 義甫(よしとし/よしすけ・高田、国学/教育) E 4 7 9 7
蘇金(そきん・野崎) → 雅伯(まさのり・野崎のさき、藩士/郷土史) G 4 0 0 6

- K2573 疎吟(そぎん) ? - ? 江前期俳人;1691不角「二葉之松」2句入(342/349)
 [恋病こいやみに似せ文ふみもたす医者 of 智恵](二葉之松;349/前句;距躍おどりがりて嬉しがりけり)
 束(そく・寺地) → 強平(きょうへい・寺地てらち、蘭学/医) O 1 6 4 8
 束(そく・小笠原) → 貞宣(さだのぶ・小笠原おがさわら、国学/歌/神職) O 2 0 0 3
 束(そく・桜井) → 道考(みちたか・桜井さくらい、代官/歌人) I 4 1 8 2
 則(そく・片山) → 鳳翽(ほうへん・片山かたやま、藩儒者) C 3 9 5 0
 則(そく・永井) → 青崖(青厓せいがい・永井、藩士/蘭学者) H 2 4 7 6
 素愚(そく・山鹿) → 素行(そこう・山鹿やまが、儒/軍学者) 2 5 2 2
 族(そく・佐藤) → 孝典(たかのり・佐藤さとう、藩の神学督) X 2 6 2 3
 族(そく・大道寺) → 繁楨(しげさだ/しげよし・大道寺だいでうじ、藩家老/歌) Z 2 1 2 6
 則安(そくあん・末松) → 則安(のりやす・末松すえまつ、里正/国学) I 3 5 7 2
 足庵僧正(そくあんのそうじょう) → 尊賢(そんけん;法諱、真言僧/僧正) F 2 5 3 1
- D2552 即為(そくい) ? - ? 連歌、1582「信長追善懐旧百韻」入:紹巴らと
 即一(そくいっ;法諱) → 鼎三(ていざん;道号・即一、曹洞僧) 3 0 9 4
 即一(そくいっ;号) → 慈麟(じりん;道号・玄趾;法諱、曹洞僧) N 2 2 0 1
 則一(そくいっ・佐竹) → 宗三(そうさん・佐竹、武家故実/弓術家) H 2 5 4 3
 息隠(息陰そくいん・二畳庵) → 樗堂(ちよどう・栗田、酒造業/俳人) K 2 8 4 3
 則胤(そくいん・阿埜) → 則胤(のりたね・阿埜あの/阿部、藩士/軍学/天文) F 3 5 0 1
 則栄(そくえい・入江) → 則栄(のりひで・入江いりえ、歌人) F 3 5 5 6
 則栄(そくえい・小島) → 則栄(のりひで・小島こじま、幕臣/歌人) I 3 5 4 0
 息影(そくえい;号) → 汝岱(じょたい;法諱・若霖;字、本願寺派僧) M 2 2 6 8
 則益(そくえき→のります・香月) → 春岑(はるみね・香月かつき、醸造業/国学) G 3 6 9 7
 則右衛門(そくえもん→のりえもん・三井) → 高匡(たかまさ・三井、商家/国学者/歌) N 2 6 1 9
- J2545 塞淵(そくえん;法諱・鑪堂らどう;号) 1800-6162 肥前藤津郡浜町の真宗本願寺派光厳寺の生/僧、
 1818和泉堺の性海門/宗乗の研究、光厳寺住職、1848司教、近畿地方巡り僧侶の教化を図る、
 晩年;自坊に帰り後進を指導、「日本書紀私考」「入出二門偈聞書」「安楽集偈聞書」、
 1848「入出二門偈頌戊辰記」56「安楽集聞書」、「三経和讃講録」「行信両一念」外著多数
 息焉(そくえん・有馬) → 照長(てるなが・有馬ありま/吉田、藩老/歌) F 3 0 0 3
 息焉斎(そくえんさい・猪苗代) → 兼誼(謙宜けんぎ・猪苗代/渡辺、連歌) E 1 8 0 3
 即翁(そくおう) → 鬼貫(おにつら・上島、俳人) 1 4 2 4
 足翁(そくおう・木暮) → 賢樹(かたき・木暮こくれ、医者/国学者) M 1 5 9 2
 即往院(そくおういん;諡号) → 円庵(えんりゅう;法諱、真宗大谷派僧) F 1 3 4 6
 即応院(そくおういん;諡号) → 堯尊親王(ぎょうそんしんのう、天台座主/門跡) O 1 6 2 8
 則温(そくおん・曾我部) → 則温(のりあつ・曾我部そがべ/秦/安田、庄屋/歌) I 3 5 8 5
 続家(そくか) → 続家(つづきや、連歌) 2 9 9 5
 続学舎(そくがくしゃ) → 玉晁(ぎよくちよう・小寺、随筆) H 1 6 3 1
 則義(そくぎ・赤松) → 則義(のりよし・赤松あかまつ、歌人) H 3 5 0 9
 則休(そくきゅう・西山) → 則休(のりやす・西山にしやま、藩士/武道家) G 3 5 0 6
 即休(そくきゅう:代々の称・錦織) → 義高(よしたか・錦織にしごり、藩医/和学) O 4 7 3 7
 即休(そくきゅう:代々の称・錦織) → 義昌(よしまさ・錦織にしごり、藩医/和学) O 4 7 3 8
 即休(そくきゅう:代々の称・錦織) → 唐麿(からまる・千柳亭、綾彦、医者/狂歌) F 1 5 9 6
 則恭(そくきよう・黒田) → 則恭(のりやす・黒田、藩士/和漢学) G 3 5 0 5
 則喬(そくきよう・倉沢) → 則喬(のりたか・倉沢くらさわ、神職/国学) I 3 5 3 0
 則興(そくきよう) → 則興(そつきよう、俳人) K 2 5 7 5
 即吟舎放過(そくぎんしゃほうか) → 放過(ほうか・即吟舎、狂歌師) 3 9 2 4
 即空(そくくう;道号) → 道立(どうりゅう;法諱・即空、臨濟/黄檗僧) I 3 1 2 4
 即空庵玉翁(そくくうあんぎよくおう) → 珉(りょうしゅう・古筆こひつ;5世、鑑定家) L 4 9 9 5
 則瓊(そくけい・鹿島) → 則瓊(のりよし・鹿島、神職/歌) G 3 5 3 1
 塞軒(そくけん・石王) → 塞軒(そっけん・石王いしおう、儒者) E 2 5 0 2
 即現(そくげん;法諱) → 徳峰(とくほう;道号・即現、曹洞僧) L 3 1 3 8

- 速現院(そくげんいん) → 日胤(にちいん;法諱、日蓮僧) 3 3 4 6
- 足彦命(そくげんめい→あしひこのみこと)→豊平(とよひら・真鍋/藤原、神職/歌/一弦琴) R 3 1 5 2
- 則沆(そくこう・高木) → 則沆(のりひろ・高木、歌人) F 3 5 6 4
- 則孝(そくこう・鹿島) → 則孝(のりたか・鹿島/筑紫、神職/歌人) E 3 5 8 6
- 則孝(そくこう・和田) → 則孝(のりたか・和田、医者) E 3 5 8 8
- 則孝(そくこう・瀬川) → 則孝(のりたか・瀬川せがわ、藩士/国学/歌) I 3 5 7 9
- 則孝(そくこう・吉田) → 則孝(のりたか・吉田よしだ/戸田、商家/国学) K 3 5 3 3
- 則恒(そくこう→のりつね・香月)→春岑(はるみね・香月かつき、醸造業/国学) G 3 6 9 7
- 則恒(そくこう・杉本) → 則恒(のりつね・杉本すぎもと、神学者) I 3 5 7 3
- 則好(そくこう→のりよし・池西)→言水(ごんすい・池西いけにし、俳壇革新) 1 9 5 4
- 則綱(そくこう→のりつな・渡辺)→則綱(のりつな・渡辺わたなべ、幕臣) G 3 5 7 3
- 則綱(そくこう→のりつな・渡辺)→則綱(のりつな・渡辺わたなべ、藩主/越中守/歌) G 3 5 7 2
- 足国(そくこく) すべて → 足国(たりに/たるくに)
- 東根(そくこん・高野) → 東根(つかね・高野、歌人) 2 9 4 8
- 息斎(そくさい・稲毛) → 屋山(おくざん・稲毛いなげ、篆刻家) B 1 4 0 8
- 息斎(そくさい・浅野屋) → 秋台(しゅうだい・浅野屋、晝業/書家) X 2 1 9 8
- 即山人(そくさんじん) → 務(つとむ・小野、豪農/藩政改革/歌人) 2 9 9 8
- D2553 仄止(そくし) ? - ? 俳人、1698乙由「伊勢新百韻」入
- 則之(そくし・小泉) → 則之(のりゆき・小泉、和算家) G 3 5 1 4
- 則之(そくし・安井) → 則之(のりゆき・安井、藩士/神職) G 3 5 1 6
- 則之(そくし・山田) → 嘯廬(しょうろ・山田やまだ、商家/詩歌) M 2 2 0 8
- 則之(そくし/のりゆき・築瀬)→ 広記(こうき・築瀬やなせ、藩士/儒者) I 1 9 2 1
- 即似庵(そくじあん) → 守居(もりい・有馬ありま、藩家老/国学) J 4 4 1 2
- 足実(そくじつ・本田) → 足実(たりみ・本田ほんだ、国学者) Z 2 6 4 5
- 則寿(そくじゆ・宮島) → 則壽(のりひさ・宮島みやじま/藤原、大庄屋/国学) K 3 5 1 0
- 続従(そくじゆ・中野) → 庄兵衛(しょうべえ・中野、藩士/和算家) L 2 2 5 6
- 即修庵(そくしゅうあん・古筆)→ 了博(りょうはく・古筆こひつ/平沢、古筆鑑定) L 4 9 9 2
- J2546 束助(そくじよ) ? - ? 俳人、1782蕪村「花鳥篇」1句入、
[狩くらす花の禁ふもとを歩路かちぢ哉](花鳥篇;40/花見客のいる山の麓を歩き過る人)
- 則象(そくしょう・遠山) → 則象(のりかた・遠山、幕臣) E 3 5 3 9
- D2554 則常(そくじょう/のりつね・伊藤いとう)?-? 京の俳人、1660季吟「新続犬筑波」入、
1676西鶴「古今俳諧師手鑑」入、
[頭巾柿ずきがきも時雨に色や染めかくだ](手鑑/頭巾柿;兜巾柿ときんがき、
柿の色づくを修験者・山伏の異名[そみかくだ]に掛る)
- J2547 速成(そくじょう;法諱) ? - ? 江中期越前の真宗本願寺派僧;
足羽郡平乗寺の住職恵鑑の講述を筆記;1734(享保19)「御文雪窓隨筆」著
- 即証(そくしょう;法諱) → 明極(めいきやく;道号・即証、曹洞僧) 4 3 1 3
- 即生(そくしょう;法諱) → 東日(とうにち;法諱・浄土僧) G 3 1 8 5
- 則象(そくしょう・遠山) → 則象(のりかた・遠山とおやま/間部、幕臣) E 3 5 3 9
- 速証上人(そくしょうしょうにん)→ 志遠(しおん;法諱、天台僧) B 2 1 2 7
- 続松ひで近(そくしょうひできん)→ 続松ひで近(つぎまつひでぢか、狂歌) E 2 9 7 0
- 則信(そくしん) → 則信(のりのぶ、俳人) F 3 5 4 0
- 則臣(そくしん・星野) → 則臣(のりおみ・星野ほし、藩士/文筆) E 3 5 3 3
- 則真(そくしん・香月) → 牛山(きゅうざん/ござん・香月かつき、医者) M 1 6 6 6
- 即眞(そくしん;初法諱) → 普潤(ふにん;法諱・岩佐いわさ、天台僧) D 3 8 5 8
- 即心(そくしん;号) → 寂超(じやくちゆう;法諱・正行、天台僧) W 2 1 0 8
- 足人(そくじん) すべて → 足人(たるひと)
- 即身院宮(そくしんいんのみや)→ 済深親王(さいじんしんのう;法諱、大仏殿再建) G 2 0 8 1
- 足薪翁(そくしんおう) → 種彦(むねひこ・柳亭、高屋知久、旗本/戯作) 2 6 4 3

粟津義圭(ぞくしんぎけい) → 義圭(ぎけい; 字・諦住たいじゅう; 法諱、真宗/唱導) 1 6 6 6
 息心[斎](ぞくしんさい) → 陶斎(とうさい・趙ちよう/深見/高良、書家) E 3 1 2 0
 足水(ぞくすい・東海林) → 式麿(しまろ・喜多川、絵師) Q 2 1 1 1
 足水(ぞくすい・井上) → 元春(もとばる・井上いのうえ、国学者) J 4 4 1 3
 足穂(ぞくすい・稲室) → 足穂(たりほ・稲室いなむろ/糟屋/糟谷/粕谷、農業/歌) S 2 6 9 9
 足穂(ぞくすい・山田) → 足穂(たりほ・山田やまだ、神職/国学) 2 7 1 7
 足穂(ぞくすい・中田) → 憲信(のりぶ・中田なかつ、神職/国学/司法) F 3 5 4 1
 足穂(ぞくすい・朝倉/小佐野) → 足穂(たりほ・日下田くさかだ/遠藤、歌人) T 2 6 0 6
 続翠(ぞくすい; 号、臨濟僧) → 龍派(りゅうは; 法諱・江西こうせい/こうぜい) 4 9 1 2
 則成(ぞくせい・源) → 則成(のりしげ/のりなり・源、廷臣/歌) E 3 5 6 1
 則成(ぞくせい・宮田) → 則成(のりなり・宮田みやた/藤原、藩士/国学) K 3 5 1 1
 即生(ぞくせい; 字) → 眞察(しんさつ; 法諱、浄土僧) O 2 2 6 2
 速成(ぞくせい; 法諱) → 速成(そくじよう; 法諱、真宗本願寺派僧) J 2 5 4 7
 即声庵(ぞくせいあん) → 靖(やすし・藤井ふじい雪堂/木村、絵師) G 4 5 5 2
 続醒斎(ぞくせいさい) → 仕学斎(しがくさい・安東あんどう、儒者) B 2 1 3 3
 速成寺(ぞくせいじ、速成院) → 智達(ちたつ; 法諱・義諦、本願寺派僧) E 2 8 7 0

B2576 速成尼(ぞくせいに、女房名; 佐保山) ?-? 江中期伊藩大奥の女房の佐保山、出家、歌人、
 1798刊石野広通「霞関集」入、

[月影は春のものとして霞む夜もまだ袖さゆるかたしきの床](霞関; 春85)

D2555 即川(ぞくせん; 道号・師点してん; 法諱) ?-? 常陸の臨濟僧; 元元帥蚩[1626-1710]門、
 妙心寺派僧、1696「延宝伝録」編、96義堂「空華くうげ集」改編

則善(ぞくぜん・大窪) → 則善(のりよし・大窪、平安期歌人) G 3 5 1 8

俗仙庵(ぞくせんあん) → 披雲(ひうん・画瓢坊、俳人) 3 7 0 0

F2519 速叟(ぞくそう・遅塚ちづか、名; 久徳) ?-? 江後期常陸の人/磐城守山藩儒、
 1835「大学諺解」51「論語説」、「大学注」「経世論」著/「岡田宜汎言行」著、
 (岡田宜汎[兼山1688-1750]は守山藩家老で儒者)、
 [速叟(; 号)の通称] 九二八

則宗(ぞくそう・浦上) → 則宗(のりむね・浦上うらがみ/紀、武将/連歌) G 3 5 5 5

速々完(束々完そくそくかん) → 宗達(そうたつ・速水はやみ、医者/茶人) I 2 5 3 9

即々斎(ぞくそくさい) → 韋吹(いすい・天井、商人/俳人) 1 1 9 3

足村(ぞくそん・佐藤) → 国彦(くにひこ・佐藤さとう、国学) E 1 7 2 0

則地(ぞくち; 法諱) → 承天(しょうてん; 道号・則地、曹洞僧/義士伝) L 2 2 0 9

速治(ぞくち; 初諱) → 日求(にちぐ; 法諱、智門院) B 3 3 4 6

J2548 即中(則中/測中そくちゅう; 法諱) ?-1695 阿波の浄土僧; 江戸小石川伝通院に修学、
 1683(天和3)尾張藩主徳川光友に招聘され相応寺6世、1687退隠、1675「起信義」著、
 1677「三部録」「浄業和尚臨終要決」編/80「略教誠経註」著、89「黒谷上人法語」編、
 [即中(; 法諱)の法名/字/号]法名; 定蓮社禅誉/禅誉、字; 快玄、号; 起信庵

即中(そくちゅう; 法諱) → 玄透(げんとう; 道号・即中、曹洞宗中興/正法眼蔵開板) L 1 8 8 0

則忠(そくちゅう・児玉) → 則忠(のりただ・児玉こたま、藩士/兵学) E 3 5 9 7

息長(そくちよう・村木/神風) → 息長(やすなが・神風かみかぜ/村木むらき/川村、商家/国学) F 4 5 7 6

息長(そくちよう・今村) → 息長(やすなが・今村いまむら/鹿子田、藩士/国学) F 4 5 3 4

則直(そくちよく・知久) → 則直(のりなお・知久ちく、旗本/領主/歌) J 3 5 0 7

則直(そくちよく・新免) → 則直(のりなお・新免しんめん、神職/歌人) H 3 5 0 8

則通(そくつう・稲葉) → 則通(のりみち・稲葉/鈴木、藩士/兵学) F 3 5 8 5

足亭(そくてい・森) → 宜周(よしちか・森もり甚左衛門、商家/歌) P 4 7 6 3

則定(そくてい・藤懸) → 則定(のりさだ・藤懸ふじかけ、藩士/記録) E 3 5 5 4

則貞(そくてい・三ツ井) → 則貞(のりさだ・三ツ井みつい、国学者) K 3 5 0 9

則哲(そくてつ・佐藤) → 国彦(くにひこ・佐藤さとう、国学) E 1 7 2 0

J2549 即伝(則伝そくてん; 法諱・阿吸房; 号) ?-? 筑前の修験僧; 日光山の修験回峰行者、
 豊前英彦山南谷華厳院に移住; 正代先達承運門/1509(永正6)彦山伝燈正大先達位を受、

慶増・快誉の法脈(彦山修験伝法嗣法譜)/賢印房璿重・阿光の血脈(彦山修験伝法血脈)、
のち戸隠山・那谷寺など巡歴、修験の切紙を整理し彦山流の入峰儀礼を整備、
「修験修要秘決集」「修験三十三通記」編/「修験頓覚速証集」「三峯相承法則光記」著、
1527「柱源秘底記」/58「修験道最極三通」「彦山峯中灌頂密蔵」著

則途(そくと・赤松) → 則途(のりみち・赤松あかまつ、武士/歌人) F 3 5 8 4

束稻(そくとう・誉田) → 束稻(つかね・誉田ほんだ/朝比奈秀直、神職) G 2 9 3 5

J2550 即道(そくどう;法諱・雲門うんもん;道号・俗姓;富永) 1690-1765 肥前西川の曹洞僧;

1700(11歳)肥前玉林寺の天淳性老門;得度、諸師参禅後;三河竜海院の玉洲海琳門;嗣法、
1739竜海院住持、1752伝聖徳太子開基の大和吉野寺を世尊寺と改名;重新開基となる、
「雲門即道禅師語録」著/「雲門即道禅師語録附碑並銘」(仙林編)

即道(そくどう;字) → 観山(かんばん;法諱・即道、融通念仏僧) Q 1 5 7 8

足堂(そくどう・古屋) → 太郎兵衛(たろべえ・古屋、商家/読書家) T 2 6 7 5

続灯院(そくとういん) → 吉村(よむら・伊達だて、藩主/詩歌文) H 4 7 6 1

則任(そくにん・源) → 則任(のりとう・源、廷臣/歌人) F 3 5 1 7

族之助(そくのすけ・大道寺) → 繁禎(しげさだ/しげよし・大道寺だいどうじ、藩家老/歌) Z 2 1 2 6

族之助(そくのすけ・松賀) → 紫塵(しじん・松賀まつが、藩家老/俳人) E 2 1 1 9

J2551 足馬(そくば;号・太田おた、可笛男)?-? 江後期日向那珂郡城が崎の俳人;瓦全門、
1816(文化13)「花乃下蔭」編

速馬(そくば・浅井) → 速馬(はやま・浅井あさい善弘、和算家) F 3 6 7 4

D2556 即非(そくひ;道号・如一によつ;法諱、俗世;林りん、林英男) 1616-7156 福建福州黄檗僧、檗門三傑の1、

1632(明朝崇禎5)竜山寺西来門;33出家/諸師歴参後に隠元隆琦門;1651嗣法、1657渡来、
1658(万治元)長崎崇福寺の中興開山/63宇治万福寺の隠元に省観;首座、
1664帰国を決意するも豊前小倉藩主小笠原忠真に引き留められ福聚寺創建開山、
1668崇福寺に退隠;同地に没、隠元隆琦・木庵性瑄と並び檗門三筆の1、
1655「隠元禅師語録」編、64「黄檗和尚太和集」編、「即非禅師広寿新録」「即非禅師全録」著、
「即非禅師拾草」「即非禅師洛行艸」「即非禅師豊州艸」「扶桑集」外著多数、「即非和尚遺囑」

束鮒(そくふ・河村) → 政友(まさとも・河村かわむら、国学者/歌人) P 4 0 0 7

則武(そくぶ/のりたけ・松浦) → 篤所(とくしよ・松浦まつうら/松しよ、儒者) K 3 1 9 4

族父(そくふ・山本/藤沢) → 巢兆(そうちよう・建部たけべ、俳人) 2 5 1 7

則武(そくぶ/のりたけ・松浦) → 篤所(とくしよ・松浦まつうら/松しよ、儒者) K 3 1 9 4

D2557 則風(そくふう) ? - ? 京の俳人、1696円水「住吉おどり」入

束鮒巷(そくふこう) → 轍士(てつし、俳人) C 3 0 3 6

則文(そくぶん)すべて → 則文(のりふみ)

J2552 萩父(そくほ・鴨東おうとう) ? - ? 語学、1695「蜺縮涼鼓けんしゅくりょうこ集」(四つがな使い分け)

毛利貞斎戯名説あり → 貞斎(ていさい・毛利、儒者) 3 0 8 0

D2558 仄芳(そくほう) ? - ? 江前期俳人、1686露川「花虚木」歌仙入

則方(そくほう・沼倉) → 則方(のりかた・沼倉ぬまくら、陪臣/歌人) J 3 5 5 2

嗽芳菴(そくほうあん/そうほうあん) → 猿左(えんさ・戸谷とや、俳人) B 1 3 7 4

J2553 速満(そくまん;法諱、俗姓;能令) 1812-8675 肥後下益城郡小川町真宗本願寺派延福寺の生、
環中に私淑/到徹門/聞生門、延福寺8世住職、維新後;1875司教/84勸学職;本山の教授、
郷里で私塾竜川閣を開設;学生教育、「文類聚鈔会読記」著、

[速満(;法諱)の別法諱/号]別法諱;達栄/達英/環徹、号;宝洲/金仙/無碍道人むがいどうしん、
諡号;専念院

則満(そくまん・塩谷) → 則満(のりみつ・塩谷しおたに、神職/歌人) H 3 5 9 4

則満(そくまん・古山) → 則満(のりみつ・古山ふるやま、藩士/国学者) G 3 5 5 0

速満院(そくまんいん) → 観岳(かんがく、真宗大谷派僧) Q 1 5 1 0

即妙院(そくみょういん) → 日善(にちぜん;法諱・寛恵、日蓮僧) C 3 3 6 7

則民(そくみん・村井) → 則民(のりたみ・村井むらい、儒/藩学教授) K 3 5 1 2

J2554 即明(そくめい;法諱・義中;字、俗姓;小高) 1754-1822 69 武蔵比企郡川島領竹村の真言律僧;
幼時;正伝院玄州門/1760(7歳)蓮月庵円竜門;出家、真言律僧;1776衣鉢戒を受、

1800(寛政12)靈麟より具足戒を受、天明1781-89頃三股観音寺の寺務を司る;40年間、
1782「悉曇十二例正検」1804「盞迦恒羅問答」著、初称;常心

則明(そくめい/のりあき・豊福)→秋風(しゅうふう・豊福とよふく、眼科医/俳人) Y 2 1 2 7

則明(そくめい・内田) → 則明(のりあき・内田うちだ、医者/国学) H 3 5 5 1

則明(そくめい・広田) → 則明(のりあき・広田ひろた/度会/橋村、神職) J 3 5 8 6

D2559 則祐(そくゆう;法諱・姓;赤松あかまつ/本姓;源、名;則祐のりすけ、播磨守護赤松則村3男) 1311-7161 出家、
比叡山に入/叡山律師、1331元弘の乱起り播磨に帰国;討幕の兵を起す;武将/父・兄没、
1351(観応2)惣領職と播磨守護を継嗣/65備前守護を兼任、禅;雪村友梅門、
歌人:二条為忠より古今伝授を受、1367新玉津社歌合参加、藤葉集入集、
勅撰7首;新千載(1587/1697)新拾遺(969/1137/1708)新後拾(833)新続古今(1636)、
[ことのはも及ばざりける恨とはいはぬにつけて思ひ知るらん](新千;恋1587)、
[則祐の法諱/号/通称/法号]法諱;妙善(初法諱)/則祐そくゆう、号;自天、通称;帥律師、
法号;宝林寺自天妙善

則祐(そくゆう・島田) → 則祐(のりすけ・島田、文筆家) E 3 5 7 5

則裕(そくゆう・友部) → 則裕(のりひろ・友部、和算家) F 3 5 6 5

速雄(そくゆう・山本) → 速雄(はやお・山本やまもと/亀井、藩士/官吏) K 3 6 9 4

息遊軒(息遊軒そくゆうけん)→ 蕃山(ばんざん・熊沢、儒者/陽明学) 3 6 4 2

則陽(そくよう・赤松) → 則陽(のりあき・赤松、砲術家) E 3 5 2 1

則庸(そくよう・齋藤) → 則庸(のりつね・齋藤さいとう、神職/国学者) I 3 5 5 9

即離(そくり・伊達) → 綱村(つなむら・伊達だて、藩主/歌人) B 2 9 3 7

J2555 粟里(そくり・岸きし、名;有秀) 1792-1863 72 阿波佐西郡神領村の大庄屋の生/儒:岡田南山門、
のち柴野碧海・鉄復堂門、資治通鑑を愛読、書、「偶然集」「東遊日記」「如日曆」、
[粟里(;号)の幼名/字/通称]幼名;秀太郎、字;蘭夫、通称;新左衛門、白堂(有熹)の父

則良(そくりょう・吉沢/赤松)→大三郎(だいざぶろう;通称・赤松、幕臣/海軍) K 2 6 7 5

足了庵(そくりょうあん) → 禾月尼(かづに・横田、俳人) L 1 5 0 3

足了庵(そくりょうあん) → 禾山(かざん・足了庵、俳人) D 1 5 8 9

即蓮社勝誉(そくれんしゃしょうよ)→ 関通(かんつう;法諱・無礙、浄土僧) R 1 5 4 3

速蓮社成誉(そくれんしゃせいよ)→ 大玄(だいげん;法諱、浄土僧/戒律) J 2 6 9 0

即蓮社得誉(そくれんしゃとくよ)→ 的門(てきもん;法諱・法嚴、浄土僧) C 3 0 0 8

D2560 祖継(そけい;素溪そけい;道号・大智;法諱)?-? 曹洞僧、1336「覚阿上人に与ふる法語」

入元僧大智と同一? → 大智(だいち;法諱、曹洞僧) B 2 6 8 5

J2556 祖溪(そけい;道号・徳濬とくしゅん;法諱、号;水拙/鶴峰、俗姓;一宮)?-? 室町戦国期阿波の臨濟僧;
京の建仁寺入;瑞光庵の喜足門/大昌院の天隱竜沢に親炙、阿波補陀寺住、
1489駿河の清見寺住/京の真如寺住/東山瑞光庵に退隠;没、
1497「北野神君画幀記」、「水拙集」「水拙手簡」著

D2561 素経(そけい・東とう/本姓;平、素純の甥、最勝院)?-? 室町期僧/歌人・三条西実隆門、古今伝授を受、
1557(弘治3)「今川氏真うじざね歌会」参加

D2562 素敬(そけい・南部なんぶ) ? - ? 江前期大坂の談林俳人、

1678友雪「大坂檀林桜千句」・西鶴「物種集」入、

1680以仙(益翁)「大坂八百韻」四吟百韻(益翁/益友/本秋と)入、

[小鞆こつづみのうらはは芦辺のかたほ浪](物種集/前句;摺箔すりはくにする鶴の毛衣)

L2518 素慶(そけい;号) ? - ? 江前期大坂の町人、歌人、

1688浅井忠能[難波捨草]入、

[みし人はむかしも今もかはれどもひとりしたてる志賀の浜松](難波捨草;雑734)

D2563 素兄(そけい・菜庵、祐道、又八、3世晩得)?-? 俳人、

1796屠龍(抱一)「江戸続八百韻」入(;屠龍・雁々・大帟だいこと4吟百韻)

D2564 素桂(そけい) ? - ? 俳人、1676「下主智恵」入

J2557 素溪(そけい・小沢おざわ) ? - ? 江後期尾張名古屋の俳人、

1864(元治元)刊「ねちたけしう」-66「おのつから」編、

[素溪(;号)の通称] 善兵衛

- 素継(そけい・灯外;道号)→ 灯外(燈外とうがい・素継、曹洞僧) B 3 1 9 9
 蘇計(そけい・片桐) → 朝菴(ともたつ・片桐、藩士/郡奉行) P 3 1 7 1
 蘇景堂(そけいどう) → 晩菴(ばんさう・真下ましも、幕臣/詩/書) I 3 6 2 5
 素兄堂止静(そけいどうしせい)→ 止静(しせい・素兄堂、歌学者) E 2 1 2 6
- D2565 祖月(そげつ;法諱) ? - ? 1377存(80余歳) 鎌倉南北期僧・法師、
 歌人;1345-50二条家の会衆、金蓮寺歌会参加、1364-65頃成立「一万首作者」入、
 1377奉納「熱田本日本書紀紙背和歌」参加/松花集・臨永集入集、
 勅撰4首;新千載(1576)新拾遺(1039)新後拾遺(632)新統古今(931)、
 [うつつとも思はで越えし相坂はかへらぬ夢の関路なりけり](新千;恋1576)
- K2562 素月(そげつ) ? - ? 鎌倉期;鎌倉在住の禅僧?、
 早歌;1296?「宴曲集;吹風恋」作詩/調曲
- D2566 祖月(そげつ・山本やまと) ? - ? 天保1713-36頃没 尾張熱田の俳人:熱田神宮西門辺に住、
 1684(貞享元)芭蕉と「熱田三歌仙」を巻く、茶道・平曲を嗜む、
 1703「蓬萊嶋よもぎがしま」「あつた歳旦」編、1704?「熱田大ふく」/06「燈籠巻とうろうのまき」編、
 [祖月(;号)の別号] 柏葉軒/案山子かがし
- D2567 素月(そげつ・藤井ふじい、名;元景)?-? 江後期江戸の華道家;生花師範、俳人;存義門、
 1775「越後水原奉納句」編/1812存義「三国人名牒」訂補、18「伊呂波分俳言季引」再稿、
 [素月(;号)の別号]西湖/龍鱗庵
- J2558 素月(そげつ;号・加藤かとう、加藤九右衛門の妻)?-? 江後期尾張安井村の俳人、1861「笠松集」著
 素月園(そげつえん) → 木の屑坊(きのくずぼう・素月園、滑稽本作者) S 1 6 1 8
 素月園(そげつえん) → 泉晁(せんちやう・貞斎ていさい、絵師) G 2 4 3 9
- B2572 素軒(素謙そけん・川地かわぢ)?- ? 江前期京の俳人、1676西鶴「俳諧師手鑑」入、
 [花の日数屁負へおひ比丘尼か天津風](手鑑/屁負比丘尼;主の娘に仕え一切の過失を負う、
 科負とがおひ比丘尼ともいう/風に花が散るのも責任か)
- J2559 素謙(そけん;法諱) ? - ? 江中期信州の曹洞僧:千丈[1802没]門、
 1766「千丈巖和尚語録」編
- D2568 素絢(そけん・山口やまぐち/本姓;橘、呉服商木屋佐兵衛2男)1759-181860 京の円山派絵師;応挙門、
 祇園袋町住、和美人画(同門の駒井源琦の唐美人に対比)、俳人山口羅人の孫;山口姓、
 1796定雅「養漢裸百貫」99「素絢画譜」/1799-1804「倭人物画譜」1804「素絢人物画譜」画、
 1806「素絢画譜草花之部」画、1812巖島神社「俵藤太図」額、1818「素絢山水画譜」画、外面多、
 [素絢(;号)の字/通称/別号]字;伯陵/伯後、通称;武次郎、別号;山斎、法号;明誉素絢居士
- J2560 素軒(そけん・劉りゅう/彭城、名;善聡、初姓;武岡たけおか)?-1740 唐通事彭城仁左衛門[劉宣義]の養子、
 肥前長崎の通事;稽古通事/1695大通事/1714隠居、詩文に長ず、「劉素軒集」著、
 [素軒(;号)の字/通称/法号]字;士明、通称;三右衛門/継右衛門/仁右衛門、法号;徳光院
- J2561 曾見(そけん;号・黒瀬くろせ)? - ? 江後期江戸の俳人、
 1839(天保10)刊「古今千五百題」著、「此李迦良解しからげ」編
 素軒(そけん・安藤) → 為実(ためざね・安藤、国学/歌人) G 2 6 8 6
 素軒(そけん・野村) → 素介(もとすけ・野村のむら/有地、藩士/政治/書) K 4 4 9 2
 素絢(そけん・桜井) → 嵩鶴(すうかく・桜井さくらい、絵師) F 2 3 2 2
- 2520 祖元(そげん;法諱・無学むがく;道号、許きよ伯濟男)1226-8661 宋明州の臨濟僧;徑山の無準師範門;
 嗣法、1279執権北条時宗の招聘で渡来、蘭溪道隆没後の鎌倉建長寺住持/1282円覚寺開山、
 再び建長寺に帰り没、臨濟宗仏光派の祖、「請益問答心要」「無学祖元墨跡」著、
 「仏光国師語録」著、
 [無学祖元の号] 初道号;子元、諡号;仏光禅師/円満常照国師
- 2521 素玄(そげん・中林なかばやし、桜井屋[さくらや]源兵衛)?-? 大阪の商家/俳人;季吟門?/談林派、
 1669「百五十番発句合」参加/72頭成「続境海草」入/1673西鶴?「哥仙大坂俳諧師」入、
 1673西鶴「生玉万句」第七月の第三句等入、75宗因「大坂独吟集」「七百韶」入、
 1681賀子「山海集」82春林「俳諧百人一句難波色紙」入、
 [姥うばが火か星か河内に飛ぶ螢](続境海草/哥仙;九番右/難波色紙41、
 姥が火;河内枚岡明神の灯油を盗んだ姥が照沢の池に入水、

以後夜池中より姥の首が火を吹いて飛行するという/星か;欲しくばを掛る)

[松にばかり嵐や花の片鬣かたひいき](大坂独吟集;第二独吟発句101-200)

- D2569 **龜言**(そげん) ? - ? 1690不卜「続の原」3句入、
[折からの姫よめくらべ見ん田植哉](続の原/田植右32)
- J2562 **素元**(そげん・渡辺わたなべ;名;正信)?-? 京の書家;荒木素白[1600-1685]門/仮名に長ず、
上代流[素白流]、京住;備後福山藩主水野家出仕、1693「仮名字書様大意」、
「女房三十六歌仙」「臨風抄」著、
[素元(通称)の初通称] 素平そへい、伊信の父
- J2563 **曾原**(そげん・天野あまの/本姓;藤原;名;景胤)1678-1748 71 信州の儒者;若く江戸遊学;山岡家入門、
講説業;音韻に通ず、詩人、「曾原詩集」著
- J2564 **祖元**(そげん;法諱・仙林せんりん;道号)?-? 江中期曹洞僧;雲門即道[1690-1765]門/嗣法、
1777「雲門即道禅師語録附碑並銘」編
- J2565 **祖玄**(そげん;法諱) ? - ? 江中期加賀金沢の曹洞宗天徳院の僧、
1777「宣光院殿7回御忌御茶湯留」「梅園院殿三拾三回御忌留簿」著
- J2566 **素言**(そげん;号/素言子) ? - ? 江中期江戸の絵師/諸国歴遊;上方・金比羅・九州、
1786(天明6)「筑紫紀行図誌」著
- L2510 **祖元**(そげん・摩那田まなだ;)1837-1921 85 信濃埴科郡五加村の曹洞宗徳応院住職、
国学者・歌;唐木善武門
- | | | | |
|---------------|---|--|-----------|
| 素眼(そげん) | → | 素阿(そあ、時宗僧/連歌) | 2 5 3 4 |
| 素源(そげん) | → | 氏村(うじむら・東とう、武将/歌) | 1 2 5 3 |
| 素元(そげん;法名) | → | 公守(きんもり・洞院とういん、太政大臣/歌) | E 1 6 7 9 |
| 素彦(そげん・楫取) | → | 素彦(もとひこ・楫取/松島/小田村、藩士) | D 4 4 9 5 |
| 祖玄(そげん;法諱・透関) | → | 透関(とうかん;道号・祖玄、曹洞僧) | C 3 1 2 7 |
| 素玄閣(そげんかく) | → | 素丸(初世 <small>そまる</small> ・長谷川馬光、俳人) | 2 5 2 9 |
| 素絢軒(そげんけん) | → | 永納(えいゆう・狩野、絵師) | 1 3 4 4 |
| 素絢斎(そげんさい) | → | 鄰松(りんしょう・鈴木/藤原/船橋、幕臣/絵師) | K 4 9 4 7 |
| 曾源次(そげんじ・渡辺) | → | 条(たりえ・渡辺 <small>わたなべ</small> 、藩士/儒/国学) | 2 7 4 8 |
- J2567 **素後**(そご) ? - ? 伊勢の俳人;1773几董「明鳥」1句入、
[初蝶はつてふの寄るもかよはき笹あらし](あけ鳥;159/生まれたばかりの蝶のかよわさ)
- D2570 **素光**(そこう) ? - ? 連歌、1558「花千句」入;紹巴らと
- 2522 **素行**(そこう・山鹿やまが;町医者山鹿六右衛門貞以男)1622-85 64 岩代会津若松生;1827江戸に移住、
幼時より漢籍に親炙/儒;1630林羅山門、歌学・和学;1638広田坦斎門、神道;高野山光宥門、
武芸兵法軍学;1636小幡景憲・北条氏長門/42景憲より兵学認可を受、「雄備集」著、
正保1644-48頃諸侯に招聘/1652播磨赤穂藩兵学教授;60致仕、山鹿流兵学を完成;その祖、
1665「聖教要録」(朱子学批判)による筆禍(幕府保科正之の怒り);赤穂藩お預(1675まで);
その間に学問専念;多数の著、赦免後;肥前平戸藩主松浦鎮信の援助で江戸で兵学を講ず、
「治教要録」「武教要録」「武教全書」「原源発機」「中朝事实」「懐中便覧」著、「以呂波字類」編、
「武教類書」「海道日記」「門口集」「枕槐記」「三倫談」「備教要録」「山鹿語類」外著多数、
[人は万物の靈長なり 血気あるの属たぐいの者 人より知あるはなし](聖教要録)
義行の兄/高基の父/高恒たかつねの叔父・養父、
[素行(号)の幼名/名/字/通称/別号]幼名;左(佐)太郎/文三郎、
名;高祐/高興/義以/義矩/貞直、字;子敬、通称;甚五左衛門、
別号;若拙斎/屢空斎/如雲/播陽隱士/播陽隱叟/隱山/因山/隱花/隱幡いんぱ/播叟/素播、
素愚/素翁/江叟/江山/潜夫/成尾堂/積徳堂、法号;月海院、
- D2571 **素行**(そこう・久米くめ;名;調内)?-1732 長崎の為替取次役、俳人;去来門、
田上尼の夫の久米利延の甥、[二月きさらぎや椎の木しろき雨ひかり]
- J2568 **祖衡**(そこう・関せき/本姓;平)?-?享保1716-29頃没 越前の地誌家;
1696「日本分域指掌図」/1713「辨日本総国風」著、「前土記辨」著/「撰津志」「山城志」編、
「大和志」編/「河内志」「和泉志」編纂企画、友人並河誠所と地誌企画;
「日本輿地通志」編(畿内編纂途中で没;並河誠所らが1734完成)

詳細な記述は後の[新編武蔵風土記稿][新編相模風土記稿]等編纂事業に影響多大

- D2572 **楚江**(そこう・早見はやみ、初世晋我[1671-1745]男) ?-? 江中期下総結城の酒造業/俳人;父門、2世晋我(桃彦)・丈羽の弟、蕪村(宰鳥1716-83)・雁宕[?-1773]らと交流
- J2569 **鼠公**(そこう;号・辻つ、大黒庵) 1727-70 江中期京の俳人、1769「明和除元集」70「明和歳旦」編
- J2570 **素孝**(そこう・橋本はもと) ? - ? 江中後期俳人;岷考門、1790(寛政2)「窓の月」編、[素孝(;号)の通称/別号]通称;忠次郎、別号;十華庵
- D2573 **素行**(そこう・村山むらやま/本姓;藤原、名;徳之、有成男) 1773-1835⁶³ 徳川一橋家家臣の家、1787一橋家の近習/小姓、1798剃髪/出家号;素行、歌人;加藤千蔭・岡田真澄・木村定良門、1832「宝所詠草」著、蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入、
[梅が香の通ふところは有明の月だに知らぬ透間なりけり](大江戸倭歌;春128/曙梅)、
[素行(;号)の別号]宝所/宝所庵/寿庵/薫行、法号;宝処庵素行日総禅定門
- D2574 **素更**(そこう) ? - ? 江後期俳人、1809「俳諧廻文帖」編(独吟)
- J2571 **素行**(そこう;号、別号;笠栖りゅうせい) ?-? 江後期江戸の俳人:由誓・梅室らと交流、1836(天保7)「馬おり集」/6「諸国名家集」編/55「むすび文」、「根なし雲」著、「柴ふね集」編
- L2504 **祖厚**(そこう・高見たかみ、) 1843- 1917⁷⁵ 肥後熊本藩士/国学者;中島広足門、書家/歌人、維新後;宮内省出仕/のち剃髪;京都大徳寺高桐院に結庵、
[祖厚(;名)の初名/通称/号]初名;志こく、通称;尚熊/権右衛門、
号;広川/林泉/自在庵/榎園/無何有庵/雲石/桃園/高雲/硯耕生/翠山/竹園/梅溪
- | | | |
|----------------|---------------------------|-----------|
| 十江(そこう・林) | → 十江(じっこう・林、篆刻家) | E 2 1 8 6 |
| 素行(そこう・真山/氏家) | → 過菰堂(かかどう・氏家うじえ、藩士/儒者) | B 1 5 1 9 |
| 素行(そこう・古賀) | → 兵蔵(ひょうぞう・古賀こが、心学者) | F 3 7 3 2 |
| 素行(そこう・鈴木) | → 良知(りょうち・鈴木、儒/医者/本草家) | I 4 9 8 5 |
| 素行(そこう・斎藤) | → 方策(ほうさく・斎藤さいとう、蘭方医者) | 3 9 9 3 |
| 素行(そこう・富永/田中) | → 牧斎(ぼくさい・田中/源/富永、儒者) | D 3 9 1 0 |
| 素行(そこう・竹川) | → 政壽(まさひさぎ・竹川たけがわ、商家/国学) | H 4 0 3 1 |
| 素行(そこう・川波) | → 素行(もとゆき・川波かわなみ、国学者) | E 4 4 6 2 |
| 素行(そこう・丸山) | → 作楽(さくら・丸山、藩士/国学/詩歌) | F 2 0 1 3 |
| 素行(そこう・村田) | → 素行(もとゆき・村田むらた/大沢、商家/詩文) | L 4 4 6 7 |
| 素岡(そこう・岡島) | → 林斎(りんさい・岡島おかじま、幕臣/絵師) | K 4 9 3 1 |
| 素杲(そこう;法名) | → 師氏(もろうじ・東とう/平、武将/歌人) | H 4 4 0 4 |
| 素皎(そこう;法諱) | → 靈源(れいげん;道号・素皎、曹洞僧) | 5 1 2 3 |
| 徂康(そこう・宮戸/松浦) | → 羽洲(うしゅう・松浦、商家/俳人) | C 1 2 8 1 |
| 蘇巷(そこう・堀) | → 杏庵(きょうあん・堀ほり、医者/儒者) | 1 6 2 9 |
| 曾弘(そこう・中井) | → 蕉園(しょうえん・中井なかい、儒者) | H 2 2 2 8 |
| 素后(そこう、画号) | → 京伝(きょうでん・山東、洒落本) | 1 6 3 7 |
| 素郷(そこう) | → 素郷(そきょう、小野、俳人) | D 2 5 4 8 |
| 素行軒(そこうけん) | → 政経(まさつね・保科ほしな、藩主/能書家) | E 4 0 0 7 |
| 素行軒(そこうけん) | → 為範(ためり・中川、藩士/茶人) | S 2 6 6 6 |
| 素行堂(そこうどう) | → 松鱸(しょうろ・坂倉、狂句/川柳点者) | C 2 2 1 3 |
| 且俔(そこん・柴/柴橋) | → 応亨斎(おうこうさい・柴/柴橋、相法家) | C 1 4 3 9 |
| 素哉(そさい・相馬) | → 直登(直人なおと・相馬そうま、藩士) | B 3 2 7 6 |
| 楚材(そさい・佐藤) | → 牧山(ぼくざん・佐藤さとう、漢学者/教育) | D 3 9 3 0 |
| 曾左衛門(そざえもん・石原) | → 正俊(まさとし・石原いしはら、正明甥/国学) | E 4 0 5 3 |
| 素三郎(そさぶろう・阪谷) | → 朗廬(ろうろ・阪谷さかたに、儒者/詩文) | 5 2 4 6 |
- D2575 **素珊**(;法名そさん・東とう/本姓;平、名;氏胤、氏数[-1471]男) 1427-95⁶⁹ 室町期武将;宮内少輔、東常縁の甥、美濃郡上郡山田荘の領主/歌人、「小倉百一首」書写(1500刊)、
[氏胤(;名)の法号] 聖慶院
- L2524 **祖三**(;法諱、) ? - ? 江前期;上方の僧、1670下河辺長流[林葉累塵集]入、

[世のうきめ見えぬ山べに炭がまのけぶりや何のおもひなるらん](林葉累塵;冬727)

素三(そさん/もとぞう?・小野)→ 顕駿(あきとし・小野おの、国学者) H 1 0 1 6

- D2576 素山(そさん;法名・東とう、名;常氏、尚胤男)?-? 1565存(70歳位) 戦国期僧/歌人、常縁孫?、放浪、永禄1558-70頃越中滞在、住吉・玉津島・北野社法楽和歌を詠ず、東常縁にならい足利義輝に招かれようとするが1565義輝が殺害、「東素山消息」著
- J2572 祖山(そさん;道号・輔教ほきょう;法諱、俗姓;関口)1664-174380 越後刈羽郡山室村の曹洞僧;越後柏崎香積寺の実海門/備中西来寺の徳翁良高門;嗣法、享保1716-36年間に香積寺19世、「知事用心指南記」著
- J2573 祖山(そさん;道号・法忍ほうにん;法諱、尾藤彦四郎男)1672-174069 遠州気賀村の近藤家の家臣の家、臨濟僧;気賀村の竜潭寺徹叟門/各地歴参後に徹叟の嗣法、竜潭寺住持、1698京の妙心寺住、1726妙心寺353世、「祖山忍和尚語録」、陽舜祖秀の兄
- J2574 楚山(そさん・横地よち/よち、名;就正/正務、玄常惟正の男or養子)?-1746 佐渡相川の代々医者、1711頃上京/医;松岡玄達門、帰郷し医業・漢学を講ず、のち陣屋付の医師、1732江戸に移住、1735(享保20)常陸水戸藩に出仕;薬研堀住、1745「医学的」、「医経嘉会編」「医要談」著、[楚山(;号)の通称/別号]通称;玄常、別号;三節、島狄子とうてきの孫、正輔・守註の父
- J2575 蘇山(そさん・村井むらい、名;桂、見朴3男)1743-7634 肥後熊本の医者:吉益東洞門、京伏見で客死、1770「善音堂薬量考」校訂、「養葦先生遺教録」著、「芳年遺稿」、琴山の弟/習静の兄、[蘇山(;号)の字/通称]字;芳年、通称;藤伍
- D2577 祖山(そさん・東方ひがしかた、長兵衛の長男)1748-181366 加賀絵沼郡の生/大聖寺藩士、儒者;江戸の山本北山門、1770家督継嗣;前田利道以後5代の藩主に出仕、近習頭/表用人/持弓頭/旗本奉行/馬廻頭を歴任、藩士の教育に当る/1812致仕、「易説辨蒙」「刑法原始録」「祖山文抄」/1811「祖山筆記」著、[祖山(;号)の名/字/通称]名;由賢/望/屯、字;満卿、通称;宇左衛門、芝山の祖父
- D2578 素山(そさん・南柳亭なんりゅうてい)?-? 江中期越中富山の俳人;俳僧の菊岡坊祖英門、大阪住、談笑園(加興)社中、1770師祖英3回忌追善集「誹諧菊農露きくのつゆ」蝶阿と共編、1772几董「其雪影」1句入、[ほとゝぎす啼くや木曾路の初ざくら](其雪影;315/木曾の遅い春)
- J2576 楚山(そさん・内藤/久村)?-? 江後期尾張知多郡の俳人:竹有門、1803「青於集」12「侘草紙」15「安浪馬声所」「鳥の道」編、[楚山(;号)の通称/別号]通称;伝兵衛、別号;一樹庵、法号;高德院
- J2577 狙山(そさん;号)?-? 江後期尾張の商家/俳人、1852(嘉永5)「莖立集」著、[狙山(;号)の通称/別号]通称;丁子屋善治郎、別号;梅賞庵/梅故庵
- J2578 素山(そさん・会田あいた、名;常修、久右衛門男)1819-9274 出羽久保田藩士;明德館に修学、町奉行/評定奉行、罪を得て退職/維新後;秋田藩少参事、俳人;秋山御風門、1851「豊雪集」著/54「松柏集」共編/58「御用記録」、撰集「さし柳」共編、[素山(;号)の通称/別号]通称;宇吉/多仲、別号;柿陰/亮斎/洪筈こうきょう/朱果堂/虫二房6世、法号;広学院
- 素山(そさん・下郷) → 蝶羽(ちょうう・下郷/千代倉、醸酒業/俳人) H 2 8 2 6
- 蘇山(そさん・高橋) → 正直(まさなお・高橋、医者/歌) F 4 0 7 8
- 岨山(そさん・沢田) → 静庵(せいあん・沢田さわだ、儒者/詩人) H 2 4 2 6
- 曾七(そしち・神波) → 船樹(せんじゅ・神波かんなみ、医者) M 2 4 4 3
- 曾七郎(そしちろう・福尾/中西) → 淡淵(たんえん・中西/秋元/福尾、儒者) H 2 6 9 3
- 曾瑟(そしつ・佐々木) → 雪峰(せっぽう・佐々木ささき、儒者) L 2 4 3 7
- 素室(そしつ・石黒) → 幸弘(ゆきひろ・石黒いしぐろ、藩士/国学) G 4 6 5 3
- 素実(そじつ;法名) → 後深草天皇(ごふかくさてんのう、持明院統祖) D 1 9 6 7
- D2579 素寂(そじやく/すじやく;法諱、源みなもと、名;孝行/保行、源光行男)?(承元1207-11生)-? 1294存 和学者、父および兄親行の河内方家学を継承;河内本「源氏物語」校訂、藤原為家の家人となる、民部丞/筑前守従五下、1240出家、関東下向/紫雲寺を開く、1289?源氏物語注釈「紫明抄」著、家学(和学・歌)に随い1293-94鎌倉幕府将軍久明親王に「紫明抄」を献上、歌;1258-9為氏「新和歌集」入、勅撰4首;続後撰(720)続古(844)新千(1383)新後拾(1363)、

[頼むべきあふを限りの命だにはかなき世には待たれやはせん](続後撰;恋720/孝行名)

- J2579 **楚雀**(そじやく;号) ? - ? 江中期加賀金沢の商家/俳人;希因門、
1752「北の梅」著、
[楚雀(;号)の通称/別号]通称;住吉屋次郎右衛門、別号;水巻亭/渭竹亭、
素寂(そじやく) → 一叟(いっそう・並木、俳人) B 1 1 5 6
蘇守(そしゆ・藤) → 蘇守(そもり・伊藤、棟燕閣/俳人) 2 5 8 1
曾之唯(そしゆい) → 学川(がくせん・曾谷そだに、儒者/詩/篆刻) E 1 5 8 8
- J2580 **素秋**(そしゆう) ? - ? 美濃岐阜の俳人;1689「あら野」3句入、
[青柳あをやぎにもたれて通す車哉](あら野;二初春/道狭く土手の柳に寄掛り車をよける)
- D2581 **楚舟**(そしゆう) ? - ? 江戸の俳人;蕉門、1694「炭俵」2句入、
1698子珊「続別座敷」/1704岱水「木曾の谷」歌仙入、
[初霜や猫の毛も立つ台所](炭俵;下初冬)
- D2582 **素秋**(そしゆう・小野おの、名;正直) 1675-1735 61 備中倉敷の庄屋;家職継嗣/俳人;除風・支考門、
さらに舎羅・露堂門、1725(享保10)京東玉双林寺で支考催「芭蕉三十三回忌」参加、
1707「桃の寝覚」編、
[素秋(;号)の通称/別号]通称;八重郎/十六郎/孫太夫、初号;莱州、法号;顕誉好威儀信士
- J2581 **粗州**(そしゆう・桜下亭) ? - ? 江中期信濃伊那郡松川町福与の俳人;也有門、
1774(安永3)地元の円満坊に也有筆の芭蕉句碑を建設;記念集「桜塚集」編
- J2582 **素秋**(そしゆう) ? - ? 京の俳人;晩年の蕪村門、
1783維駒「五車反古ごしやほうぐ」入/1784-85初懐紙に入、
[夕暮や野に声残る麦の秋](五車反古;巻首204/多忙な農夫の畠仕事)
- J2583 **祖宗**(そしゆう;法諱・廓堂かくどう;道号) ?-1832 下総結城の曹洞宗孝頭寺29世住持、
1827「永平元和尚頌古」校訂/29「曹洞二師録蒙解」「洞山悟本禪師語録蒙解」、
1831「拈評三百則不能語蒙解」、「碧巖録蒙解」「宏智禪寺頌古蒙解」著
- L2505 **曾秋**(そしゆう・立川たちかわ、名;政伸、政峯まさみね2男) 1758-1815 59 近江甲賀郡和田の農業/交易業、
俳人;蝶夢門、心学;北村柳悦の講説に列す、1778西田家女と結婚;死別、
1781(天明元/24歳)伊賀上野の西村良化女[のぶ]と結婚;男6人の父、
兄専太郎は早世/1783(天明3)家督を継嗣、俳諧活動と心学布教に尽力;近江・京で活躍、
1810(文化7)2男政瑞に家督を譲渡、「随筆」著、
句;琴之編[笠の露]・[しぐれ会]・沂風[爾時庵発句集]・去何編[古巢俳諧集]入、
[曾秋(;号)の通称/別号]通称;金右衛門4世/(隠居後の通称);壮平/肥遯(ひとん)、別号;杉風庵
- J2584 **楚州**(そしゆう;道号・如宝によほう;法諱、藩士福地素白男) 1791-1850 60 大和郡山藩江戸屋敷に生、
のち郡山に移住、1799(9歳)宇治黄檗山万福寺の普明衍光門;出家/嗣法、
1824浜松大雄庵住持/45万福寺33世;同寺に没、「東遊雑艸」「楚州禪師語録」「崎中唱和」著、
「統一華五葉」編、「亀林余稿」著/「石窓鑑禪師」伝、
[楚州如宝の号] 樵屋/梅花道人
- J2585 **素洲**(そしゆう・雪光庵) ? - ? 江中期摂津兵庫の雑俳点者、「自撰晩花集」著
祖秀(そしゆう;法諱) → 陽舜(ようしゆん;道号・祖秀、臨濟僧) B 4 7 1 8
蘇州(そしゆう・鶉飼) → 凶南(となん・鶉飼うかい、書家) O 3 1 6 1
蘇州(そしゆう・大森) → 快庵(かいあん・大森おおもり、儒者/詩人) H 1 5 1 2
蘇州(そしゆう・鷺津) → 毅堂(きどう・鷺津わしづ、儒者) G 1 6 0 1
素州(そしゆう) → 正蔭(おおかげ・中臣、歌人/狂歌) C 1 4 7 5
素州(楚洲/素秀そしゆう・田宮) → 橘庵(きつあん・田宮たみや、戯作者/随筆) I 1 6 6 4
- K2574 **楚十**(そしゆう) ? - ? 京の俳人;淡々門、1728柳岡「万国燕」2句入
[のら者の数に入りたる難波寺](万国燕;668/難波寺は四天王寺/難波寺の仏は宿無し)、
(百済伝来の仏像を物部氏が堀江に棄捨し後642年善光が拾い善光寺へ安置;善光寺縁起)
鼠十子(そしゆうじ・池田) → 治政(はるまさ・池田いけだ、藩主/日記) G 3 6 8 6
曾縮(そしゆく・中井) → 碩果(せきか・中井なかい、儒者) J 2 4 9 7
鼠鬚士(そしゆし) → 柳枝(りゆうし・松代、浮世草子作者) E 4 9 3 6
祖述(そしゆつ・大橋) → 眞嗣(まこと・大橋おおはし、歌人) J 4 0 7 0

- D2583 **素俊**(そしゅん;法諱、藤原・橘、名;家季、藤原成家男)?-1240-7? 藤原家基(素覺)の曾孫、
 橘俊綱の苗裔、鎌倉期の僧;法師/歌人・連歌作者、1237成立「檜葉ならのは和歌集」撰者(7首)入、
 琵琶を嗜む、曾禰好忠に倣い「三百六十首歌」詠(散佚)/家集(散佚)、菟玖波集1句入、
 勅撰3首;新勅撰(1092)続後撰(551)続古今(1667)、雲葉集入、
 [わきてなど夕べの雨となりにつむまつだに遅き山の端の月](新勅;1092/巫陽台の心)、
 [寛喜三年(1230)春日社五十首歌に、
 心から花をみすつるかりがねもわかるとなればなくなくぞゆく](檜葉;春37)、
 [曾根好忠が跡を追ひて三百六十首の歌をよみ侍りけるに、
 霜おかぬのきのした草かるまでとはざりけるをまつもつれなし](檜葉;恋418)、
 [素俊(;法諱)の通称]花下十念房はなのしたじゅうねんぼう
- D2584 **楚俊**(そしゅん;法諱・明極みんき;道号、俗姓;黄)1262-133675 南宋明州慶元府昌国の臨濟僧;
 虎巖浄伏の嗣香を通じ嗣法、諸寺歴住、1329(元徳元)大友貞宗の招聘で竺仙梵僊らと渡来、
 1330北条高時の招聘で建長寺住持;雲沢庵開創/南禅寺13世;少林庵開創/建仁寺24世、
 相模報恩寺・撰津広厳寺を創建、建仁寺に没、諡号;仏日燄慧えんえ禅師
 「明極楚俊和尚語録」「滄海余波」/1335「夢窓明極唱和篇」著、
- J2586 **楚俊**(そしゅん;法諱) ? - ? 信州の曹洞僧/正安寺関係者?、「燈火偶筆」編
- J2587 **祖春**(そしゅん;道号・元回げんかい;法諱)1657-172468 撰津の黄檗僧;悦山道宗門/1683嗣法、
 1689頃大和添上郡矢田村思愍寺住持/撰津西成郡法円寺の中興開山/長門長府覚苑寺住持、
 撰津東成郡西海寺住持/1720(享保5)江戸瑞聖寺11世、
 1689「悦山禅師谷雲集」編、「仏祖正印源流頌」著
- 素舜(そしゅん、法号) → 資業(すけなり・日野、歌人) C 2 3 6 7
 祖俊(そしゅん;法諱) → 芳充(ほうじゅう;道号・祖俊、曹洞僧) B 3 9 6 2
- D2585 **素純**(そじゅん・東とう/本姓;平、名;胤氏、東常縁男)?-1530(70余歳)1490頃堀越公方に従い伊豆経営、
 1491北条長氏(早雲)伊豆侵攻を機に放浪生活/出家、1495上洛、歌;宗祇門/古今伝授を受、
 東下;富士本宮東傍に住、1502箱根で宗祇から東常縁より相伝古今集の奥義を返伝される、
 今川氏親に出仕;「続五明題和歌集」編纂の援助、「歌詠大事」/1499「かりねのすさみ」著、
 1515「続五明題和歌集」氏親と共編、1530「素純百番自歌合」、「古今集秘事」著、
 新撰菟玖波集1句入
 [素純(;法名)の幼名/通称]幼名;竹一丸/与阿弥、通称;最勝院、常和の兄弟
- J2588 **祖純**(そじゅん;法諱・円桂;道号)?-? 江中期臨濟僧・白隠門、出雲天倫寺住、「円桂祖純禅師語録」
- J2589 **素潤**(そじゅん;法諱、雪庵せつあん;道号)?-? 江戸中期豊後の禅僧/書家、1735「四躰百字文」書
- J2590 **素筈**(そじゅん・大森おおもり、名;広除)1721-180080 信濃望月の本陣・庄屋;1739(19歳)家職継嗣、
 俳人;岩村田の吉沢鶏山門、1792芭蕉百回忌を前に句碑を建立;
 記念集「駒牽集」(同門帯雨篁仙風と共編)、
 [素筈(;号)の通称/別号]通称;久左衛門/主計かづえ、別号;嘯月台/松樹軒/松寿軒
- 素順(そじゅん・早見) → 晋我(初世しんが・早見、酒造業/俳人) D 2 2 6 2
 素淳(そじゅん・脇) → 素淳(もとあつ・脇わき、儒者/蘭室の養子) C 4 4 0 4
 祖淳(そじゅん;法諱) → 朴堂(はくどう;道号・祖淳、臨濟僧) D 3 6 6 9
 祖淳(そじゅん;薙髮号) → 十竹斎(じゅちくさい・佐々ささ、漢学/史編纂) F 2 1 0 8
 素準斎(そじゅんさい・片山) → 守春(もりはる・片山かたやま、墨随斎/絵師) K 4 4 3 0
 素処(そしよ・藤林) → 守元(もりもと・藤林ふじばやし/三谷泰作、医者) L 4 4 5 0
 楚嶼(そしよ・朱) → 舜水(しゅんすい・朱しゆ、儒者/水戸学祖) 2 1 5 9
 甞所(そしよ・大橋) → 緯堂(しやくどう、大橋/平/岡谷、医者) W 2 1 1 0
- D2591 **素松**(そしゅう) ? - ? 俳人;1687一昌「丁卯ていぼう集」入、
 [いぎよひの長月晴れよ市女笠](丁卯集;神明市)
- D2586 **疎松**(そしゅう) ? - ? 加賀石川郡鶴来の俳人、1690北枝「卯辰集」183、
 [小麦田こむぎだに鳴くや狐の妻をなみ](卯辰集;二夏183/なみは無いのでの意)
- 素彰(そしゅう・飯尾) → 信正(のぶまさ・飯尾いのお/藤原、絵師) D 3 5 3 3
 素松(そしゅう・小松) → 百亀(ひゃくき・小松こまつ、薬屋/嘶本) E 3 7 9 4
- D2587 **楚常**(そじゅう・金子かねこ、名;吟市、七郎右衛門2男)1663-88早世26 加賀石川郡鶴来の俳人;

俳諧;生駒万子門、神道;田中一閑門、歌も嗜む、
「卯辰集」編纂ための句稿収集中急逝(北枝が1691完成)、
追善集「楚常手向草」、卯辰集;句空序に編纂事情入・32句入)、
[春立つや山家に入りて袖の数](卯辰集;一春3/我山里に春を迎へて/人数も増える)、
[楚常(号)の法号]法号;釈善宗

J2591 祖常(そじょう;道号・楚岷そみん;法諱、初法諱;楚忍)?? 江中期臨濟僧;

京の妙心寺住寺祖山法忍[1740没]門;侍者、「祖山忍和尚語録」編

L2541 祖暹(そじょう;法諱) ? - ? 江中後期;河内日下村の禅僧/歌人、

1798(寛政10)上田秋成の河内日下村滞在時の友人/秋成滞在の日下村正法寺住職?

秋成[藤篋冊子つづらぶみ]入、秋成[山霧記さんむき]の[正法寺住職祖暹]と同一?

[棹鹿のまだき恋せぬ秋の野に匂ひなつかし萩の初花](藤篋冊子;雨かはづ/花合;萩)

[吹く風に露もこぼさぬ蓮葉の花に朝日の光まばゆき](同;はちす)

素丈(そじょう・加藤) → 野逸(やいつ・加藤かとう、幕臣/俳人) 4 5 0 0

素丈(そじょう) → 一叟(いっそう・鈴木/飛鳥園4世、俳人) B 1 1 5 7

素浄(そじょう;法名) → 靈元天皇(れいげんてんのう、歌人) 5 1 0 3

素尚斎(そじょうさい・狩野) → 勝川(しょうせん・狩野かのう、木挽町絵師) K 2 2 3 8

素觴子(そじょうし) → 玄梅(げんばい・石岡、俳人) C 1 8 9 2

素色(そじよく・坂井) → 居平(やすひら・坂井さかい、庄屋/国学/歌) F 4 5 9 3

楚軾(そしよく;法諱) → 暘山(ようざん;道号・楚軾、臨濟僧/勤王) B 4 7 0 6

曾書堂(そじょうどう) → 文屋安雄(ぶんやのやすお、書肆/狂歌) G 3 8 5 5

D2588 祖心(そしん;法諱、牧村なあ/のう、伊勢岩手城主牧村利貞女) 1588-1675 母;稲葉重通女、

幼時に父没/前田利長に養育/加賀小松城主前田長種男の直知と結婚;三男を産む/離婚、

1608三春城代町野長門守幸和(吉知)と再婚/主家蒲生家改易により夫浪人;江戸に移住、

江戸で教養を積む、叔母春日局により江戸城大奥に招聘され徳川家光の御局役、

夫没後;臨濟僧の沢庵に参禅;1646出家;祖心尼と称す、1646牛込に采地を賜る;

家光に侍し牛込済松寺を建立/済松寺に没、「祖心尼法語」著(斎藤阿能おのう名)

D2589 祖辰(そしん;法諱・南宗なんしゅう;道号、号;常羊雉浦じょうようらくぼ) 1631-1715 京の臨濟僧;1646玉峯門、

紀伊草堂寺住/1658虎伯大宣門;法嗣、73対馬以酊庵住寺/75東福寺242世/79以酊庵再住、

朝鮮との外交担当、詩人、1683「和韓唱酬集」入(:通信使と唱和)、「祖辰詩集」著、

「南宗和尚法帖」著/1703「慧日山東福禅寺宗派」編

J2592 素深(そしん;法諱) ? - ? 江中期讃岐の真宗興正派正蓮寺住職、

1744(延享元)刊「一念多念分別事人穀」著

J2593 素真(そしん;法諱・徳巖とくげん;字)?? 1782存 天台僧;伊勢金剛教寺・備州仏心寺住僧、漢学者、

1772「漢音正辨」82「喩箴觀海篇」、「悉曇反音篇」、「声明雜記」、「造念珠略法」外著多数

D2590 素真(そしん・山形やまがた、坂野屋平五郎[久保田源四郎]長男) 1818-62 江戸外神田仲町旅宿業、

1833加賀藩御用達某家の家督を継嗣;山形を称す、絵師;1823(6歳)谷文晁門、

1841京の岡本豊彦門/1845江戸に帰り鈴木南嶺門/神田お玉ヶ池住、狂歌本などの挿絵、

狂歌作者、1851「狂歌香叢集」53「狂歌調子笛」画/55宗旦「利根川図志」插画、

1856「都賀のやままつ」58「四方海」/59「寰中百人集」「追福狂歌錦葉集」、「狂歌謡曲集」画、

[素真(号)の幼名/号]幼名;長四郎、号;搖月齋、法号;搖月院

素芯(そしん、素信) → 梅室(ばいしつ・桜井、研刀職/俳人) 3 6 0 4

素心(そしん) → 意林庵(いりんあん・朝山、儒/仮名草子) 1 1 3 0

J2594 素人(そじん・北脇きたわき) ? - ? 大阪の竹本座の浄瑠璃(院本)作者、

1758「塩飽七島稚陣取」71「本卦復昔曆」/72「千種結旧画草紙」「忠臣後日噺」著

J2596 素塵(そじん・谷、名;たみ、素外女)??-1831 江戸の俳人:父門/1809女流点者として独立、

1814(文化11)「西山宗因紀念碑」編/23「追悼」編、

[素塵(号)の別号]一陽窓/徐窓

疎人(そじん・勘定) → 疎人(うとんど・勘定、花島平蔵、狂歌) B 1 2 4 8

僂人(そじん・氏家) → 庵溪(りゅうけい・氏家うじえ、藩士/語学) D 4 9 5 6

素人(そじん・長瀬) → 年宗(としむね・長瀬ながせ、歌人) V 3 1 9 6

- 素仁(そじん・長沢) → 東海(とうかい・長沢ながさわ、儒者) B 3 1 8 7
 素心斎(そしんさい) → 利剛(としひさ・南部なんぶ、藩主/国学/歌) T 3 1 7 7
 素信斎(そしんさい) → 白芹(はつきん・関根、旅宿業/俳人) F 3 6 1 6
 素心子(そしんし・印雲軒い) → 春澄(はるすみ・青木あおき、俳人) G 3 6 4 7
 素心堂(そしんどう) → 春澄(はるすみ・青木あおき、俳人) G 3 6 4 7
 素心堂(そしんどう) → 良順(よしより・勝野かつの/田宮、藩士/和漢学) M 4 7 2 2
 素人道人(そじんどうじん) → 敬忠(よしただ・平山らやま/黒岡、幕臣/神道) O 4 7 8 0
- B2548 **素心尼**(そしんに・裏涼庵) ? - ? 江中期;長門萩藩御用絵師大楽探文の妹、
 画/俳諧を嗜む;菊舎尼と俳友、大楽探玄の女?
 素人房(そじんぼう) → 丈永(じょうえい;号、俳人) H 2 2 1 9
 祖心本光禪師(そしんほんこうぜんじ) → 笑嶺(しょうらい;道号・宗訥;法諱、臨濟僧) M 2 2 0 0
 素水(そすい・惟誰軒) → 濁子(じよくし、中川、藩士/俳人) C 2 2 3 3
 素水(そすい) → 白芹(はつきん・関根、旅宿業/俳人) F 3 6 1 6
 蘇水(そすい・鷺津) → 毅堂(きどう・鷺津わしう、儒者) G 1 6 0 1
 蘇水(そすい・利根川) → 尚方(なおかた・利根川とねがわ、医者/詩) N 3 2 9 5
 素速斎(そすくさい) → 恒成(つねなり・素速斎、戯作者) C 2 9 9 4
 素介(そすけ・野村) → 素介(もすけ・野村のむら/有地、藩士/政治/書) K 4 4 9 2
- 2523 **素性**(そせい;法諱、良岑よしみね玄利はるとし、遍照[良岑宗貞]男) 859?-? 909存 平安前期廷臣、
 清和天皇時代に左近将監として殿上出仕?(兄油生と混同され易い)/出家;法師、
 父と雲林院住/のち石上寺(良因院)住/898宇多上皇宮滝御行に良因朝臣として随従、
 歌人;寛平御時菊合・寛平御時后宮歌合に参加、36歌仙の1、家集「素性集」、能書家;屏風書、
 勅撰62首;古今(37首6/37/47/55/76/92以下)後撰(7首28/50以下)拾遺(5/438)新古以下、
 [今来むといひしばかりに長月の有明の月を待ちいでつるかな](古今;恋691)
 [素性(;法諱)の通称] 良因朝臣よしよりのあそん
 祖静(そせい・山崎) → 菜茹(さいじよ・山崎やまざき、医者) G 2 0 7 4
 蘇生庵麦鱗(そせいあんぼうりん) → ばく(・松田、雑俳/洒本/浄作) C 3 6 4 9
 素誠軒(そせいけん・木原) → 清香(きよか・木原きはら/永安、藩士/歌) U 1 6 0 4
 蘇生道人(そせいどうじん) → 梅厓(ばいがい・十時ととき、儒者) 3 6 8 2
 蘇生坊(そせいぼう) → 是空(ぜくう・森崎もりさき、吏員/俳人) K 2 4 5 6
 素性法師(そせいほうし) → 素性(そせい・良岑玄利、歌人) 2 5 2 3
- 2524 **疎石**(そせき;法諱・夢窓むそう;道号) 1275-1351 77 伊勢の生/1278一族で甲斐移住、僧;空阿門;密教、
 1294上京/臨濟僧;無隠円範門/1299鎌倉建長寺の来日した一山一寧を訪ねる、
 1303京万寿寺の高峰頭日門;法嗣、一時土佐吸江庵に隠棲/北条貞時夫人覚海尼の招聘;
 鎌倉に赴く/のち京南禅寺・鎌倉円覚寺住持/甲斐恵林寺開創、後醍醐天皇・尊氏直義の帰依、
 安国寺利生塔設置・天龍寺造営を進言、法系を夢窓派(嵯峨派)と称す、五山文学の中心、
 「七朝の国師」の称、「谷響集」「夢中問答」「西山夜話」「臨川家訓話」「和歌集」「夢窓国師語録」、
 「夢窓国師法語」「天竜開山和歌」「二十三問答」「夢窓国師語録拾遺」外著多数、
 1335「夢窓明極唱和篇」、菟玖波集14句入、
 勅撰11首:風雅(1415/1793/2063/2076)新千(1713)新拾(1478/1548/1711)新後拾(3首)、
 [此の娑婆界にありながら心にかなふ事を求むるは
 火の中に入れて涼しきことを求むるがごとし](1342夢中問答)、
 [我が宿をとふとはなしに春の来て庭にあとある雪のむら消え](風雅;雑1415)
 [夢窓疎石の別法諱/号]初法諱;智囃ちかく、
 号;正覚国師/夢窓国師/心宗国師/木訥叟、諡号;普濟国師/玄猷国師/仏統国師/大円国師
 夢窓疎石の主な門人;春屋妙葩・義堂周信・絶海中津
 素石(そせき・山川) → 信意(のぶり・馬場、軍記作者) C 3 5 7 1
 素席(そせき・西沢) → 敬秀(たかひで・西沢にしざわ/伊香、国学者) X 2 6 8 4
 礎石(そせき・狂歌堂) → 源八(げんぱち・菅原、村役/救民/俳人) M 1 8 1 5
- J2597 **礎石坊**(そせきぼう・伊藤いとう、名;春孝) ?-? 江後期俳人;玄武坊門、1819「そのまさこ影」評、
 1820「影七尺」著、葛路かつろの父、麦里の師、

[楚石坊(；号)の別号] 四睡廬しかい

- J2598 **素雪**(そせつ・乾水坊) ? - ? 江後期信州諏訪郡諏訪神宮寺上宮仁王閣麓に住、
文筆家、1819「信濃国昔姿」著
疎雪(そせつ・法号) → 尚祐(なおすけ・曾我、幕臣/故実/書札礼) B 3 2 3 3
- D2592 **素暹**(そせん・東とう/本姓;平、名;胤行、東重胤男) 1173?-1263? 91? 武将;父と共に源実朝の側近、
実朝没後;鎌倉幕府將軍に出仕、1221(承久3)美濃郡上郡山田庄の地頭、歌人:藤原為家門、
為家の女婿、1247幕命で一族千葉秀胤を討つ;右筆となる/幕府の不興を買い上京;出家、
法師/花下連歌に参加、新和歌集・東撰和歌六帖・拾遺風体集・雲葉集入、菟玖波集5句入、
勅撰22首;続後撰(678/1131)続古(5首313/478/619以下)続拾(712/1261)新後撰(4首)以下、
[袖にのみ包むならひと思ひしに人めをもるも涙なりけり](続後撰;恋678)、
[風ふけばあまも釣りせぬ浦波びひとりいでたる秋の夜の月](雲葉;秋583/素暹法師)
[素暹(；法諱)の通称]東中務入道/素暹法師
息子 → 行氏・氏村・泰行
息女 → 胤行女(たねゆきのむすめ・東とう/平、歌人) G 2 6 5 0
- J2599 **楚仙**(そせん;法諱、木食上人) ?-1593 浄土宗誓願寺の勸進僧/連歌作者:
1588(天正16)紹巴と「何木百韻」、紹巴と「花何百韻」、「俳諧之発句」著
木食上人応其(おうご)とは別人→ 応其(おうご・藤原、真言僧) 1 4 0 1
- D2593 **素浅**(そせん・駒田こまた/渡部、名;如俊) 1672-1750 79 江戸の医者;渡部如閑門/1704頃備後福山住、
俳人;野坡門/風羅堂3世、1739「雨の声」「桜苗」、「存命草」「俳林良材」「袖曆集」(；3著散佚)、
[とし寒し夜半の机の鼻しづく](「雨の声」)、
[素浅(；号)の通称/別号]、通称;渡辺素浅、別号;雨声庵/風羅堂3世
- D2594 **素洗**(そせん) ? - ? 江前期俳人;1691北枝「卯辰集」3句入、
[いなづまやしばしば見ゆる膳所の城](卯辰集;上三310)
- K2580 **素仙**(そせん) ? - ? 俳人;1696不角「矢の根鍛冶後集」入
- K2564 **祖扇**(そせん、紙屋甚右衛門) ?- ? 安藝宮島の蕉門系俳人;1699支考「西華集」入、
1705除風「冬の花」入
- K2565 **亀線**(そせん) ? - ? 安藝廿日市蕉門系俳人;1705支考「三日歌仙」入、
1706涼兔「潮とろみ」/支考「東山万句」入
- K2500 **素仙**(そせん・百掬亭ひゃくきつてい、通称;児素仙) ?-? 江中期享保1716-36頃京の菊研究家、
1736「百菊譜」(；大小菊百種の図説)
- D2595 **狙仙**(狙仙そせん・森もり/本姓;橘、名;守象、森如閑斎次信3男) 1747-1821 75 撰津西宮の絵師;
初め狩野派;蝶楊堂幽谷・勝部如春斎門、のち円山派、大坂で画業;
元・明の画蹟を究め一家を成す、猿鹿絵に長ず、「群猿図」画、森春溪の師、
[狙仙(；号)の字/通称/別号]字;叔牙、通称;花屋八兵衛、別号;如寒斎/靈明[猫]いみより庵、
法号;竜光院
- D2510 **楚泉**(そせん) ? - ? 尾張の狂歌作者;1785後万載集入;
[ひと夜をば百夜もよと契る織姫になぜお子たちが出来はなされぬ]
- K2501 **祖船**(そせん;法諱・絶海ぜつかい・道号) ?-1820 曹洞僧;上州松井田の補陀寺31世梅園祖欽門、
信州東松山の長福寺11世/上州弘誓山長樂寺17世/松井田の補陀寺32世に就く、
1801「融牛成字説」著/1809「千字訓童行」注、「絶海祖船禅師開堂語録」著
- K2502 **鼠仙**(そせん・菅沼すがぬま、名;定年、新美にのみ市左衛門3男) 1779-1839 61 三河知多郡亀崎の生、
三河八名郡海乘本村小川の回船問屋菅沼定基の養子、
1829知命賀集「五葉松翠集」編(；雅望・京山・森羅万象・卓池らの詩句入)、
[鼠仙(；号)の通称/別号]通称;豊吉/八左衛門、別号;洞壺亭、屋号;為屋、法号;寛翁良仁
一族に鼠林 → 鼠林(そりん・菅沼すがぬま八左衛門、洞壺亭/商家/俳人) K 2 5 5 5
素宣(そせん) → 芭蕉(ばしょう・松尾、俳人) 3 6 1 7
素川(素仙そせん) → 信政(のぶまさ・狩野、絵師) D 3 5 2 8
素璫(そせん;法諱) → 在山(ざいざん;道号・素璫、臨濟僧) G 2 0 7 0
楚仙(そせん) → 応其(おうご・木食上人、真言僧/連歌) 1 4 0 1
素仙(そせん) → 箕山(きざん・藤本、古筆家/俳人) 1 6 1 3

- 蘇仙(そせん) → 秀富(ひでとみ・広岡ひろおか、医者) D 3 7 3 5
 祖泉(そせん) → 祇明(ぎめい・伊藤/伊東、札差/俳人) B 1 6 8 6
 祖禪(そぜん;法諱) → 定山(じょうざん;道号・祖禪、臨濟僧) J 2 2 3 2
 素漸(そぜん;法諱・黙洲) → 黙洲(もくしゅう;道号・素漸、臨濟僧) 4 4 9 4
 祖全(そぜん・大機;道号) → 大機(だいき・祖全、臨濟僧) J 2 6 5 5
 素全(そぜん・山根) → 忠成(ただしげ・山根、藩士/俳人) P 2 6 5 9
 素然(そぜん→そねん) → 通勝(みちかつ・中院/源、廷臣/古典/歌人) 4 1 0 4
 素仙堂(そせんだう) → 素堂(そどう・山口、俳人) 2 5 2 6
 素仙堂(そせんだう) → 大路(たいろ・山口、俳人) L 2 6 3 4
 素仙堂(3世そせんだう) → 藜阜(しんぶ・小田切、幕臣/俳人) P 2 2 7 0
 素暹女(そせんのむすめ) → 胤行女(たねゆきのみすめ・東、歌人) G 2 6 5 0
 蘇叟(そそう) → 直温(なおあつ・丸山、医者) 3 2 6 7
 曾蔵(そぞう・佐野) → 篤老(とくろう・飯田、医/俳人) L 3 1 6 2
 素速斎(そそくさい、喬雲斎) → 東子(とうし・竹塚たけのつか、合巻作者) 3 1 1 4
 素速斎可不速(そそくさいかふそく) → 恒成(つねなり・素速斎、戯作者) C 2 9 9 4
 素速斎恒成(そそくさいつねなり) → 恒成(つねなり・素速斎、戯作者) C 2 9 9 4
- K2503 素大(そだい・村井むらい) ? - ? 江中期羽後八郎瀧辺の大地主、
 俳人:安永1772-81頃五明門/五城目・面瀧の宗匠、1794八郎瀧東浜一向堂に芭蕉塚建立、
 1793「月いつこ」編、「ひるねの月」著、
 [素大(;号)の通称/別号]通称;徳之助、別号;一知/鶯々舎
- K2570 素臺(そだい・野村のむら、名;正碩)?-1846 安藝広島藩医/俳人;和切門?、
 1832三薦「四町集」入、43「やまかつら」入、江左ら「うるふくさ」入、
 [打やつて時雨させけり八百屋物](四町集)
- C2530 楚諾(そたく・大原おはら、名;紹正)?-1779 飛騨の郡代/俳人;老梅の甥、
 1766(明和3)飛騨高山に水音社を創立;宗匠として門人多数を指導、
 1757「鷲尾山紀行」著/70「鳥の跡」編、
 [楚諾(;号)の通称/別号]通称;彦四郎、別号;清流亭/玉垂園、法号;竜沢院
 曾大夫(そだゆう・進藤) → 邦実(くにざね・進藤しんどう、神職/国学) E 1 7 2 6
 素太郎(そたらう・物集) → 高見(たかみ・物集もずめ、神道/国学/教育) Z 2 6 9 2
- D2596 素丹(そたん・加悦かや/桜井)?- ? 戦国安桃期肥後八代の武家;加藤清正の家臣、
 薩摩島津家久家に入出/1575家久上洛に同行/連歌;1575紹巴正叱を招き「何人百韻」張行、
 2日後;肥後の北大炊助行豊興行「朝何百韻」参加/「素丹発句集」編、「女房衣裳次第」受、
 [素丹(;法名)の通称]式部少輔しきぶのしょう
- D2597 鼠弾(そだん;;法諱) ? - ? 尾張名古屋の浄土寺の僧/俳人・蕉門、能楽、
 1689荷兮「あら野」歌仙外25句入、90嵐雪「其岱そのふくろ」入/1693荷兮「曠野後集」;四吟歌仙入、
 1702轍士「花見車」1句入/1708「乍居いながら行脚」入、
 暁台「秋の日」入(;1688芭蕉発句の長虹興行の歌仙参加5句入)、
 [兄弟のいろはあげけり花のとき](あら野;一花/花の時期に幼い兄弟が47文字卒業)
- K2504 素男(そだん) ? - ? 近江大津の俳人;蕉門、
 1691「猿蓑」乙州おとくに送別の梅若菜歌仙に参加;3句入、
 [しとぎ祝ふて下されにけり](猿蓑;五歌仙第四句;地主から祝儀の桑しとぎを頂く)、
 (前句第三;雲雀鳴く小田をだに土持つころなれや/珍碩)
 曾丹(そだん) → 好忠(よしただ・曾禰、廷臣/歌人) 4 7 1 5
 曾丹後(そだんご) → 好忠(よしただ・曾禰、廷臣/歌人) 4 7 1 5
- F2592 帥(そち・規子内親王きしなひしんのうの)?-? 平安前期村上天皇第四皇女規子内親王家女房、
 歌人:972(天禄3)「女四宮(野宮)歌合」(規子内親王家前栽)参加(帥の君名)、
 [たまのををみなへしひとのたゞざらばぬくべきものをあきのしらつゆ](四宮歌合;3)、
 (女郎花の五文字を隠す物名歌/緒・綜へし[縦糸を揃え織機にかけた]・断た・貫くは縁語、
 露の玉を貫く糸を織機にかけた人が切断しなかったらその糸で白露を貫けたのに)
- H2501 帥(そち・美福門院ひふくもんいんの)?- ? 平安中期女房歌人;

鳥羽天皇皇后美福門院得子(藤原長実女)家に出仕、寂超「後葉ごう集」1首(593)入、
[色かへぬ竹のみどりや君が代におなじ常磐ときはのためしなるらん](後葉;593、
異本歌/群書類従本巻第七/寛治元年1087太皇太后宮歌合に)

D2598 帥(そち・談天門院だんてんもんいんの)?-? 鎌倉期;後宇多天皇妃談天門院忠子[1268-1319]家女房、
歌人;続千載1823、

[涙にもなに曇るらん世のうきめ見えぬ山路の秋の夜の月](続千載;雑1823)

D2599 帥(そち・鷹司院たかつかさいんの、藤原光俊[真観]女)?-? 1268存 鎌倉期;女房歌人、
後堀河天皇皇后鷹司院長子[1218-75]に出仕、典侍親子(藤原親子)の姉妹、
歌;1246春日若宮社歌合参加/48宝治百首入、51影供歌合/56基家百首歌合参加、
1265八月十五夜歌合参加、雲葉集入
勅撰21首;続後撰(660)続古今(258/399/525/1652)続拾(599/932/1057)新千(432)以下、
[なにはなる葦の篠屋しのやのしたむせびたてじや煙行くかたもなし](続後撰;恋660)、
(九月十三夜十首歌合に寄煙忍ぶ恋)

帥大伴卿(そちおおともきょう)→ 旅人(たびと・大伴) 2 6 4 7

E2500 楚竹(そちく・竹田たけだ) ? - ? 和泉堺の医者/狂歌・狂文・俳諧・茶を嗜む、
1729「蓮の実」著/49「不断笑」編/50「狂歌文選」60「泥上錦」著、1776樗良「月の夜」1句入
[梅が香や嵐が中のはるの風](俳諧月の夜;115/嵐は春一番か)、
[楚竹(;号)の別号] 瑞昌/問秦庵

疎竹(そちく・高森) → 正因(まさよし・高森、医者/歌人) I 4 0 4 5

疎竹(祖竹/楚竹そちく;法諱)→ 音竺(おんじく;法諱・晴蔭;道号、臨濟僧) D 1 4 4 5

蘇竹(そちく・杉浦) → 義権(よしのり・杉浦せごうら、史家) F 4 7 9 8

疎竹菴(そちくあん) → 青魚(せいぎよ・勝部/勝、医者/儒/俳人) B 2 4 0 1

素竹軒(そちくけん) → 逸志(いっし・木村、俳人) B 1 1 4 3

疎竹清陰(そちくせいん) → 蟻堂(かどろ・山田、儒者/詩) H 1 5 3 5

帥殿(そちどの) → 高明(たかあきら・源、歌人) 2 6 0 7

帥殿(そちどの) → 伊周(これちか・藤原) E 1 9 3 0

帥殿母上(そちどののははうえ)→ 貴子(たかこ、儀同三司母) 2 6 9 9

帥阿闍梨(そちのあじり) → 心覚(しんかく;法諱、天台僧/歌人) 2 2 1 9

帥阿闍梨(そちのあじり) → 日高(にちこう;法諱、帥公、日蓮僧) B 3 3 7 5

帥の君(そちのみき) → 帥(そち・規子内親王、女房歌人) F 2 5 9 2

帥内大臣(そちのないだいじん)→ 伊周(これちか・藤原) E 1 9 3 0

帥大納言(そちのだいなごん) → 経信(つねのぶ・源、廷臣/詩歌人/管絃) 2 9 1 1

帥大納言母(そちのだいなごんのはは)→ 経信母(つねのぶのはは、源国盛女、歌) D 2 9 0 6

帥大夫(そちのだいふ) → 伊経(これつね・世尊寺、廷臣/歌/書家) E 1 9 3 5

帥内大臣(そちのないだいじん)→ 伊周(これちか・藤原、道長と政争) E 1 9 3 0

帥法印(そちのほういん) → 源意(げんい、天台僧/歌人) B 1 8 2 2

帥の宮(そちのみや) → 敦道親王(あつみちしんのう) B 1 0 3 9

帥律師(そちのりっし) → 則祐(そくゆう;法諱、赤松/源、武将/僧/歌) D 2 5 5 9

帥兵衛佐(そちひょうえのすけ)→ 顕仲(あきなか・藤原、歌人) 1 0 0 7

L2523 祖冲(そちゅう;法諱) ? - ? 江前期;上方の僧/歌人、

1670下河辺長流[林葉累塵集]2首入、

[仏たち思はぬ日とてなけれどもわきてこよひぞみなは唱ふる](林葉累塵;冬740仏名)

E2501 祖仲(そちゅう) ? - ? 江中期;近江の生/京に住;妻没後三井寺に出家、
修学勉励;諸国遊歴;駿河庵原郡の心了軒に寓し禅僧;曹洞僧となる、のち駿河島田住;
常に諸国行脚、詩人/酒豪;飲酒しつつ写経、島田の智徳寺に没、稲川「思旧漫録」入

K2505 素中(そちゅう;法諱・号;高誉/見阿)?-? 江中期京の浄土宗極楽寺僧;義山門、
師義山の遺命を受[和語燈録]の講義録を完成/師の[三経講説]聞書をもとに自ら講述、
「和語燈録日講私記」著/1774「円光大師(源空)御伝随聞記」編、「阿弥陀経随聞講録」著、
「観無量寿経随聞講録」「無量寿経随聞講録」著

祖衷(そちゅう;法諱) → 丹續(たんれい;道号・祖衷;法諱、曹洞僧) T 2 6 6 2

- K2506 **祖裔**(素裔そちよう;法諱・絶峰/絶方ぜつぼう;道号、俗姓;大野)?-1502 美濃山県郡福富村の曹洞僧、幼時に出家/諸師に参禅/美濃竜泰寺3祖華叟正尊かそうしょうがく門;嗣法、1469越前竜泉寺住持、1470仁科盛直の招聘で信濃仁科に大沢寺開創、華叟没後は竜泰寺住寺/のち大沢寺に戻る、「華叟禅師行実」著
- K2507 **素兆**(そちゆう;号) ? - ? 江中期尾張名古屋の俳人・也有と親交、1774(安永3「燈下吟」編
- K2508 **素朝**(そちよう;号) ? - ? 江中期肥後熊本の俳人;野坡門、熊本に野坡を迎える、1721(享保6)刊「木之葉桜集」著
- K2509 **素蝶**(そちよう;号・吉永よしなが)?-1752 江中期筑前芦屋の俳人;野坡門、友人の未雷追善集「ぬれ若葉」編刊、没後追善集「松の響集」
- K2510 **素鈞**(そちよう;号) ? - ? 江後期筑前鞍手郡若宮の俳人・湯原東禅寺に芭蕉塚建立、筑瀬行脚中の沂風と交流、1789(寛政元)「俳諧こてふつか」編
- E2561 **素礎**(そちん) ? - ? 江前期俳人、1687一昌「丁卯ていぼう集」入、[駕籠かへて亦あたらしき野分哉](丁卯集/三関;鈴鹿)
- K2511 **祖珍**(そちん;法諱・環巖かいがん;道号)?-? 江後期臨濟僧;黙洲祖漸[1744-88]門/法嗣、1815(文化12)刊「関南集」編
祖陳(そちん;法諱) → 本宗(ほんしゅう;道号・祖陳;初法諱、臨濟僧) F 3 9 3 9
- K2512 **祖通**(そつう;法諱・貫山;道号、俗姓大西) 1737-95⁵⁹ 曹洞僧;大之貫通門/紀伊仏光寺10世、紀伊修善寺13世/養海院6世、1827「仏光禅寺歴住諸師伝讃」
[貫山祖通の号] 木斎/南海波斯/不可得庵主
即休(そつきゅう) → 即休(そつきゅう)
- K2575 **則興**(そつきよう) ? - ? 江前期俳人;1691不角「二葉之松」入(169)
[駕まつぎの木つゝく音に足す落葉](二葉之松;169/前句;気のめる物は黄昏の雨)
- E2502 **塞軒**(そっけん・石王いしおう、名;明誠) 1701-80⁸⁰ 近江水口の儒者;京の三宅尚斎門:敬義学修学、宅門3傑の1、一時伊予大洲藩主加藤家に出仕;老親孝養のため致仕帰郷、1753江戸下向;仙台藩主伊達宗村に孟子を講ず/54徳島藩主蜂須賀家に出仕;致仕、京で開塾、太極図説の研究、「黄裳文集」「語孟経説」「太極図説大意講義」「読書摘講」著、[塞軒(;号)の字/通称/別号]字;康助、通称;安兵衛、別号;黄裳/確廬
- 2525 **息軒**(そっけん・安井やすい、朝衡/衡、滄洲男) 1799-1876⁷⁸ 日向飢肥おひ藩士/日向清武郷の生、儒者;1819大阪の篠崎小竹門/20兄没で帰国/25江戸で古賀侗庵・松崎慊堂門、1825江戸勤番;藩主の侍読、27帰国郷校明教堂で父と指導/31藩校振徳堂助教、1837江戸昌平黌で修学/62昌平黌教授/64小普請入、私塾三計塾を開、藤田東湖と親交、「論語集説」「管子纂詁」「息軒文鈔」「東遊日乗」「酔余漫筆」「海防策」、「息軒先生文集」外多、[息軒(;号)の幼名/字/別号]幼名;順作、字;仲平、別号;足軒/半九陳人/南陽/清滝せいりゅう/葵心子きしんし、法号;息軒半九居士
足軒主人(そっけんしゅじん) → 知亮(ともしげ・茂木もてぎ、歌人) P 3 1 6 0
即空(そっくう) → 日如(にちにょ;法諱・本光院、日蓮僧) D 3 3 0 3
則好(そっこう) → 言水(ごんすい・池西、俳人) 1 9 5 4
率川隠士一粟散人(そっせんいんしちぞくさんじん) → 古道(こどう・村井、医/俳人/地誌) D 1 9 4 1
率川益人(そっせんえきじん) → 古道(こどう・村井、医/俳人/地誌) D 1 9 4 1
率然子(そっぜんし) → 光圀(みつくに・徳川/源、藩主/修史) 4 1 2 5
啐啄斎(そったくさい) → 宗左(5世そうさ・千せん、茶人) K 2 5 7 1
率土の浜風(そつとのはまかぜ) → 句仏(くぶつ・三谷、俳人) D 1 7 3 9
- E2503 **其津彦**(そつひこ・葛城、武内宿禰男)?-? 新羅に遠征した伝説的武将;強弓、記紀万葉中人物:万葉十一2639に強弓の典型として引用されている
率母(そつも) → 許率母(こそつも) F 1 9 7 5
率履(そつり・松川) → 痴堂(ちどう・松川まつかわ、藩儒/詩賦) E 2 8 9 6
袖(そで) → 袖女(そでじよ、俳人) K 2 5 1 5
- K2513 **祖庭**(そてい;法諱・覚云かくうん;道号、俗姓;相庭)?-1818 三河宝飯郡中村の曹洞僧;天周知覚門;出家/下野長林寺の鼎堂豊州門;法嗣/上野小泉の正眼寺入、1787永平寺に瑞世、

1792下野長林寺住持、「長林寺記」「長林伝燈録」著

素貞(そてい、出家号) → 師賢(もろかた・花山院/源、廷臣/歌人) 4 4 3 2
素定(そてい・中山) → 素定(もとさだ・中山なかやま/阿刀、神職/国学) K 4 4 8 3
素庭(そてい・志月庵) → 志月庵素庭(しげつあんそてい、狂歌作者) C 2 1 4 1
蘇亭(そてい・滝) → 松隠(しょういん・滝たき/赤松、儒・医者) G 2 2 8 1
袖香(そでか;俳名) → 澤之丞(さわのじょう・荻野、歌舞伎役者) E 2 0 0 6
袖が浦人(そでがうらひと) → 元徳(もとのり・毛利/大江、藩主/歌人) D 4 4 8 6

E2504 素狄(素イそてき・熊谷くまがい)?- ? 江戸の俳人・嵐雪門、1702轍士「花見車」1句入、
[蚊柱やさて是れほどに風のなき](花見車;80)

K2514 素狄(そてき・伏屋ふせや、吉村正常男)1747-1811⁶⁵ 河内日置荘村生/和泉池田万町の伏屋分家継嗣、
漢方医;堺大阪で開業/蘭方医;橋本宗吉門/尿生成機能の研究、
1802「痘疹美面定」、1803「和蘭医話」「類音小牋」/1805「和蘭医事問答」著、
[素狄(;名)の字/通称/号]字;昌宜、通称;万町権之進/政五郎/権右衛門、
号;琴阪/琴坂/琴坂楼/耕文堂、法号;服峰院

E2505 素迪(そてき・太山亭;号)?- ? 江後期下総成田の俳人;巢兆門、
18128(文化9)刊「あをたつら」編(巢兆序・挿絵)

素イ(そてき) → 素狄(そてき・熊谷、俳人) E 2 5 0 4

E2506 袖子(そで・菊池きくち、号;菊園、菊池安兵衛武教女)1785-1838⁵⁴ 伊豆君沢郡熊坂村の歌人、
儒;父門/国学・歌;1798加藤千蔭門・1805風早実秋門、養子の武恭と結婚;1男3女の母、
長女・長男を相次失う/近子ちかの母、主婦・家事・農作業の合間に詠歌、1838(天保9)病没、
「菊園きくちの集」「続菊園集」「遺穂集」「ちとせ日記」著、
[夕されば帰りや来ると門に立ちて待ち習ひたる我ぞ悲しき](我子を亡くした時の詠)

L2503 衣手子(袖子そでこ・田辺たなべ、)1797-1865⁶⁹ 越後新潟の歌人;玉木勝長かつら門

K2590 袖子(そでこ・春日ちかすが、号;袖浦、春日仲恭)1804-49⁴⁶ 京の歌人/母;岸子/春日潜庵の実姉、
歌人;小沢蘆庵門人某の門

K2515 袖女(そでじよ、名;袖) ?- ? 大阪の妓女/俳人;大魯門、
1776几董「続明烏」2句/樗良「月の夜」1句入、
[とく時の心安さよ笹ちまき](続明烏;甲252/作る時の手間との比較)

素哲(そてつ;法諱) → 明峰(めいほう;道号・素哲、曹洞僧) 4 3 3 4

庵鉄(そてつ・野沢) → 鉄教(かねのり・野沢のざわ、神道家) O 1 5 8 5

蘇鉄庵(そてつあん) → 野坡(やば・志太しだ/斎藤、俳人) 4 5 1 2

蘇鉄庵(4世そてつあん) → 桃隣(6世とうりん・片山、俳人) I 3 1 3 9

蘇鉄林(そてつりん) → 千春(ちはる・望月もちづき/大原、俳人) F 2 8 1 7

袖彦(そでひこ・茶呑斎) → 万歳楼袖彦(まんざいろうそでひこ、靈験談作家) K 4 0 5 5

蘇天(そてん) → 諸九尼(しよきゅうに、もろくに、俳人) C 2 2 2 9

E2507 祖田(そでん・陳ちん、月海常祐男?)?-1514(80歳頃没) 14ctに元より渡来の医者陳順祖(延祐)の裔、
宗寿の孫/室町期の医者;陳家4世;代々外郎(うらう)を名乗る、足利義尚・伊勢貞宗に接近、
硫黄使節/遣明船の正使、自邸;杏林亭、参禅;龍室玄珠門/詩歌人、1498歌会張行、連歌会催、
1486頃「杏林亭詩序大軸」編(天隠龍沢・季弘大叔・亀泉集証らの詩入)、
宇野定治(小田原外郎の祖)・友蘭の父、[祖田の字]有年

素伝(そでん;法号) → 常縁(じょうえん・つねより・東とう、武将/歌人) S 2 2 0 1

素点斎(そでんさい・高木) → 貞武(さだたけ・高木たかぎ、絵師) F 2 0 3 1

E2508 素桐(そとう) ?- ? 江戸住雑俳点判者、1702松淵「冠独歩行かんわりひとりあるき」入

K2516 素濤(そとう) ?- ? 伊勢の俳人;1776樗良「月の夜」1句入、
[木こづたひや板椽えぬるゝはるの雨](月の夜;100)

K2569 素濤(そとう) ?- ? 安藝呉の俳人;1825篤老「厳島奉納集三編」入
[元日やおよそ日のもとひとつ風](「厳島奉納集三編」)

素東(そとう) → 一叟(いっそう・鈴木/飛鳥園4世、俳人) B 1 1 5 7

素当(そとう・本間) → 素当(もとまさ・本間、国学/歌人) 4 4 2 2

素桃(そとう・水谷) → 民彦(たみひこ・水谷/日比野、商家/国学) S 2 6 2 8

- 祖韜(そどう;法諱) → 暹明(せんみょう;道号・祖韜、曹洞僧) N 2 4 7 5
- B2563 祖道(そどう;道号・宗心(そうしん);法諱) 1638-83 46 越後の人/播磨臨濟宗竜門寺の盤珪永琢(よくだく)門、のち加賀の曹洞宗大乘寺の月舟宗胡門;嗣法、美濃宝鏡寺入/撰津興禪寺住持
- 2526 素堂(そどう;初世(そどう)・山口、名;信章、市右衛門男) 1642-1716 75 甲斐北巨摩郡郷土/甲府魚町で酒造業、家業を継承;20歳頃家督を弟に譲渡/江戸で漢学;林春斎門、京住;歌;清水谷家門、書;持明院家門、儒/算学を以て仕官;1679致仕、上野不忍池畔隠棲;1685頃葛飾安宅に移住、隠逸閑雅の生活;詩・茶・能を嗜む、俳諧;談林/芭蕉と親交、1691深川六間堀に移住、1696懇請され甲府濁川治水工事に従事、1676桃青「江戸両吟集」(芭蕉と両吟)入、「とくとくの句合」編(没後刊)、「来雪独吟一時百韻」「三十六番句合」編、1687「蓑虫の説」著、1676言水「江戸新道」入、85風瀑「一楼賦」入、「素堂家集」(門弟子光編)、「松の奥」(;偽書?)、[目には青葉山郭公初鱈](江戸新道入)、[いつか花に茶の羽織檜木笠みん](一楼賦;蕉桃青旅に有るを思ふ)、[素堂の幼名/字/通称/別号]幼名;重五郎、字;子晋/公商/子達、通称;勘兵衛/市右衛門、別号;[俳号]来雪・松子・素仙堂・蓮池翁、[茶号]今日庵・其日庵(のち葛飾蕉門の号)、法号;広山院、
- E2509 蔬洞(そどう) ? - ? 医者、狂歌;月洞軒門
- E2510 素道(そどう・五五斎;号) ? - ? 江中期俳人;乙由門、1759(宝暦9)「麦林集後篇」編
- K2517 素堂(3世(そどう)・佐々木(ささき)、名;忠久) ?-? 江戸中期江戸の俳人;2世素堂門、1777(安永8)「連俳睦百韻」編、[3世素堂(;号)の字/別号]字;仲祐、別号;一徳/来雪庵3世
- K2518 祖道(そどう) ? - ? 江中期京の曹洞宗円通閣主、1786「法服正儀図会略釈」編
- K2519 素堂(そどう・鳴滝(なるたき)、益) 1761-1835 75 和歌山の儒者、「漂民筆録」
- E2511 素堂(そどう・中野(なかの)、名;正興、正明の長男) 1765-1829 65 伊勢飯南郡神山村の儒者、江戸の山本北山門、詩人、1819津阪東陽の紹介で津藩国老藤堂高芬に儒員として出仕、大窪詩仏・菊池五山と交流、1792「晴霞亭遺稿」編、「尊孟後弁」「素堂集」「仙人戯説」著、[素堂(;号)の字/諡号]字;子興/善祐、諡号;貞靖先生
- K2520 素堂(そどう・堀内(ほりうち)、名;寛/忠寛、忠明[林哲]男) 1801-54 54 代々羽前米沢藩医;1811父没/家督嗣/儒;神保蘭室門、医学;高橋玄勝門、1820江戸詰/西洋医学;杉田立卿門、青地林宗門、儒学;古賀穀堂門、1822帰藩;藩主上杉斉定の側医;江戸随従、1843日本最初の西洋小児科医書を和訳、米沢藩医校好生堂で西洋医学の講義を進言、詩文・国学・俳諧も嗜む、一時高野長英を匿う、1839「幼々精義」44「医理学源」訳、「名称義略」編/「医理学論」「気論」「保嬰輯要」「鶴城世説」著、[素堂(;号)の幼名/字/通称/別号]幼名;忠公、字;君栗/忠竜/忠亮、通称;忠蔵、別号;香雨/花仙小史、法号;花仙院
- K2521 素堂(そどう・森田(もりた)、名;莊、字;子敬) ?-? 1843前没 医者森田義章の養嗣子/妻;義章女、京の医者;義章の学を継承、詩文を嗜む、養父に先立ち没、没後1851刊「素堂遺稿」、
- K2522 蘇堂(そどう・原田(はらだ)、名;韶、復初の長男) 1803-28 早世 26 肥前佐賀の儒者;父門;家学を受ける、1818藩校弘道館入、1824訓導;早世、「蘇堂遺稿」あり、[蘇堂(;号)の字/通称]字;舜琴、通称;政一郎/元一郎/一郎太夫
- K2523 素堂(そどう・古賀(こが)、本姓;劉、名;坤、穀堂2男) 1811-58 48 肥前佐賀の儒者;中村嘉田門、江戸の昌平黌に修学、帰国後佐賀藩校弘道館の教官、「西帰南泛再東稿」著、[素堂(;号)の字/通称/別号]字;元載、通称;大一/大一郎、別号;若臯/恒軒
- K2524 素堂(そどう・山本(やまもと)、名;信孝、緑陰2男) ?-1866 江戸下谷金杉大塚の儒者/絵師、学半の弟、山本北山の孫、「論語抄」著、[素堂(;号)の字/通称/別号]字;天経/天桂、通称;卯之助/宇之助、別号;皎々斎、法号;対桂軒玉応皎々素堂居士
- K2525 素堂(そどう・服部(はっとり)、名;誠、宮崎芳春[芳香]男) 1816-76 61 越後頸城郡三和村の生、1836頸城郡下保倉村の農業服部千蔵の養子/読書家、儒詩;安積良斎門/詩文・筆札に長ず、長沼流兵法を修得、寺子屋を開設;子弟教育、道路開鑿にも尽力、「郷里訓蒙篇」著、

「村少俗論」「村里少年訓」「婆心子姪訓」「山斎雑話」「積善余慶録」「族訟拙論」著、
[素堂(；号)の字/通称]字；誠之、通称；久太夫/久太郎

K2526 **素堂**(そどう・本城ほんじょう、斐、江村忠韶[裏山]男) 1825-65 処刑 41 周防徳山藩儒、
本城太華(母方叔父)の養嗣子、儒；父門/安積良斎門、1854藩校訓導/63教授、
勤王派；尊王思想/佐幕派から免職/1865処刑、
1864「浜浦集」、「鳥獣虫魚取法」著、江村厚あつしの兄、
[素堂の字/通称] 字；仲章、通称；清

参考 弟 → 厚(あつし・江村えむら、藩士/勤王/斬首) B 1 0 3 0
素堂(そどう・久我) → 建通(たけみち・久我がが/一条、廷臣/歌) E 2 6 5 3
素堂(そどう・森) → 高雅(たかまさ・森もり、絵師) N 2 6 2 0
素堂(そどう・井上) → 夏鼎(ひろさだ・井上いのうえ、商家/歌人) L 3 7 0 8
素堂(そどう・川辺) → 御楯(みたて・川辺かわべ/古賀、藩士/絵師) I 4 1 7 2
素堂(そどう・河合) → 良臣(よしおみ・河合かわい、家老) M 4 7 3 3
素道(そどう；法名) → 行氏(ゆきうじ・東とう/平、武将/歌人) E 4 6 3 1
素道(そどう・鈴木) → 黄軒(おうけん・鈴木すずき、藩士/武道) C 1 4 3 8
祖道(そどう；道号) → 穩彦(おんたつ；法諱・祖道、曹洞僧) D 1 4 4 7
祖堂(そどう・水野) → 重孟(しげたけ・水野みずの、藩士) R 2 1 2 7
蘇道(そどう・村井) → 昌弘(まさひろ・村井むらい、兵学・測量家) G 4 0 9 4
蘇道(そどう・近藤) → 潜庵(せんあん・近藤/太田、儒者/医者) L 2 4 5 6
素湯庵(そとうあん) → 左簾(初世させん・笠家/三浦、妓楼主人/俳人) E 2 0 0 5
蘇道子(そどうし) → 昌弘(まさひろ・村井むらい、兵学・測量家) G 4 0 9 4
外衛(そとえ・田中) → 猛之(たけゆき・田中たなか/山村、藩士/国学) X 2 6 8 7
衣通王(そとりのみこ) → 軽太郎女(かるのおおいらつめ) 1 5 5 8

E2512 **衣通郎姫**(そとおりひめ・そとおしのいらつめ、弟姫おとひめ) ?-? 記紀歌謡詠者、
容姿絶妙でその艶色が衣を通して輝いたという(日本書紀)、
允恭天皇に寵愛され藤原宮住/姉の皇后大中姫の嫉妬を恐れ河内の茅渟に移住、
和歌の浦玉津島社祭神の1で和歌三神の一柱、
歌；古今1110(墨滅歌卷14/詞書；衣通姫の独り居て帝を恋ひ奉りて)、
[わが背子が来くべきよひ也さゝがにの蜘蛛の振舞ひかねてしるしも](古今；1110)

☆古事記・万葉集の允恭天皇皇女軽太郎女も衣通姫と称されるが別人、
衣通郎姫(そとおりひめ・そとおしのいらつめ) → 軽太郎女(かるのおおいらつめ) 1 5 5 8
外三郎(そとさぶろう・大野木) → 克正(かつまさ・大野木おおのぎ、藩士/国学) T 1 5 9 4
外之助(そとのすけ・後藤/土屋) → 知虎(ともとら・土屋/後藤、藩士/詩) P 3 1 9 6
外弘(そとひろ・内部) → 寛郷(ひろさと・内部うちべ、国学者) I 3 7 6 3
素鈍(そどん) → 義敬(ぎけい；法諱、天台僧/歌人) U 1 6 0 8

K2527 **楚南**(そなん・大久保おおくぼ、名；忠洪、忠宣[有隣]嫡男) ?-1840 相模小田原藩家老；父を継嗣、
藩主大久保忠真に出仕；1822藩校集成館設立；総裁に就任/文武を総監、
俳人；倉田葛三門/西相模の重鎮、詩歌も嗜む、1825「俳諧秘書」32「函山紀行」著、
[楚南(；号)の別号] 玄亭/長松観2世、法号；寂然院

楚南(そなん・大西) → 椿年(ちんねん・大西、絵師) K 2 8 9 5

K2528 **素鳩坊**(そにゅうぼう、田丸屋惣平) 1724-95 72 美濃岐阜の商家/俳人；五竹坊(帰童仙)門、
家督を譲渡/俳諧に専念；門人指導、寒松館連中・真柴庵連中の2社あり、以哉坊と交流、
1781「夏供養」編/88「山の眠」編、

[素鳩坊(；号)の通称/別号]通称；田丸屋惣平、別号；寒松館/真柴庵

祖仁(そにん；法諱) → 逸山(いづざん；道号・祖仁、臨濟僧) D 1 1 7 5
楚忍(そにん；初法諱) → 祖常(そじょう；道号・楚岷；法諱、臨濟僧) J 2 5 9 1
素寧(そねい・小野田) → 素寧(もとやす・小野田おのだ/雲井、医/詩歌/画) J 4 4 4 9
素然(そねん；法名) → 通勝(みちかつ・中院/源、廷臣/古典/歌人) 4 1 0 4
素然坊(そねんぼう) → 帰奇(きき・橋本はしもと、茶道/俳人) J 1 6 9 1

L2538 **楚濃**(曾濃その・北村きたむら、) ?- ? 江中期；北村孝甫こうほの妻、歌人；宮川松堅門、

1722松堅[倭譚五十人一首]/顛糺[同追加]3首入(夫と共に入/娘以波いも[追加]入集)、
[今宵はやいざよふ月とながめけり身のふけ行くをしらぬはかなさ](五十人一首;36、
不知夜月/十六夜に はやくも月の出が遅いと思う;我身の老いの早まるのを忘れて)
[庭もせの月の光しかはらねば今宵はこゝも広沢の池](同追加/八月十五夜)

- L2539 曾野(その・神田かんだ) ? - ? 江中期;廷臣官吏の神田祐世(1688-1748)の妻、
歌人;宮川松堅門(夫と共に)、1722松堅[倭譚五十人一首]夫と共に入、京住、
[夕日さす門田かんだのほなみ色見えで露うちはらふ秋風の音](五十人一首;42秋田)
- K2529 その ? - ? 俳人;春夜楼連、1776几董「続明鳥」2句入、
[たらちねを夫婦めとと見るや星祭](続明鳥;秋392)
(子供は牽牛織姫の話聞き初めて両親が結ばれた男女だと知る)
その → 園女(そのめ・秦) 2 5 2 7
園(その・小柴/織本) → 花嬌(かきょう・織本おりもと、砂明妻/俳人) J 1 5 3 4
- E2513 祖能(そのう・和田わだ) 1748 - ? 1830存 近江滋賀郡の国学者;西洞院時名・烏丸光祖門、
大坂平野町中橋住/歌人、1798「新勅撰和歌集鈔」「和歌難波津」、1830「源氏大意」著
[祖能(;名)の通称/号]通称;藤吉、号;弄花軒、屋号;近江屋
楚濃(そのう・北村) → 楚濃(その・北村きたむら、歌人) L 2 5 3 8
菌右衛門(そのえもん・小野/田辺屋) → 諸雄(もろお・小野おの、伊勢屋/歌) J 4 4 4 8
- L2507 園夫(そのお・中村なかむら、通称;円蔵) 1839-1911 73 遠江榛原郡青柳村の醤油醸造業、国学者、
円一郎(1867-1945/実業・銀行家/議員)の父
園蝴蝶(そのこちょう) → 園蝴蝶(そのこちょう、狂歌) E 2 5 1 6
- E2514 園二(そのじ・津打つうつ/つうち) ?- ? 江中期江戸の歌舞伎作者;2世津打治兵衛門、
宝暦1751-64頃江戸森田座・市村座で活躍/1758津打園二に改名、2世中村清三郎の助手、
浄瑠璃・長唄の作詞もする、1751「祐経扇系図」53「淡嶋栄花聳」58「思ひの家名所」、
1758「赤沢源氏山」(文輔と合作)、58「錦木栄小町」著、
[津打園二(;号)の別号]別号:津打陽助(;初号)/津打京助
園治(2世そのじ・木村) → 治助(4世じすけ・桜田、歌舞伎作者) U 2 1 0 2
其二(そのじ・津打) → 与三兵衛(初世よそべえ・鈍通、歌舞伎作者) I 4 7 1 3
園女(そのじよ・斯波) → 園女(そのめ/そのじよ・斯波/秦、俳人/歌) 2 5 2 7
園女(そのじよ・寛連舎) → 園女(そのめ・鶴見、俳人) K 2 5 3 0
園女(そのじよ・憑蔭舎) → 園女(そのめ・齊藤、俳人) K 2 5 3 1
園田長官(そのだちようかん、伊勢内宮禰宜) → 守武(もりやけ・荒木田、連歌/俳諧) 4 4 2 7
祖之太郎(そのたろう・井口) → 榴荘(りゅうそう・井口いぐち、大庄屋/教育) F 4 9 0 4
- E2515 園臣生羽之女(苑臣-そののおみいくはのむすめ、三方沙弥みかたのさみの妻) ?-? 万葉二期歌人;
卷二124:夫の沙弥が病の時の贈答(123/125は三方沙弥の歌)、
卷六1027(豊島采女の作;左注の或本説では夫を恋う苑臣作)、
[人皆は今長しとたけと言へど君が見し髪乱れたりとも](万葉;二124;娘子おとめ名)
(人はみんな私の髪が長いとか結べとか言いますが、あなたをご覧になった髪は
乱れても髪型を改めません;貞節の証)
- E2516 園蝴蝶(そのゝ小蝶そのこちょう、本名:津田四郎左衛門) ?-? 江戸市ヶ谷河田窪の狂歌作者・スキ連、
1785「徳和歌後万載集」1首/1787「狂歌才蔵集」4首入;
[夏物のみせを開くかほととぎすてつぺん掛値かねなしの一声](才蔵集;三118)
- L2543 園の別当入道(そののべつとうにゅうどう) ?-? 鎌倉期;四条流の料理家;包丁者、
徒然草231段;無双の包丁者で百日の鯉の逸話と北山太政大臣の批評談入、
☆園の別当入道とは;園基氏(1212-82)説とその孫の園基藤(1274-1316)説あり
→ 基氏(もとじ・園その/藤原、廷臣/歌人) C 4 4 1 4
→ 基藤(もとぶじ・園その、廷臣/権中納言) M 4 4 2 1
園御堂(そののみどう) → 行清(ぎょうしゅう;法諱、社僧/歌人) C 1 6 6 4
- E2517 園村竹(そののむらたけ、本名;多田敏包としかね) 1743-1824 82 江戸青山久保町の青物商、詩歌/狂歌師、
菅江かんこう側判者;奇行が多い、1795「狂歌三十六歌仙」編、才蔵集2首入;
[都鳥ところの人はかもめにてそれなりけりに先づすみだ川](才蔵集;十二505)

[詩も歌も達者な内に読んでおけ迎とても辞世は出来ぬ死にぎは] (辞世)、
[園村竹(；号)の通称/別号]通称:尾張屋千次郎、別号;菁莪堂/窓村竹まどのむらたけ/売菜翁、
2世芬陀利華庵ふんだりけあん

其筈琴成(そのはずのことなり)→ 琴成(ことなり・其筈そのはずの、狂歌) D 1 9 4 6

E2518 菌八(初世そのはち・宮古路みやこじ)?-? 浄瑠璃太夫・豊後掾門、菌八節の祖、春富士正伝の師

E2519 菌八(2世そのはち・宮古路)? - 1785 浄瑠璃太夫:初世門、宮菌節祖、
1766改名鸞鳳軒、浄瑠璃作詩/曲:63「宮菌集都大全」73「宮菌鸚鵡石」77「宮菌新曲集」編
[二世宮古路菌八(；号)の別号]宮菌豊前/鸞鳳軒/木岡光義、平呉
菌八(3世そのはち・宮古路)→ 正伝(しょうでん・春富士はるふじ、浄瑠璃) R 2 2 5 1

E2520 園人(そのひと・藤原、前山科大臣、楓麿男)756-81863 平安前期廷臣;806参議/宮内卿、
807山陽道觀察使、東宮傳/810大納言/812右大臣/従二位、

815(弘仁6)「新撰姓氏録しんせんしやうじろく」共編(万多親王/藤原緒嗣らと/氏族系譜集成書)

E2521 園麿(そのまる・長谷川はせがわ)?- ? 大阪浪花の俳人、
1751春耕「あふ夜」/57律中「耳勝手」入

E2522 園丸(そのまる・桃源亭) ? - ? 狂歌、1815雅望「飲食狂歌合」入

2527 園女(そのめ/そのじよ・斯波しば/秦はた/二本楯はほんすぢ、秦師貞女)1664-172663 伊勢山田の神官家の生、
医者で俳人の斯波一有[渭川]の妻、俳人;1688芭蕉門、92夫と大阪住、雑俳点者で活動、
1694芭蕉招き九吟歌仙、1703夫一有没;05其角を頼り江戸深川富ヶ岡住:眼科医(夫の業)、
1718剃髪、晩年は詠歌;伊勢神宮奉納、奇行の説話あり;袖下紅絹を切り下駄の鼻緒など、
1701「鳥おどし」1703「うき世笠」「友ちから」/1706「菊の塵」編、22「大神宮奉納千首和歌」、
1723「鶴の杖」、「きね川のこと葉」外、

[春の野に心ある人の素顔かな](あら野/内面の美は顔に顕れる)、

[おうた子に髪なぶらるゝ暑さ哉](陸奥衛むつちどり/赤子を背負い働く夏の暑さの実感)

芭蕉を追悼[寒さうな笠さへみれば涙かな]、

晩年は歌人;辞世[秋の月春の曙見し空は夢か現かなむあみだ仏]

[園女(；名)の号] 智鏡(；剃髪号)、法号;林香院、

夫一有[渭川] → 一有(いちゆう・斯波、渭川、眼科医/俳) B 1 1 2 6

K2530 園女(そのめ/そのじよ・鶴見つるみ、3世一漁女、4世一漁の妻)?-? 江戸俳人;湖十門、1794「俳諧百千鳥」編、
1778「安永七年歳旦」/「安永九年歳旦」編

[鶴見園女の別号] 寛連舎/蓬萊軒/推敲庵、花十/台天/提窓

K2531 園女(そのめ/そのじよ;号・齊藤さいとう、憑蔭舎、齊藤安兵衛女)1781-186888 父は下総大穴村名主、
俳人:成美門、のち鳳朗門/松什門、「憑蔭集」著

園女(そのめ) → 園女(そのめ・秦、俳人) 2 5 2 7

蘇椽(そばい・佐原) → 豊山(ほうざん・佐原さわら、儒者/欧州視察) B 3 9 1 6

K2532 素白(そはく・荒木あき、名;光辰)1600-8586 江初期書家;烏丸光広門、光広に出仕/致仕、
京の靈隠寺に参禅;一糸文守門;虚空素白と名乗る、書家;藤木敦直門;上代様を研究、
伝道風の本阿弥切書風に心酔;素白流を創始、渡辺素元そげんの師、

[素白(；号)の通称/法号]通称;三次/内膳、法号;虚空素白

光辰(こうたつ・荒木) → 素白(そはく・荒木あき、書家) K 2 5 3 2

K2533 祖白(そはく・里村さとむら、名;景則、里村南家初代昌琢男)1615-7965 連歌師;分家昌俔の家督継嗣、
撰津住吉住/撰津天王寺に移住/のち京に帰る、大坂・堺などの上層町人に連歌を指導、
昌隠の父、「残塵抄」「仙宮連歌」「祖白発句帳」「祖白独吟追悼百韻」著、
その外百韻多数;1637昌俔と「懐旧百韻」/53利弘と百韻/71昌程と「何人百韻」など、
[祖白(；号)の別号]昌通(；初号)/士林庵/驚翁

E2523 素白(そはく・法然寺) ? - ? 俳人・西武門、1657西武「沙金袋」312句入

K2534 素柏(そはく・宮井みやい)1764 - 181653 相模浦賀の俳人:蓼太門、1790「此うらふね」編、
[素柏(；号)の通称/別号]通称;与右衛門、別号;陽鳥楼ようりゅう

K2535 素白(そはく・北川きたがわ、名;寛/通称;金五郎)?-1834 安藝広島藩士;徒行/学問所見習/勘定所詰、
のち書翰方列、俳人;篤老・凡十と交流、1804「歳旦」23「素白手抄」、1826「篤老追善」編/序文、
「埋火辞」「忘ふくろ」「竹婦人をつくりて春平に送る辞」著、1832三蔦「四町集」入、

1840「老梅園筆記」著、
[小襖の箔の日影や梅かほる]（「四町集」）

素柏（そはく・向井） → 元升（玄松げんしょう・向井、医者/本草） C 1 8 2 2

楚璞（そはく・卜部） → 順永（じゅんえい；法諱、真宗大谷派僧/俳人） L 2 1 2 3

E2524 鼠麦（そばく） ? - ? 俳人・鳥酔門、1757鳥酔「夏炉一路」入

E2525 素槩（そはく・藤森ふじもり、名；由水、島屋理兵衛男） 1758-1821 64 信濃諏訪の油問屋；父の業を継嗣、
俳；諏訪の藤森文輔門/名古屋の暁台・士朗門、藩主諏訪忠恕に俳諧を指導/俳画に長ず、
曾良を敬慕、生涯諏訪を出ず[諏訪の俳関はいかん]と称さる、晩年俳諧のため家産傾く、
1795「草枕」「みさ山」編/1806「鶯宿梅」07「続雪まろげ」「ももの手草」10「続草枕集」編、
1816「長月集」「誹諧新田集」編、「素槩句集」外多数、追善集；「ひなはうご」（若人・文燭編）、
[畑打はたうちの霞むもしらで霞みけり]（素槩句集/霞の中に黙々と畑を打つ人の姿）、
[素槩（；号）の字/通称/別号]字：茂世、通称；島屋太郎右衛門、
別号；素麦/福菴ふくあん（；剃髮号）/森之屋

素白道人（そはくさんじん） → 良斎（りょうさい・小泉こいずみ、儒者/詩人） H 4 9 6 5

曾八（そはち/そはち・前川） → 正遠（まさとお・前川まえかわ、藩士/文筆家） E 4 0 2 8

曾八（そはち/そはち・児島） → 八尋（やひろ・児島こじま、国学者） F 4 5 9 0

K2536 素範（そはん；号） ? - 1785（70余歳） 備前の僧；初め真言宗長谷寺入/融通念仏に転ず、
隆天門、觀山・玄嶺・円応らの諸師と交流、大和平群郡觀音寺住、「融通縁起綱要鈔」著、
1735「仏頂尊勝陀羅尼經新註」73「聖応大師号私記」、「円門再集註」「六字名号章」著、
[素範（；号）の別号/法諱]別号；祥慶院、法諱；義宝

祖範（そはん・田代） → 三喜（三帰さんき・田代、医者；李朱医学） L 2 0 9 5

素播（そばん・山鹿） → 素行（そこう・山鹿やまが、儒/軍学者） 2 5 2 2

E2526 素輦女（そひんじょ） ? - ? 近江膳所蕉門女流俳人、
1694其角「枯尾花」入、「名家句集」、[打ちこけて指貫氷る泪かな]（枯尾花）、
膳所の他の女流俳人；万里女（まりじょ）・扇女（おうぎじょ）

E2527 祖符（そふ；号） ? - ? 江中期伊勢の俳人；雑俳、
1700-1「二重袋」笠付入（；五柳らと）

祖部右衛門（そぶえもん・林/永田） → 知章（ともあき・永田/林、藩士/郷土史） P 3 1 0 9

F2508 素風（そふう・高山たかやま） ? - ? 江前期上方の俳人

1682春林「俳諧百人一句難波色紙」入、
[真魚箸まなばしや花に竿さす桜鯛]（難波色紙；73/真魚箸；料理に魚肉を押える鉄製の箸、
夫木抄；西園寺入道前太政大臣公経；春2053；光台院入道二品[道助法親王]家五十首、
散りかかる山吹の瀬に行く春の花に棹さす宇治の川長かはをさ）

E2529 素風（そふう・鷹野たかの、名；知雄） ?-? 江中期俳人；葛飾派素丸門、
1763（宝暦13）刊「愚痴問答」編（師素丸に質問し得た俳諧作法など編纂）、
[素風（；号）の通称/別号]通称；喜右衛門、別号；日夜庵

素風（そふう；号） → 恵庵（えりゅう；法諱、真宗僧） T 1 3 9 6

素封堂（そふうどう/そほうどう） → 徳右衛門（とくえもん・秋田屋/浅井、書肆） K 3 1 4 8

素風簾（そふうれん） → 鍋盛（かせい・下郷しもさと、商家/俳人） M 1 5 6 2

E2530 鼠腹（そぶく；号） ? - ? 1776存? 江中期俳人、1762「俳諧無門関」序・評、
1776刊蓼太述「棚さがし」記録、[鼠腹の別号]白潜居士/愚得坊

B2532 素文（そぶん） ? - ? 俳人、1783維駒「五車反古」1句入、
[傘からかさに相違あらざる十夜じふや哉]（五車反古；冬420/時雨時期の浄土宗の十夜参り）

素分（そぶん） → 也有（やゆう・横井、藩士/俳人/詩歌） 4 5 1 7

E2531 匏文（そぶん・鶴川うかわ、名；政明） ?-? 下野生・京住の俳人、天明1781-98頃御所方に勤務、
蓼太と交流/季語の考証、1783（天明3）「華実年浪草」、「明和道乃記」「三余抄俗解」著、
[匏文（；字）の号]建溪/三余斎/油幕庵ゆばくあん/木雁子

E2532 曾平（そへい、麦袴園；号） ? - 1740? 加賀金沢の俳人；麦林門、1740「曾平句集」著、
1740（元文5）句集「追川おいかわ」著（連句数巻・発句269章を友人半睡が編纂・序）

曾昂（そへい・林りん） → 愿元（いんげん・隆琦、日本黄檗宗祖） C 1 1 0 3

- 曾平(そへい・丁字屋) → 茶雷(ちやらい・鹿嶋、俳人) F 2 8 6 1
 曾平(そへい・木崎) → 典清(のりきよ・木崎さざき、名主/国学) I 3 5 0 8
 素平(そへい・渡辺) → 素元(そげん・渡辺わたなべ、書家) J 2 5 6 2
 素平(そへい/もとひら?・小山/関) → 勝之(かつゆき・関せき、藩士/儒者) N 1 5 9 4
 素平(そへい/もとひら?・古川) → 躬行(みつら/みゆき・古川ふるかわ、国学/神職) F 4 1 2 7
 楚平(そへい・高戸) → 安貞(やすさだ・高戸たかと/守屋、醸造/歌) B 4 5 4 5
- E2533 曾平次(素平次そへいじ・沢村さわむら) ?-? 上方歌舞伎作者、
 姉川新四郎座;1741「源氏六十帖」番付
- 蘇平次(そへいじ・江藤) → 正澄(まさずみ・江藤/上野、藩士/国学) D 4 0 1 0
 租兵衛(そへえ・依田) → 珍胤(よしたね・依田よだ、宿脇本陣/国学) P 4 7 9 5
 曾兵衛(そべえ・木崎) → 典清(のりきよ・木崎さざき、名主/国学) I 3 5 0 8
 曾部右衛門(そべえもん・奥村) → 保之(やすゆき・奥村おくむら、藩士/文筆) D 4 5 3 7
 そへ子(そへこ・竹内) → そへ子(楚恵子そへこ・竹内、歌人) J 2 5 3 2
- K2538 祖峰(そほう;法諱・一間いちけん;道号) ?-? 1672存 下総曹洞宗総寧寺23世/1672相模最乗寺住持、
 1668月洲尊海・大了愚門らと「掟」(師家及び遍歴徒・住持僧の衣類などの掟)提出、
 「祖峰代」著
- K2539 祖芳(そほう;法諱・梅聞ばいもん;道号、俗姓;大神) ?-1778 豊後直入郡十川村の曹洞僧;
 幼時豊後英雄寺の量外教門;出家/英雄寺5世覚翁達玄門;嗣法、のち英雄寺6世、
 豊後泉福寺転住/退隠後英雄寺に戻り在住30余年、豊後に東巖寺・南光寺を開山、
 晩年は英雄寺の側に雖小庵を設け退院;没、「英雄寺創記」/1765「永祖明祖二影新刻記」、
 1765「泉福禅寺諸堂重建記」/1771「泉福寺重宝由来記」「泉福禅寺諸堂造営等雑記」著
- K2563 祖芳(そほう;道号・聯山れんざん;法諱、俗姓;清水) 1775-1847 若狭宮川の曹洞僧;
 同国発心寺の楞州りょうじゅう門;出家、諸師に参禅/長崎皓台寺の漢三道一門、
 1804若狭発心寺に帰り伽藍修復尽力/1815丹波綾部藩主九鬼隆貞招聘で丹波心月寺住持、
 1836長崎皓台寺住持;同寺に没、「野偈集」「正法山六祖伝考」「聯山祖芳禅師語録」著、
 [祖芳聯山の号]号;慈雲室、なお祖芳;法諱・聯山;道号の説あり
- 祖芳(そほう;法諱) → 草山(そうざん;道号・祖芳;法諱、臨濟僧) H 2 5 4 5
 祖方(そほう・青木) → 樹堂(じゅどう・青木あおき、禅僧/漢学/詩) 2 1 7 5
 素封堂(そほうどう) → 徳右衛門(とくえもん・秋田屋/浅井、書肆) K 3 1 4 8
- K2540 素朴(そぼく・小山こやま、名;幹貞みきさだ) 1661-1739 羽後能代檜山城代の家臣、検地方・与頭役歴任、
 漢学・詩歌に長ず、「素朴詠草」著、
 [素朴(;号)の通称/法号]通称;弥惣右衛門/久右衛門、法号;朴翁素信居士
- E2534 曾北(そぼく・世木[せぎ?]/本姓;秦、名;邦光、権右衛門男) 1680-1743 伊勢の俳人:涼菟門、
 神風館4世を継嗣、生涯独身で漂泊の生活;晩年門人達が一庵を設け住まわせる、
 1742「なみのはな」48「杉の門」、「七五月雨」「みつのさき」著
 [曾北(;号)の通称/別号]通称;権右衛門、別号;不断斎/神風館4世
- C2524 祖木(ぞぼく・山脇、名;道悦) 1807-78 安藝広島胡町の医者、俳人;土方門;六呂堂2世継承、
 [目の先へ置くに見飽かず福寿草](1855「やまかつら」入)
- 添水園(そぼつその) → 本孝(もとたか・田中たなか、商家/歌人) C 4 4 8 6
- E2535 曾米(そまい;号、別号;考越) ?- ? 大阪の外科医?/1697(元禄10)頃長崎移住、
 俳人;諷竹門/長崎滞在の去来の紹介で野坡門、1701(元禄14)「はだか麦」編:歌仙入
- 柚咲斎(そましようさい) → 紹完(しょうかん・木山きやま/源、社僧/連歌作者) H 2 2 8 2
 柚次郎(そまじろう・松平) → 久長(ひさなが・松平まつだいら、藩士/記録) B 3 7 6 6
 柚入斎(そまにゅうさい) → 紹宅(しょうたく・木山/源、城主/連歌作者) K 2 2 7 4
- 2528 楚満人(そまひと・南仙笑なんせんしょう、姓;南/楠) 1749-1807 江戸芝宇田川町の書肆?;医者・翰師説、
 戯作者:1783「敵討三味線由来」「頼朝一代記」/84「文覚一代記」93「文覚勸進帳」、
 1795(寛政7)「敵討義女英」;敵討物黄表紙流行の契機となる、1804「敵討蘭菊物語」、
 1806「敵討鶯酒屋」「敵討姥捨山」/07「敵討吉野竜田」/没後1808刊「柚物語仙家花」、外著多、
 [南仙笑楚満人(;号)の通称/別号]通称;彦太郎、
 別号:南柚笑楚満人/志筍斎/柚人そまひと/曾満人/南楚/猷仙人楚間人、法号;只受楽翁居士

楚満人(2世そまひと・南仙笑)→春水(初世しゅんすい・為永ためなが、人情本) 2 1 6 1

楚満人(そまひと・東船笑)→ 一九(いっく・2世十返舎) B 1 1 3 7

2529 素丸(初世そまる・長谷川はせがわ、津軽藩医須田宗入盛直男)1685-175167 従兄長谷川直隆の養子、江戸本所の生/1692(8歳)養父の家督嗣;幕府御家人(本姓;藤原)、小普請方/1726小十人組、1747致仕;剃髪、俳人・素堂門/師の其日庵を継承、1720俳諧改革運動;31「五色墨」共編、1736改号;馬光、1737「歳旦帖」刊行/39「湯山紀行」42「俳諧藪鶯やぶぐいす」44「かさねがさ」、「馬光発句集」、追善集;「松の答」(竹阿編)「古衾」(竹阿編)外、兄既白・息子馬泥も俳人、[物ひとつ鳥の落とすや夏木立](桂夕・半雪「其箴そのおさ」入)、辞世[振り返る谷の戸もなし郭公ほととぎす](松の答/素丸2世[終焉記];1751[寛延4]5月朔)、[初世素丸(;号)の幼名/名/通称/別号]幼名;孫三郎、名;直行、通称;半左衛門、別号;白芹はくきん(初号)/馬光ばこう/竹光/泥山/絢堂/一練窓/曇華斎/其日庵きじつあん2世、這梅翁しやばいおう/素法閣そげんかく/如是庵によぜあん/半塾居/万里斎/夕可庵/玲瓏れいろう閣 参照 → 五色墨の五子(ごしきずみのごし)

E2536 素丸(2世そまる・溝口みぞぐち/吉田/本姓;源、吉田よしだ梅庵郷直男)1713-9583 幕臣溝口忠勝の養子、幕臣;1733(享保10)養家継嗣;5百石/小姓組に列す/1737江戸城西丸勤務/1772致仕、俳人;初世素丸(馬光)門;1746頃[絢堂素丸]の号を受/其日庵3世を称す、師没後;素丸襲名、雪門の蓼太と結び勢力拡大;1781頃芭蕉の秘伝書2巻を得て[葛飾蕉門]を称す;葛飾派3世、1751「続五色墨」共編/56「其一集」編/59「青あらし」「葛飾歳旦帖」著/68「馬光発句集」編、1771「笑ひつゝけ」72「芭蕉解説叢大全」85「梅の絢」90「夏孟子論」93「浜ゆふ」編、「箕吹草」「素丸発句集」「白雲庵辞」「山田の雲」「花の占」「的的冬の日註解抄」著、外編著多、追善集;17回忌「青ひさご」(関根白芹はくきん編)、[鐘鳴りて春行くかたや海の色](素丸発句集/惜春の響きが海の深い色になる)、[青瓢あをひさごふくるゝ果てや秋の水](青ひさご;辞世/1795[寛政7]7月/病身の自分の姿)、[2世素丸(;号)の名/通称/別号]名;勝政/勝昌、通称;十太夫、別号;白芹/絢堂けんどう/其日庵3世/一練窓/曇華斎/竹光/万里斎/天地庵/向旭楼/青軒せう、渭浜庵(初世)/宝机庵/竜斎/葛飾蕉門、法号;嘯月庵鉄翁素丸居士

E2538 素明(そみょう;法諱、俗姓;東とう、名;胤綱/益之ますゆき、東素航男)1376-144166 東師氏の養子、美濃の武将/左衛門尉/下野守/自邸で歌会催、1413頓証寺千首/20新玉津島和歌参、1432出家/晩年1440讒により周防に配流、今川了俊・正徹らと交流/勅撰;新続古今1468、氏数・常縁じょうえん/つねより・正宗竜統しやうじゅうりゅうとうの父、[なほざりにながむべしやはわすられでもの思ふころの夕暮の空](新続古;恋1468)

K2541 素明(そみょう;法諱、円山;道号)?-1742 曹洞僧;丹嶺祖衷門、金沢宗竜寺住持、1710丹後智源寺/27宇治興聖寺住持、1733「興聖寺縁雑記」、「円山素明禅師語録」著

E2541 素明(そみょう;道号・衍聡えんそう;法諱、号;静處)?-? 黄檗僧;長門一宮の満松院住/長府覚苑寺住僧、のち江戸瑞聖寺28世、詩歌人;菊舎尼と交流

素明(そみょう) → 素明(そめい、俳人) K 2 5 4 3

E2537 素民(そみん) ? - ? 俳人・去来門、「去来七回忌集」編(未発見)

K2542 蘇民(そみん・安枝やすえ、名;正亮、徳正男)1784-184360 肥後熊本藩士の氏家家の家臣、のち沢村家に出仕、藩学に修学/安野公雍・大城壺梁・中山黙斎門、子弟教育、「雲从堂随筆」「雲从堂文集」「雲从堂秘録」「尚鑑録」「遺乗集」「監憲堂雑録」「余力稿」著、[蘇民(;号)の通称/別号]通称;和助、別号;雲从堂うんしやうどう、法号;正亮院

楚岷(そみん;法諱) → 祖常(そじやう;道号・楚岷;法諱、臨濟僧) J 2 5 9 1

蘇民堂(そみんどう) → 姫岳(きぎく;号・明洗、天台僧/俳人) J 1 6 8 4

E2539 楚茗(楚名そめい・練水舎)? - ? 江中期俳人・葛飾派、1777「安永六丁酉歳旦」著、1778(安永7)俳諧撰集「三篇五色墨」共編(:野逸・柏翁らと)

K2543 素明(そめい) ? - ? 江後期北越の俳人、1849(嘉永2)「萩笠」編

素明(そめい) → 素明(そみょう;法師、東とう益之、武将/歌) E 2 5 3 8

楚名(そめい;都名いちな) → 菊岡検校(きくおかけんぎやう、地歌三味線) F 1 6 1 6

蘇明山人(そめいさんじん) → 信鴻(のぶとき・柳沢、藩主、俳人) C 3 5 2 8

染子(そめこ・一応亭) → 染子(せんし・そめこ・一応亭、河南散人、談義本作者) F 2 4 6 8

- 染子(そめこ・飯塚) → 吉保室(よしやすのしつ・柳沢、吉里の母) H 4 7 8 6
- H2596 染女(そめじょ・平左衛門妻の染そめ)?-? 江戸期;遊女;駿河の生/7歳;小田原宿に売られる、のち神奈川宿で遊女;武蔵多摩郡大谷村の農民平左衛門と懇意;21歳で身請される、身請に際し平左衛門に[家業につとめ祖母・母への孝行]を誓わせる、結婚後は親に孝行し毎日働き儉約に務める[1857日尾邦子「貞婦染女行状」に詳細記事]
- H2580 染女(そめじょ) ? - ? 江後期;歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、[玉津島入江の波も音たえてのどかに霞む春のあけぼの](大江戸倭歌;春65/海上霞)
- K2544 染太夫(初世そめだゆう・竹本、通称;源七)?-1785 撰津伝法村の木綿商、浄瑠璃太夫;2世竹本政太夫門、1754竹本座に初出演/語り;伝法屋風と称される、義太夫節中興の祖とされる、屋号;伝法屋(田穂屋)、法号;釈義道、1762(宝暦12)「音曲商売往来」著
- E2540 染太夫(6世そめだゆう・竹本、名;新兵衛)1791-1869 79 和泉堺の金物屋、1826浄瑠璃太夫;5世竹本染太夫門、1851染太夫6世を襲名;時代物を得意とす、文楽座で活躍、「金屋新兵衛[染太夫]一代記」著(;日記による克明な自叙伝)、[6世竹本染太夫(;号)の幼名/別号]幼名;美吉郎、別号;竹本実太夫2世(;初号)/竹本梶太夫4世、屋号;金屋
- K2581 染殿(そめどの;組連) ? - ? 江中期江戸芝宇田川町の雑俳の組連、取次;1746「雲鼓評万句合」入、取次例;[金か吹きははだかであるが礼儀也](万句合)、(金座の金鑄造職人は盗難防止の為裸で出た)
- 染殿(そめどの) → 良房(よしふさ・藤原ふじわら、摂政/歌人) 4 7 2 5
- 染殿皇后(そめどののきさい、良房女) → 明子(あきらけい・藤原) 1 0 3 9
- 染人(そめひと・浅黄堂) → 浅黄堂染人(あさぎどうそめひと・狂歌作者) E 1 0 3 1
- K2545 素毛(そもう・加藤かとう、名;雅英、三郎右衛門雅文2男)1825-79 55 母;長尾伊左衛門女、飛騨益田郡の大庄屋の家の生/高山に出て郡代公用人、1860;1月日米修好条約の遣米使節の外国方御用達伊勢屋平作の手代として随行、1860;9月帰国;洋行談を各地で行う、俳諧・歌を嗜む、1860「亜行航海日記」61「二夜語」、「周海日記」著、[素毛(;号)の通称/別号]通称;藤平/十郎、別号;周海/米行子/靈芝庵/君林舎
- L2535 祖黙(そもく;法諱・存耕そんこう;道号)?-1467 南北室町期;京の臨濟宗東福寺僧;少室通量の法嗣、東福寺住寺;正印庵主/のち南禅寺住寺、五山文学者、1467(文正2)没、詩人;1448(文安5)賢良[畠山匠作亭詩歌])参加、[未見題詩付御溝 満林風暁紅稠ちよう 天憐霜葉惣すべ無伍 為駐黄花伴晚秋]、(匠作亭詩歌;17/楓下黄菊/対するは常聞じょうざん)
- 素黙(そもく・高木) → 貞武(さだたけ・高木たかぎ、絵師) F 2 0 3 1
- 2581 蘇守(そもり・伊藤いとう) ? - ? 1737頃没 江中期加賀金沢の浅野川界限の俳人:支考門、1691北枝「卯辰集」2句入、1723(享保8)「難陳二百韻」山隣と共著(;師支考の後援)、1725京東山双林寺での支考主催[芭蕉三十三回忌]に参加、[蝶の羽におし分けらるゝ柳哉](卯辰集;一47/参照;傘からかさに押分見たる柳哉;芭蕉)[蘇守(;号)の別号]棟燕閣/虚白堂/藤蘇守とうそしゅ
- E2542 蘇門(そもん・服部はっとり、名;天瑞/天游、和久男)1724-69 京の織物業/多病で家業を親戚に譲渡、儒者;伊藤介亭門、上長者町で儒を教授、初め徂徠学に従うがのち反徂徠学の先鋒となる、仏典・老荘・禅を修学;儒仏道三教の兼習に専念、「赤俣保せきらら」著(;仏典の歴史研究)、「落草談」「前戯録」「後戯録」「嘯台遺響」「嘯台余響」「放言」「続放言」「碧巖集方語解」著、1765「蘇門居士法語」69「然犀録」、「然犀続録」「然犀別録」「然犀余録」「然犀遺録」外著多数、[蘇門(;号)の字/通称/別号]字;玄符/伯和、通称;六蔵、別号;嘯翁/三教主人、法号;長嘯齋蘇門居士
- K2546 蘇門(そもん・木幡こばた、名;子虬しきゅう/字;郢中えいちゅう)?-? 江中期の儒者、1768「七才子詩集国字解」著
- E2543 蘇門(そもん・山村やまむら、名;良由たかよし、良啓男)1742-1823 82 名古屋藩木曾代官;1781家督、医;三村道益門/儒:1761大内熊耳門、天明飢饉を乗り切り1788名古屋藩家老に抜擢、

1793従五下伊勢守、98致仕;自適生活/詩・書・画を嗜む、「木曾志」「蘇門文集」「絳維録」、
「樵唱集」編/「詩賢周旋集」「玉滝紀行」「蘇門公詩」、1813「忘形集」20「清音楼集」外多数、
[蘇門(;号)の字/通称/別号]字;君裕、通称;七之助/甚兵衛/三郎左衛門、
別号;清音楼、法号;徳光院

祖門(そもん;法諱) → 竺印(じくいん;道号・祖門、臨濟僧) Q 2 1 3 3
祖門(そもん;法諱) → 鉄翁(てつとう;道号・祖門そもん;法諱、臨濟画僧) F 3 0 1 6
蘇門(そもん・都築) → 虚堂(きやどう・都築/都筑つづき、儒者) P 1 6 9 4
蘇門(そもん・高橋) → 竹之介(たけのすけ・高橋、勤王派) T 2 6 8 8

K2547 楚由(そゆう・鳥井とりい、名;裕誓、別号;青白楼) 1703-31早世29 越後出雲崎の商家鶴賀屋5代目、
俳人、1730「俳諧天の川」編、京で客死

K2548 素由(そゆう) ? - ? 但馬生野の俳人;1773几董「明鳥」/76樗良「月の夜」入、
1777江涯こうがい「仮日記」入、[力入れて鐘つきにけり朧月](あけ鳥;182)

K2550 素雄(そゆう;号・応日庵、3世渭浜庵)?-? 江後期俳人;2世渭浜庵蛙水門、1820(文政3)判者、
1833「渭浜庵歳旦帖」、「はまのいはひ」著

祖雄(そゆう;法諱・仏菴) → 仏菴(ぶつあん;道号・祖雄、曹洞僧) H 3 8 3 0
祖祐(そゆう;法諱・天鷹) → 天鷹(てんよう;道号・祖祐、曹洞僧) E 3 0 5 0
素融(そゆう) → 伏見天皇(ふしみてんのう、歌人) 3 8 0 8
素有(そゆう・谷) → 時中(じちゆう・谷たに、僧/儒者/南学) E 2 1 5 9
素友(そゆう・吉雄) → 種通(たねみち・吉雄よしお、蘭外科医) S 2 6 0 8
素熊(そゆう・宇野) → 輔崇(すけたか・宇野うの、藩士/国学) I 2 3 1 1

K2551 素陽(そよう・石田いしだ) 1812- 190089 尾張丹羽郡古知野町の農業、俳人;大鶴庵竹有門、
1866(慶応2)「青たはら」編、尾張の俳人と交流/後輩の指導に当る、
[素陽(;号)の通称/別号]通称;源助、別号;豊屋、法号;帰法道一

祖養(そよう;法諱・孝国) → 孝国(こうこく;道号・祖養、黄檗僧) I 1 9 7 5

2530 曾良(そら・河合かわい/高野/岩波、名;正字まさたか、高野七兵衛男) 1649-171062 信州上諏訪の人、
伯母夫婦の養子;岩波姓/1660(12歳)養父母没;伊勢長島大智院住職の伯父秀精に養育、
1668(20歳)頃伊勢長島藩に仕官、35・6歳頃致仕浪人;江戸へ/神道・歌;吉川惟足こたゑ門、
俳諧;1685頃芭蕉門/近辺に住し師の生活の手助け、1688法体;改号;宗悟、
1688芭蕉の鹿島紀行・89奥羽北陸細道の旅に随伴/1702更科行脚;故郷上諏訪に立寄る、
1709幕府巡見使の随員(岩波庄右衛門正字名);1710壱岐勝本で客死、弓術・医術にも通ず、
1689-91「曾良旅日記」、「道の記」「松島記」「筑紫大宰府記」、
遺稿「雪満呂気ゆきまろげ」(;周徳編)、50回忌追善集「乞食囊」(李郭編)、
[卯の花をかざしに関の晴れ着かな](おくのほそ道;白河の関)、
[なつかしや奈良の隣の一時雨ひとしぐれ](猿蓑/曾良旅日記/師の故郷伊賀の境に入りて)、
[曾良(;号)の通称/別号]通称;庄右衛門/河合惣五郎、別号;宗悟、法号;賢翁宗居居士

素羅(素良そら・小川) → 尋香(じんかう・小川おがわ、俳人) O 2 2 3 3
曾良庵(そらあん・藤森) → 文輔(ぶんぼ・藤森ふじもり、紺屋/俳人) G 3 8 4 3
曾良庵(2世そらあん・五味) → 文嘯(ぶんしょう・五味ごみ、心学者/俳人) F 3 8 7 6

2531 徂徠(そらい・荻生おぎゅう/鳥居/尾崎、綱吉侍医方庵男/本姓;物部) 1666-172863 館林藩江戸邸の生、
父の貶謫のため上総長柄郡本納村に住/1690(元禄3)江戸芝増上寺門前に開塾;朱子学講、
柳沢吉保に出仕、朱子学を否定;古文辞学(徂徠学)を主唱;その祖となる、
1709(宝永6)柳沢藩邸を出て家塾[護園けんえん]を日本橋茅場町に開く/牛込に転住、
門弟;春台/南郭ら多数、古文辞学とその詩文の流行、晩年將軍吉宗の諮問に「政談」を献上、
「論語徴」「徂徠集」「徂徠叢書」「弁道」「弁名」「赤穂四十六士論」「護園随筆」「政談」外著多数、
[太平久シク続クトキハ漸々ニ上下しょうか困窮シ

ソレヨリシテ紀綱乱レテ終二乱ヲ生ズ](1727?政談)

[徂徠(;号)の名/字/通称/別号]名;双松なべまつ、景丸/景元、字;茂卿、
通称;伝次郎/伝助/惣右衛門、別号;護園けんえん/庸庵/赤城翁、法号;清浄院、
修姓;物/詩号;物茂卿ぶつもけい

K2552 素来(そらい;号・文花斎) ? - ? 江中期宝暦明和1751-72頃京の俳人;雑俳、

- 1756刊「鳩の曲」編(：尾張遠江駿河伊勢紀伊など8か国よりの投句に評)
- E2544 蘇来(そらい、清涼井せいりょうせい) ?- ? 読本作者：
1761「古実今こじついま物語」著(；江戸竹川藤兵衛刊)、「当世操車」著
鼠雷(そらい・河辺) → 尚樹(なおき・河辺かわべ、商家/歌人) L 3 2 7 8
- E2545 曾洛(そらく・照井てい) ? - 1837 尾張名古屋瀬戸物町の金具師、
俳人；臥央(暮雨巷2世)門、師を継嗣；暮雨巷4世を襲名、
1816「新幽蘭集」18「新姑射文庫」編/24「廻文はした柴」30「和漢俳諧集」著、
1834「文庫飛良綺卷一」編、「新冬の日」「都久問大」編、
[曾洛(；号)の通称/別号]通称；長四郎、別号；暮雪庵/十字廬/暮雨巷4世、
法号；帰邦曾洛信士
素楽(そらく・柴田) → 勝明(かつあき・柴田しばた、幕臣/歌人) S 1 5 8 5
空言(そらご・時雨庵絵師) → 額輔(がくすけ・絵馬屋、狂歌) E 1 5 7 4
- E2546 素蘭(そらん) ? - ? 江前期磐城須賀川の俳人、1689等躬「葱摺」入
K2567 素蘭(そらん) ? - ? 江後期備後の俳人；
1795其両追善「さゝ栗の露」入/1803菊谿「ゆめのあきふゆ」入
- E2547 素覧(そらん・三輪みわ) ? - ? 尾張名古屋の俳人；芭蕉・露川門、
1694佐屋で芭蕉翁と同宿、1703「幾人水主いくたりかこ」編(露川序)、1707露川「庵の記」校訂、
1693「流川集」(；初出)94「藤の実」95「笈日記」98「続猿蓑」に入、
[茨いばらゆふ垣もしまらぬ暑さかな](続猿蓑；卷下/暑さで茨の厳しさもない)、
[素覧(；号)の通称/別号]通称；四郎太夫/四郎兵衛、別号；松隣軒/鶏頭山/鶏頭野客
楚蘭(そらん・日野) → 資時(すけとき・日野ひの、藤原、廷臣/歌) C 2 3 5 4
素里(そり・小野) → 素郷(そきょう・小野、商家/俳人/謡曲) D 2 5 4 8
素履(そり・荒木) → 素履(もとぶ・荒木あらき、国学/歌) J 4 4 1 1
素履居(そりきよ) → 鶴夫(たづお・長田おさだ、国学/歌) B 2 6 4 4
- E2551 祖瀏(そりゅう；法諱・河清かせい；道号) ?-1543 京の臨濟僧；廷瑞祖兆門、1533建仁寺275世、
五山文学者；詩人、「笈雲集ひんうんしゅう」著
- E2548 祖隆(そりゅう) ? - ? 江戸期；歌人、「和歌制言葉わかせいのことば(和歌袖中)著
E2549 素立(そりゅう) ? - ? 江前期大阪の俳人、1690之道「あめ子」1句入(189)、
[跡先あとさきに生れて同じ月見哉](あめ子；189)
- K2576 素柳(そりゅう) ? - ? 江前期俳人；1691不角「二葉之松」入(107)
[頼朝の御手跡ごしゆせき拝む鶴の札](二葉之松；107/前句；あやかりものよ松の長生き)、
(頼朝が鶴岡八幡放生会で鶴に金の札を付けて放ったという伝説)
- E2550 素龍(そりゅう・柏木かしわぎ/本姓；藤原、名；全故なりもと・たけもと) ?-1699 阿波徳島藩士/1688頃浪人、
大阪に出る；昨非と交流/江戸移住；浅草自性院住職、歌人；北村季吟・正立門、
俳人；芭蕉と交流/上代様の書家で芭蕉の師；芭蕉は「細道」の清書を依頼、
柳沢吉保に歌人とし出仕；納戸役、吉保没後も息吉里の歌道の師を務める、
「炭俵」の版下と序、句；1690昨非「根合」入、1691江水「元禄百人一句」賀子「蓮実」入、
1694「炭俵」(9句)・98「続猿蓑」(1句)入、
[姫百合や上うへよりさがる蛛くもの糸](続猿蓑；卷下夏/頼りない風情)、
[素龍(；号)の通称/別号]通称；儀左衛門/藤之丞、別号；素竜斎
- K2567 素流(そりゅう；号) ? - ? 江後期安藝廿日市の俳人；1788車蓋「桃の白み」入
K2553 素龍(そりゅう；号) ? - ? 江後期大阪の俳人；雑俳点者、1795「折句柱」評
K2554 素粒(そりゅう・黒部くろべ、別号；一万井) ?-? 江後期文化1804-18頃の俳人、素外と交流、
1814「俳諧松島行」編
素柳(そりゅう・並木) → 翁輔(おうすけ・並木、浄瑠璃・歌舞伎作者) B 1 4 0 0
楚笠(そりゅう・古市) → 木朶(もくだ・古市ふるいち、旅宿業/俳人) 4 4 9 8
祖龍(そりゅう・山崎) → 道忠(みちただ・山崎やまざき、国学/歌人) K 4 1 8 9
素立軒(そりゅうけん) → 政長(まさなが・本多ほんだ、藩士/藩政) F 4 0 2 1
素龍斎(そりゅうさい) → 素龍(そりゅう・柏木/藤原、書家/歌/俳) E 2 5 5 0
- E2552 素綾(そりょう；号・虬戸庵きゅうこあん) ?-? 常陸水戸の蕉門俳人、

- 1795「俳諧七部木槌」編/97「冬の日句解」著/1800「風羅袖日記」編・「俳諧千里独歩」著
- E2553 **祖稜**(そりょう;法諱・伯師はくし;道号、俗姓;秦) ?-1450? 室町期山城稻荷の臨濟僧;9歳で栖水寺入、内典を修学/のち臨濟宗東福寺竜吟庵の月堂円心門;嗣法、1427伯耆安国寺住持、1429豊後万寿寺住持/35建仁寺157世;光沢庵に住、建仁寺瑞光庵に没(70余歳)、「伯師和尚語録」著、別法諱;義稜
祖稜(そりょう;法諱・高雲)→ 高雲(こううん;道号・祖稜、曹洞僧) H 1 9 4 4
祖量(そりょう;法諱・衡田)→ 衡田(こうでん;道号・祖量、曹洞僧) K 1 9 7 6
素良(そりょう・井上) → 素良(もとよし・井上/藤原/梯、藩士/国/史学) J 4 4 1 4
- K2555 **鼠林**(そりん・菅沼すがぬま) 1718- ? 1787存 三河八名郡小川村の商家;富商、俳人、1787刊古稀賀集「杖のあそひ」編、
[鼠林(;号)の通称/別号]通称;八左衛門、別号;洞壺亭、屋号;為屋
一族に鼠仙 → 鼠仙(そせん・菅沼すがぬま定年、商家/詩人) K 2 5 0 2
- E2554 **素輪**(そりん・松井まつい、名;一勝) 1732-9261 上州前橋の本陣に勤務/俳人・綾足[涼袋]門、心岱・雲裡坊・旧室・麦浪・一音とも交流し俳諧を学ぶ/全国の俳人と交流、1763「片歌二夜問答」編(:綾足「片歌道のはじめ」下巻入)、1764「梅ひとへ」71「五つ衣」著、1772「みとりの友」著、「木菟庵月次巻」著、没後3回忌追善集「蓮の浮葉」、
[素輪(;号)の通称/別号]通称;平四郎/儀兵衛、
別号;亀鶴/竹令/旧狐/松月堂/風声堂/三日月素輪/四云庵/喝祖坊/木菟庵
法号:一峯素輪居士、屋号;八田屋
- E2555 **祖琳**(そりん;号・莫菴ばくあん;号) ?- ? 江後期京?の僧;1824「棕[櫻]隠軒集第四集」編
祖麟(そりん;法諱・天巖)→ 天巖(てんがん;道号・祖麟、曹洞僧) D 3 0 2 9
疎林外史(そりんがいし) → 霧崖(あいがい・高久たかく、絵師) D 1 0 1 7
- E2579 **鼠禮**(そらい) ? - ? 俳人、1714月尋「伊丹発句合」;四季発句入、
[蝶と花散るかまとまるか瞿粟花けし島](伊丹発句合;夏)
- E2556 **曾令**(そらい) ? - ? 俳・素堂門、1752「ふた夜の影」;素堂追善
素嶺牖(そらいゆう) → 牧童(ぼくどう・素嶺牖、俳人) D 3 9 8 1
- 2574 **鼠劣**(そろう・栗原くりはら) ? - ? 安藝広島の俳人;窓五門、「小川の水集」著、
[鼠劣(;号)の通称/別号]通称;為次、別号;白雀亭
曾礼好兼(そのよしかね) → 曾礼好兼(そうれのよしかね、狂歌) K 2 5 6 0
- 2575 **夫丸**(それまる・一了軒いちりょうけん、姓;中沢/仲沢) ?-? 天保1830-44頃大坂心齋橋筋瓦町の狂歌作者、鉄格子社中の玄鳥舎株丸を中心とする一派に属す、1830「狂歌百富士三郎」著
[一了軒夫丸(;号)の通称] 富田屋喜造/吉蔵/寿蔵
- B2538 **祖連**(それん;号) ? - ? 江前期讃岐臨濟僧;
元禄1688-1704頃讃岐薬王寺4世首座、「医王山薬王寺本尊縁起並由来之記」著
- B2539 **素練**(それん;号) 1744 - 180259歳 江中後期播磨宍粟郡山崎の青練寺住職、俳人;南架門、山崎俳壇の第一人者、1792(寛政4)句集「俳諧三音鳥」編、芭蕉の百回忌記念「風月集」著、観音堂に芭蕉「木の下は汁も膾も桜かな」の句碑建立、
[月一つ松に残りて野分哉](芭蕉句碑に併記)、
[素練(;号)の別号]四睡庵しさいあん/梨花坊/五律
- E2557 **素蓮**(それん・中島なかじま、幕臣俳人の中島菟川2男) ?-? 江後期幕臣/俳人;父門/葛飾派、父菟川が里扇より授与された天地庵号を自称す;錦江に難ぜられる、1853(嘉永6)「芭蕉庵春秋」編、
[素蓮(;号)の別号] 天地庵/玄武堂/我川/荷翁/芽宝
祖聯(それん;法諱) → 芳巖(ほうがん;道号・祖聯、曹洞僧) 3 9 3 2
祖蓮(それん;法諱・百拙)→ 元養(げんよう;法諱・百拙、黄檗僧) E 1 8 5 7
素郎(そろう・岡) → 呉継(くれつぐ・岡おか/神辺、商家/国学) E 1 7 0 7
- E2558 **疎漏庵**(そろうあん) ? - ? 江後期狂詩作者;1809「疎漏菴詩集」編;尾道刊
素六(そろう・安野屋) → 伝(つとう・新渡戸にとべ、藩士/開拓事業) 2 9 9 6
鼠六[坊](そろう、1793鳥明「意計野夢荷資」跋)→ 巴勢(はせい・山下) E 3 6 6 9
- E2559 **候兵衛**(そろべえ・門田かどた/維田/田) ?-? 江中期江戸の歌舞伎作者;金井三笑門、

1761(宝暦11)江戸市村座に金井三平名で初登場/以後中村座で活動、1765立作者、
1772(明和9)以後は消息不明;出家?、江戸中村座帳元栄屋甚兵衛の伯父、
1761「江戸紫根元曾我」66「街道一伊豆春駒」69「渡辺鶴丹前」著/70「役者名声牒」編、外多、
[門田候兵衛(;号)の別号]金井三平(;初号)/維田候兵衛/田候兵衛/阿那聒散人あなかつさんじん

そろま七郎兵衛(そろまぢべえ)→七郎兵衛(しちろべえ・そろま・松井、道化人形遣) E 2 1 7 1

そろま浄周(そろまじょうしゅう)→浄周(じょうしゅう、人形遣) N 2 1 4 5

そろま六兵衛(そろまろくべえ)→六兵衛(ろくべえ、人形遣) B 5 2 0 6

B2540 遜(そん・秋山あきやま、玉山男)?- ?明和1764-72頃没 江中期儒者;1757昌平黌入学、家学を受、
肥後熊本藩儒、1764-72頃「玉山遺稿」編、
[遜(;名)の字/通称]字;子順、通称;遜太郎

02417 存(そん・小鹿こしか、) 1700 - ? 1781(82歳)存 尾張名古屋の医者/詩人/狂歌を嗜む、
1781(安永10/82歳)絵師内藤東甫(閑水)主催の金剛山長栄寺尚歯会に参加(9人);詩賦/狂歌、
[存(;名)の字/号]字;良興、号;無孔笛むくつき

良興(りょうこう・小鹿) → 存(そん・小鹿こしか、医者/詩人/狂歌) O 2 4 1 7

遜(そん・武廣) → 遜(ゆずる・武廣たけひろ、奇兵隊員/日記) G 4 6 2 3

遜(そん・犬塚) → 印南(いなん・犬塚いぬづか、儒者) D 1 1 2 8

遜(そん・樋口) → 遜庵(かいあん・樋口ひぐち、藩士/儒者) H 1 5 1 3

遜(そん・加藤) → 景範(かげのり・加藤かとう、儒/歌学者) B 1 5 9 0

遜(そん・岡村) → 尚謙(しょうけん・岡村おかむら、医者/本草) I 2 2 4 9

遜(そん・元田) → 東野(とうや・元田、儒/藩政改革) H 3 1 5 3

遜(そん・服部) → 修蔵(しゅうぞう・服部はつとり、藩士/儒者) H 2 1 9 8

存(そん・ながらう・陶山) → 訥庵(とつあん・陶山すやま、藩士/農政) O 3 1 4 0

存(そん・横井) → 小楠(しょうなん・横井よこい、藩士/思想家) B 2 2 0 5

孫(そん・清川) → 玄道(げんどう・清川/多峯、医・儒者) L 1 8 9 7

損(そん・本庄) → 適所(てきしょ・本庄/本荘ほんじょう、儒者) B 3 0 9 9

巽(そん・植木) → 玉厓(ぎょくがい・植木うえき、幕臣/詩/狂詩) C 1 6 9 8

巽(そん・深川) → 湖十(こじゅう・村瀬/深川、俳人) C 1 9 8 3

巽(そん・黒沢) → 四如(しじよ・黒沢くろさわ、藩儒/易学) T 2 1 7 3

巽(そん・長沼) → 信元(のぶもと・野沢のざわ/藤原、神職/国学) J 3 5 5 4

B2541 存阿(そんあ;法諱) ? - ? 僧侶、連歌作者、1356成立「菟玖波集」2句入、
[種蒔く草はなでしこの花](菟;雑1106/前句;詠む歌の心は人の行衛にて)

B2542 尊阿(そんあ;法諱) ? - ? 南北朝京祇園社の社僧?/連歌作者;
1343(康永2)顕詮けんせん「祇園社法楽百韻」参加、菟玖波集2句入

[月こそよるの雪をかさぬれ](菟;冬550/前句;山越えし曇こさめは野辺にまた降て)

B2543 遜阿(そんあ;法諱) ? - ? 江後期岩代桑折の万正寺の住職/俳人;一具門、
1849(嘉永2)「東桜集」「出羽紀行」編、

[遜阿(;法諱)の号]無礙庵むがいあん/梅遅老人/破飯囊子/片雲子/良洗

存愛亭(そんあいてい) → 利庸(としつね・堀、幕臣/歌人) M 3 1 9 3

C2550 存庵(そんあん・有馬ありま) ? - 1702 京の医者、元函げんかんの父、奇行多く「近世畸人伝」入、
涼及が花の故事;根が菰包のままの桜の大樹を縁の側に置き問われると「寝て見るため」、
[存庵(;号)の通称/別号]通称;涼及、別号;臥雲

B2544 損庵(そんあん・小野おの、名;正端、半の末男)1804-6259 伊勢桑名藩士の家/兄夭逝により家督継嗣、
桑名藩に出仕、儒;昌平黌に修学/藩学頭/勘定頭/書院番を歴任、1854江戸詰、武術修得、
武具奉行・火術師範を務める、詩文・韻法・書に通ず、片山恒斎と交流、
「陟岵ちよつき録」「通叶韻考」「遊房総記」/1852「遥青楼文鈔」著、
[損庵(;号)の字/通称/別号]字;民表、通称;正五郎/軍九郎、別号;遥青

B2545 遜庵(そんあん;通称・鷹取たかとり、号;花楼庵遅木)?-? 江後期筑前の医者/本草学、插花;千葉一流門、
1805「四季賞花集」著

存庵(そんあん・土井) → 正安(せいあん・土井とい、医者) H 2 4 3 0

村庵(村菴そんあん) → 靈彦(れいげん・希世きせい、臨濟僧/詩文) 5 1 0 1

- 巽庵(そんあん) → 未得(みとく・石田、俳人) 4 1 3 3
 巽庵(そんあん) → 等躬(とうきゆう・相楽、未得門俳人) C 3 1 6 4
 巽庵(そんあん・安田/山県) → 璣(たまき・山県/宍戸、藩士/儒者) S 2 6 2 3
 遜庵(そんあん・野村) → 西巒(せいらん・野村/丹治比、藩儒/香道) D 2 4 0 8
 遜庵(そんあん・吉弘) → 菊潭(きくたん・吉弘よしひろ、藩士/儒者) B 1 6 0 1
- B2546 **尊意**(そんい;法諱、俗姓;息長丹生真人おきながにふのみと) 886-940⁵⁵ 京の天台僧;879叡山僧:増全門、
 玄昭・円珍門、926天台座主13世/938大僧都、祈祷師;中宮安産・祈雨の修法、
 平将門乱の大威徳法を修す、没後;贈僧正、「如意輪記」「金剛界私記」「法性私記」「胎蔵記」、
 「胎蔵法生別記」「十二反音九弄十紐」「伝法灌頂作法」「奉請三部諸天偈」著、
 [尊意(;法諱)の号/通称]号;法性房、通称;梨本祖師
- B2547 **尊為**(そんい;法諱) ? - ? 鎌倉期僧/歌人;
 1276(建治2)住吉三十五番歌合(判;藤原為氏)参加、
 [住吉の遠里とほざとをのの花薄ほのかに聞きつさを鹿の声](住吉;十番右/聞遠鹿)
- 尊為(そんい) → 桂葉(けいよう・大光院、俳人) 1 8 9 3
 巽一(そんいち・板津) → 正的(しょうてき・板津いたう、検校/連歌) L 2 2 0 4
 村胤(そんいん・伊達) → 村胤(むらたね・伊達だて、藩士) 4 2 1 9
 存胤(そんいん;法諱) → 輔景(すけかげ・長尾ながお/平、武家/連歌) G 2 3 1 5
- E2562 **尊胤法親王**(そんいんほつしんのう、後伏見天皇皇子) 1306-59⁵⁴ 母;治部卿局、梶井門跡、承鎮に受法、
 1333天台座主/以後4度座主職就任/その間に1334四天王寺別当/40二品、
 当代文雅の中心の1人、歌人;歌会主催、「尊胤親王百首」著、1336住吉社法楽和歌参加、
 1357「延文百首」参加/藤葉集5首入、
 連歌;菟玖波集90句入(;救済に次ぐ);[吹かぬまも風ある梅の匂ひかな](発句2033)、
 勅撰17首;風雅(5首419/545/1067/1565/1591)新千(5首296/1039以下)新拾(3首)以下、
 [蟬の声は風に乱れて吹き返すならのひろはに雨かかるなり](風雅;夏419)、
 [半天ながぞりに猶残らずは短みか夜を月のとがとや思ひはてまし]、
 (新千;夏296/延文百首;629夏月)、
 [春風のさそふは同じ梢にも先咲くかたの花やちるらん](藤葉;春71)
 [尊胤法親王の法諱/通称]法諱;尊胤、通称;二品法親王/梶井宮/梶井二品入道大納言
- 2576 **尊胤法親王**(そんいんほつしんのう、霊元天皇18皇子) 1715-39^{早世} 25 母;少納言局秦仲子(松室重仲女)、
 1719知恩院入山/26將軍吉宗の猶子、27親王宣下/27知恩院入室;了鑑門;得度、4世門跡、
 1730二品、詩歌人;「尊胤親王詠四季和歌」「尊胤親王歌稿」「尊胤親王詩」「尊胤親王四絶」、
 「尊胤親王詠詩歌之留」「尊胤親王和歌懷紙之留」外著多数、
 [尊胤法親王の幼名/名/法諱/法号]幼名;悦宮、名;栄貞、法諱;尊胤、法号;最勝王院
- 尊宇(そんう) → 草宇(そうう・宝雪庵、俳人;蘭山門) G 2 5 0 5
 遜宇(そんう・成田) → 明遠(あきとお・成田なりた、藩士/儒/詩歌) I 1 0 1 8
- E2563 **尊運**(そんうん;法諱) ? - ? 室町期;京の高雄寺尾崎坊住僧、
 歌人、1520頃「高雄尊運詠草」著
- 尊雲(そんうん) → 護良親王(もりながしんのう、建武新政) G 4 4 1 2
- 2577 **尊依**(そんえ;法諱) ? - 1559 加賀江沼郡の真言宗那谷寺明王院の僧、
 1551(天文20)「那谷明王院日記」著
- 2587 **尊榮**(そんえい;法諱・日光院/靈鷲院) 1613-90⁷⁸ 江前期天台宗園城寺の僧、
 1677「十八道次第」「寺門四度初加行小師指南之手記」「寺流四度阿闍梨手中記」著
- 村英(そんえい・荒木) → 村英(むらひで・荒木あらかき、和算家) D 4 2 1 9
 村盈(そんえい・北風) → 村盈(むらみち・北風きたかぜ、商家/歌人) C 4 2 2 8
 存英(そんえい・壺井) → 益春(ますはる・壺井つばい/山本、役人/国学) Q 4 0 9 8
- F2502 **尊英親王**(そんえいしんのう、伏見宮貞建親王3男) 1737-52^{夭逝} 16 1745(9歳)桜町天皇の養子;
 青蓮院を相続、1748親王宣下/48青蓮院入寺;得度/僧、「青蓮院宮尊英親王御筆御手本」、
 [尊英親王の幼名/名/法諱/諡号]幼名;修宮ことのみや、名;庶盛、法諱;尊英、
 諡号;広修院、法号;広修院無品尊英親王
- F2507 **尊映親王**(そんえいしんのう、名;惟基、京極宮家仁親王3男) 1748-93⁴⁶ 1752(5歳)一乗院相続、

- 1759桃園天皇の養子;親王宣下/60一乗院入寺;得度/僧、1769興福寺別当;93病で辞任、
1703一品、1760-93「尊映法親王日記」著、画;「尊映法親王画」「尊映法親王筆人物図」、
[尊英親王の幼名/法諱/法号]幼名;良宮たのみや、法諱;尊英、法号;常寂光院
- L2520 **存益**(そんえき;法諱、法師) ? - ? 江前期;歌僧、1682河瀬菅雄[麓の塵]7首入、
[物思ふ老のね覚のあはれさをとひくるかりのあかつきの声](麓の塵;秋225)
村右衛門(そんえもん・木村)→ 探元(たんげん・木村/平、絵師) T 2 6 4 0
- E2564 **尊円**(そんえん、法印、改諱:定伊じょうい、藤原俊成男/世尊寺伊行の猶子)?-? 母;夕霧、
伊経・瞻空せんくう(浄土西山派上人)・建礼門院右京大夫の兄弟(義兄弟?)、
叡山天台僧/歌人;117(治承2)慈円との贈答歌、勅撰2首;千載1226、新勅撰1192、
[君が名ぞなほ頭あはれん降る雪に昔の跡は埋もれぬとも](千載;釈教1226/慈円に返歌)、
(昔の伝統が埋もれても天台学統を護るあなたの名は必ず頭れるだろう)、
(千日業中の慈円の贈歌1225;いとゞしく昔の跡や絶えなむと思ふもかなし今朝の白雪)
尊円(そんえん;字) → 頼賢(らいけん;法諱・尊円、真言僧) 4 8 3 8
- 2532 **尊円親王**(そんえんしんのう、伏見天皇皇子)1298-1356 59 母;永福門院播磨内侍(三好俊衡女)、
1308(11歳)青蓮院門跡慈深門/1310親王宣下;11出家;青蓮院門跡、31天台座主121世、
以後4度座主に就任/1338二品、書家;入木道いぼくどう;青蓮院流の祖、歌や文芸に長ず、
「詠五十首歌」/1338「朗詠題詩歌」編/1343「拾霞抄」著/1346慈円家集「拾玉集」編、
1352「入木抄」「称覚抄」「筆道秘伝」著、「尊円親王五十首」「尊円親王詠草」著、外編著多数、
書;「至宝帖」「瀟湘八景」「いろは及源氏之詞」「庭訓往来図画」「尊円直筆」「尊円親王真蹟」、
勅撰43首;続千載(940/1849)続後拾(336/1340)風(8首239/324以下)新千(10首)以下、
藤葉集入、
[一切の事 其理二は候はず そのさとひとつにて候](入木抄)
[春の来るかたを照して法の花開くる時を世にぞ知らする](続千;釈教940/法華經序品)、
[尊円親王の名/法諱/通称]名;守彦/尊彦、法諱;尊円、通称;大乘院宮/青蓮院宮
- 2588 **尊応**(そんおう;法諱) 1432 - 1514 83 室町期天台僧;青蓮院門跡/天台座主、大僧正、
歌人、能書家、「古今夷曲集」1首入(;489)、
[山寺の春の夕飯ゆふめし早ければ(遅ければ)入相の鐘に腹ぞへりける]、
(遅ければが良い、本歌;山寺の春の夕暮来て見れば入相の鐘に花ぞ散ける;新古/能因)
- F2510 **異翁**(そんおう) ? - ? 俳人、1672頭成「手繰舟」入
損翁(そんおう;道号) → 損翁(そんおう;道号・宗益そうえき;法諱、曹洞僧) F 2 5 7 1
尊家(そんか;法諱) → 尊家(そんけ;法諱、叡山僧、歌人) E 2 5 6 5
飡霞(そんか・祇園) → 尚濂(しょうれん・祇園ぎおん、藩儒/詩) M 2 2 0 3
- F2521 **村我**(そんが;法諱) ? - ? 南北期僧侶;法師/連歌;1356成立「菟玖波集」2句入、
[人ゆゑはいのちをだにも惜まぬに](菟;恋989/前句;逢はば浮名もよしやなけかし)
- F2522 **尊賀**(そんが;法諱) ? - ? 1359存 大和多武峰多楽院内清浄院住の天台僧、
1338「枕月集」(良助親王著説あり)、「枕月弥陀報応」「仏性義」「教相義」「三観義枕月」著、
[尊賀の通称] 多武峯優婆塞とうのみねのうばそく/中将内供奉、
良助親王と著書が重複?→ 良助法親王(りょうじうほうしんのう、多武峯優婆塞、天台僧) I 4 9 1 9
- E2566 **尊雅**(そんが;法諱、内大臣万里小路惟房男/本姓;藤原)?-? 戦国安桃期の天台園城寺積善院住僧、
僧正、山科言継らと参内し正親町天皇に親近、歌人、1577誠仁御所五十首歌参加、
1582「二条御所和漢聯句」参加、連歌;1595(文禄4)9月智仁親王・冷泉為親と「何木百韻」、
[尊雅(;法諱)の号] 四王院、万里小路輔房の弟
- E2567 **異我**(そんが) ? - ? 1784存 江戸俳尋;湖十門、1739「吾妻海道」(鬼丸と共著)、
1742九州行脚;筑紫・豊後日田など長期逗留;俳諧指導、1743「友すゝめ」著、
[異我の別号] 鹿庵/露庵/露残坊/露残斎
- E2568 **尊海**(そんかい、僧正定玄じょうげん男)1201-? 1265存 鎌倉期;興福寺の僧/元興寺別当/法印権大僧都、
歌人、権大納言藤原定能の孫、「南都現存集」撰(散佚)、1246春日若宮社歌合参加、
1246春日若宮社歌合参加/57「春日社十五首」を勧進、月次歌会催(檜葉集336詞書)
1237檜葉集(8首)入/万代・秋風・人家集・雲葉集入集、
勅撰4首;続後撰(1186)続古今(656/1553)新千載(2098)、

[世の中をいとふ心や誘ふらんうきにとまらむわが涙かな](続後撰;雑1186)

[さざれふむ佐保の河とのあさぼらけ霞のほかになつなみもなし](檜葉;春6/権律師名)

F2523 **尊海**(そんかい;法諱・円頓房;号)1253-1332⁸⁰ 武州足立郡の天台僧;武蔵河田谷泉福寺の信尊門、得度/武州慈光寺住/比叡山僧;心賀門;7年間研鑽/天台の奥義を相伝、武州仙波に仏地院(のちの喜多院)開創;天台教学宣揚/関東天台寺院はみな同院に附属、仏蔵院建設;信尊没後は泉福寺を兼領、寛海・全海・盛海・豪海・宥海らの師、「円頓章見聞」「一流相伝法門見聞」「肝心要義鈔」「顕密論談鈔」「心観明了鈔」外著多数[尊海(;法諱)の通称] 円頓法印

E2569 **尊海**(そんかい;法諱、初法諱;尋守、太政大臣久我[東久世]通博男)1472-1543⁷² 真言仁和寺門跡;真光寺住、1484出家;守誉門/92法印/97後光台院御室(静寛)より伝法灌頂を受、1510覚道親王出家の戒師;1516伝法灌頂を授与、39歳島御室(仁助親王)出家の戒師、1542大僧正、「仁和寺(御室)御伝」を類聚;序執筆、三条西実隆と交流/土佐に没、「尊海百首和歌」「あづま道の記」「真光院道記」「真秘鈔伝授記」「金剛福寺縁起」、「蹉跎山縁起」連歌;1514「畑天満宮法楽」、新撰菟玖波集1句入、[尊海の号] 八水/真光院大僧正

K2572 **尊海**(そんかい;法諱) ? - ? 室町後(戦国)期安藝の真言僧;歳島大願寺住職、歳島神社修理勸進を務める/1537-39大内義隆の斡旋で大蔵経を求めて朝鮮へ渡航、「尊海渡海日記」(紙本墨書)

F2524 **尊海**(そんかい;法諱・秀伝しゅうでん;字)1625-95⁷¹ 水野慶胤の一族/備後福山の真言僧;信州宝幢寺海義門;出家/瑜伽を修学、1665随心院で中院流修学;南院の良意門、1681加賀白山宮の遷神の儀を行う/1693高野山無量寿院住、1671「往生兜率密記」74「立河流聖教目録」81「弘法大師勸発道心頌略解」、1682「勸進道心頌略解」、「十疑矯答抄」「原人論発微録抄」著

尊海(そんかい;初法諱) → 仁濟(にんせい;法諱・地蔵房、真言僧) G 3 3 5 6

F2525 **存海**(ぞんかい;法諱・心空;別法諱)?-? 戦国期;天台宗叡山僧;東谷神蔵寺円鏡院住、禅観を修学/西谷の行光院で阿字観を修学/慧日山で仏心宗を探る、常に[楞嚴経宗鏡録]を閲し口称念仏を制立す、のち横川首楞嚴院帝釈寺に籠居、1504「常恒修観用心鈔」09「四教観門」19「自心秘口訣」22「正因果集」、「存海口伝鈔」外著多

E2570 **尊快法親王**(そんかいほっしんのう、後鳥羽天皇皇子)1204-46⁴³ 母;修明門院重子(藤原範季女)、梶井宮門跡/1208承円僧正門;14出家、1221天台座主に推薦;辞退、歌人/勅撰4首;続後撰(571)続古今(1476)続拾遺(54)新続古今(1586)、雲葉集2首入、[やはらぐる光にもまた契るかな闇路やみらはなれんあかつきの空](続後撰;釈教571)、[尊快法親王の名/法諱/通称]名;寛成、法諱;尊快、通称;梶井宮

E2571 **存覚**(ぞんかく;号・光玄こうげん;法諱、俗名;冷泉親綱、本願寺3世宗昭[覚如]男)1290-1373⁸⁴

母;播磨局、冷泉親顕・日野俊光の猶子、京の真宗僧/常楽台を開く、

1303得度;父宗昭に従い各地布教、父と義絶和解を繰返す、法印/権大僧都、

1324「浄土真要鈔」56「存覚法語」62「歩船鈔」、「因果鈔」「御伝鈔」「教行信証六要鈔」、

「取意鈔」「諸神本懐集」「真宗至道鈔」「秘伝鈔」外著多数、

[存覚の幼名/法諱/別号]幼名;光日曆、法諱;光玄/光顕/興親/親恵、別号;常楽台、

通称;中納言新阿闍梨、諡号;宝性院

尊覚(そんかく;法諱/天台僧) → 礼智阿(らいちあ;法諱、時宗;2祖) 4 8 8 2

巽嶽(そんかく・松平) → 茂昭(もちあき・松平、藩主/歌人) B 4 4 2 8

F2526 **尊覚親王**(そんかくしんのう、順徳天皇皇子)1214-64⁵¹ 母;藤原清季女、1220(7歳)天台宗仁和寺入、1227出家;尊快親王門;天台学修学、梶井宮門跡継嗣/1235親王宣下/49天台座主、1259座主辞任、京東山中山御房に没、「建長座主宮御抄」「流伝抄」/1254「庭儀曼荼羅供」著、[尊覚親王の法諱/通称]法諱;尊覚、通称;中山宮

F2527 **尊観**(そんかん;法諱・良弁;字、北条朝時男)1239-1316⁷⁸ 浄土僧;良忠門/1276付法を受、鎌倉名越の善導寺住;一念業成の説を主唱;この派を名越派(善導寺義)と称す、良忠門の白旗派良暁と正統性を争う、「鳴鼓篇」/1314「浄土十六箇条疑問答」著、[尊観(;法諱)の号]号;定蓮社、門弟;慈観・慧観・明心など

- L2500 **尊観**(そんかん;法諱、八条隆輔男)1770-1831⁶² 京の廷臣家の生/国学;父門、僧、
近江滋賀郡の石山寺の大僧正
尊閑(そんかん・役) → 尊閑(たかやす・役えき、平賀、修験僧/歌) N 2 6 5 2
尊観(そんかん;法諱) → 深勝法親王(しんしょうほっしんのう、新葉歌人) E 2 2 6 6
- E2572 **村基**(そんき;法諱) ? - ? 法印、歌人、1364成立「新拾遺」1091、新続古1159
[さてしもぞ命はいとどをしからむ逢ふにはかへじ恋ひはしぬとも](新拾;恋1091)
- E2573 **存義**(初世ぞんぎ・馬場ばば/一時西門)1702-82⁸¹ 下総葛飾生/江戸住;三浦家出仕、儒;服部南郭門、
俳人;2世青峨門1730病で致仕、32上方へ誹諧修業/33江戸;薙髪/34沾徳座;沾山と対立、
江戸座其角座宗匠、1768以後は存義側頭目として代表的判者;飄逸・奇抜な句風、
1745「延享廿歌仙」(湖十と共編)、79「野づち」「古来庵発句集」「秋草」「浮世小路」編、
1780「夏しらす」外多数、1752雁宕「反古衾」(蕪村との連句入)/56青峨2世「東風流あずまぶり」入、
1772几董「其雪影」73几董「あけ鳥」/維駒「五車反古」(1783刊)各1句入、
追善集;「かれ野」「くだら野」、門人に花裡雨・抱一・月成ら、存義号は橋本泰里が継承、
[稲妻や門かどで髪梳すく女かな](東風流/闇の中に稲光が女の姿態を映す)、
[存義(;号)の通称/別号]通称;民右衛門、
別号;泰里(;初号)/有無庵/古来庵/李井庵/眠存義、法号;無一居士
存義(ぞんぎ・2世、橋本) → 泰里(たいり・橋本、俳人) C 2 6 2 8
存養堂(ぞんぎどう) → 充輝(みちてる・吉成よしなり/渡辺、藩士/剣術家) B 4 1 9 3
存久(ぞんきゅう・青木) → 存久(ながひさ・青木あおき、歌人) K 3 2 7 3
- F2528 **尊経**(そんきょう;法諱) ? - ? 南北室町期;僧正/歌人;
1407(応永14)内裏九十番歌合(後小松天皇催)参加、
[あまのはら雲のみをゆく風さえてこほりのうへにこほる月影](内裏九十;廿七番左53)
尊敬(そんきょう・橘) → 在列(ありつら・橘、天台僧/詩) B 1 0 8 0
尊敬(そんきょう;法諱) → 守澄親王(しゅちやうしんのう、天台座主) Z 2 1 0 3
- E2574 **尊空**(そんくう;法諱、上人、本道坊;号)?-? 浄土僧:浄金剛院貞空上人門、
歌人;続現葉集入集、続千載1707、
[まどろまで待ちつるものを時鳥夢かとききておどろかれぬる](続千;雑1707)
存空(そんくう;号) → 宗信(しゅうしん;法諱、真宗本願寺派僧) X 2 1 6 1
- E2565 **尊家**(そんけ;法諱、九条頭家男)?-? 天台宗叡山僧;法印/権大僧都、鎌倉日光社別当、
1265宗尊親王夫人出産の祈禱、歌人:1253三首歌勸進、1246春日若宮社歌合参加、
東撰和歌六帖・人家和歌集入集、勅撰1首;続古今(1459)、
[いまさらにおどろかれぬる心かな夢よりのちもうつつならぬを](続古;哀傷1459)
- F2529 **尊契**(そんけい;法諱) 1474 - 1537⁶⁴ 天台宗園城寺の僧;北林房・勸学院住、
1532(天文元)南院の景玖に法を授与/権大僧都、
1500「法華経尊契抄第二自別始至品訖」31「文句聞書」、「俱舎論愚問記」著
- F2530 **尊慶**(そんけい;法諱) ? - ? 室町後期安桃期天台僧、
上州世良田の長楽寺真言院に住?、1580「五味義尋所抄」、「七度難印鈔十八道」著
- E2576 **尊慧**(そんけい) ? - ? 江前期漢学者、1702「韻鏡図解細目」
- E2577 **尊瓊**(そんけい;法諱) ? - ? 江中期僧:多田南嶺門/僧ながら桂流神道を説く、
1741(寛保元)刊「神学大義」著
尊敬(そんけい/そんきょう・天台僧) → 在列(ありつら・橘、詩人) B 1 0 8 0
尊敬(そんけい/そんきょう;法諱) → 守澄親王(しゅちやうしんのう、天台座主) 2 1 7 2
尊経(そんけい;法諱) → 尊経(そんきょう;法諱、僧正/歌人) F 2 5 2 8
遜卿(そんけい・円山/丸山) → 学古(がくこ・円山/丸山まるやま、医/儒者) J 1 5 7 7
遜卿(そんけい・森寺) → 常安(つねやす・森寺もりでら、廷臣/歌) E 2 9 0 8
村径(そんけい) → 村径(むらみち・武田、俳人) D 4 2 2 1
村継(そんけい・宮部/宮原) → 村継(むらつぐ・宮原/宮部、詩人) D 4 2 1 6
村継(そんけい・片倉) → 鬼子(きし・片倉かたくら、邑主/俳人) B 1 6 1 9
尊経堂(そんけいどう) → 羅山(らざん・林はやし、幕府儒官祖;幕政) 4 8 0 2
- L2533 **尊賢**(そんけん;法諱、興福寺法印円経えんきやう男/俗姓;藤原)?-? 鎌倉期;園城寺の僧/法印大僧都、

歌人：1237刊[檜葉集]入(父は10余首入)、範玄僧正(1137-99)孫、
宗誉(興福寺法印大僧都)・宗懷(興福寺別当僧正)の兄弟、
房瑜(園城寺靈鷲院法印大僧都)・範憲(1247-1339興福寺大僧正)の父、
[はらからに侍りける人のもとより奈良のうちぎきこそいできたるよしきこゆれ、
このゆかり《朽》人までいりたるとかやなむ申しつか《朽》たりけるかへり《朽》、
ならのはの風のたよりのおとづれをよそにきくべき身とやおもひし](檜葉；雑915)

- E2578 **巽軒**(そんげん・志賀しが、名；憲古のりひさ、杉森憲章男) 1832-79 48 筑後柳河藩士、儒者；木下韃村いそん門、
さらに塩谷しおのや宕陰とういん門、柳河藩右筆/評定所吟味役/1869藩校文武館教授、
筑後三池の銀水義塾で教授、国学；西原晁樹あさき門、「日本書紀註釈」著、家集、
[巽軒(；号)の通称/別号]通称；一郎/退蔵、別号；喬木たかき
- F2531 **尊賢**(そんげん；法諱、矢島政房男) 1749-1829 81 参議今城定興の猶子、尾張の真言僧；濟遍門、
1760(宝暦10)石山寺密蔵院で尊濟の戒師で出家/63権律師/67尊濟より伝法灌頂を受、
1777濟遍より石流印可を受、1797(寛政7)僧正、1787-1801[石山寺一切経]折本改装実施、
晩年；石山寺内に知足庵創設し退隠、
1776(安永5)「石山寺蔵中聖教目録」77「石山寺年代記録」1809「石山寺座主伝記」、
1810「石山要記」1819「三十帖策子由来」、「石流血脈集」「石山僧宝伝」「発揮拾遺編」、
「石山靈迹集」「石山庵記」「知足庵日記」「知足庵隨筆」著、歌；[鳩のうみ]入、
[尊賢(；法諱)の号/通称]号；知足、通称；知足庵僧正/足庵僧正
- 遜軒(そんげん・大地) → 東川(とうせん・大地おち、儒者) G 3 1 1 2
損軒(そんげん・貝原) → 益軒(えきげん・貝原、藩士/儒者) 1 3 0 6
村賢(そんげん・むらかた・伊達/土井) → 利徳(としなり・土井い、藩主/歌人) N 3 1 3 3
村頭(そんげん・田村) → 村頭(むらあき・田村たむら/伊達、藩主) D 4 2 8 8
尊賢(そんげん・匹野) → 尊賢(たかかた・匹野ひさの/岡野、組頭役) Z 2 6 2 1
- F2532 **尊玄**(そんげん；法諱、尾張僧都) 1143-? 1218 存 東大寺の華嚴僧；戒壇院の弁曉門；華嚴を修学、
具舍論に精通、1190より東大寺の毎日講を始めて[華嚴経孔目章]を講ず、
1190-95「華嚴経孔目章抄」、「華嚴経探玄記鈔」「華嚴経光宅疏抄」著
- E2580 **尊玄**(そんげん；法諱、通称；真如金剛、洞院公敏男) 1334-? 1396 存 母；源為守女、伯父洞院公賢養子、
天台僧；青蓮院尊円親王門/1350灌頂を受、日吉別当/東南院管領/雲林院別当/無動寺別当、
横川長吏/西塔院主/法性寺座主/天王寺三昧院別当を歴任、権大僧都/のち大僧正、
1396(応永3)足利義満の怒りを買って所領すべてを尊勝院忠慶に譲渡、
1350「胎記供養会」51「秘々中深秘胎金」、「仏眼深秘」「仏眼深秘初行」「十八道記初行」、
「南無阿弥陀仏」「不動立印記」「不動立印記初行竹」「法華深香」「金深秘私」外著多数、
歌人/勅撰3首；新千載(916)新後拾遺(1434)新続古今(1885)、
[底清きわが谷河の末うけて心の水のなど濁るらん](新千載；积教916)
- F2533 **尊源**(そんげん；法諱) 1538 - ? 1560 存 天台僧；良舜法印門？、
1560(永禄3)「五味義抄法華経主私」
- 尊源(そんげん；法諱) → 尊深(そんしん；法諱、僧正/歌人) E 2 5 9 4
- E2581 **存古**(そんこ・石原いしはら、名；助給) 1732-1806 75 尾張藩士/犬山城主成瀬家の家臣、
故あり名古屋城北中杉村に退隠、俳人；白梵庵馬州門、
1800(寛政11)「俳諧線車大成」編、04「はまひさし」編、
[存古(；号)の通称/別号]通称；六之右衛門、別号；存古斎/唯阿、法号；存古斎向西入道
- F2534 **存固**(そんこ/ぞんこ) ? - ? 俳人；蕪村門/金福寺芭蕉庵落成記念俳諧の連衆、
1782蕪村「花鳥篇」1句入、
[途とに晴て猶せかるゝや雨の花](花鳥篇；69/途中で晴れて一層心がつのる)
- 尊悟(そんご・梶井宮) → 応胤親王(おういんしんのう、天台僧/歌人) C 1 4 3 1
存古庵(そんこあん) → 大梅(たいばい・中西、伊勢屋、俳人) K 2 6 9 5
- F2535 **尊皓**(そんこう；法諱・像阿；号、通称；他阿上人) 1427-96 70 時宗僧；相模藤沢の清浄光寺住持、
1471(文明3)遊行19世を継嗣、連歌；兼載・宗祇らと京の金光寺七条道場で一座；、
1492「何路百韻」「山何百韻」など、「他阿宗祇何椿百韻」、新撰菟玖波集4句入
- F2536 **尊行**(そんこう・二宮にのみや、尊徳男) 1821-71 51 相模栢山村の農政家；父門、父の遺業を継嗣、

幕府普請役；農村復興に尽力、維新後磐城相馬に招聘；門弟富田高慶と相馬振興に尽力、
「御切米御扶持諸手当請取方控」著

- F2537 **尊光**(そんこう;法諱) ? - ? 江後期丹後峰山の真言宗増長院住職、
「風俗問状答」編(：屋代弘賢の依頼に応じ探誉と峰山の風俗を筆録)
村候(そんこう・伊達) → 村候(むらとき・伊達だて、藩主/改革/歌) D 4 2 1 7
村幸(そんこう・伊達) → 村幸(むらゆき・伊達だて、領主/歌人) D 4 2 2 4
存孝(そんこう;法名) → 頼貞(よりさだ・土岐とき/源、武将/城主/歌人) I 4 7 6 2
存耕(そんこう;道号) → 祖黙(そもく;法諱・存耕、臨濟僧/詩人) L 2 5 3 5
存耕庵(そんこうあん) → 杉風(さぶふう・杉山、魚問屋/俳人) 2 0 5 6
樽巷郎(そんこうろう) → 珪琳(けいりん・松本、俳人) 1 8 9 4
存古齋(そんこさい・石原) → 存古(そんこ・石原いしはら、武士/俳人) E 2 5 8 1
尊悟親王(そんごしんのう) → 応胤親王(おういんしんのう、天台座主/歌) C 1 4 3 1
存古堂(そんこどう) → 直胤(なおたね・千葉、国学者) B 3 2 6 3
- E2582 **遜齋**(そんさい・北沢きたざわ、名;就将/通称;新吾) 1706-8883 京の漢学者、就正の養父、
火災により典籍悉く焼失;失意のうちに没、1760「小学講義」、「易学啓蒙講義」著、
「祭祀来格説口義」、「性論明備録講義」著、「大学序」編
- F2538 **損齋**(そんさい・田辺たねべ、名;希元/字;子善、晋齋男) 1721-8363 仙台藩儒;家督、1780「山松の梢」編
[損齋の通称/別号]通称;良輔/喜右衛門、別号;東里、諡号;黙成先生、養嗣子;簡齋(かんさい)
- E2583 **巽齋**(そんさい・木村きむら、名;鶴/孔恭) 1736-180267 代々大阪北堀江の酒造業;坪井屋、
蘭学/本草学;津島桂庵・小野蘭山門、画;僧鶴亭・池大雅門、篆刻;芙蓉門/詩文;片山北海門、
詩社混沌社友、奇書蒐集、詩合主催、酒釀造違反/文具商に転向、「山海名産図絵」、
「本草綱目解」「本草紀聞」「花譜」、「兼葭堂奇題集」「兼葭堂日記」「兼葭堂詩」「巽齋詩草」、
自邸に珍書・奇書・骨董を蒐集;文人墨客多数が訪問、
[巽齋の字/通称/別号]字;千里/世肅、通称;吉右衛門/多吉郎、
別号;兼葭堂(けんかどう)(初世)、遜齋、屋号;坪井屋、石居せききよ(2世兼葭堂)の養父
- F2539 **遜齋**(そんさい・加古川かこがわ/本姓;糟谷、名;周之) 1747-181771 播磨加古川の医者/儒者、
京阪で朱子学を講ず/のち伊藤仁斎の古義学を修学、江戸で医業、医を捨て専ら儒を教授、
「高識伝」編、「書名考」「陳氏図」「論孟外説」「顧言堂叢書」著、
[遜齋(；号)の通称/別号]通称;周蔵、別号;顧言/麿川(げいせん)
- F2540 **巽齋**(そんさい・山口まぐち、名;重周、山口重迪男) 1804-5855 若狭小浜の儒者;藩儒の山口菅山門、
菅山(父重迪の従兄弟)の養嗣;家学継嗣、小浜藩儒;江戸藩邸学問所教授;子弟教育に尽力
1835「論語講義」、「書集伝筆記」著
- F2541 **遜齋**(そんさい・小倉おぐら、名;実敏(さねとし、内藤之茂男) 1805-7874 萩藩儒小倉実光の養子/長門萩藩儒、
藩校明倫館に修学/助講/1827江戸の安積良斎・佐藤一斎門/帰郷後藩主侍読、
江戸藩邸の有備館の学制制定/明倫館学頭/奥番頭格、「服忌会正義」著、
[遜齋(；号)の字/通称]字;公修、通称;尚蔵
- F2542 **遜齋**(そんさい・伊東いとう、名;長生、長寛男) 1813-8270 父は備中岡田藩主、書家;篆隸に長ず、
「書経集伝師説」編、
[遜齋(；号)の字/通称/別号]字;鶴夫、通称;連之助、別号;含丹楼主人
- F2543 **遜齋**(そんさい・巽たつみ、名;世大) 1822-6342 江後期京の儒者;斎藤拙堂・森田節齋門、
1863(文久3)「遜齋文鈔」著、
[遜齋(；号)の字/別号]字;耀文、別号;羅城
- 遜齋(そんさい・奥平) → 小太郎(こたろう・奥平、藩士/儒/勤王) N 1 9 0 5
遜齋(そんさい・片桐) → 貞信(さだのぶ・片桐かたぎり、藩主/茶人) J 2 0 1 9
遜齋(そんさい・岡本/丘本) → 思純(しじゅん・丘おか、医者/儒者) D 2 1 9 6
存齋(そんさい・貝原) → 元端(げんだん・貝原、儒者/歌人) C 1 8 6 2
存齋(そんさい・奥宮) → 暁峰(ぎょうほう・奥宮おくみや、儒/書家) I 1 6 8 2
存齋(そんさい・佐藤) → 定静(さだしず・佐藤さとう、藩士/儒/国学) O 2 0 5 1
存齋(そんさい・松前) → 崇広(たかひろ・松前、藩主/兵庫開港) N 2 6 1 1
尊濟(そんさい・法諱) → 永尊親王(えいそんしんのう、門跡/歌) 1 3 4 0

- 存策(そんさく;法諱) → 魯山(ろざん;道号・存策、曹洞僧) C 5 2 7 0
 孫三(そんさん;通称・加藤) → 豈苟(かいかう・加藤かとう、儒/神道家) I 1 5 6 3
 尊算(そんさん/たかかず・千家) → 尊茂(たかしげ・千家せんげ、国学者/歌人) X 2 6 8 0
 巽山(そんざん・曾/深川) → 湖十(初世こじゅう・曾/深川、俳人) 1 9 3 1
- F2511 尊子(そんし、藤原道長女、源師房室) ?-? 平安後期歌人、1043?源大納言師房家歌合;2首入(上名)、
 [うちむれて沢辺に鶴つるのきたるかないづれの浦に潮がみつらん](師房家歌合;右8上)
- 村子(そんし・池田) → 村子(むらこ・池田いけだ/伊達、藩主室/歌) D 4 2 6 5
 村司(そんし・小本) → 政常(まさつね・小本おもと/金田一、藩士/国学) O 4 0 2 2
 村資(そんし・伊達/田村) → 村資(むらすけ・田村/坂上/伊達、藩主/茶道) 4 2 1 7
 遜志(そんし・根本) → 武夷(ぶい・根本、儒者) 3 8 3 0
 遜志(そんし・木村) → 愚山(ぐざん・木村きむら、藩士/儒者) C 1 7 0 5
 遜志(そんし・郡山) → 遜志(やすし・郡山こおりやま、藩士/記録) B 4 5 6 0
 遜志(そんし・野村) → 遜志(のぶもと・野村のむら、国学者) J 3 5 5 6
 遜之(そんし・田中) → 箕山(きざん・田中たなか、儒者/詩/書) K 1 6 7 2
 存之(そんし・原) → 斗南(となん・原はら、儒者) O 3 1 6 2
 尊之(そんし・千家) → 尊之(たかゆき・千家せんげ、国造/国学/歌) X 2 6 8 2
 樽次(そんじ・地黄坊) → 春朔(しゅんさく・茨木、仮名草子) J 2 1 7 5
 村治(そんじ・小林) → 義兄(よしえ・小林/藤原、歌/博物学) C 4 7 2 4
 存芝(そんじ;法諱) → 蘭融(らんゆう;道号・存芝、曹洞僧) D 4 8 1 9
 遜志斎(そんしさい・杉山) → 熊台(ゆうだい・杉山すぎやま、藩士/儒者) D 4 6 3 7
 遜志斎(そんしさい) → 雨橋(うきつ;通称・戸原とばら、医/儒/尊王) C 1 2 0 9
 損疾(そんしつ・永井) → 星渚(せいしよ・永井/大江、漢学者) C 2 4 1 1
- F2544 尊実(そんじつ;法諱、宥尊;初法諱) 1519-8769 天台園城寺の僧/北林房・勸学院に住、
 僧正、「具舎序私」「具舎論頌疏世間品鈔」「阿毘達磨具舎論略私記」著
- 尊実(そんじつ・塚本) → 尊実(たかさね・塚本つかもと/藤原、陪臣/歌) Y 2 6 2 8
 遜志堂(そんしどう) → 晩香(ばんかう・渋江しぶえ、教育/神職) K 3 6 2 8
- E2585 尊子内親王(そんしないしんのう/たかこ、冷泉天皇第2皇女) 966-985早世 20 母;懐子(藤原伊尹女)、
 967内親王宣下、968-975(3歳-10歳) 斎院(;975母没で退下)、
 980(15歳)叔父円融天皇に入内;女御/981二品、982剃髪;985受戒、
 歌人;続古今1463(;堀河中宮[円融院皇后媼子こうし]没後に円融院に贈歌)、
 [亀の上の山を尋ねし人よりもそらにこふらん君をこそ思へ](続古;哀傷1463/蓬萊山)、
 (円融院返歌;1464尋ぬべき方だにもなき別れには心をいつちやらむとぞ思ふ)
 [尊子内親王の名/通称]名;尊子たかこ、通称;承香殿じょうきょうでんの女御/火の宮(;栄花・大鏡入)
 母 → 懐子(かいし/かねこ・藤原ふじわら、花山天皇母/歌) S 1 5 0 1
- 尊者(そんじや・禅定院) → 禅定院尊者(ぜんじょういんのそんじや、童/歌人) O 2 4 8 7
- F2545 尊寂(そんじやく;法諱) ? - ? 鎌倉南北期僧・法師/連歌作者、
 地下連歌師;京東山の鷲尾の花下連歌に参加、菟玖波集1句(発句2054)入、
 [花やこれ見ざりし滝の流れかな](菟;2054/鷲尾に始て滝を落す時花下連歌一日万句)
- K2578 村雀(そんじやく;号) ? - ? 江前期俳人;1693不角「一息」入、
 [陸奥殿の入部にゆうぶ拝みに数珠持ちて](伊達の殿様のお国入/領民は山坂越えて仙台に)
- E2586 尊守(そんしゆ;法諱) ? - ? 南北期;山城大原の天台宗西南院住僧、
 権律師/律師、歌;1350為世十三回忌和歌に出詠、勅撰;1359成立[新千載集]609、
 [移り行く雲間くまの日影照りもせずくもりもはてぬむら時雨かな](新千載;冬609)、
 [めぐりあふ十とせあまりの秋の月見し世のかげを又したふかな](為世忌;130/懐旧)
- 存首(そんしゆ;字) → 日貞(にってい;法諱・善慧院、日蓮僧) F 3 3 3 2
 存守(そんしゆ・内藤) → 存守(ありもり・内藤ないとう、神職/国学) F 1 0 9 0
 村寿(そんじゆ・伊達) → 村寿(むらなが・伊達だて、藩主/記録) D 4 2 4 6
 尊寿院少輔法印(そんじゆいんしょうゆうほういん) → 印玄(いんげん;法諱、天台僧) I 1 1 5 2
- F2546 尊秀(そんしゆう;法諱) ? - ? 1530存 戦国期上州世良田の天台宗長楽寺住僧、

「蓮華流灌頂聞書」「灌頂秘見聞」著

- E2587 **尊什**(そんじゆ;法諱、清水谷長嗣男)?-? 1332存 藤原実重の養子、天台僧;天台座主公什門、般若院に住/日吉別当/法性寺座主、横川長吏/僧正/大僧正に至る、歌人、勅撰3首;風雅(1599)新千載(1007)新拾遺(1824)、
[さえとほる霜夜の空のふくるままにこほりしづまる月の色かな](風雅;雑1599)
- F2547 **村重**(そんじゆう;法諱) ? - ? 僧侶;法眼、連歌;1356成立「菟玖波集」2句入、
[隠れ家の山と思ふに道ありて](菟;雑1557/前句;花のころとや人のとふらむ)
孫重(そんじゆう・赤塚) → 孫重(まごしげ・赤塚あかつか、神職/歌人) N 4 0 0 5
遜叔(そんじゆく・三条) → 実美(さねとみ・三条/転法輪三条、尊攘/歌) L 2 0 0 6
- F2548 **尊守親王**(そんしゆしんのう、法諱;尊守、高橋宮、土御門天皇皇子) 1210?-6051? 母;法橋覺宴女、
1221天台宗妙法院門跡の尊性親王門、妙法院門跡継嗣、1243後嵯峨天皇の護持僧、
「諸尊集」著
- F2549 **尊舜**(そんじゆん;法諱、のち法諱;亮尊) 1451-151464 常陸那珂郡友部の天台僧;月山寺尊叡門;出家、
のち明応1492-1501頃常陸月山寺4世/晩年;常陸河内郡黒子の千妙寺8世、
慧心・檀那両流に通ずる学説主唱、「天台三大部見聞」「三惑同断」「覚要抄」「門要抄」外著多
- E2588 **尊俊**(そんじゆん、雪江せつこう)? - ? 戦国期の僧/歌人、土佐一条家に関わりある歌僧、
1522三条西実隆「伊勢物語直解」奥書に[土州一条末葉桑門雪江尊俊]の署名あり、
「和歌道作法条々」奥書に[一条後葉藤原桑門尊俊](書写?)が瑠璃坊堯慶宛伝える旨あり、
「一人三臣抄」奥書・1542「称名院殿(公条)句題御百首」奥書・「小点和歌」奥書にも名あり、
大永・享禄・天文1521-55頃に活動、冷泉為和の弟尊俊とは別人か?
- F2550 **存倍**(そんじゆん;法諱) ? - ? 1559存 天台僧;叡山南谷自在房の住僧、
1557「五嶽一塊集」著、「目付字書」「伝教大師廟讃句註」著
- F2551 **尊俊**(そんじゆん;法諱) ? - ? 1593存 戦国安桃期;武蔵の天台宗金鑽寺住僧、
1529「享禄二年記」31「雑秘抄末」46「義科精義集」著
- F2552 **村俊**(そんじゆん;号) ? - ? 尾張名古屋俳人;1689「あら野」2句入、
[朝鮮を見たもあるらん友千鳥](あら野;巻五)
- F2553 **尊順**(そんじゆん;法諱、通称;瑞光坊)?-? 上州勢多郡天台宗善昌寺の瑞光坊住僧、
「善昌寺縁起」著
- L2502 **尊遵**(そんじゆん;号、号;他阿/円讓) 1638-170770 陸奥の時宗光林寺住職/1695遊行上人45代、
1697藤沢上人21世、藤沢清浄光寺に没、歌人;二条・冷泉家2流修学/香川宣阿の歌の師
巽句(そんじゆん・菅) → 新菴(しんあん・菅すが、儒者) D 2 2 4 4
邨恂(そんじゆん・吉田) → 宗恂(そうじゆん・吉田、秀吉家康の医者) H 2 5 9 2
- E2590 **尊純親王**(そんじゆんしんのう、応胤親王長男) 1591-165363 母;福正院、伏見宮邦房親王の養子、
青蓮院門跡;1598入室/1603得度、1615大僧正/40親王宣下/44天台座主173世、
日光山法務を兼任/1645座主辞退/47二品/53天台座主再任、歌人;近衛信尹門、禁裏歌会参、
能書家/画も嗜む、1646「本源自性院家百首」、「尊純親王御自記」「尊純親王御記令旨集」、
「尊純親王和歌懐紙三首」「源氏詞散書浮舟」「尊純詩歌書札巻物」「青蓮院宮日記抄」外著多、
「古今夷曲集」1首入(四冬263);
[北山のかしらにかぶる雪綿や寒かゝもて寒を防ぐなるべし](雪の綿帽子で寒さを防ぐ)、
[尊純親王の法諱/諡号]法諱;尊純、諡号;円智院
尊順房(そんじゆんぼう) → 証禅(しょうぜん;法諱、華嚴僧・明恵弟) T 2 2 9 1
- K2582 **巽所**(そんじよ・八木やぎ/一字姓;米) 1771-183666 阿波の絵師;木村兼葭堂巽斎門、文人画が得意、
絵画鑑定、「山水図」(掛軸)、鉄復堂の師、
[巽所(;号)の字/通称/別号]字;孟率、通称;兵太/米迪、別号;清香書屋
村女(そんじよ) → 村女(むらじよ、俳人) 4 2 1 5
尊助(そんじよ;法諱) → 尊助法親王(そんじよほつしんのう、青蓮院門跡/歌) E 2 5 9 3
村勝(そんじよう/むらかつ・田村) → 村隆(むらたか・田村/伊達、藩主/蘭学奨励) 4 2 1 8
尊性(そんじよう;法諱) → 道法親王(どうほうしんのう;法諱、真言御室) H 3 1 2 0
尊性(そんじよう;法諱) → 尊性法親王(そんじようほつしんのう、天台座主) E 2 5 9 1
尊性(そんじよう;法諱) → 尊性法親王(そんじようほつしんのう、真言大覚寺門跡) E 2 5 9 1

- 尊昌(そんしょう・千家) → 尊昌(たかまさ・千家せんげ、国学/歌) X 2 6 8 2
 尊証(そんしょう;法諱) → 尊証法親王(そんしょうほつしんのう、青蓮院門跡/書) E 2 5 9 2
 尊昭(尊賞そんしょう;法諱) → 尊賞法親王(尊昭そんしょうほつしんのう、興福寺別当) F 2 5 5 5
 尊常(そんじょう;法諱) → 尊常法親王(そんじょうほつしんのう、一乗院僧) F 2 5 5 6
 尊勝院(そんしょういん) → 朝円(ちょうえん、天台叡山僧/歌) H 2 8 4 7
- L2532 **尊勝院福壽**(そんしょういんのふくじゅ)?-? 鎌倉期;東大寺尊勝院の童/歌人、
 1237刊[檜葉集]入、
 [深山月、
 くもれただみ山のおくの秋の月しげきこのまをいつかもりこし](檜葉;雑832)
- 尊性堂(そんしょうどう) → 益(えき・杉浦すぎうら、漢学者) D 1 3 5 9
 尊攘堂主人(そんじょうどうしゅじん) → 弥二郎(やじろう・品川しながわ、藩士/尊攘) F 4 5 1 0
 尊勝房(そんしょうぼう;字) → 一海(いっかい;法諱、真言僧) G 1 1 7 3
- E2591 **尊性法親王**(そんしょうほつしんのう、後高倉院守貞親王男) 1194-1239 46歳
 母;北白河院陳子(持明院基家女)、1209出家/天台宗妙法院入/一身阿闍梨権大僧都、
 1221親王宣下/23二品、1225四天王寺別当/27天台座主、
 1231四天王寺僧徒と対立;幕府の応援で鎮圧、1232天台座主に再任、琵琶の名手、
 1214「参横供」/1225-27「伝法日記」、「北斗講式」外著多数、
 [尊性法親王の法諱/通称]法諱;尊性、通称;綾小路
- F2554 **尊性法親王**(そんしょうほつしんのう、後陽成天皇第5皇子) 1602-51 50 母;藤大典侍局輝子(日野輝資女)、
 真言宗大覚寺門跡/1607入寺/13親王宣下/14得度/21二品/35東寺法務長者、
 「大覚寺宮光臨和歌会」「漢和三つ物」著、
 [尊性法親王の法諱/名/一字名/諡号]法諱;尊性、名;每敦としあつ、一字名;每、諡号;仏母心寺
- E2592 **尊証法親王**(そんしょうほつしんのう、後水尾天皇第11皇子) 1651-94 44 母;新広義門院国子(園其音女)、
 1653(3歳)青蓮院門跡相統/56(6歳)入室/60親王宣下/得度、69天台座主/73二品、
 書家;尊証流と称す、「空也上人絵詞伝」著、1680「仁王経法則」著/93「詩歌帖」書、
 [尊証法親王の法諱/幼名/名/字/諡号]法諱;尊証、幼名;玲瓏宮ゆらのみや、名;周賢、字;義諦、
 諡号;後桂蓮院
- F2555 **尊賞法親王**(尊昭-そんしょうほつしんのう、靈元天皇皇子) 1699-1746 48 母;藤式部局(今城定淳女)、
 1708一乗院入寺/09親王宣下;得度;尊昭、1714興福寺別当、19二品、1734尊賞に改む、
 1715-46「入道尊昭親王御日記」25「春日社造営之記」、「春日社延享造営記」外著多数、
 [尊賞法親王の法諱/幼名/名/法号]法諱;尊昭/のち尊賞、幼名;多喜宮、名;庶賢、
 法号;広莊殿院
- F2556 **尊常法親王**(そんじょうほつしんのう、名:守貴、伏見宮貞敬親王男) 1818-36 夭逝 19歳 母;一条忠良女、
 光格天皇の養子、1822一乗院尊誠親王門;附弟/1832一乗院入寺;親王宣下/得度、
 「御在洛中日記」「入道尊常親王御在洛中日記」/1835-36「入道尊常親王御日記」著、
 [尊常法親王の法諱/幼名/諡号]法諱;尊常、幼名;欽宮/能布宮、諡号;成智心院
- E2593 **尊助法親王**(そんじょうほつしんのう、土御門天皇皇子) 1217-90 74 母;尋恵法印女、青蓮院門跡/1232受戒、
 尊性親王・大僧正最守・公円門、1252親王宣下、1259天台座主82・85・90・95世を重任、
 その間宮中で護持僧;度々大法を修す、後嵯峨・後深草院出家の戒師/二品、
 1236「六観音合行私記」67「京極宮佶子御産記」、歌人/勅撰2首;玉葉(2699・2714)、
 [あきらけき聖ひりの御代にふたかへり心の玉をまたみがくかな](玉葉;釈教2699)、
 [尊助法親王の法諱/通称]法諱;尊助、通称;大原宮
- E2594 **尊深**(そんしん;法諱、尊源そんげん;別法諱)?-? 鎌倉期僧;権僧正、鎌倉住?、歌;新後撰1416、
 [よしさらばあるにまかせてすぐしてん思ふにかなふうき世ならねば]、
 (新後撰;雑1416/尊源名)
- L2530 **尊信**(そんしん;法諱、九条教実のりぎね[1210-35]男) 1226-83 58 鎌倉期法相宗興福寺僧;
 菩提山大乗院の円実・専英門、大乗院門跡/興福寺別当兼;長谷寺別当/大僧正、
 忠家・濟助・彦子(宣仁門院/四条天皇妃)の兄弟、1283(弘安6)没、
 ☆1237素俊撰[檜葉集]5首入の法眼尊信と同一?、
 [あふみなるくちきの杣のふる柳これもさかりはありしものなり](檜葉;春20)

[待ちわびてゆふべの空をながむれば雲もなみだも色かはりつつ](檜葉:恋433)

- E2595 **尊親**(そんしん;法諱、) ? - ? 鎌倉期僧;法師、歌:1295「伊勢新名所歌合」参加、
続千載1188、1310[柳風抄]入、
[難波江や葦間あしがくれの身をつくし逢ふよさはらぬしるしともがな](続千;恋1188)
[ながき夜のこゑのたえまやなく鹿のわが身にまくる思ひなるらし](柳風抄;秋90)
- F2557 **尊信**(そんしん;法諱、近衛植家男/本姓;藤原)?-1588 真言宗大覚寺門跡/1558孝海僧正より灌頂受、
大僧正、准三宮、連歌作者;1572(元龜3)紹巴宗旦らと「何人百韻」一座、
1573細川幽齋と催行「大覚寺千句」([秋]名)、「大覚寺義性靈鷲院僧正等何船百韻」、
紹巴と百韻;1575「何人百韻」81「何路百韻」85「何木百韻」/羽柴秀吉と1585「何路百韻」など、
[咲てちる梅におどろくむかし哉](大覚寺千句の発句)、
[尊信(;法諱)の初法諱/一字名/法号]初法諱;義性ぎしょう、一字名;秋あき、法号;善住院
- F2558 **存心**(そんしん/ぞんしん;法諱)? - ? 安桃期天台僧;近江大津東南寺の豪仁説法を浄書、
内供奉、法印、1588「七社略記戸津説法法楽」著
- F2512 **存心**(そんしん;法諱) ? - ? 江戸初期、築後の定林寺和尚、軍記「大友記」著?
- F2559 **存真**(そんしん、大河内おこうち、名;重敦/重徳、西山玄道長男)1796-1883 88 名古屋の医者;実父門、
尾張藩医の大河内周碩の養嗣子、1818養父を継嗣;小普請医師/のち奥医師、
医学;浅井貞庵門/本草学;水谷豊文門/熱田でシーボルトに面会、
同志と博物会開催;嘗百社設立、1827「本草会目録」28「灌園余録」著、
[存真(;通称)の字/別通称/号]字;子厚、別通称;道濟、号;恒庵/還諸子/八松/東郭/生濟堂
- 尊真(そんしん) → 泉尊法親王(こうそんほつしんのう、天台僧/南朝歌人) B 1 9 6 4
尊眞(そんしん;法諱) → 尊眞親王(そんしんしんのう、青蓮院門跡) F 2 5 6 0
存心(そんしん;字) → 亮快(りょうかい;法諱・存心、真言学僧) G 4 9 7 5
存心軒(そんしんけん) → 道祐(どうゆう・福住、医/伝記/蔵書) H 3 1 6 3
- F2560 **尊眞親王**(そんしんしんのう、伏見宮貞建親王4男)1744-1824 81 桜町天皇の養子、青蓮院門跡、
1750一乗院相統/52青蓮院相統/親王宣下、53入室/得度、64天台座主/85一品、16准三宮、
1774「桜町院尊儀二十五回御経供養法則」89「入木道十七条之口決」90「入木抄口決」著、
[尊眞親王の法諱/幼名/名/字/諡号]法諱;尊眞、幼名;喜久宮、名;成輔、字;良璠(りょうはん)、
諡号:施無毘王院(せむいおういん)
- F2513 **村水**(そんすい・麦穂庵、小林こばやし、名;忠七)?-? 江中期相模荻野刃物研業/俳人、
芹江(きんこう・2世麦穂庵/1757-1819)の父、1766「さがみぶり」入、1773「器うつわの水」編
- 孫水(そんすい・山川) → 元輔(もとすけ・元助もとすけ・山川、儒/和算/教育者) C 4 4 7 4
- F2514 **尊勢**(尊政そんせい;法諱、太政大臣近衛前久男/本姓;藤原)1563-1616 54 一乗院門跡/大僧正、
法務/興福寺別当/准三宮、歌人/連歌、慶長1596-1615頃の奈良連歌界の重鎮、
禁中の歌会・連歌会参加、和漢漢和聯句集「石鼎集」入(;1585発句詠)、
1585-1616(天正13-元和2)頃百韻多数;1598昌叱と「花之何百韻」/1601紹意と「何人百韻」、
1605冬隆と「何人百韻」/07勢与と「何人百韻」/14玄仲祐範と「三吟何木百韻」など、
[咲く比は花のゆるさぬ心哉](石鼎集;1585[天正13]作)、
[尊勢の号/一字名]号;大往院、一字名;楊
- F2515 **孫成**(そんせい) ? - ? 江中期俳人
1754潘山(百子)「しぐれの碑」(;貞因25回忌・貞峨[紀海音]13回忌追善集);六々韻入、
[高津のや冬も樹たちきの花づくし](しぐれの碑:発句/貞峨は高津法橋という)
- 村成(そんせい・伊達) → 村成(むらしげ・伊達だて、藩士/武術) 4 2 1 4
村盛(そんせい・坂井) → 村盛(むらもり・坂井さかい、武将/連歌) D 4 2 2 3
巽生(そんせい・安田/山県) → 璣(たまき・山県/宍戸、藩士/儒者) S 2 6 2 3
尊成(そんせい/たかふさ;親王) → 後鳥羽天皇(ごほとんのう、承久乱/歌人) 1 9 3 7
尊省(そんせい;名) → 尊道親王(そんどうしんのう、天台座主/歌人) F 2 5 0 0
尊晴(そんせい・千家) → 尊晴(たかはら・千家せんげ、国学者/歌人) X 2 6 8 1
存正(存誠そんせい・谷) → 三山(さんざん・谷たに、儒者) F 2 0 8 5
存誠齋(そんせいさい・林) → 洞海(どうかい・林はやし、蘭医者) C 3 1 0 6
孫石(そんせき) → 月溪(げつけい・村松、俳・絵師) B 1 8 0 4

- 異泉(そんせん・室谷) → 賀世(よしつぐ・室谷むろたに、商家/国学者) E 4 7 6 9
 尊宣(そんせん・源/大中臣) → 尊宣(たかのぶ・饗庭/大中臣/源、武将/歌人) M 2 6 6 6
 尊宣(そんせん・饗庭あえば) → 尊宣(たかのぶ・饗庭、武将/歌人) M 2 6 6 6
 尊禅房(そんぜんぼう) → 幸円(こうえん; 法諱、真言律僧) H 1 9 6 0
 孫惣(そんそう・荏戸) → 政共(まさとも・荏戸のぞき、藩士/和学者) R 4 0 5 3
 異窓(そんそう) → 湖十(2世こじゅう・村瀬、俳人) C 1 9 8 3
 異窓湖十(そんそうこじゅう) → 湖十(2世こじゅう・2世村瀬、俳人) C 1 9 8 3
 尊孫(そんそん・千家) → 尊孫(たかひこ・千家せんげ、神職/歌人) D 2 6 5 3
 F2561 村存(そんぞん; 法諱) ? - ? 僧侶/連歌作者、1356成立「菟玖波集」1句入、
 [山までも跡はとめじの心もて](菟; 雑1450/前句; なにかはさのみうき世なるらむ)
 存々斎(そんそんさい) → 振洋(しんよう・上甲じょうこう、藩儒/教育) Q 2 2 0 1
 巽々坊(そんそんぼう) → 風光(ふうこう・和知、俳人) 3 8 5 8
 存泰(そんたい・渡辺) → 弘堂(こうどう・渡辺わたなべ、儒者) K 1 9 8 0
 存琢(そんたく; 字) → 日述(にちじゆつ; 法諱・生知院、日蓮僧) C 3 3 2 2
 遜太郎(そんたろう・秋山) → 遜(そん・秋山あきやま、儒者/藩儒) B 2 5 4 0
 尊智上人(そんちしょうにん) → 湛照(たんしょう; 法諱・東山: 道号、臨濟僧) I 2 6 3 7
 F2562 尊忠(そんちゅう; 法諱) ? - ? 安桃期天台宗園城寺僧; 吉田山別当/僧正、
 1554(天文23)「具舍宗由来」著
 存中(そんちゅう・奥山) → 鳳鳴(ほうめい・奥山おくやま、儒者) C 3 9 5 6
 E2596 尊朝(そんちよう; 法諱) ? - ? 室町期山城高雄尾崎坊の住僧/歌人、
 1509「高雄尊朝詠草」著
 尊澄(そんちよう; 法諱) → 宗良親王(むねながしんのう、天台僧/南朝将軍/歌) 4 2 0 8
 尊澄(そんちよう・千家) → 尊澄(たかすみ・千家せんげ、神職/国学) C 2 6 9 2
 尊朝(そんちよう・源) → 尊朝(高朝たかとも・源、連歌作者) M 2 6 4 4
 尊朝(そんちよう; 法諱) → 尊朝親王(そんちようしんのう、青蓮院門跡/書家) 2 5 3 3
 尊朝(そんちよう・千家) → 尊朝(たかとも・千家せんげ、歌人) D 2 6 2 7
 尊超(そんちよう; 法諱) → 尊超親王(そんちようしんのう、浄土知恩院僧) F 2 5 6 3
 尊超院(そんちよういん; 号) → 湛浄(たんじよう; 法諱・真宗僧/国学) Y 2 6 1 7
 2533 尊朝親王(そんちようしんのう、名; 嶺、伏見宮邦輔親王6男) 1552-97 46 正親町天皇の猶子、
 1555青蓮院門跡、1558(7歳)入室/62得度; 覚怨・亮信門、63親王宣下/65四天王寺別当、
 織田信長の焼討で荒廃した延暦寺復興に尽力/1585天台座主167世、歌/連歌、能書家、
 「から崎の松の記」「青蓮院宮日記抄」「尊朝親王御日記」「墨池掌譜」著、
 「尊朝親王独吟何木百韻」、1588「手習十三ヶ条記」94「雑筆集」著、「瀟湘八景詩歌」書、
 「詩歌御色紙」「青蓮院宮尊朝親王御筆御手本類」「尊朝親王書蹟」書、外著作・書多数、
 「古今夷曲集」1首入(四冬282)
 [年の矢のかぶらもたけて春はたゞ障子一への隔てなりけり]、
 (矢の如き年/鏑と蕪・障子と蕪のす[筋膜]を掛る)、
 [尊朝親王の法諱/号/諡号]法諱; 尊朝、号; 序菊、諡号; 竜池院
 F2563 尊超親王(そんちようしんのう、名; 福道、有栖川宮織仁親王男) 1802-52 51 光格天皇の養子、
 将軍家斉の猶子、浄土僧; 1805知恩院を相続/10(9歳)親王宣下/入寺; 得度、修学、
 のち宮中で進講、仁孝・孝明天皇に十善戒を授与、1852一品、数度関東に下向、
 文筆/彫刻に長ず、1834「山里一覽記」42「浜の真砂」43「吹上能道記」著、
 「花頂王浜苑詩歌及紀行」著/「紅梅図」画、
 [尊超親王の法諱/幼名/法号]法諱; 尊超、幼名; 種宮、法号; 大光明院
 尊澄房(そんちようぼう) → 耀空(ようくう; 法諱、浄土西山派僧) 4 7 7 0
 尊澄法親王(そんちようほつしんおう) → 宗良親王(むねながしんのう) 4 2 0 8
 E2598 尊珎親王(尊珍-そんちんしんのう; 法諱、龜山天皇皇子) 1305-? 母; 従三位資子、後醍醐天皇の猶子、
 聖護院門跡; 1326灌頂を受/園城寺長吏; 2度就任、准三宮、1330越前に配流; 没、
 歌人; 続現葉集入集、続後拾遺(571)、
 [寄る波も荒き磯辺の松が根にむすぶ枕の夢ぞみじかき](続後拾; 離別571)、

- E2597 **尊鎮親王** (そんちんしんのう、名;清彦、後柏原天皇第3皇子) 1504-5047 母;豊楽院教子(勸修寺教秀女)、青蓮院門跡;1512(9歳)入室/14親王宣下/18得度、1523門跡を辞退;隱棲、1541天台座主/四天王寺別当、歌人;常光院流を伝承/法華經歌勸進、/能書家、没後;二品、1524「真如堂縁起」書/27「愚現抄」著/36「東大寺大仏殿縁起」書、「梨花抄」「尊鎮親王自記」、「尊鎮親王詠草」「桂蓮院実御手本」著、外著作・書多数、
[尊鎮親王の法諱/一字名/諡号]法諱;尊猷/尊鎮、一字名;悪、諡号;桂蓮院
孫槌(そんつゐ・世良) → 利貞(としさだ・世良せら、藩士/国学) M 3 1 4 9
- E2599 **尊通** (そんつう;法諱、号;柘庵(しやあん/一葉) 1427-151690 天台宗園城寺学僧/権僧正、園城寺南泉坊住、北林坊住/1509園城寺別当/11大学頭、一休宗純に参禅、園城寺学徒としての撰述多数、歌人;三条西実隆に百首和歌独吟の合点を請う、「雑談口実記」編、「科目專愚鈔」著、「水乳合和文集」「授決集音義」「七喻義」「童稚抄」「禿丁記」「園城寺伝記」「未来記」著、1484大伴広公「温故知新書」の序/1497「菩提心論愚疑」1514「声句記」著、外編著多数
- F2564 **尊通** (そんつう;法諱、号;量光) 1640-9556 時宗;44代遊行上人、羽前山形の光明寺24世、1688(元禄元)持阿良心撰の一遍法語集「播州問答集」刊行に尽力、その注釈書「播州問答領解鈔」執筆を始める、1692(元禄5)相模藤沢で遊行相続、1694「領解鈔」第七卷以降を廓竜に委嘱、1695日向光照寺に賦を算す;発病し船で播磨へ、播磨兵庫の真光寺に没、「播州問答領解鈔」は没後1704(元禄17)完成刊
- F2565 **遜亭** (そんてい・森もり/本姓;源、名;時言) ?-? 江後期京寺町今出川北の儒者、「冥鴻余稿」編、[遜亭(;号)の字/通称]字;子行、通称;興平
- F2566 **存貞** (そんてい;法諱、俗姓;大導寺/本姓;平) 1522-7453 北条氏家臣大導寺政繁の甥、相模小田原の浄土僧;伝肇寺で出家/江戸芝増上寺の天啓門/下総飯沼の弘経寺祖洞門、1558招請され川越蓮馨寺の開山;檀林の基礎を築く、1563増上寺10世;66退隱、関東一円に数か寺開創、浄土宗の伝法を改革;簡略伝法を創唱、「深草問答」「回向問答」「回向窮原」「灌仏会略記」「感誉壁書」「伝法指南書」著、
[存貞(;法諱)の法名] 鎮蓮社/感誉/願故
巽亭(そんてい・奥田) → 鶯谷(おうこく・奥田、儒者) C 1 4 1 0
付貞(そんてい;字) → 日孝(にちこう;法諱・智静院、日蓮僧) B 3 3 8 4
村典(そんてん・片倉) → 鬼子(きし・片倉かたくら、邑主/俳人) B 1 6 1 9
- F2567 **尊伝親王** (そんでんしんのう、後土御門天皇第2皇子) 1472-150433 母;蒼玉門院源朝子(庭田長賢女)、天台宗青蓮院門跡、1476親王宣下/84青蓮院入室/88得度;尊応准后門/法嗣;1493法器にあらざとして寺を出て隱遁、連歌作者;1498「何人百韻」/99「何船百韻」、新撰菟玖波集6句入、
[尊伝親王の名/法諱/号]名;尊敦、法諱;尊伝、号;不遠院(宮)
- F2568 **存統** (そんとう;法諱) ? - 1832 江戸深川靈巖寺の浄土僧;眞梁・貞嚴門、1809円通窟で修学/学頭となる、1832幕命で三河松応寺住職、天文地理に長ず、「靈巖上人伝記」校、「須弥山図」「世界大相図」「閻浮提日宮図」著、
[存統(;法諱)の字/法名]字;円通/十故、法名;輪蓮社/転誉/覚阿
存道(そんどう;字) → 日勇(にちゆう;法諱・本義院、日蓮僧) D 3 3 3 7
- F2500 **尊道親王** (そんどうしんのう、名;尊省、後伏見天皇皇子) 1332-140372 母;正親町実明女、1341親王宣下、青蓮院門跡尊円親王門;得度、天台学;弁静・静範門/1355天台座主134世、56青蓮院門跡、1365/95両度天台座主に還補/1395一品、能書家、「伝受日記-暦応四年1342七月卅日」著、1362「念仏五悔講法則」、「戒壇疏」「尊道親王仮日記」、1396「尊道親王記」外著多数、歌人;1357(延文2「尊道親王百首」著、延文百首・永和百首入、勅撰21首;新千載(362/1402/2099)新拾(207/1125/1482/1523)新後拾(8首)新続古(6首)
[したにこそ通ひしものをいかにしてにほの浮巢の浮き名立つらん]、
(新千;恋1402/延文百首;880/寄鴉恋)、
[尊道親王の法諱/通称]法諱;尊道、通称;妙香院宮/後青竜院宮
参考 青竜院宮(せいりゅういんのみや) → 慈道法親王(じどうほつしんのう、歌人) F 2 1 2 9
- F2501 **尊徳** (そんとく/たかひ・二宮にのみや、利右衛門男/母;よし) 1787-185670 相模栢山村の農家;早く父母没、伯父に養育;農事に励む/1806(20歳)生家再興、農政家/1812小田原藩家老服部家の若党;

1818服部家の依頼で財政を再建/22藩主の命で下野桜町領の再興;六百五町村を復興、1842幕府の普請役格;利根川分水路調査/44日光神領荒地開拓調査;仕法を作成、報徳教を創立;門人富田高慶・福住正兄らに報徳作法の実施・原理を教授、尊行の父、「小田原仕法」「青木村仕法」「烏山仕法」「報徳訓」「一体三行録」「三才独楽集」「讓奪辨」、1822-56「二宮尊徳日記」1844「農家大道鏡」「大数減量鏡」「三種配当有定鏡」、外著多数、[尊徳(たかひり;名)の通称/法号]通称;金次郎、法号;誠明院、【そんとく】は一般の呼称

尊徳(そんとく・吉野) → 尊徳(たかひり・吉野よしの/村田、国学者) 2 7 3 2

尊敦(そんとん;名) → 尊伝親王(そんでんしんのう、天台青蓮院門跡/連歌) F 2 5 6 7

巽二坊(そんにぼう・和知) → 風光(ふうこう・和知、俳人) 3 8 5 8

F2569 尊任(そんにん;法諱、俗姓;佐藤) 1625-9167 佐渡宿根木の時宗僧;大願寺の見林門、1668遊行相続;42代、諸国巡錫/1672参内;南朝門流を主張/大僧正/79幕府より僧正席允許、1683相模清浄光寺に帰入独住/87後醍醐天皇の法要/上洛;緋衣参内、1668・84「遊行上人紀行」著、[尊任(;法諱)の号]南門/他阿弥陀仏

村任(そんにん・伊達) → 村和(むらより・伊達だて、領主/歌人) D 4 2 2 5

村年(そんねん・伊達) → 村年(むらとし・伊達だて、藩主) D 4 2 8 9

F2502 尊応(そんおう;法諱、後十楽院;号、一字名;霞、関白二条持基男) 1432-151483 青蓮院門跡、1437入室、1442得度出家、1452大僧正/65准三宮、天王寺別当/1471天台座主160世/93辞任、1505「栗田口猿楽記」13「鞍馬蓋寺縁起」、「猿楽記」「護持僧記」著、「浄阿上人絵詞伝」書、歌/連歌作者、1466尊応百首、「廿八品歌」著、新撰菟玖波集8句入

F2570 尊能(そんのう;法諱、麟圭[1591毛利秀包に誘殺]9男) 1582-162140 父の没後久留米城に人質、1596家系継承し筑後高良山46代座主/権僧正、妻帶有髪の慣習を改め自ら持戒の範を示す、連歌;1621昌琢と「元和元年正月十九日百韻」、幼名;秀虎丸

F2571 損翁(そんおう;道号・宗益そうえき;法諱、俗姓;青木) 1649-170557 羽前米沢の曹洞僧;禅林寺の蘭洲門、出家/加賀大乘寺の月舟宗胡門/卍山道白門、陸前仙台の泰心院7世可山洞悦門;嗣法、陸前横川の祥雲寺住持/1692仙台泰心院住持;同寺に没、「見聞宝永記」「坐禅箴辨話」著、「損翁宗益禅師略録」

F2572 存応(そんおう;字、由木利重2男) 1544-162077 武州埼玉郡の僧/武蔵片山の時宗宝台寺蓮阿門、時宗僧として出家/のち鎌倉岩瀬の浄土宗大長寺の感譽存貞門;浄土僧として修学、1584江戸芝増上寺12世、徳川家康の帰依を受け増上寺発展に尽力、1610浄土宗異例の国師号を後陽成天皇より勅許、「浄土論蔵集」「観無量寿経直談鈔」「十八通私記」「論義浄土決択集」著、[存応(;字)の法諱/法名/号]法諱;慈昌、法名;貞蓮社源譽、号;普光観智国師

F2503 蓀坡(そんぱ;林はやし、名;瑜、儒者渋谷しぶや松堂男) 1781-183656 加賀金沢藩儒の林屋山の養嗣子、1797林家継嗣;金沢藩士/儒者;98江戸昌平覺修学;古賀精里門/文学、詩人、藩校明倫館助教/藩主侍読、1912「梧窓詩話」/1822明洪自誠「菜根譚」訓点補・刊、1835「正学旨帰」「立山温泉記」、「篋中集」「致堂詩仏唱和集」「晚晴閣詩文集」「晚晴閣百絶」、「山中遊記」「亀阪詩稿」「螢窓漫筆」「正学指南」「詩小撮」「読朱要語」「尚書通読」、[蓀坡(;号)の字/通称/諡号]字;孚尹ふいん/さねこれ、通称;周輔、諡号;恭貞

村瓢子(そんぴょうし) → 瓢亭百成(ひょうていひやくなり、戯作者) F 3 7 3 6

尊福(そんぷく・千家) → 尊福(たかとも・千家せんげ、神職) M 2 6 0 7

村文(そんぶん・石川) → 村文(むらぶみ・石川いしかわ、邑主/歌人) D 4 2 2 0

F2516 尊遍(そんぺん;法諱) ? - ? 鎌倉期仁和寺僧、歌人;1225道助法親王「十首和歌」15首入

L2501 尊法(そんぽう;法諱、法名;禅隆尊澄/応映) 1813-6957 陸奥津軽郡の僧、出羽(羽後)由利郡亀田の総持院住職

村望(そんぼう・伊達) → 村望(むらもち・伊達だて/三沢、領主/詩文) D 4 2 2 2

F2573 尊峰親王(そんほうしんのう、名;和義、京極宮家仁親王4男) 1741-8848 江中期1748桜町天皇の養子、浄土宗知恩院を相続/将軍家重の猶子/1751親王宣下;入寺得度/1765二品、宝暦1751-64頃「尊峰親王雲立涌指貫着用之事」著、[尊峰親王(;法諱)の幼名/法号]幼名;二宮/富貴宮、法号;無辺光院高蓮社俊譽乘阿齊聖

- F2574 **存妙**(そんみょう;法諱) ? - ? 江中後期飛騨高山の曹洞宗雲竜寺住持、
1794(寛政6)雲竜寺せ結制を修す;全苗月湛が助化、1799能登普蔵院に輪住、
1809刊「洞水和尚語録」編(;洞水和尚は全苗月湛ぜんみょうげつたん1728-1803)
- F2575 **尊明**(そんめい;法諱) ? - ? 江中後期寛政1789-1801頃武蔵の真言僧;
武州南埼玉郡百間村の西光院住持/1793西光院は火災で焼失/94再建のため勸進に奔走、
「西光院殿宇再建立勸化状」「殺三磨娑积金色鈔」著
村銘(そんめい→むらかた・青木)→ 一貫(いっかん/かずら・青木、藩主) G 1 1 7 8
尊茂(そんも・千家) → 尊茂(たかしげ・千家せんげ、国学者/歌人) X 2 6 8 0
- F2576 **尊猷**(そんゆう;法諱・道場坊;号、俗姓;山下) 1283-1369⁸⁷ 下野の真言僧;鶏足寺3世尊慶門、
下野小俣の真言宗三宝院流の意教流慈猛方の鶏足寺方を相承;中興4世となる、法印、
1362「瑜祇灌頂口決」、「許可秘伝抄」「靈印信事心文慈猛方」著
- F2577 **尊雄**(そんゆう;法諱) 1337 - 1366³⁰ 南北期僧侶/連歌;菟玖波集1句入、
[夜毎よごとにや袖の涙をかさぬらん](菟;恋848/前句;かずかずうきそ夢うつゝなる)
- F2578 **尊祐**(そんゆう) ? - ? 武州の天台僧;仙波仏蔵房住僧、
14858(文明11)「即身義文集海中権実」編/58「十妙義私案立四教成道」著
- F2579 **尊祐**(そんゆう;法諱、俗姓;篠原) 1645-1717⁷³ 下野都賀郡鍋山村真言僧;1656竜栄寺尊精門;出家、
1669智積院雲敞門;密教を修学、1676帰郷;宝蓮寺住/1681(天和元)長谷寺の尊如門、
1682醍醐寺有雅より憲深一流の伝授を受/1699武蔵中野宝仙寺に住/1704江戸大護院に住、
1707(宝永4)長谷寺16世/権僧正/08護国寺移住;僧正、1686「菩提心論科文林」著、
1689「大乘起信論専釈鈔蒙引」97「辯頭密二教論科略解」、「吽字義略解」「吽字義科略解」著、
「科註三論玄義」「大日経疏玄談」「維摩経玄談」外著多数、字;教算
尊猷(そんゆう;法諱) → 尊鎮親王(そんちんしんのう、天台座主/書家) E 2 5 9 7
存雄(そんゆう;法諱・独峰)→ 独峰(どくほう・;道号存雄、曹洞僧) L 3 1 4 1
村雄(そんゆう・桑原/井上)→ 婆束(はそく・桑原、五流斎2世/俳人) E 3 6 7 8
村由(そんゆう・堀/戸川)→ 安昌(やすまさ・戸川とがわ/堀、幕臣) C 4 5 9 5
- F2580 **尊祐親王**(そんゆうしんのう;法諱、伏見宮邦永親王2男) 1698-1747⁵⁰ 1699(元禄12)青蓮院相続、
1709靈元天皇の養子/10親王宣下、天台宗青蓮院入室;得度/1714天台座主;以後数度再任、
1715二品/16再興された西塔勧学会に出仕/36一品、
1736頃「近江八景和歌」、「尊祐親王書状」「尊祐法親王御口伝」著、
[尊祐親王(;法諱)の幼名/名/字/諡号]幼名;寛宮、名;庶泰、字;義啓、諡号;蓮華寿院
- K2556 **村誉**(そんよ;法諱) ? - ? 鎌倉期?僧侶/連歌;1356成立「菟玖波集」3句入、
[山風や松の時雨を残すらん](菟;冬482/前句;梢の露の落るしたくさ)
遜誉(そんよ) → 仏定(ぶつじょう;法諱、浄土僧) D 3 8 3 6
- F2520 **尊耀**(そんりょう;法諱) ? - ? 奈良期僧;大安寺三綱の1、
749(天平感宝元)「大安寺伽藍縁起并流記資材帳」(靈仁・教義と共編)
孫欲軒(そんよくけん) → 巖興(むらおき・徳田、藩士/兵法家) D 4 2 1 0
孫陸(そんりく・小保内) → 定知(さだとも・小保内おほない、神職/国学) O 2 0 0 6
- K2557 **尊隆**(そんりゅう;法諱) ? - ? 近江高島の天台宗阿弥陀寺の住僧、
1418「布薩作法」著(;近江白毫寺流の布薩の次第の記録)
村隆(そんりゅう・田村) → 村隆(むらたか・田村/伊達、藩主/蘭学奨励) 4 2 1 8
存了(そんりょう;字) → 日遵(にちじゆん;法諱・眞性院、日蓮僧) C 3 3 2 5
村良(そんりょう・伊達) → 村良(むらかた・むらよし・伊達だて、領主) D 4 2 1 1
尊良親王(そんりょうしんのう)→ 尊良親王(たかながしんのう、後醍醐皇子/歌) D 2 6 3 5
- K2558 **尊梁女王**(そんりょうにょおう/-じょおう、京極宮文仁親王女) 1711-31^{早世} 21
後西天王皇女尊臯そんこう女王の附弟、1721靈元天皇の猶子;尊臯女王の光照院入寺の時得度、
尼僧、「尊梁女王消息」、
[尊梁女王(;名号)の幼名/法諱/別名号/法号]幼名;秀宮/共宮/季宮、法諱;尊梁、
別名号;尊梁尼王、法号;円妙寿院大舟
巖籬斎(そんりさい) → 湖十(初世こじゅう・曾/深川、俳人) 1 9 3 1
巖籬斎(そんりさい) → 湖十(2世こじゅう、村瀬/深川、俳人) C 1 9 8 3

異籬齋永機(そんりさいえいき) → 湖十(こじゅう・初世、深川、俳人) 1 9 3 1
村倫(そんりん・伊達だて) → 村倫(むらのり・伊達だて、領主/歌人) D 4 2 1 8
村倫(そんりん・伊達) → 村倫(むらとも・伊達だて、領主) D 4 2 9 5
K2559 尊蓮(そんれん; 法諱、上人)? - 878 平安前期天台僧; 幼時に日光山勝道上人門; 出家、
858(天安2)上人位を受; 天台日光山の座主、
857「日光山弘仁天長斉衡天安記」、「満願寺三月会日記」著
村和(そんわ・伊達) → 村和(むらより・伊達だて、領主/歌人) D 4 2 2 5